

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構
(調書)

薬学教育評価 基礎資料

(平成26年5月1日現在)

近畿大学薬学部

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料1	学年別授業科目	1
基礎資料2	修学状況（在籍学生数・休学退学者数・学士課程修了状況）	8
基礎資料3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOsに該当する科目	11
基礎資料4	カリキュラムマップ	60
基礎資料5	語学教育の要素	66
基礎資料6	4年次の実務実習事前学習スケジュール	67
基礎資料7	学生受入状況について	84
基礎資料8	教員・事務職員数	85
基礎資料9	専任教員年齢構成	86
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	87
基礎資料11	卒業研究の配属状況	98
基礎資料12	講義室等の数と面積	99
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	103
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	104
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	105

(基礎資料 1-1) 学年別授業科目

	科目名	前期・後期	1年次			授業方法	単位数
			1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数		
教養教育・語学教育	(択) 人権と社会 1	前期・後期	4-148	2	152	コ	2.0
	(択) 人権と社会 2	後期	132	1	132	コ	2.0
	(択) 墓碑のなかの憲法	後期	125	1	125	コ	2.0
	(択) 現代社会と倫理	前期	133	1	133	コ	2.0
	(択) 心理と行動	後期	137	1	137	コ	2.0
	(択) 現代経済の課題	前期	18	1	18	コ	2.0
	(択) 自校学習	前期・後期	132	1	132	コ	2.0
	(択) 生活環境科学	後期	135	1	135	コ	2.0
	基礎ゼミ	前期	3-11	25	155	S	2.0
	(択) 基礎数学	前期	152	1	152	コ	2.0
	(択) 情報科学入門	前期	157	1	157	コ	2.0
	(択) 基礎物理化学	前期	154	1	154	コ	2.0
	(択) 生涯スポーツ 1	前期	1-11	9	63	タ	1.0
	(択) 生涯スポーツ 2	後期	後期にクラス分け		76	タ	1.0
	(択) 英語演習 1	前期	29-31	5	154	コ	2.0
	(択) 英語演習 2	後期	29-32	5	155	コ	2.0
	(択) オーラルイングリッシュ 1	前期	29-31	5	154	コ	1.0
	(択) オーラルイングリッシュ 2	後期	30-32	5	154	コ	1.0
	(択) ドイツ語総合 1	前期	8-45	4	122	コ	1.0
	(択) ドイツ語総合 2	後期	9-45	4	123	コ	1.0
	(択) フランス語総合 1	前期	4	1	4	コ	1.0
	(択) フランス語総合 2	後期	5	1	5	コ	1.0
	(択) 中国語総合 1	前期	11-18	2	29	コ	1.0
	(択) 中国語総合 2	後期	11-18	2	29	コ	1.0
	(択) 基礎化学	前期	158	1	158	コ	2.0
	(択) 基礎生物学	前期	39-42	4	158	コ	2.0
	(択) 化学演習	前期	156	1	156	コ	2.0
	(択) 生物学演習	前期	39-42	4	157	コ	2.0
薬学専門教育	(択) 基礎有機化学	後期	161	1	161	コ	1.5
	(択) 基礎分析化学	後期	162	1	162	コ	1.5
	(択) 有機化学 1	後期	162	1	162	コ	1.5
	(択) 薬品物理化学	後期	160	1	160	コ	1.5
	(択) 薬用資源学	後期	159	1	159	コ	1.5
	(択) 基礎生化学	前期	157	1	157	コ	1.5
	(択) 解剖組織学	前期	163	1	163	コ	1.5
	(択) 生化学	後期	169	1	169	コ	1.5
	(択) 人体生理学 1	後期	160	1	160	コ	1.5
	(択) 薬学概論	前期	156	1	156	コ	1.5
	(択) 情報科学	後期	156	1	156	コ	1.5
	(択) 早期体験学習	前期・後期	155	1	155	タ	1.5
実習	(択) 基礎生物学英語	後期	47-59	3	158	コ	1.5
	(択) 物理学概論	前期	13	1	13	コ	1.5
	情報科学実習 1	前期	155	1	155	タ	1.5
実習	情報科学実習 2	後期	157	1	157	タ	1.5
	基礎薬科学実習	後期	157	2	157	タ	2.0
演習							
単位数の合計						(必須科目)	7.0
						(選択科目)	65.0
						合計	72.0

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S タムニバス=オ

その他=タ

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に一度修得かいる科目について記入してください。

2 上記の「科目的識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育

教養教育科目

語学教育科目

医療安全教育科目

生涯学習の意欲醸成科目

コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記: 講義=コ PBL/SGD=S

6 行は適宜加除し、記入してください。

	科目名	前期・後期	2 年 次				単位数
			1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法	
教養教育・語学教育	(訳)住みよい社会と福祉	後期	3	1	3	コ	2.0
	(訳)日本語の技法	後期	8	1	8	コ	
	(訳)英語演習3	前期	19-40	4	118	コ	1.0
	(訳)英語演習4	後期	4-11	4	29	コ	
	(訳)オーラルイングリッシュ3	前期	38-43	4	162	コ	1.0
	(訳)オーラルイングリッシュ4	後期	3-14	4	36	コ	
	(訳)TOEIC 1	前期	20-22	2	42	コ	1.0
	(訳)TOEIC 2	後期	7	2	14	コ	
	(訳)アドバンストTOEIC A	前期	2	1	2	コ	1.0
	(訳)アドバンストTOEIC B	後期	1	1	1	コ	
	(訳)インターネットイングリッシュ A	前期	10	1	10	コ	1.0
	(訳)インターネットイングリッシュ B	後期	1	1	1	コ	
	(訳)留学英語A	前期	32-46	2	78	コ	1.0
	(訳)留学英語B	後期	21	1	21	コ	
	(訳)ライティングA	前期	33	2	66	コ	1.0
	(訳)ライティングB	後期	7-12	2	19	コ	
	(訳)ドイツ語総合3	前期	50	1	50	コ	1.0
	(訳)ドイツ語総合4	後期	5	1	5	コ	
	(訳)ドイツ語コミュニケーション1	前期	27-52	3	106	コ	1.0
	(訳)ドイツ語コミュニケーション2	後期	19	1	19	コ	
	(訳)フランス語総合3	前期	3	1	3	コ	1.0
	(訳)フランス語総合4	後期	1	1	1	コ	
	(訳)フランス語コミュニケーション1	前期	4	1	4	コ	1.0
	(訳)フランス語コミュニケーション2	後期	1	1	1	コ	
	(訳)中国語総合3	前期	6	1	6	コ	1.0
	(訳)中国語総合4	後期	6	1	6	コ	
	(訳)中国語コミュニケーション1	前期	19	1	19	コ	1.0
	(訳)中国語コミュニケーション2	後期	7	1	7	コ	
薬学専門教育	(訳)有機化学2	前期	179	1	179	コ	1.5
	(訳)機器分析学	前期	173	1	173	コ	
	(訳)天然物薬化学生	前期	170	1	170	コ	1.5
	(訳)製剤学	前期	178	1	178	コ	
	(訳)生物有機化学	後期	120	1	120	コ	1.5
	(訳)構造分析化学	後期	119	1	119	コ	
	(訳)細胞生物学	前期	168	1	168	コ	1.5
	(訳)人体生理学2	前期	171	1	171	コ	
	(訳)微生物学	前期	172	1	172	コ	1.5
	(訳)基礎薬理学	前期	173	1	173	コ	
	(訳)免疫学	後期	116	1	116	コ	1.5
	(訳)分子ゲノム薬科学	後期	116	1	116	コ	
	(訳)衛生化学	後期	118	1	118	コ	1.5
	(訳)薬学統計学	前期	169	1	169	コ	
	(訳)医薬品開発論	前期	169	1	169	コ	1.5
	(訳)薬理学1	後期	123	1	123	コ	
	(訳)漢方薬学	後期	119	1	119	コ	1.5
	(訳)病理学	後期	117	1	117	コ	
	(訳)病態生理学1	後期	126	1	126	コ	1.5
	(訳)日本薬局方	後期	117	1	117	コ	
	(訳)基礎化学英語	前期	56-57	3	169	コ	1.5
	(訳)生物学英語	後期	37-52	3	130	コ	
実習	医薬品物性・製剤学実習	前期	82-86	2	168	タ	3.0
	免疫・分子生物学実習	前期・後期	82-86	2	168	タ	
	有機化学・生薬学実習	前期・後期	82-86	2	168	タ	
演習							
単位数の合計						(必須科目)	9.0
						(選択科目)	63.0
						合計	72.0

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S トムニバス=オ
その他=タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者かいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

3 選択科目については、頭に「(訳)」と記してください。

4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、PBL/SGD=S

6 行は適宜加除し、記入してください。

ヒューマニスム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

	科目名	前期・後期	3 年 次				単位数
			1 クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法	
教養教育・語学教育	(訳)イングリッシュスペシャルスタディーズ	前期	3	1	3	コ	1.0 1.0 2.0 1.0 1.0
	(訳)イングリッシュスペシャルスタディーズ	後期	1	1	1	コ	
	(訳)アドバンストオーラルイングリッシュ	後期	1	1	1	コ	
	(訳)フランス語コミュニケーション3	前期	2	1	2	コ	
	(訳)フランス語コミュニケーション4	後期	2	1	2	コ	
薬学専門教育	(訳)医薬品化学	前期	150	1	150	コ	1.5 1.5
	(訳)合成化学	前期	149	1	149	コ	
	(訳)ゲノム医療とゲノム創薬	前期	138	1	138	コ	
	(訳)食品衛生学	前期	166	1	166	コ	
	(訳)環境衛生学	後期	144	1	144	コ	
	(訳)薬理学2	前期	159	1	159	コ	
	疾患と薬物治療法1	前期	158	1	158	コ	
	(訳)臨床検査学	前期	156	1	156	コ	
	(訳)病態生理学2	前期	159	1	159	コ	
	(訳)薬物動態学	前期	153	1	153	コ	
	医薬品情報学	前期	165	1	165	コ	
	(訳)化学療法学	後期	146	1	146	コ	
	疾患と薬物治療法2	後期	154	1	154	コ	
	(訳)病態検査学	後期	139	1	139	コ	
	(訳)薬物速度論	後期	146	1	146	コ	
	(訳)薬物安全性・相互作用	後期	147	1	147	コ	
	(訳)有機反応化学	前期	6	1	6	コ	
	(訳)製剤工学	後期	18	1	18	コ	
	(訳)構造活性相關	後期	20	1	20	コ	
	(訳)生体成分分析化学	前期	4	1	4	コ	
	(訳)食品薬学	前期	2	1	2	コ	
実習	衛生化学・放射化学実習	前期	77	2	154	タ	3.0 3.0 6.0 3.0
	薬効薬物動態解析実習	前期	154	2	154	タ	
	創薬科学実習3	前期	2	1	2	タ	
	創薬科学実習4	後期	2	1	2	タ	
演習	総合薬学研究1	後期	4-10	20	153	タ	2.0 1.0 1.0
	総合薬学演習1A	前期	156	1	156	タ	
	総合薬学演習1B	後期	153	1	153	タ	
単位数の合計						(必須科目)	14.5
						(選択科目)	33.0
						合計	47.5

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S トムニバス=オ

その他=タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者かいの科目について記入してください。
 2 上記の「科目的識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3 選択科目については、頭に「(訳)」と記してください。

4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、PBL/SGD=S

6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1－4) 学年別授業科目

	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	4年次			単位数
				開講クラス数	履修者数	授業方法	
教養教育・語学教育							
薬学専門教育	(択) 保健衛生学	前期	147	1	147	コ	1.5
	生命倫理	前期	147	1	147	コ	1.5
	調剤学	前期	151	1	151	コ	1.5
	(択) 薬と経済	前期	149	1	149	コ	1.5
	臨床薬学	前期	151	1	151	コ	1.5
	医療・薬事関係法規 1	前期	157	1	157	コ	1.5
	(択) 臨床医学概論	後期	72	1	72	コ	1.5
	(択) コミュニティファーマシー	後期	101	1	101	コ	1.5
	(択) 臨床薬学英語	前期	18	1	18	コ	1.5
実習	実務実習事前学習	後期	152	1	152		4.0
演習	総合薬学研究 2	前期	4-9	21	151		2.0
	総合演習 1	前期・後期	152	1	152		4.0
	総合薬学研究 3	後期	4-9	21	153		4.0
単位数の合計						(必須科目)	20.0
						(選択科目)	7.5
						合計	27.5

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S トムニバス=オ
その他=タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に複数百かいの科目について記入してください。
2 上記の「科目的識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義=コ、PBL/SGD=S
- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1－5) 学年別授業科目

	5 年 次							
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育								
薬学専門教育	医療薬学総論 実践病態と治療	前期・後期 前期・後期	152 22-69	1 3	152 152	コ コ		1.5 1.5
実習	病院実務実習 薬局実務実習	前期・後期 前期・後期	152 152	1 1	152 152	タ タ		10.0 10.0
演習	総合薬学研究 3	前期・後期	2-11	20	152			4.0
単位数の合計						(必須科目)	27.0	
						(選択科目)	0.0	
						合計	27.0	

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S トムニバス=オ
 その他=タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者かいら科目について記入してください。
 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記：講義=コ、PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1－6) 学年別授業科目

	6 年 次							
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育								
薬学専門教育	(折) 臨床薬物動態学 薬効薬理処方解析 (折) 医療・薬事関係法規2 (折) がん治療学医薬看護講義	前期 前期 前期 前期	156 154 154 154	1 1 1 1	156 154 154 154	コ コ コ コ		1.5 1.5 1.5 1.5
実習								
演習	総合薬学演習2 総合演習2 総合演習2(再) 総合薬学研究3	前期 後期 前期 前期	155 155 20 1-13	1 1 1 21	155 155 20 155			4.0 6.0 6.0 4.0
単位数の合計						(必須科目)	15.5	
						(選択科目)	4.5	
						合計	20.0	

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S トムニバス=オ
その他=タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者かいの科目について記入してください。
 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(折)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記：講義=コ、PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1－7) 学年別授業科目

(基礎資料1－1)から(基礎資料1－6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目的識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	10	27.0
教養教育科目	26	30.0
語学教育科目	41	44.0
医療安全教育科目	8	31.5
生涯学習の意欲醸成科目	5	17.0
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	8	34.5

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	7.0	65.0	72.0
2 年 次	9.0	63.0	72.0
3 年 次	14.5	33.0	47.5
4 年 次	20.0	7.5	27.5
5 年 次	27.0	0.0	27.0
6 年 次	15.5	4.5	20.0
合計	93.0	173.0	266.0

(基礎資料2－1) 在籍学生数

		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計	
入学年度における	入学定員数	150	150	150	150	150	150	900	A
	編入定員数	0	0	0	0	0	0	0	B
	入学者数	156	176	160	170	150	177	989	
基準日における	各学年の在籍学生数	169	186	167	153	152	176	1,003	C
	編入学生数（内）※	0	0	0	0	0	0	0	D
	留年者数（内）	13	25	35	22	29	40	164	
	平成21年度	0	0	1	7	21	0	29	
	平成22年度	1	1	6	11	0	0	19	
	平成23年度	0	5	27	0	0	0	32	
	平成24年度	2	19	0	0	0	0	21	
C／(A+B)		1.11	※ 編入生すべての編入した学年を、別添でご提出ください。						
D／B		0							

- [注] 1 「C／(A+B)」と「D／B」については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示してください。
- 2 「編入学生数（内）」および「留年者数（内）」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。
- 3 平成26年度以外は年度末の現状を記入してください。

	平成21年度				平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度			
	※667				795				953				983				1018				1003			
総在籍学生数	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数																				
1年次	8	9	11	—	5	7	4	—	7	14	8	—	10	13	9	—	15	6	8	—	7			—
2年次	2	22	2	—	2	22	7	—	4	23	2	—	4	20	3	—	8	14	2	—	3			—
3年次	4	15	0	—	11	7	3	—	3	14	0	—	11	6	1	—	5	6	2	—	1			—
4年次	0	0	0	—	3	0	0	—	1	2	0	—	7	0	0	—	2	0	1	—				—
5年次					0	0	0	—	0	1	0	—	1	2	0		2	0	0	—				—
6年次									0	3	0	—	1	14	0		1	21	0	—				—
合計	14	46	13	—	21	36	14	—	15	57	10	—	34	55	13	—	33	47	13	—	11	0	0	—

[注] 平成26年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料2-3) 学士課程修了状況

		平成23年度 (平成24年3月卒業)	平成24年度 (平成25年3月卒業)	平成25年度 (平成26年3月卒業)	平成26年度 (平成27年3月卒業)	平成27年度 (平成28年3月卒業)	平成28年度 (平成29年3月卒業)	入学者総数	卒業率 (%)
卒業者総数		120名	130名	158名	名	名	名		
卒業者の 入学年度 内訳	平成18年度入学者	120名	13名	5名	名	名	名	平成18年度	154名 77.9%
	平成19年度入学者	名	117名	22名	名	名	名	平成19年度	172名 68.0%
	平成20年度入学者	名	名	131名	名	名	名	平成20年度	169名 77.5%
	平成21年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成21年度	177名 0.0%
	平成22年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成22年度	150名 0.0%
	平成23年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成23年度	170名 0.0%

(基礎資料3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

[注] 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。

2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目							
	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
A 全学年を通して: ヒューマニズムについて学ぶ								
(1) 生と死								
【生命の尊厳】								
1) 人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。(知識・態度)				生命倫理				
2) 誕生に関わる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる。								
3) 医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。								
4) 死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略と問題点を説明できる。								
5) 自らの体験を通して、生命の尊さと医療の関わりについて討議する。(態度)								
【医療の目的】								
1) 予防・治療・延命、QOLについて説明できる。				生命倫理				
【先進医療と生命倫理】								
1) 医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる。		分子ゲノム薬科学		生命倫理				
(2) 医療の担い手としてのこころ構え								
【社会の期待】								
1) 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度)				臨床薬学(細見先生)				
2) 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。(知識・態度)								
3) 医療の担い手にふさわしい態度を示す。(態度)								
【医療行為に關わるこころ構え】								
1) ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。			医薬品開発論		臨床薬学/生命倫理			
2) 医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。								
3) インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。								
4) 患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。(態度)				生命倫理				
5) 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)								
【研究活動に求められるこころ構え】								
1) 研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。			分子ゲノム薬科学		生命倫理			
2) 研究者に求められる自立した態度を身につける。(態度)								
3) 他の研究者の意見を理解し、討論する能力を身につける。(態度)								

薬学教育モデル・コアカリキュラム (S B O's)	該当科目							
	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
【医薬品の創製と供給に関わるこころ構え】								
1) 医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。(態度)		医薬品開発論						
2) 医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)								
【自己学習・生涯学習】								
1) 医療に関する諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。 (知識・技能・態度)	早期体験学習							
2) 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)								
(3) 信頼関係の確立を目指して								
【コミュニケーション】								
1) 言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。		総合薬学演習 1A		臨床薬学/生命倫理				
2) 意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。								
3) 相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。								
【相手の気持ちに配慮する】								
1) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。		総合薬学演習 1A		臨床薬学/生命倫理				
2) 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。(知識・態度)								
3) 対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(技能)					生命倫理			
【患者の気持ちに配慮する】								
1) 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。		総合薬学演習 1A		臨床薬学/生命倫理				
2) 患者の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)								
3) 患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)								
4) 患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。 (態度)		生命倫理						
5) 不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。(知識・態度)	早期体験学習							
【チームワーク】								
1) チームワークの重要性を例示して説明できる。		近畿大学医学部・薬学部 医薬連携合同 学習会						
2) チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。(態度)								
3) 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)								
【地域社会の人々との信頼関係】								
1) 薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。		臨床薬学・調剤学						
2) 薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。(態度)								
B イントロダクション								
(1) 薬学への招待								
【薬学の歴史】								
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。		医薬品開発論						
2) 薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。	薬学概論							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【薬剤師の活動分野】						
1) 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政など）について概説できる。	薬学概論（高田）	薬学概論				
2) 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。				臨床薬学	医療薬学総論	
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。						
4) 医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。		医薬品開発論				
5) 疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。				保健衛生学		
【薬について】						
1) 「薬とは何か」を概説できる。	薬学概論（高田）	医薬品開発論/薬理学1				
2) 薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。						
3) 化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。		医薬品開発論				
4) 種々の剤形とその使い方について概説できる。		製剤学				
5) 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。			医薬品情報学			
【現代社会と薬学との接点】						
1) 先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。	情報科学	情報科学	医薬品開発論			
2) 麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。			医薬品開発論/薬理学1			
3) 薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。			医薬品開発論/薬理学1			
【日本薬局方】						
1) 日本薬局方の意義と内容について概説できる。		日本薬局方				
【総合演習】						
1) 医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。（態度）	基礎薬科学実習	薬学概論				
2) 身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。（技能）						
(2) 早期体験学習						
1) 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。	早期体験学習					
2) 閉局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。（知識・態度）						
3) 製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。（知識・態度）						
4) 保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。（知識・態度）						
C 薬学専門教育						
【物理系薬学を学ぶ】						
C1 物質の物理的性質						
(1) 物質の構造						
【化学結合】						
1) 化学結合の成り立ちについて説明できる。	基礎化学/化学演習					
2) 軌道の混成について説明できる。						
3) 分子軌道の基本概念を説明できる。		基礎化学				
4) 共役や共鳴の概念を説明できる。	基礎化学/有機化学 1					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【分子間相互作用】							
1) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	化学演習	医薬品開発論	創薬物理化学				
2) ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。							
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。							
4) 分散力について例を挙げて説明できる。							
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。							
6) 電荷移動について例を挙げて説明できる。							
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。							
【原子・分子】							
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	基礎化学	構造分析化学					
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。				総合演習1			
3) スピンとその磁気共鳴について説明できる。							
4) 分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。		構造分析化学/医薬品開発論					
5) 代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。（知識・技能）			創薬物理化学				
6) 偏光および旋光性について説明できる。		構造分析化学					
7) 散乱および干渉について説明できる。			創薬物理化学				
8) 結晶構造と回折現象について説明できる。			創薬物理化学				
【放射線と放射能】							
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。	物理学概論	総合薬学演習1B/衛生科学・放射化学実習					
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。							
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。							
4) 核反応および放射平衡について説明できる。							
5) 放射線の測定原理について説明できる。							
(2) 物質の状態 I							
【総論】							
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	基礎物理化学	総合演習1					
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。							
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。							
【エネルギー】							
1) 系、外界、境界について説明できる。	基礎物理化学	総合演習1					
2) 状態関数の種類と特徴について説明できる。							
3) 仕事および熱の概念を説明できる。							
4) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。							
5) 热力学第一法則について式を用いて説明できる。							
6) 代表的な過程（変化）における熱と仕事を計算できる。（知識、技能）							
7) エンタルピーについて説明できる。							
8) 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。（知識、技能）							
9) 標準生成エンタルピーについて説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【自発的な変化】							
1) エントロピーについて説明できる。	基礎物理化学			総合演習1			
2) 热力学第二法則について説明できる。							
3) 代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。(知識、技能)							
4) 热力学第三法則について説明できる。							
5) 自由エネルギーについて説明できる。							
6) 热力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。(知識、技能)							
7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。							
8) 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性 (van't Hoffの式) について説明できる。							
9) 共役反応について例を挙げて説明できる。							
(3) 物質の状態 II							
【物理平衡】							
1) 相変化に伴う熱の移動 (Clausius-Clapeyronの式など) について説明できる。	薬品物理化学			総合演習1		総合薬学演習2	
2) 相平衡と相律について説明できる。							
3) 代表的な状態図 (一成分系、二成分系、三成分系相図) について説明できる。							
4) 物質の溶解平衡について説明できる。	薬品物理化学						
5) 溶液の束一的性質 (浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など) について説明できる。							
6) 界面における平衡について説明できる。							
7) 吸着平衡について説明できる。	薬品物理化学						
8) 代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。(技能)		医薬品物性・製剤学実習					
【溶液の化学】							
1) 化学ポテンシャルについて説明できる。	薬品物理化学						
2) 活量と活量係数について説明できる。							
3) 平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。							
4) 電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。		医薬品物性・製剤学実習					
5) イオンの輸率と移動度について説明できる。							
6) イオン強度について説明できる。							
7) 電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Hückel の式) について説明できる。							
【電気化学】							
1) 代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。	薬品物理化学						
2) 標準電極電位について説明できる。		医薬品物性・製剤学実習					
3) 起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。							
4) Nernstの式が誘導できる。							
5) 濃淡電池について説明できる。							
6) 膜電位と能動輸送について説明できる。		薬理学1					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(4) 物質の変化						
【反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。	薬品物理化学			総合演習1		総合薬学演習2
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)						
3) 代表的な反応次数の決定法を挙げし、説明できる。						
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)						
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。						
6) 反応速度と温度との関係(Arrheniusの式)を説明できる。			医薬品物性・製剤実習			
7) 衝突理論について概説できる。						
8) 遷移状態理論について概説できる。						
9) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応など)について説明できる。						
10) 酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。		基礎生化学				
【物質の移動】						
1) 拡散および溶解速度について説明できる。	製剤学					
2) 沈降現象について説明できる。						
3) 流動現象および粘度について説明できる。						
C2 化学物質の分析						
(1) 化学平衡						
【酸と塩基】						
1) 酸・塩基平衡を説明できる。	基礎分析化学					
2) 溶液の水素イオン濃度(pH)を測定できる。(技能)						
3) 溶液のpHを計算できる。(知識・技能)						
4) 緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。						
5) 代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。						
6) 化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。						
【各種の化学平衡】						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	基礎分析化学					
2) 沈殿平衡(溶解度と溶解度積)について説明できる。						
3) 酸化還元電位について説明できる。						
4) 酸化還元平衡について説明できる。						
5) 分配平衡について説明できる。						
6) イオン交換について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (S B O's)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 化学物質の検出と定量						
【定性試験】						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。		医薬品物性・製剤学実習				
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。	基礎薬科学実習	日本薬局方				
3) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。		日本薬局方				
【定量の基礎】						
1) 実験値を用いた計算および統計処理ができる。(技能)	基礎分析化学	医薬品物性・製剤学実習				
2) 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。		日本薬局方				
3) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。						
4) 日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。						
5) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。						
【容量分析】						
1) 中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	基礎分析化学					
2) 非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
3) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
4) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
5) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
6) 電気滴定(電位差滴定、電気伝導度滴定など)の原理、操作法および応用例を説明できる。		医薬品物性・製剤学実習				
7) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(技能)						
【金属元素の分析】						
1) 原子吸光光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。	機器分析学					
2) 発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。						
【クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。	機器分析学					
2) クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。						
3) 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。(知識・技能)						
(3) 分析技術の臨床応用						
【分析の準備】						
1) 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。(技能)	臨床検査学					
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分析技術】						
1) 臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。						
2) 免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。						
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
4) 電気泳動法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
5) 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。						
6) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。						
7) 代表的な画像診断技術(X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など)について概説できる。						
8) 画像診断薬(造影剤、放射性医薬品など)について概説できる。						
9) 薬学領域で頻用されるその他の分析技術(バイオイメージング、マイクロチップなど)について概説できる。			分子ゲノム薬科学			
【薬毒物の分析】						
1) 毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。						
2) 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)のスクリーニング法を列挙し、説明できる。						
3) 代表的な中毒原因物質を分析できる。(技能)			衛生化学			
C3 生体分子の姿・かたちをとらえる						
(1) 生体分子を解析する手法						
【分光分析法】						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
2) 蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。			機器分析学			
3) 赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
4) 電子スピン共鳴(ESR)スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。			機器分析学			
5) 旋光度測定法(旋光分散)、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
6) 代表的な生体分子(核酸、タンパク質)の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。(知識・技能)			機器分析学			
【核磁気共鳴スペクトル】						
1) 核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。						
2) 生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。			構造分析化学			
【質量分析】						
1) 質量分析法の原理を説明できる。						
2) 生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。			機器分析学	臨床検査学		
【X線結晶解析】						
1) X線結晶解析の原理を概説できる。						
2) 生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。			機器分析学	創薬物理化学		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【相互作用の解析法】							
1) 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。			創薬物理化学				
(2) 生体分子の立体構造と相互作用							
【立体構造】							
1) 生体分子（タンパク質、核酸、脂質など）の立体構造を概説できる。		生物有機化学	創薬物理化学				
2) タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。							
3) タンパク質の立体構造を規定する因子（疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など）について、具体例を用いて説明できる。							
4) タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。		細胞生物学					
5) 核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。		生物有機化学					
6) 生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。							
【相互作用】							
1) 鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。			医薬品化学/創薬物理化学				
2) 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。		細胞生物学					
3) 脂質の水中における分子集合構造（膜、ミセル、膜タンパク質など）について説明できる。			創薬物理化学				
4) 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。			医薬品化学/創薬物理化学				
C4 化学物質の性質と反応							
(1) 化学物質の基本的性質							
【基本事項】							
1) 基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。	基礎化学		有機反応化学				
2) 薬学領域で用いられる代表的化合物を慣用名で記述できる。	化学演習						
3) 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。	基礎有機化学/有機化学1						
4) 有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。	基礎有機化学		合成化学・有機反応化学				
5) 基本的な有機反応（置換、付加、脱離、転位）の特徴を概説できる。							
6) ルイス酸・塩基を定義することができます。	基礎化学	基礎有機化学					
7) 炭素原子を含む反応中間体（カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン）の構造と性質を説明できる。	基礎化学/基礎有機化学						
8) 反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。	基礎有機化学						
9) 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。			有機反応化学				
【有機化合物の立体構造】							
1) 構造異性体と立体異性体について説明できる。	基礎有機化学/有機化学1	有機化学1	天然物薬化学				
2) キラリティーと光学活性を概説できる。							
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。							
4) ラセミ体とメソ化合物について説明できる。							
5) 絶対配置の表示法を説明できる。							
6) Fischer投影式とNewman投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。	基礎有機化学/有機化学1	基礎有機化学	合成化学・有機反応化学				
7) エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。	基礎有機化学						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【無機化合物】						
1) 代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。	基礎化学	化学演習				
2) 代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。						
3) 塩素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。						
4) イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。						
5) 代表的な無機医薬品を列挙できる。						
【錯体】						
1) 代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。	基礎化学					
2) 配位結合を説明できる。						
3) 代表的なドナーオリゴマー、配位基、キレート試薬を列挙できる。						
4) 錯体の安定度定数について説明できる。						
5) 錯体の安定性に与える配位子の構造的要素（キレート効果）について説明できる。						
6) 錯体の反応性について説明できる。						
7) 医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。						
(2) 有機化合物の骨格						
【アルカン】						
1) 基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。	基礎有機化学					
2) アルカンの基本的な物性について説明できる。						
3) アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。						
4) シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。						
5) シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。						
6) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向（アキシアル、エクアトリアル）を図示できる。						
7) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。						
【アルケン・アルキンの反応性】						
1) アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。	基礎有機化学		有機反応化学/合成化学			
2) アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性（アンチ付加）を説明できる。						
3) アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性（Markovnikov 則）について説明できる。						
4) カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。	基礎有機化学/有機化学 1					
5) 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。						
6) アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。	基礎有機化学					
7) アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。						
【芳香族化合物の反応性】						
1) 代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。	有機化学 1		有機反応化学/合成化学			
2) 芳香族性（Hückel則）の概念を説明できる。						
3) 芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。	有機化学 2					
4) 芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。						
5) 芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
(3) 官能基							
【概説】							
1) 代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。		有機化学2 生物有機化学 有機・生薬学実習 有機化学2					
2) 複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。							
3) 生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。			生物有機化学				
4) 代表的な官能基の定性試験を実施できる。(技能)							
5) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)							
6) 日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。							
【有機ハロゲン化合物】							
1) 有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学1		有機反応化学/合成化学				
2) 求核置換反応 (S_N1 および S_N2 反応) の機構について、立体化学を含めて説明できる。							
3) ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性 (Saytzeff則) を説明できる。							
【アルコール・フェノール・チオール】							
1) アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学1 生物有機化学	有機化学2 有機反応化学/合成化学					
2) フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。							
3) フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。							
【エーテル】							
1) エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学2	有機反応化学/合成化学					
2) オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。							
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】							
1) アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。	有機化学2	有機反応化学/合成化学					
2) カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。							
3) カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル) の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。							
【アミン】							
1) アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学2 生物有機化学	有機反応化学/合成化学				
2) 代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。							
【官能基の酸性度・塩基性度】							
1) アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。	有機化学2	有機反応化学/合成化学					
2) アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。							
3) 含窒素化合物の塩基性度を説明できる。							
(4) 化学物質の構造決定							
【総論】							
1) 化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。		構造分析化学					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【¹H NMR】						
1) ¹ H NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。						
2) 化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。						
3) 有機化合物中の代表的水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
4) 重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。						
5) ¹ H NMRの積分値の意味を説明できる。						
6) ¹ H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂（カップリング）する理由と、分裂様式を説明できる。						
7) ¹ H NMRのスピニ結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。						
8) 代表的化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)						
【¹³C NMR】						
1) ¹³ C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。						
2) 代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
【IRスペクトル】						
1) IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。						
2) IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)						
【紫外可視吸収スペクトル】						
1) 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。			構造分析化学			
【マススペクトル】						
1) マススペクトルの概要と測定法を説明できる。						
2) イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
3) ピークの種類（基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク）を説明ができる。						
4) 塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴を説明できる。						
5) 代表的なフラグメンテーションについて概説できる。						
6) 高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。						
7) 基本的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)						
【比旋光度】						
1) 比旋光度測定法の概略を説明できる。						
2) 実測値を用いて比旋光度を計算できる。(技能)						
3) 比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。						
4) 旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。						
【総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。(技能)			構造分析化学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
C5 ターゲット分子の合成							
(1) 官能基の導入・変換							
1) アルケンの代表的な合成法について説明できる。	基礎有機化学		有機反応化学/合成化学				
2) アルキンの代表的な合成法について説明できる。							
3) 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。	有機化学 1	有機化学 2					
4) アルコールの代表的な合成法について説明できる。							
5) フェノールの代表的な合成法について説明できる。	有機化学 2						
6) エーテルの代表的な合成法について説明できる。							
7) アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。	基礎有機化学/有機化学 1						
8) カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。				有機化学・生薬学実習			
9) カルボン酸誘導体（エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物）の代表的な合成法について説明できる。							
10) アミンの代表的な合成法について説明できる。							
11) 代表的な官能基選択的反応を挙げ、その機構と応用例について説明できる。							
12) 代表的な官能基を他の官能基に変換できる。（技能）							
(2) 複雑な化合物の合成							
【炭素骨格の構築法】							
1) Diels-Alder 反応の特徴を具体例を用いて説明できる。	有機化学 1		有機反応化学/合成化学				
2) 転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を挙げできる。							
3) 代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。							
4) 代表的な炭素-炭素結合生成反応（アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など）について概説できる。							
【位置および立体選択性】							
1) 代表的な位置選択的反応を挙げ、その機構と応用例について説明できる。	有機化学 2	有機反応化学/合成化学					
2) 代表的な立体選択性の反応を挙げ、その機構と応用例について説明できる。							
【保護基】							
1) 官能基毎に代表的な保護基を挙げ、その応用例を説明できる。	有機化学 1	有機化学 2/生物有機化学	有機反応化学/合成化学				
【光学活性化合物】							
1) 光学活性化合物を得るための代表的な手法（光学分割、不斉合成など）を説明できる。	有機化学 1		有機反応化学/合成化学				
【総合演習】							
1) 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。（知識・技能）	基礎有機化学/有機化学 1	有機化学 2	有機反応化学/合成化学				
2) 課題として与えられた医薬品を合成できる。（技能）							
3) 反応廃液を適切に処理する。（技能・態度）							
C6 生体分子・医薬品を化学で理解する							
(1) 生体分子のコアとペーツ							
【生体分子の化学構造】							
1) タンパク質の高次構造を規定する結合（アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など）および相互作用について説明できる。	生物有機化学	創薬物理化学					
2) 糖類および多糖類の基本構造を概説できる。							
3) 糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
4) 核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。							
5) 生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。			創薬物理化学				
【生体内で機能する複素環】							
1) 生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。		生物有機化学	医薬品化学				
2) 核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。			創薬物理化学				
3) 複素環を含む代表的な補酵素（フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサール、葉酸など）の機能を化学反応性と関連させて説明できる。							
【生体内で機能する錯体・無機化合物】							
1) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。	化学演習						
2) 活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。							
3) 一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。							
【化学から観る生体ダイナミクス】							
1) 代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。		生物有機化学	医薬品化学/創薬物理化学				
2) 代表的な酵素（キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど）の作用機構を分子レベルで説明できる。			創薬物理化学				
3) タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。							
(2) 医薬品のコアとパート							
【医薬品のコンポーネント】							
1) 代表的な医薬品のコア構造（ファーマコフォア）を指摘し、分類できる。			医薬品化学/構造活性相関				
2) 医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。			医薬品化学				
【医薬品に含まれる複素環】							
1) 医薬品として複素環化合物が繁用される根拠を説明できる。		有機化学 1	医薬品化学				
2) 医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。							
3) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。							
4) 代表的芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。		有機化学 2					
5) 代表的芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。							
【医薬品と生体高分子】							
1) 生体高分子と非共有結合的相互作用しうる官能基を列挙できる。		情報科学/情報科学実習2	生物有機化学	医薬品化学			
2) 生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。							
3) 分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。 (知識・技能)				創薬物理化学			
【生体分子を模倣した医薬品】							
1) カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。		医薬品化学					
2) アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。							
3) ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。							
4) 核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。							
5) ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【生体内分子と反応する医薬品】							
1) アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。			医薬品化学				
2) インターカレーターの作用機序を図示し、説明できる。							
3) β-ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。							
C7 自然が生み出す薬物							
(1) 薬になる動植物							
【生薬とは何か】							
1) 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。	薬用資源学	有機化学/生薬学実習					
2) 生薬の歴史について概説できる。		食品薬学					
3) 生薬の生産と流通について概説できる。							
【薬用植物】							
1) 代表的な薬用植物の形態を観察する。(技能)	薬用資源学	漢方薬学/有機化学・生薬学実習					
2) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。		有機化学・生薬学実習					
3) 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。							
4) 代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。(技能)		漢方薬学/有機化学・生薬学実習					
5) 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。		有機化学・生薬学実習天然物薬化学生					
【植物以外の医薬資源】							
1) 動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。	薬用資源学	有機化学・生薬学実習					
【生薬成分の構造と生合成】							
1) 代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。	天然物薬化学						
2) 代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。							
3) 代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。							
4) 代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。							
5) 代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。							
6) 代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。							
7) 代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。							
【農薬、香料としての利用】							
1) 天然物質の農薬、香料などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。		天然物薬化学					
【生薬の同定と品質評価】							
1) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。	薬用資源学	有機化学・生薬学実習					
2) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)							
3) 代表的な生薬の確認試験を実施できる。(技能)							
4) 代表的な生薬の純度試験を実施できる。(技能)							
5) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。	薬用資源学						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
(2) 薬の宝庫としての天然物							
【シーズの探索】							
1) 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。	天然物薬化学	医薬品化学/食品薬学 食品薬学/創薬物理化学					
2) シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。							
3) 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。							
【天然物質の取扱い】							
1) 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を例挙し、実施できる。(技能)	天然物薬化学 構造分析化学						
2) 代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。							
【微生物が生み出す医薬品】							
1) 抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。		天然物薬化学	医薬品化学				
【発酵による医薬品の生産】							
1) 微生物による抗生物質(ペニシリン、ストレプトマイシンなど)生産の過程を概説できる。							
【発酵による有用物質の生産】							
1) 微生物の生産する代表的な糖質、酵素を例挙し、利用法を説明できる。		天然物薬化学					
(3) 現代医療の中の生薬・漢方薬	漢方薬学	食品薬学					
【漢方医学の基礎】							
1) 漢方医学の特徴について概説できる。							
2) 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。							
3) 漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。							
4) 漢方処方と「証」との関係について概説できる。							
5) 代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。							
6) 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。							
7) 漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して例挙できる。							
【漢方処方の応用】							
1) 代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。	漢方薬学	解剖組織学					
2) 漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。							
【生物系薬学を学ぶ】							
C8 生命体の成り立ち	人体生理学 1	人体生理学 2	薬効薬物動態解析実習 (薬効解析分野Ⅰ)				
(1) ヒトの成り立ち							
【概論】							
1) ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。							
2) ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。							
【神経系】							
1) 中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。							
2) 体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。							
3) 自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【骨格系・筋肉系】						
1) 主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	解剖組織学					
2) 主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。						
【皮膚】						
1) 皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖組織学					
【循環器系】						
1) 心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖組織学	人体生理学2				
2) 血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。						
3) リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。						
【呼吸器系】						
1) 肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖組織学					
【消化器系】						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖組織学					
2) 肝臓、脾臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。						
【泌尿器系】						
1) 腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	人体生理学1					
【生殖器系】						
1) 精巣、卵巣、子宮などの生殖器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖組織学					
【内分泌系】						
1) 脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	人体生理学1	人体生理学2				
【感覚器系】						
1) 眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。	人体生理学1	人体生理学2				
【血液・造血器系】						
1) 骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖組織学	免疫学		臨床医学概論		
(2) 生命体の基本単位としての細胞						
【細胞と組織】						
1) 細胞集合による組織構築について説明できる。	解剖組織学					
2) 臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を例挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。						
3) 代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。(技能)	解剖組織学/基礎実験室					
【細胞膜】						
1) 細胞膜の構造と性質について説明できる。	解剖組織学	細胞生物学				
2) 細胞膜を構成する代表的な生体分子を例挙し、その機能を説明できる。						
3) 細胞膜を介した物質移動について説明できる。						
【細胞内小器官】						
1) 細胞内小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ベルオキシソームなど)の構造と機能を説明できる。	解剖組織学	細胞生物学				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【細胞の分裂と死】						
1) 体細胞分裂の機構について説明できる。	解剖組織学	生物学英語				
2) 生殖細胞の分裂機構について説明できる。						
3) アポトーシスとネクローシスについて説明できる。		細胞生物学				
4) 正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。			ケノム医療とケノム 創薬	臨床医学概論		
【細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	解剖組織学	細胞生物学				
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。		細胞生物学				
(3) 生体の機能調節						
【神経・筋の調節機構】						
1) 神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。	人体生理学 1	人体生理学 2				
2) シナプス伝達の調節機構を説明できる。						
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列举し、概説できる。						
4) 筋収縮の調節機構を説明できる。						
【ホルモンによる調節機構】						
1) 主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。	人体生理学 1	人体生理学 2				
2) 血糖の調節機構を説明できる。						
【循環・呼吸系の調節機構】						
1) 血圧の調節機構を説明できる。	人体生理学 1	人体生理学 2				
2) 肺および組織におけるガス交換を説明できる。						
3) 血液凝固・線溶系の機構を説明できる。	人体生理学 1					
【体液の調節機構】						
1) 体液の調節機構を説明できる。	人体生理学 1					
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。	人体生理学 1					
【消化・吸収の調節機構】						
1) 消化、吸収における神経の役割について説明できる。	人体生理学 1					
2) 消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。	人体生理学 1					
【体温の調節機構】						
1) 体温の調節機構を説明できる。	人体生理学 1					
(4) 小さな生き物たち						
【総論】						
1) 生態系の中での微生物の役割について説明できる。		微生物学				
2) 原核生物と真核生物の違いを説明できる。		微生物学/生物学英語/細胞生物学				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【細菌】							
1) 細菌の構造と増殖機構を説明できる。		微生物学					
2) 細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。							
3) グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。							
4) マイコプラズマ、リケッチャ、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。							
5) 腸内細菌の役割について説明できる。							
6) 細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。							
【細菌毒素】							
1) 代表的な細菌毒素の作用を説明できる。		微生物学					
【ウイルス】							
1) 代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。		微生物学/生物学英語					
2) ウィルスの分類法について概説できる。							
3) 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。							
【真菌・原虫・その他の微生物】							
1) 主な真菌の性状について説明できる。		微生物学					
2) 主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。							
【消毒と滅菌】							
1) 滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。		衛生化学・放射化学実習					
2) 主な消毒薬を適切に使用する。（技能・態度） (OSCEの対象)							
3) 主な滅菌法を実施できる。（技能） (OSCEの対象)							
【検出方法】							
1) グラム染色を実施できる。（技能）		衛生化学・放射化学実習					
2) 無菌操作を実施できる。（技能）							
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。（技能）							
4) 細菌の同定に用いる代表的な試験法（生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験）について説明できる。							
5) 代表的な細菌を同定できる。（技能）							
C9 生命をミクロに理解する							
(1) 細胞を構成する分子							
【脂質】							
1) 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。		生物有機化学					
2) 脂肪酸の種類と役割を説明できる。							
3) 脂肪酸の合成経路を説明できる。							
4) コレステロールの合成経路と代謝を説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【糖質】						
1) グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	生物有機化学					
2) グルコース以外の代表的な单糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。						
3) 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。						
4) 糖質の定性および定量試験法を実施できる。(技能)	生物有機化学					
【アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生物有機化学					
2) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。						
3) アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。(技能)		生物有機化学				
【ビタミン】						
1) 水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。	生物有機化学					
2) 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。						
3) ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。			食品衛生学			
(2) 生命情報を担う遺伝子						
【ヌクレオチドと核酸】						
1) 核酸塩基の代謝(合成と分解)を説明できる。	基礎生物学英語	生物有機化学				
2) DNAの構造について説明できる。		生物有機化学/細胞生物学				
3) RNAの構造について説明できる。		生物学				
【遺伝情報を担う分子】						
1) 遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。	基礎生物学英語	生物学英語/分子ゲノム薬科学				
2) DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。		生物学英語/生物有機化学/分子ゲノム				
3) ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。		分子ゲノム				
4) 染色体の構造を説明できる。		分子ゲノム薬科学				
5) 遺伝子の構造に関する基本的用語(プロモーター、エンハンサー、エキソン、インtronなど)を説明できる。		生物有機化学/分子ゲノム薬科学				
6) RNAの種類と働きについて説明できる。						
【転写と翻訳のメカニズム】						
1) DNAからRNAへの転写について説明できる。	基礎生物学英語	生物学英語/生物有機化学/細胞生物学				
2) 転写の調節について、例を挙げて説明できる。		細胞生物学				
3) RNAのプロセシングについて説明できる。		生物学英語				
4) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。		生物学英語/生物有機化学/細胞生物学				
5) リボソームの構造と機能について説明できる。		細胞生物学				
【遺伝子の複製・変異・修復】						
1) DNAの複製の過程について説明できる。	基礎生物学英語	生物学英語/生物有機化学/細胞生物学				
2) 遺伝子の変異(突然変異)について説明できる。		分子ゲノム/薬科学/細胞生物学				
3) DNAの修復の過程について説明できる。		生物有機化学/分子ゲノム/薬科学/細胞生物学				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【遺伝子多型】						
1) 一塩基変異 (SNPs) が機能におよぼす影響について概説できる。		分子ゲノム薬科学				
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【タンパク質の構造と機能】						
1) タンパク質の主要な機能を列挙できる。	基礎生化学					
2) タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。						
3) タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。		細胞生物学				
【酵素】						
1) 酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。	基礎生化学		創薬物理化学			
2) 酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。			創薬物理化学			
3) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。						
4) 酵素反応速度論について説明できる。						
5) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。			創薬物理化学			
6) 代表的な酵素の活性を測定できる。(技能)						
【酵素以外の機能タンパク質】						
1) 細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質（受容体、チャネルなど）の構造と機能を概説できる。	基礎生化学					
2) 物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。		細胞生物学				
3) 血漿リポタンパク質の種類と機能を概説できる。						
4) 細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。						
5) 細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。		細胞生物学				
【タンパク質の取扱い】						
1) タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。(技能)	基礎生化学					
2) タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。(知識・技能)						
3) タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。		基礎生化学/情報科学				
(4) 生体エネルギー						
【栄養素の利用】						
1) 食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。	人体生理学 1					
【ATPの产生】						
1) ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。	生化学	生物有機化学				
2) 解糖系について説明できる。						
3) クエン酸回路について説明できる。						
4) 電子伝達系（酸化的リン酸化）について説明できる。						
5) 脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。						
6) アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。						
7) エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。		生物有機化学				
8) ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。						
9) ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。						
10) アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【飢餓状態と飽食状態】						
1) グリコーゲンの役割について説明できる。	生化学					
2) 糖新生について説明できる。		生物有機化学				
3) 飢餓状態のエネルギー代謝（ケトン体の利用など）について説明できる。						
4) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。						
5) 食餌性の血糖変動について説明できる。						
6) インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。		生物有機化学				
7) 糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。						
8) ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。						
(5) 生理活性分子とシグナル分子						
【ホルモン】						
1) 代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。	人体生理学 1	基礎薬理				
2) 代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
3) 代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
4) 代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。			生化学			
【オータコイドなど】						
1) エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。		生物有機化学/基礎薬理				
2) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その合成経路を説明できる。						
3) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義（生理活性）を説明できる。						
4) 主な生理活性アミン（セロトニン、ヒスタミンなど）の合成と役割について説明できる。		基礎薬理				
5) 主な生理活性ペプチド（アンギオテンシン、ブラジキニンなど）の役割について説明できる。						
6) 一酸化窒素の合成経路と生体内での役割を説明できる。			基礎化学			
【神経伝達物質】						
1) モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		基礎薬理				
2) アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
3) ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
4) アセチルコリンの合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】						
1) 代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。		細胞生物学	ゲノム医療とゲノム創薬			
2) 代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。						
3) 代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。			細胞生物学			
【細胞内情報伝達】						
1) 細胞内情報伝達に関するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。		基礎薬理	ゲノム医療とゲノム創薬			
2) 細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。						
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。						
4) 代表的な細胞内（核内）受容体の具体例を挙げて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(6) 遺伝子を操作する						
【遺伝子操作の基本】						
1) 組換えDNA技術の概要を説明できる。	基礎生物学英語	分子ゲノム薬科学/ 免疫・分子生物学実習				
2) 細胞からDNAを抽出できる。(技能)						
3) DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。(技能)						
4) 組換えDNA実験指針を理解し守る。(態度)						
5) 遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。(態度)						
【遺伝子のクローニング技術】						
1) 遺伝子クローニング法の概要を説明できる。	基礎生物学英語	分子ゲノム薬科学/ 免疫・分子生物学実習				
2) cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。						
3) 遺伝子ライブラリーについて説明できる。						
4) PCR法による遺伝子增幅の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
5) RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。						
6) DNA塩基配列の決定法を説明できる。						
7) コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。(技能)			基礎生物学英語/情報科学/情報科学実習			
【遺伝子機能の解析技術】						
1) 細胞(組織)における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。	基礎生物学英語	分子ゲノム薬科学/ 免疫・分子生物学実習				
2) 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。						
3) 特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。						
4) 遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。						
C10 生体防御						
(1) 身体をまもる	生物学英語/免疫学	免疫学				
【生体防御反応】						
1) 自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。						
2) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。						
3) 补体について、その活性化経路と機能を説明できる。						
4) 免疫反応の特徴(自己と非自己、特異性、記憶)を説明できる。						
5) クローン選択説を説明できる。	生物学英語/免疫学	生物学英語/免疫学				
6) 体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。						
【免疫を担当する組織・細胞】						
1) 免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。	生物学英語/免疫学	免疫学				
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。						
3) 食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。						
4) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (S B O's)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1) 抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。	免疫学					
2) MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。						
3) T細胞による抗原の認識について説明できる。						
4) 抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構（遺伝子再構成）を概説できる。						
5) 免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。						
(2) 免疫系の破綻・免疫系の応用						
【免疫系が関係する疾患】						
1) アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。	免疫学/病態生理 1					
2) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。		病態生理 1				
3) 代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。						
4) 代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。						
【免疫応答のコントロール】						
1) 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。	免疫学					
2) 細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。						
3) 腫瘍排除に関する免疫反応について説明できる。				臨床医学概論		
4) 代表的な免疫賦活療法について概説できる。			免疫学			
【予防接種】						
1) 予防接種の原理とワクチンについて説明できる。	微生物学					
2) 主なワクチン（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン）について基本的特徴を説明できる。						
3) 予防接種について、その種類と実施状況を説明できる。				保健衛生学		
【免疫反応の利用】						
1) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。	免疫学					
2) 抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。			臨床検査学			
3) 沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。（技能）		免疫学				
4) ELISA法、ウエスタンプロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。（技能）		免疫学				
(3) 感染症にかかる						
【代表的な感染症】						
1) 主なDNAウイルス（△サイトメガロウイルス、△EBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、△アデノウイルス、△パルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。	微生物学					
2) 主なRNAウイルス（△ポリオウイルス、△コクサッキーウイルス、△エコーウイルス、△ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、△麻疹ウイルス、△ムンブスウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
3) レトロウイルス（HIV、HTLV）が引き起こす疾患について概説できる。		微生物学/生物学英語				
4) グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
5) グラム陰性球菌（淋菌、△髄膜炎菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) グラム陽性桿菌（破傷風菌、△ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、△ジフテリア菌、△炭疽菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	微生物学	臨床医学概論				
7) グラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、△チフス菌、△ペスト菌、コレラ菌、△百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、綠膿菌、△ブルセラ菌、レジオネラ菌、△インフルエンザ菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
8) グラム陰性スピリルム属病原菌（ヘリコバクター・ピロリ菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
9) 抗酸菌（結核菌、非定型抗酸菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
10) スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
11) 真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、△ムーコル）の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
12) 代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。						
13) プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。						
【感染症の予防】						
1) 院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。		微生物学				
【健康と環境】	食品衛生学/食品薬学	食品衛生学				
C11 健康						
(1) 栄養と健康						
【栄養素】						
1) 栄養素（三大栄養素、ビタミン、ミネラル）を列挙し、それぞれの役割について説明できる。						
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。						
3) 脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。						
4) 食品中のタンパク質の栄養的な価値（栄養価）を説明できる。						
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。	食品衛生学/食品薬学	食品衛生学				
6) 栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。						
7) 日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。						
8) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。						
【食品の品質と管理】	食品衛生学	食品衛生学				
1) 食品が腐敗する機構について説明できる。						
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）						
3) 食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。						
4) 食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。						
5) 食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。						
6) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。						
7) 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。						
8) 主な食品添加物の試験法を実施できる。（技能）						
9) 代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。						
10) 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。（知識・態度）			食品衛生学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【食中毒】						
1) 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。						
2) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。						
3) 食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。						
4) 代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。						
5) 化学物質（重金属、残留農薬など）による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。		衛生化学				
(2) 社会・集団と健康						
【保健統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。						
2) 人口静態と人口動態について説明できる。						
3) 国勢調査の目的と意義を説明できる。						
4) 死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。						
5) 人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。						
【健康と疾病をめぐる日本の現状】						
1) 死因別死亡率の変遷について説明できる。		医薬品開発論				
2) 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。						
3) 高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。（知識・態度）						
【疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。			医薬品情報学			
2) 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。						
3) 疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。						
4) 患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。（知識・技能）						
5) 要因・対照研究（コホート研究）の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。（知識・技能）						
6) 医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。						
7) 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。						
(3) 疾病の予防						
【健康とは】						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。					保健衛生学	
2) 世界保健機構（WHO）の役割について概説できる。						
【疾病的予防とは】						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。						
2) 疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。						
3) 新生児マスククリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。						
4) 疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。（態度）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【感染症の現状とその予防】						
1) 現代における感染症（日和見感染、院内感染、国際感染症など）の特徴について説明できる。	薬学概論			保健衛生学		
2) 新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。						
3) 一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を挙げし、分類の根拠を説明できる。						
4) 母子感染する疾患を挙げし、その予防対策について説明できる。						
5) 性行為感染症を挙げし、その予防対策と治療について説明できる。						
6) 予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。						
【生活習慣病とその予防】						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。				保健衛生学/食品薬学		
2) 生活習慣病のリスク要因を挙げできる。						
3) 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。						
【職業病とその予防】						
1) 主な職業病を挙げし、その原因と症状を説明できる。				保健衛生学		
C12 環境						
(1) 化学物質の生体への影響						
【化学物質の代謝・代謝的活性化】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。		衛生化学				
2) 第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
3) 第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
【化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を挙げし、その反応機構を説明できる。		衛生化学				
2) 変異原性試験 (Ames試験など) の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）						
3) 発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。						
4) 代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。						
【化学物質の毒性】						
1) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を挙げし、概説できる。		衛生化学				
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を挙げできる。						
3) 重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。						
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。						
5) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOAEL) などについて概説できる。						
6) 化学物質の安全摂取量（1日許容摂取量など）について説明できる。						
7) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法など）を説明できる。						
8) 環境ホルモン（内分泌搅乱化学物質）が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。（態度）						
【化学物質による中毒と処置】						
1) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。		衛生化学	薬物安全性・相互作用			
2) 化学物質の中用量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。（技能）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (S B O's)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【電離放射線の生体への影響】						
1) 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。	衛生化学					
2) 電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。						
3) 電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。						
4) 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子（酸素効果など）について説明できる。						
5) 電離放射線を防御する方法について概説できる。						
6) 電離放射線の医療への応用について概説できる。						
【非電離放射線の生体への影響】						
1) 非電離放射線の種類を列挙できる。	衛生化学					
2) 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
3) 赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
(2) 生活環境と健康						
【地球環境と生態系】						
1) 地球環境の成り立ちについて概説できる。			環境衛生学			
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
3) 人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。（態度）			衛生化学・放射化学実習			
4) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。						
5) 食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。			環境衛生学			
6) 化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。						
7) 環境中に存在する主な放射性核種（天然、人工）を挙げ、人の健康への影響について説明できる。						
【水環境】						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。			環境衛生学			
2) 水の浄化法について説明できる。						
3) 水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。			環境衛生学/衛生化学・放射化学			
4) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。（知識・技能）						
5) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。			環境衛生学			
6) 水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。						
7) DO, BOD, CODを測定できる。（技能）			環境衛生学/衛生化学・放射化学			
8) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。						
【大気環境】						
1) 空気の成分を説明できる。			環境衛生学			
2) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。						
3) 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。（知識・技能）			環境衛生学/衛生化学・放射化学			
4) 大気汚染に影響する気象要因（逆転層など）を概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）	環境衛生学		環境衛生学/衛生化学・放射化学			
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。						
3) 室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。						
4) シックハウス症候群について概説できる。						
【廃棄物】						
1) 廃棄物の種類を列挙できる。	環境衛生学					
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。						
3) 医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。（技能・態度）						
4) マニフェスト制度について説明できる。						
5) PRTR法について概説できる。						
【環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。	環境衛生学					
2) 環境基本法の理念を説明できる。						
3) 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。						
4) 水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。						
【薬と疾病】						
C13 薬の効くプロセス						
【薬の作用】						
1) 薬物の用量と作用の関係を説明できる。	基礎薬理	基礎薬理	薬効薬物動態解析実習	臨床医学概論		
2) アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。		医薬品開発論/基礎薬理	医薬品化学/薬効薬物動態解析実習			
3) 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。		医薬品開発論/基礎薬理	医薬品化学/薬効薬物動態解析実習			
4) 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。			薬効薬物動態解析実習（薬効解析分野I）			
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。			薬効薬物動態解析実習			
6) 薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。				臨床医学概論		
7) 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。						
8) 薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。						
【薬の運命】						
1) 薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。	薬物動態学	医薬品開発論	臨床医学概論			
2) 薬物の代表的な投与方法（剤形、投与経路）を列挙し、その意義を説明できる。						
3) 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化（崩壊、分散、溶解など）を説明できる。						
4) 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。						
5) 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。						
【薬の副作用】						
1) 薬物の主作用と副作用（有害作用）、毒性との関連について説明できる。	薬物安全性・相互作用/医薬品情報学					
2) 副作用と有害事象の違いについて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮する。(態度)						
2) 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)						
3) 実験動物での代表的な薬物投与法を実施できる。(技能)						
(2) 薬の効き方						
【中枢神経系に作用する薬】						
1) 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学1	薬効薬物動態解析実習			
2) 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な中枢神経疾患(てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬効薬物動態解析実習			
5) 代表的な精神疾患(統合失調症、うつ病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		基礎薬理		臨床医学概論		
6) 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。		薬理学1/基礎薬理	薬効薬物動態解析実習			
【自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学1	薬理学2			
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学2/薬効薬物動態解析実習(薬効解析分野I)			
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能) △技能であるからCBTには馴染まない			薬効薬物動態解析実習(薬効解析分野I)			
【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学1	薬効薬物動態解析実習(薬効解析分野I)			
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)			薬効薬物動態解析実習(薬効解析分野I)			
【循環器系に作用する薬】						
1) 代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学1		臨床医学概論		
2) 代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【呼吸器系に作用する薬】						
1) 代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学2				
2) 代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。		薬理学1	薬理学2			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 薬の効き方II						
【ホルモンと薬】						
1) ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。						
2) 代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。						
【消化器系に作用する薬】						
1) 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
2) その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
5) 代表的な腎臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【腎に作用する薬】						
1) 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。				薬理学2		
【血液・造血器系に作用する薬】						
1) 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
2) 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
【代謝系に作用する薬】						
1) 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
2) 代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
4) カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【炎症・アレルギーと薬】						
1) 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
2) 慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
3) アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。			薬理学1	薬理学2		
(4) 薬物の臓器への到達と消失						
【吸収】						
1) 薬物の主な吸収部位を列挙できる。						
2) 消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。						
3) 受動拡散（単純拡散）、促進拡散の特徴を説明できる。						
4) 能動輸送の特徴を説明できる。						
5) 非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。						
6) 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年					
【分布】											
到達目標 :	1) 薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。 2) 薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。 3) 薬物の胎児への移行について、その機構と血液-胎盤関門の意義を説明できる。 4) 薬物の体液中での存在状態（血漿タンパク結合など）を組織への移行と関連づけて説明できる。 5) 薬物分布の変動要因（血流量、タンパク結合性、分布容積など）について説明できる。 6) 分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。 7) 代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。（技能）		薬物動態学			臨床薬物動態学					
1) 薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。											
2) 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。											
3) 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。											
4) シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。											
5) 薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。											
6) 薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。											
7) 薬物代謝酵素の変動要因（誘導、阻害、加齢、SNPsなど）について説明できる。	医薬品化学/薬物動態学	薬物動態学	臨床薬物動態学								
8) 初回通過効果について説明できる。											
9) 肝および固有クリアランスについて説明できる。											
【排泄】											
1) 腎における排泄機構について説明できる。	薬物動態学	薬物動態学	臨床薬物動態学								
2) 腎クリアランスについて説明できる。											
3) 糸球体ろ過速度について説明できる。											
4) 胆汁中排泄について説明できる。											
5) 腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。											
6) 唾液・乳汁中への排泄について説明できる。											
7) 尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。											
【相互作用】											
1) 薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。	薬物安全性・相互作用										
2) 薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。											
(5) 薬物動態の解析											
【薬動学】											
1) 薬物動態に関する代表的なパラメーターを列挙し、概説できる。											
2) 薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。											
3) 線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。（知識・技能）											
4) 線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。（知識・技能）											
5) 線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。											
6) 生物学的半減期を説明し、計算できる。（知識・技能）											

薬学教育モデル・コアカリキュラム (S B O's)	該 当 科 目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
7) 全身クリアランスについて説明し、計算できる。（知識・技能）			薬物速度論			臨床薬物動態学	
8) 非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。							
9) モデルによらない薬物動態の解析法を列举し説明できる。							
10) 薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。（技能）							
11) 点滴静注の血中濃度計算ができる。（技能）							
12) 連続投与における血中濃度計算ができる。（技能）							
【TDM (Therapeutic Drug Monitoring)】							
1) 治療的薬物モニタリング (TDM) の意義を説明できる。			薬物速度論			臨床薬物動態学	
2) TDMが必要とされる代表的な薬物を列举できる。						臨床薬物動態学	
3) 薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。（技能）						臨床薬物動態学	
4) 至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動学的パラメーターを用いて説明できる。				薬物速度論		臨床薬物動態学	
5) 代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。（技能）						臨床薬物動態学	
C14 薬物治療							
(1) 体の変化を知る							
【症候】							
1) 以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、恶心・嘔吐、嚥下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渴、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しひれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい			病態生理学2	臨床医学概論			
【症候と臨床検査値】							
1) 代表的な肝臓機能検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			病態検査学/病態生理学2	臨床医学概論		臨床薬物動態学	
2) 代表的な腎臓機能検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。				臨床医学概論		臨床薬物動態学	
3) 代表的な呼吸機能検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			病態生理学2				
4) 代表的な心臓機能検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		病態生理 1	病態検査学/病態生理学2			臨床薬物動態学	
5) 代表的な血液および血液凝固検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			臨床検査学、病態検査学/病態生理学2	臨床医学概論			
6) 代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		病態生理 1		臨床医学概論			
7) 感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。				臨床医学概論		臨床薬物動態学	
8) 悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列举し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。			病態検査学/病態生理学2				
9) 尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			臨床検査学、病態検査学/病態生理学2				
10) 動脈血ガス分析の検査項目を列举し、その検査値の臨床的意義を説明できる。						処方解析	
11) 代表的なバイタルサインを列举できる。			病態検査学	臨床医学概論			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 疾患と薬物治療（心臓疾患等）						
【薬物治療の位置づけ】						
1) 代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療（外科手術、食事療法など）の位置づけを説明できる。			疾患と薬物治療法 1 /薬物動態学			処方解析
2) 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。（知識・技能）						
【心臓・血管系の疾患】						
1) 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。	病態生理 1	疾患と薬物治療法 1	臨床医学概論			処方解析
2) 不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック						
【血液・造血器の疾患】						
1) 血液・造血器における代表的な疾患を挙げることができる。	疾患と薬物治療法 2/ 病態生理学 2	実践病態と治療	臨床医学概論			処方解析 がん治療学医薬看連 携講義/処方解析 がん治療学医薬看連 携講義
2) 貫血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓						
【消化器系疾患】						
1) 消化器系の部位別（食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、脾臓）に代表的な疾患を挙げることができる。	病理学	病態生理学 2	臨床医学概論			処方解析 がん治療学医薬看連 携講義/処方解析 がん治療学医薬看連 携講義
2) 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 脾炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローケン病						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。 (技能)						処方解析
(3) 疾患と薬物治療（腎臓疾患等）						
【腎臓・尿路の疾患】						
1) 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。	病理学	病態生理学 2	臨床医学概論			処方解析
2) 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石						
【生殖器疾患】						
1) 男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。	病態生理 1	病態生理学 2	臨床医学概論			処方解析 がん治療学医薬看連 携講義
2) 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜症						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【呼吸器・胸部の疾患】						
1) 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 閉塞性気道疾患（気管支喘息、肺気腫）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患について概説できる。上気道炎（かぜ症候群）、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌						
【内分泌系疾患】						
1) ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病						
【代謝性疾患】						
1) 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
2) 高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【神経・筋の疾患】						
1) 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。			病態生理 1			
(4) 疾患と薬物治療（精神疾患等）						
【精神疾患】						
1) 代表的な精神疾患を挙げることができる。						
2) 総合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症						
【耳鼻咽喉の疾患】						
1) 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【皮膚疾患】						
1) 皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。	病態生理1	疾患と薬物治療法2				
2) アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						処方解析
3) 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。尋麻疹、蕁瘍、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症		疾患と薬物治療法2				処方解析
【眼疾患】						
1) 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。	病態生理2		臨床医学概論			
2) 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						処方解析
3) 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症				臨床医学概論		
【骨・関節の疾患】						
1) 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。	病態生理1		臨床医学概論			
2) 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						処方解析
3) 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		疾患と薬物治療法2				
4) 以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症						
【アレルギー・免疫疾患】						
1) 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。	病態生理1	疾患と薬物治療法2				
2) アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						処方解析
3) 自己免疫疾患（全身性エリテマトーデスなど）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【移植医療】						
1) 移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理1				
【緩和ケアと長期療養】						
1) 癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。						がん治療学/医薬品管理 権限義/処方解析
2) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。						処方解析
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。 (技能)		病態生理1				
(5) 病原微生物・悪性新生物と戦う						
【感染症】						
1) 主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。						処方解析
【抗菌薬】						
1) 抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。			化学療法学			
2) 代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。			化学療法学/医薬品 化学			
3) 代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
4) テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						処方解析
5) マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
6) アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) ピリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。	化学療法学					処方解析
8) サルファ薬(ST合剤を含む)の有効な感染症を列挙できる。						
9) 代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。						処方解析
10) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。						
11) 代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。						
12) 特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。						
【抗原虫・寄生虫薬】						
1) 代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			化学療法学			
【抗真菌薬】						
1) 代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			化学療法学			処方解析
【抗ウイルス薬】						
1) 代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。	化学療法学					処方解析
2) 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。						
【抗菌薬の耐性と副作用】						
1) 主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。	化学療法学					処方解析
2) 主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。						
【悪性腫瘍の病態と治療】						
1) 悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。	化学療法学					がん治療学医薬看連携講義/処方解析
2) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。						
3) 化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。						
【抗悪性腫瘍薬】						
1) 代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。	化学療法学					がん治療学医薬看連携講義/処方解析
2) 代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
3) 代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
4) 代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。						
5) 抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。						
6) 抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
7) 代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。						
8) 代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。		医薬品化学/化学療法学				処方解析
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】						
1) 主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。	化学療法学					処方解析
2) 主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。						がん治療学医薬看連携講義/処方解析
3) 副作用軽減のための対処法を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C15 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
【情報】						
1) 医薬品として必須の情報を列挙できる。	情報科学					
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。						
3) 医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。						
4) 医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。	情報科学					
5) 医薬品情報に関する代表的な法律と制度について概説できる。						
【情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。	情報科学					
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
3) 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
4) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけと用途を説明できる。						
5) 医薬品添付文書（医療用、一般用）に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。						
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。						
7) 医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。（技能）			総合薬学演習 1A/医薬品情報学	総合薬学演習 1A	医療薬学総論	
【収集・評価・加工・提供・管理】						
1) 目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）	情報科学/情報科学実習1・2					
2) 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。						
3) 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。（技能）	情報科学/情報科学実習1・2					
4) 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。（知識・態度）						
5) 主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
【データベース】						
1) 代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。			総合薬学演習 1A/医薬品情報学			
2) 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。（知識・技能）				総合薬学演習 1A		
3) インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。（技能）						
【EBM (Evidence-Based Medicine)】						
1) EBMの基本概念と有用性について説明できる。	情報科学実習2					
2) EBM実践のプロセスを概説できる。						
3) 臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など）の長所と短所を概説できる。						
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。（知識・技能）						
5) 真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。						
6) 臨床適用上の効果指標（オッズ比、必要治療数、相対危険度など）について説明できる。						
【総合演習】						
1) 医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。			総合薬学演習 1A			
2) 医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。（知識・技能）				臨床薬学英語		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 患者情報						
【情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。						
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。				総合薬学演習 1A	臨床薬学	
【収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。					臨床薬学	
2) 薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。(技能)						がん治療学医薬看連 推進会議
3) 患者・介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。(技能)						
4) 得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。(知識・技能)				総合薬学演習 1A	臨床薬学	
5) SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。(技能)						処方解析
6) チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じる。(態度)						がん治療学医薬看連 推進会議
7) 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。(知識・態度)					臨床薬学	
(3) テーラーメイド薬物治療を目指して						
【遺伝的素因】						
1) 薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。						処方解析
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。						
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。						処方解析
【年齢的要因】						
1) 新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						臨床薬物動態学
2) 幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						臨床薬物動態学/処 方解析
【生理的要因】						
1) 生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
2) 授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						臨床薬物動態学
3) 栄養状態の異なる患者（肥満など）に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【合併症】						
1) 腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
2) 肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						臨床薬物動態学
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【投与計画】						
1) 患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)						
2) ポピュレーションファーマコネティクスの概念と応用について概説できる。						
3) 薬動力学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)						臨床薬物動態学
4) 薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医薬品をつくる】						
C16 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤材料の性質						
【物質の溶解】						
1) 溶液の濃度と性質について説明できる。	製剤学					
2) 物質の溶解とその速度について説明できる。						
3) 溶解した物質の膜透過速度について説明できる。						
4) 物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。						
【分散系】						
1) 界面の性質について説明できる。	製剤学					
2) 代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。						
3) 乳剤の型と性質について説明できる。						
4) 代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。						
5) 分散粒子の沈降現象について説明できる。						
【製剤材料の物性】						
1) 流動と変形（レオロジー）の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。	製剤学					
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。						
3) 製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。						
4) 粉体の性質について説明できる。						
5) 製剤材料としての分子集合体について説明できる。						
6) 薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。						
7) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。						
8) 製剤材料の物性を測定できる。（技能）		医薬品物性・製剤学実習				
(2) 剤形をつくる						
【代表的な製剤】						
1) 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。	製剤学	製剤学/医薬品物性・製剤学実習				
2) 代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。						
3) 代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。						
4) 代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。						
5) 代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。						
6) エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。						
7) 代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。						
8) 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。						
【製剤化】						
1) 製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。	製剤学	製剤学				
2) 単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。（技能）		医薬品物性・製剤学実習				
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。		製剤学				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【製剤試験法】						
1) 日本薬局方の製剤に関する試験法を列挙できる。		製剤学				
2) 日本薬局方の製剤に関する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。(技能)		医薬品物性・製剤学 実習				
(3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)						
【DDSの必要性】						
1) 従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。		製剤学				
2) DDSの概念と有用性について説明できる。						
【放出制御型製剤】						
1) 放出制御型製剤(徐放性製剤を含む)の利点について説明できる。		製剤学				処方解析
2) 代表的な放出制御型製剤を列挙できる。						
3) 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。						
4) 徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。						
5) 経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる。						処方解析
6) 腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。						
【ターゲティング】						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。		製剤学				
2) 代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。						
【プロドラッグ】						
1) 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。		製剤学	医薬品化学			処方解析
【その他のDDS】						
1) 代表的な生体膜透過促進法について説明できる。		製剤学				
C17 医薬品の開発と生産						
(1) 医薬品開発と生産のながれ						
【医薬品開発のコンセプト】						
1) 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。		医薬品開発論	総合薬学演習 1A			
2) 疾病統計により示される日本の疾病的特徴について説明できる。						
【医薬品市場と開発すべき医薬品】						
1) 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。		医薬品開発論				
2) 新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。			総合薬学演習 1A			
3) ジェネリック医薬品の役割について概説できる。						
4) 希少疾病に対する医薬品(オーファンドラッグ)開発の重要性について説明できる。						処方解析
【非臨床試験】						
1) 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。		医薬品開発論				
【医薬品の承認】						
1) 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。		医薬品開発論	総合薬学演習 1A			
2) 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。			総合薬学演習 1A	薬と経済		
3) 市販後調査の制度とその意義について説明できる。			医薬品情報学			
4) 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション(ICH)について概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【医薬品の製造と品質管理】							
1) 医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。	医薬品開発論						
2) 医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。							
3) 医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。							
【規範】							
1) GLP (Good Laboratory Practice)、GMP (Good Manufacturing Practice)、GCP (Good Clinical Practice)、GPMS (Good Post-Marketing Surveillance Practice) の概略と意義について説明できる。		医薬品開発論					
【特許】							
1) 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。		医薬品開発論					
【薬害】							
1) 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど）について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）		医薬品開発論	医薬品情報学				
(2) リード化合物の創製と最適化							
【医薬品創製の歴史】							
1) 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。		医薬品開発論					
【標的生体分子との相互作用】							
1) 医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。	医薬品開発論	医薬品化学/ゲノム 医療とゲノム創薬	医薬品化学/ゲノム 医療とゲノム創薬				
2) 医薬品と標的生体分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。			医薬品化学				
3) 立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。			医薬品化学				
4) 医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。			医薬品化学			処方解析	
【スクリーニング】							
1) スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。	情報科学実習2	医薬品開発論	構造活性相関				
2) 代表的なスクリーニング法を挙げし、概説できる。							
【リード化合物の最適化】							
1) 定量的構造活性相関のパラメーターを挙げし、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。	情報科学実習2	医薬品開発論	構造活性相関				
2) 生物学的等価性（バイオアイソスター）の意義について概説できる。			医薬品化学/構造活性相関				
3) 薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。	情報科学実習2		構造活性相関				
(3) バイオ医薬品とゲノム情報							
【組換え体医薬品】							
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。		医薬品開発論/分子 ゲノム医学	ゲノム医療とゲノム 創薬				
2) 代表的な組換え体医薬品を挙げる。	基礎生物学英語						
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。							
【遺伝子治療】							
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）		医薬品開発論	ゲノム医療とゲノム 創薬				
【細胞を利用した治療】							
1) 再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）		医薬品開発論	ゲノム医療とゲノム 創薬				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【ゲノム情報の創薬への利用】						
1) ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。						
2) バイオインフォマティクスについて概説できる。						
3) 遺伝子多型（欠損、増幅）の解析に用いられる方法（ゲノミックサザンプロット法など）について概説できる。						
4) ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例（イマチニブなど）を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。						処方解析
【疾患関連遺伝子】						
1) 代表的な疾患（癌、糖尿病など）関連遺伝子について説明できる。				ゲノム医療とゲノム創薬		
2) 疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。						
(4) 治験						
【治験の意義と業務】						
1) 治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。						
2) 医薬品創製における治験の役割を説明できる。						
3) 治験（第I、II、およびIII相）の内容を説明できる。						
4) 公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。						
5) 治験における被験者的人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。（態度）						
6) 治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。						
【治験における薬剤師の役割】						
1) 治験における薬剤師の役割（治験薬管理者など）を説明できる。						
2) 治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。						
3) 治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。						
4) インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。（態度）						
(5) バイオスタティスティクス						
【生物統計の基礎】						
1) 歸無仮説の概念を説明できる。						
2) パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。						
3) 主な二群間の平均値の差の検定法（t-検定、Mann-Whitney U検定）について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。（知識・技能）						
4) χ^2 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。（知識・技能）						
5) 最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。（知識・技能）				構造活性相関		
6) 主な多重比較検定法（分散分析、Dunnett検定、Tukey検定など）の概要を説明できる。						
7) 主な多変量解析の概要を説明できる。				構造活性相関		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【臨床への応用】						
1) 臨床試験の代表的な研究デザイン（症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験）の特色を説明できる。	医薬品情報学					
2) バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。						
3) バイアスを回避するための計画上の技法（盲検化、ランダム化）について説明できる。						
4) リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。 (知識・技能)						
5) 基本的な生存時間解析法（Kaplan-Meier曲線など）の特徴を説明できる。		薬学統計学				
C18 薬学と社会						
(1) 薬剤師を取り巻く法律と制度	医療・薬事関係法規 2					
【医療の担い手としての使命】						
1) 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。（態度）						
2) 医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。（態度）						
【法律と制度】						
1) 薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。	医療・薬事関係法規 1					
2) 薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
3) 薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
4) 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。						
5) 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。						
6) 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。						
7) 製造物責任法を概説できる。						
【管理薬】	医療・薬事関係法規 1					
1) 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。						
2) 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。						
3) 大麻取締法およびあへん法を概説できる。						
4) 毒物及び劇物取締法を概説できる。						
【放射性医薬品】	総合薬学演習1B					
1) 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準（放射性医薬品基準など）および制度について概説できる。						
2) 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。						
(2) 社会保障制度と薬剤経済	薬と経済					
【社会保障制度】						
1) 日本における社会保障制度のしくみを説明できる。						
2) 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。						
3) 介護保険制度のしくみを説明できる。						
4) 高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医療保険】						
1) 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。						
2) 医療保険のしくみを説明できる。						
3) 医療保険の種類を列挙できる。						
4) 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。					薬と経済	
【薬剤経済】						
1) 国民医療費の動向を概説できる。						
2) 保険医療と薬価制度の関係を概説できる。						
3) 診療報酬と薬価基準について説明できる。						
4) 医療費の内訳を概説できる。						
5) 薬物治療の経済評価手法を概説できる。						
6) 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。（知識・技能）						
(3) コミュニティーファーマシー						
【地域薬局の役割】						
1) 地域薬局の役割を列挙できる。					コミュニティーファーマシー	
2) 在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。					臨床医学概論	
3) 学校薬剤師の役割を説明できる。					コミュニティーファーマシー	
【医薬分業】						
1) 医薬分業のしくみと意義を説明できる。						
2) 医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。（知識・態度）						
3) かかりつけ薬局の意義を説明できる。						
【薬局の業務運営】						
1) 保険薬剤師療養担当規則および保険医療養担当規則を概説できる。					医療・薬事関係法規 1	
2) 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。						
3) 医薬品の流通のしくみを概説できる。						
4) 調剤報酬および調剤報酬明細書（レセプト）について説明できる。					コミュニティーファーマシー	
【OTC薬・セルフメディケーション】						
1) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。（態度）					コミュニティーファーマシー	
2) 主な一般用医薬品（OTC薬）を列挙し、使用目的を説明できる。						
3) 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。				食品薬学		

(基礎資料 3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。
- 2 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。
- 3 「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）SBOs	該当科目		
	3年	4年	5年
D 実務実習教育			
(I) 実務実習事前学習			
(1) 事前学習を始めるにあたって			
《薬剤師業務に注目する》			
1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。		調剤学/臨床薬学/ 実務実習事前学習	医療薬学総論
2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。			
3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシーティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。（態度）		実務実習事前学習	
《チーム医療に注目する》		実務実習事前学習 /調剤学	
4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。			
5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。			
6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。（態度）			
《医薬分業に注目する》			
7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。		実務実習事前学習/調剤学	
(2) 処方せんと調剤			
《処方せんの基礎》			
1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。		総合薬学演習 1A 実務実習事前学習 /調剤学	医療薬学総論
2. 処方オーダリングシステムを概説できる。			
3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。			
4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。			
5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。（知識・技能）			
6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。			
《医薬品の用法・用量》			
7. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。		実務実習事前学習 /調剤学	医療薬学総論
8. 患者に適した剤形を選択できる。（知識・技能）			
9. 患者の特性（新生児、小児、高齢者、妊婦など）に適した用法・用量について説明できる。			
10. 患者の特性に適した用量を計算できる。（技能）			
11. 病態（腎、肝疾患など）に適した用量設定について説明できる。			

《服薬指導の基礎》					
12. 服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。		臨床薬学/実務実習事前学習			
《調剤室業務入門》					
13. 代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。 (技能)		実務実習事前学習 /調剤学			
14. 処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。 (技能)		実務実習事前学習			
15. 処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。 (技能)		実務実習事前学習 /調剤学			
16. 調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。 (技能)					
17. 処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。 (態度)					
(3) 疑義照会					
《疑義照会の意義と根拠》					
1. 疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。		臨床薬学/実務実習事前 学習/調剤学			
3. 特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。 (技能)		実務実習事前学習			
4. 不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。			臨床薬学/実務実習事前 学習/調剤学	医療薬学総論	
《疑義照会入門》					
5. 処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。 (態度)		実務実習事前学習			
6. 代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。		臨床薬学/実務実習事前 学習/調剤学			
7. 代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。				医療薬学総論	
8. 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。					
9. 疑義照会の流れを説明できる。					
10. 疑義照会をシミュレートする。 (技能・態度)					
(4) 医薬品の管理と供給					
《医薬品の安定性に注目する》					
1. 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。		実務実習事前学習 /調剤学			
2. 代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。			医療薬学総論		
《特別な配慮を要する医薬品》					
3. 毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。		実務実習事前学習 /調剤学			
4. 麻薬、向精神薬などの管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。			医療薬学総論		
5. 血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。					
6. 輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。					
7. 代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。					
8. 生物製剤の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。					
9. 麻薬の取扱いをシミュレートできる。 (技能)			実務実習事前学習 /調剤学		
10. 代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。					
11. 放射性医薬品の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。					

《製剤化の基礎》			
12. 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。	実務実習事前学習		
13. 薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。			
14. 代表的な院内製剤を調製できる。(技能)			
15. 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)			
16. 抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる。(技能)			
《注射剤と輸液》			
17. 注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。	実務実習事前学習	医療薬学総論	
18. 代表的な配合変化を検出できる。(技能)			
19. 代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。		医療薬学総論	
20. 体内電解質の過不足を判断して補正できる。(技能)			
《消毒薬》			
21. 代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。	実務実習事前学習 /調剤学		
22. 消毒薬調製時の注意点を説明できる。			
(5) リスクマネージメント			
《安全管理に注目する》			
1. 薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。	総合薬学演習 1A	実務実習事前学習 /調剤学	
2. 誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。		医療薬学総論	
3. 院内感染の回避方法について説明できる。		実務実習事前学習 /調剤学	
《副作用に注目する》			
4. 代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。		実務実習事前学習 /調剤学	
《リスクマネージメント入門》			
5. 誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。	総合薬学演習 1A		
6. リスクを回避するための具体策を提案する。(態度)		実務実習事前学習 /調剤学	
7. 事故が起こった場合の対処方法について提案する。(態度)			
(6) 服薬指導と患者情報			
《服薬指導に必要な技能と態度》			
1. 患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。	実務実習事前学習 /臨床薬学		
2. 代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。		医療薬学総論	
3. 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。			
4. インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。(態度)	総合薬学演習 1A		
5. 適切な言葉選び、適切な手順を経て服薬指導する。(技能・態度)		実務実習事前学習	
6. 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(知識・態度)			
7. 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。		医療薬学総論	

《患者情報の重要性に注目する》					
8.	服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。	総合薬学演習 1A	実務実習事前学習 /臨床薬学	医療薬学総論	
9.	患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。（技能）				
10.	医師、看護師などの情報の共有化の重要性を説明できる。			医療薬学総論	
《服薬指導入門》					
11.	代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。（知識・技能）	総合薬学演習 1A	実務実習事前学習		
12.	共感的態度で患者インタビューを行う。（技能・態度）				
13.	患者背景に配慮した服薬指導ができる。（技能）				
14.	代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。（技能）		実務実習事前学習		
(7) 事前学習のまとめ					
代表的な処方せんの鑑査を行うことができる。（技能）		実務実習事前学習			
疑義照会をシュミレートする。（技能・態度）					
処方せん例に従って、計数調剤をシュミレートできる。（技能）					
処方せん例に従って、計量調剤をシュミレートできる。（技能）					
調剤された医薬品の鑑査をシュミレートできる。（技能）					
患者背景に配慮した服薬指導ができる。（技能）					

(基礎資料4)カリキュラムマップ

薬学部・医療薬学科 カリキュラムマップ

DP1 関心・意欲・態度

1)生命に関わる職業人となることを自覚し、それにふさわしい行動・態度をとることができること。

区分	科目コード	科目名	単位数	必修・選択	開講期	ディプロマポリシーに対する関与の程度														
						DP1-1	DP1-2	DP1-3	DP2-1	DP2-2	DP2-3	DP3-1	DP3-2	DP3-3	DP3-4	DP4-1	DP4-2	DP4-3	DP4-4	
人間性科目・群社会性	111	人権と社会1	2	選択	1前	○	○	◎		○										
	112	人権と社会2	2	選択	1後	○	○	◎		○										
	111	暮らしのなかの憲法	2	選択	1後	○	○										◎			
	111	現代社会と倫理	2	選択	1前	○	◎	○	○	◎	○									
	111	心理と行動	2	選択	1後			○	○	○	◎						○			
	111	現代経済の課題	2	選択	1前				○								○			
	111	自校学習	2	選択	1通	◎		○			○									
	121	住みよい社会と福祉	2	選択	2後	◎	○	○									○			
共通教養科目	111	生活環境科学	2	選択	1後	◎	◎	○	○	◎	○	○					○			
	111	基礎ゼミ	2	必修	1前	○	○	○				○	○	◎	◎					
	111	基礎数学	2	選択	1前				○					○			○		◎	
	111	情報科学入門	2	選択	1前	○						○			○		◎			
	111	基礎物理化学	1	選択	1前					○							○	○	○	
	121	日本語の技法	2	選択	2後			○									○			
	111	生涯スポーツ1	1	選択	1前			○									○			
	112	生涯スポーツ2	1	選択	1後			○									○			
専門基礎科目	111	基礎化学	2	選択	1前				○								○	○		
	111	基礎生物学	2	選択	1前				○								○	○		
	111	化学演習	2	選択	1前				○								○	○		
	111	生物学演習	2	選択	1前				○								○	○		
	111	英語演習1	2	選択	1前				○					○			○		○	
	112	英語演習2	2	選択	1後				○				○			○		○		
	121	英語演習3	1	選択	2前				○				○			○		○		
	122	英語演習4	1	選択	2後				○				○			○		○		

区分	科目コード	科目名	単位数	必修・選択	開講期	ディプロマポリシーに対する関与の程度													
						DP1-1	DP1-2	DP1-3	DP2-1	DP2-2	DP2-3	DP3-1	DP3-2	DP3-3	DP3-4	DP4-1	DP4-2	DP4-3	DP4-4
英語	111	オーラルイングリッシュ1	1	選択	1前								○		◎				
	112	オーラルイングリッシュ2	1	選択	1後								○		◎				
	121	オーラルイングリッシュ3	1	選択	2前								○		◎				
	122	オーラルイングリッシュ4	1	選択	2後								○		◎				
	121	TOEIC1	1	選択	2~4								○						
	122	TOEIC2	1	選択	2~4								○						
	123	TOEIC3	1	選択	2~4								○						
	124	TOEIC4	1	選択	2~4								○						
	125	アドバンストTOEIC A	1	選択	2~4								○						
	126	アドバンストTOEIC B	1	選択	2~4								○						
	125	TOEFL A	1	選択	2~4								○						
	126	TOEFL B	1	選択	2~4								○						
	125	インターネットイングリッシュ A	1	選択	2~4								○						
	126	インターネットイングリッシュ B	1	選択	2~4								○						
	125	留学英語 A	1	選択	2~4								○						
	126	留学英語 B	1	選択	2~4								○						
	125	ライティング A	1	選択	2~4								○		◎		○		
	126	ライティング B	1	選択	2~4								○		◎		○		
	135	イングリッシュカルチャーセミナー A	1	選択	3~4								○						
	136	イングリッシュカルチャーセミナー B	1	選択	3~4								○						
	135	イングリッシュスペシャルスタディーズA	1	選択	3~4								○		◎				
	136	イングリッシュスペシャルスタディーズB	1	選択	3~4								○		◎				
	137	アドバンストオーラルイングリッシュ	2	選択	3~4								○		◎				
外国語	111	ドイツ語総合1	1	選択	1前								○				○		
	112	ドイツ語総合2	1	選択	1後								○				○		
	121	ドイツ語総合3	1	選択	2前								○				○		
	122	ドイツ語総合4	1	選択	2後								○				○		

区分	科目コード	科目名	単位数	必修・選択	開講期	ディプロマポリシーに対する関与の程度													
						DP1-1	DP1-2	DP1-3	DP2-1	DP2-2	DP2-3	DP3-1	DP3-2	DP3-3	DP3-4	DP4-1	DP4-2	DP4-3	DP4-4
初修 外國語	121	ドイツ語コミュニケーション1	1	選択	2前								○						
	122	ドイツ語コミュニケーション2	1	選択	2後								○						
	131	ドイツ語コミュニケーション3	1	選択	3~4								○	○					
	132	ドイツ語コミュニケーション4	1	選択	3~4								○	○					
	111	フランス語総合1	1	選択	1前								○				○		
	112	フランス語総合2	1	選択	1後								○				○		
	121	フランス語総合3	1	選択	2前								○				○		
	122	フランス語総合4	1	選択	2後								○				○		
	121	フランス語コミュニケーション1	1	選択	2前								○						
	122	フランス語コミュニケーション2	1	選択	2後								○						
	131	フランス語コミュニケーション3	1	選択	3~4								○	○					
	132	フランス語コミュニケーション4	1	選択	3~4								○	○					
	111	中国語総合1	1	選択	1前								○				○		
	112	中国語総合2	1	選択	1後								○				○		
	121	中国語総合3	1	選択	2前								○				○		
	122	中国語総合4	1	選択	2後								○				○		
	121	中国語コミュニケーション1	1	選択	2前								○						
	122	中国語コミュニケーション2	1	選択	2後								○						
	131	中国語コミュニケーション3	1	選択	3~4								○	○					
	132	中国語コミュニケーション4	1	選択	3~4								○	○					

区分	科目コード	科目名	単位数	必修・選択	開講期	ティプロマポリシーに対する関与の程度													
						DP1-1	DP1-2	DP1-3	DP2-1	DP2-2	DP2-3	DP3-1	DP3-2	DP3-3	DP3-4	DP4-1	DP4-2	DP4-3	DP4-4
I 群	211	基礎有機化学	1.5	選択	1後				○								◎	◎	
	211	基礎分析化学	1.5	選択	1後							○				○	◎	◎	○
	311	有機化学1	1.5	選択	1後				○								◎	◎	○
	311	薬品物理化学	1.5	選択	1後				○							○	○	◎	○
	211	薬用資源学	1.5	選択	1後	○						○			○	○	○	○	○
	321	有機化学2	1.5	選択	2前				○								◎	◎	○
	321	機器分析学	1.5	選択	2前				○							○	○	◎	○
	321	天然物薬化学	1.5	選択	2前	○						○			○	○	○	○	○
	321	製剤学	1.5	選択	2前				○			○			○	○	○	○	○
	321	生物有機化学	1.5	選択	2後				○								◎	◎	○
	321	構造分析化学	1.5	選択	2後				○							○	○	○	○
	331	医薬品化学	1.5	選択	3前				○								◎	◎	○
	331	合成化学	1.5	選択	3前				○								◎	◎	○
専 門 科 目	211	基礎生化学	1.5	選択	1前				◎	○							◎	◎	○
	211	解剖組織学	1.5	選択	1前				◎	○							◎	◎	○
	311	生化学	1.5	選択	1後				◎	○							◎	◎	○
	211	人体生理学1	1.5	選択	1後				◎	○							◎	◎	○
	321	細胞生物学	1.5	選択	2前				◎	○							◎	◎	○
	321	人体生理学2	1.5	選択	2前				◎	○							◎	◎	○
	221	微生物学	1.5	選択	2前		○	○	○								◎		○
	221	基礎薬理学	1.5	選択	2前	○										◎	◎	○	○
	321	免疫学	1.5	選択	2後				◎	○							◎	◎	○
	221	分子ゲノム薬科学	1.5	選択	2後	○			◎	○							◎	◎	○
	221	衛生化学	1.5	選択	2後		○	○	○								◎		○
	331	ゲノム医療とゲノム創薬	1.5	選択	3前	○			◎	○							◎	◎	○
	231	食品衛生学	1.5	選択	3前		○	○	○								◎		○
	231	環境衛生学	1.5	選択	3後		○	○	○								◎		○
	341	保健衛生学	1.5	選択	4前		○	○	○								◎		○
III 群	211	薬学概論	1.5	選択	1前	◎	◎	◎	○	○	○					○	○		
	211	情報科学	1.5	選択	1後				◎							○	○	○	○
	211	早期体験学習	1.5	選択	2後	◎	◎	◎		○	○					○			
	221	薬学統計学	1.5	選択	2前										○		○	○	○
	221	医薬品開発論	1.5	選択	2前	○	○		◎		○				○	○	○	○	○
	321	薬理学1	1.5	選択	2後		○			○						○	○	○	○
	321	漢方薬学	1.5	選択	2後		○			○		○		○	○	○	○	○	○
	221	病理学	1.5	選択	2後		○			○					○	○	○	○	○
	321	病態生理学1	1.5	選択	2後		○			○						○	○	○	○
	321	日本薬局方	1.5	選択	2後				○		○	○			○	○	○	○	○
	331	薬理学2	1.5	選択	3前		○			○						○	○	○	○
	331	疾患と薬物治療法1	1.5	必修	3前		○			○					○	○	○	○	○
	331	臨床検査学	1.5	選択	3前					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	331	病態生理学2	1.5	選択	3前		○			○						○	○	○	○
	331	薬物動態学	1.5	選択	3前											○	○	○	○
	331	医薬品情報学	1.5	必修	3前					○						○	○	○	○

区分	科目コード	科目名	単位数	必修・選択	開講期	ティプロマポリシーに対する関与の程度													
						DP1-1	DP1-2	DP1-3	DP2-1	DP2-2	DP2-3	DP3-1	DP3-2	DP3-3	DP3-4	DP4-1	DP4-2	DP4-3	DP4-4
専 門 科 目	III 群	331 化学療法学	1.5	選択	3後		○			○			○	○	○	○	○	○	○
		332 疾患と薬物治療法2	1.5	必修	3後		○			○			○		○	○	○	○	○
		331 病態検査学	1.5	選択	3後	○	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○
		332 薬物速度論	1.5	選択	3後											○	○	○	○
		332 薬物安全性・相互作用	1.5	選択	3後				○							○	○	○	○
		241 生命倫理	1.5	必修	4前	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
		341 調剤学	1.5	必修	4前		○	○			○		○	○		○	○	○	○
		341 薬と経済	1.5	選択	4前		○		○		○		○			○			○
		341 臨床薬学	1.5	必修	4前		○	○				○	○	○	○	○	○	○	○
		341 医療・薬事関係法規1	1.5	必修	4前	○	○									○	○	○	○
		441 臨床医学概論	1.5	選択	4後						○	○	○	○		○	○	○	○
		341 コミュニティファーマシー	1.5	選択	4後	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		441 医療薬学総論	1.5	必修	5通		○	○		○	○					○	○	○	○
		451 実践病態と治療	1.5	必修	5通		○			○					○	○	○	○	○
		461 臨床薬物動態学	1.5	選択	6前											○	○	○	○
		461 薬効薬理処方解析	1.5	必修	6前		○	○		○	○					○	○	○	○
		461 医療・薬事関係法規2	1.5	選択	6前	○	○	○		○						○	○	○	○
		461 がん治療学医薬看連携講義	1.5	選択	6前		○		○	○					○	○	○	○	○
専 門 科 目 英 語 科	219 基礎生物学英語	1.5	選択	1後							○	○	○	○		○		○	○
	229 基礎化学英語	1.5	選択	2前							○	○	○	○		○		○	○
	229 生物学英語	1.5	選択	2後							○	○	○	○		○		○	○
	349 臨床薬学英語	1.5	選択	4前	○	○	○								○	○			
開 講 科 學 科	431 生体成分分析化学	1.5	選択	3前				○								○	○	○	○
	431 生体高分子化学	1.5	選択	3前				○								○	○	○	○
	431 創薬物理化学(平成24年度以降入学生)	1.5	選択	3前				○								○	○	○	○
	431 構造-活性相関	1.5	選択	3後				○								○	○	○	○
	431 構造活性相関(平成24年度以降入学生)	1.5	選択	3後				○								○	○	○	○
	431 創薬反応化学	1.5	選択	3後				○								○	○	○	○
	431 有機反応化学(平成24年度以降入学生)	1.5	選択	3後				○								○	○	○	○
	431 医薬品試験評価概論	1.5	選択	3後	○			○	○						○	○	○	○	○
	431 食品薬学	1.5	選択	3後	○			○								○			
自由 選 択	431 製剤工学(平成24年度以降入学生)	1.5	選択	3後															
	210 物理学概論	1.5	選択	1前											○	○	○	○	○
	220 応用物理学	1.5	選択	2前											○	○	○	○	○
	530 物理学実習	1.5	選択	3前											○	○	○	○	○
	510 新薬学研究コース	1.5	選択	1後～2前	○		○	○		○					○	○	○	○	○
実 習	511 情報科学実習1	1.5	必修	1前							○	○	○	○				○	
	512 情報科学実習2	1.5	必修	1後							○	○	○	○				○	
	511 基礎薬科学実習	2	必修	1後											○		○	○	○
	521 医薬品物性・製剤学実習	3	必修	2前							○		○	○		○	○	○	○
	521 免疫・分子生物学実習	3	必修	2通	○			○	○		○		○			○	○	○	○
	521 有機化学・生薬学実習	3	必修	2通											○		○	○	○
	531 衛生化学・放射化学実習	3	必修	3前	○							○			○	○	○	○	
	531 薬効薬物動態解析実習	3	必修	3前											○	○	○	○	○

区分	科目コード	科目名	単位数	必修・選択	開講期	ティプロマポリシーに対する関与の程度													
						DP1-1	DP1-2	DP1-3	DP2-1	DP2-2	DP2-3	DP3-1	DP3-2	DP3-3	DP3-4	DP4-1	DP4-2	DP4-3	DP4-4
門 科 目	演 習	531 総合薬学演習1A	1	必修	3前		○	○		○	◎	○	○			○		○	
		531 総合薬学研究1	2	必修	3後		○	○	◎	○						◎	○	○	○
		531 総合薬学演習1B	1	必修	3後				○		○					○			
		541 総合薬学研究2	2	必修	4前		○	○	◎	○						◎	○	○	○
		541 実務実習事前学習	4	必修	4後	○	○	◎		○	○	◎	○	○		○	○	◎	○
		541 総合演習1	4	必修	4通				◎							◎	○		
		551 病院実務実習	10	必修	5通	◎	◎	◎		○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○
		551 薬局実務実習	10	必修	5通	◎	◎	◎		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		561 総合薬学研究3	4	必修	4後～6前		○	○	◎	○						◎	○	○	○
		561 総合薬学演習2	4	必修	6前		○	○	○	○	○	○			○		○	○	○
		562 総合演習2	6	必修	6後		○	○	○	○	○	○			○		○	○	○

(基礎資料 5) 語学教育の要素

科目名	開講年生	要素			
		読み	書き	聞く	話す
英語演習1	1	○	○	○	○
英語演習2	1	○	○	○	○
英語演習3	2	○	○	○	○
英語演習4	2	○	○	○	○
オーラルイングリッシュ1	1	○	○	○	○
オーラルイングリッシュ2	1	○	○	○	○
オーラルイングリッシュ3	2	○	○	○	○
オーラルイングリッシュ4	2	○	○	○	○
インターネットイングリッシュA	2	○	○		
インターネットイングリッシュB	2	○	○		
アドバンストTOEIC A	2	○		○	
アドバンストTOEIC B	2	○		○	
ライティング A	2		○		
ライティング B	2		○		
イングリッシュスペシャルスタディーズA	3、4	○	○	○	
イングリッシュスペシャルスタディーズB	3、4	○	○	○	
イングリッシュカルチャーセミナーA	3、4	○	○	○	
イングリッシュカルチャーセミナーB	3、4	○	○	○	○
留学英語A	2	○	○	○	○
留学英語B	2	○	○	○	○
ドイツ語総合1	1	○	○	○	○
ドイツ語総合2	1	○	○	○	○
ドイツ語総合3	2	○	○	○	○
ドイツ語総合4	2	○	○	○	○
フランス語総合1	1	○	○	○	○
フランス語総合2	1	○	○	○	○
フランス語総合3	2	○	○	○	○
フランス語総合4	2	○	○	○	○
中国語総合1	1	○	○	○	○
中国語総合2	1	○	○	○	○
中国語総合3	2	○	○	○	○
中国語総合4	2	○	○	○	○
ドイツ語コミュニケーション1	2、3、4	○	○	○	○
ドイツ語コミュニケーション2	2、3、4	○	○	○	○
ドイツ語コミュニケーション3	3、4	○	○	○	○
ドイツ語コミュニケーション4	3、4	○	○	○	○
フランス語コミュニケーション1	2、3、4	○	○	○	○
フランス語コミュニケーション2	2、3、4	○	○	○	○
フランス語コミュニケーション3	3、4	○	○	○	○
フランス語コミュニケーション4	3、4	○	○	○	○
中国語コミュニケーション1	2、3、4	○	○	○	○
中国語コミュニケーション2	2、3、4	○	○	○	○
中国語コミュニケーション3	3、4	○	○	○	○
中国語コミュニケーション4	3、4	○	○	○	○

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

実務実習事前学習スケジュール(資料6-1)

- 1) 実務実習事前学習は4単位で4年生後期に実施している。
実務実習事前学習として、90分間の講義を44コマ(生涯教育研修聴講9コマ、連携講座1コマを含む)、実習・演習を85コマ、合計129コマ実施している。
- 2) 実習・演習内容を、「調剤」、「コミュニケーション」および「製剤・管理・TDM」に分け、学生がローテーションする方法で実施している。
- 3) 定員150名の学生を大きく2班に分け、さらに各班を6グループに分けて実施している。全体では12グループとなり、1グループ13名程度の少人数で実施している。
- 4) 平成26年度の全体スケジュールを(資料6-2)に示した。
- 5) 講義内容を(資料6-3)に示した。
- 6) Aグループのスケジュールを(資料6-4, 6-5)に示した。
- 7) 実務実習事前学習の履修に先立ち4年生前期で実施する「調剤学」および「臨床薬学」のスケジュールを(資料6-6)に示した。「調剤学」15コマと「臨床薬学」15コマを開講し、基本的で重要なLSについてはここで学習している。また、実務実習事前学習でも実施することを基本としているが、一部の基礎的なLSについては、「調剤学」および「臨床薬学」のみの実施となっている。
- 8) 以上示したように、4年生前期の「調剤学」、「臨床薬学」および後期の「実務実習事前学習」による学習で、実務実習モデル・コアカリキュラムで示されているすべてのLSを実施している(資料6-7)。

(基礎資料 6－2) 実務実習事前学習スケジュール（全体スケジュール）

日	月日	1. 2限目	実習時間	学生グループ																					
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L										
1	9月9日	(火)	講義	1～5時間	実習講義																				
2	9月10日	(水)	講義	3～5時間	調剤 1	無菌 1	管理	コミュニケーション																	
3	9月11日	(木)	講義	3～5時間	調剤 2	管理	無菌 1																		
4	9月12日	(金)	講義	3～5時間	調剤 3 調剤 4	製剤	TDM																		
5	9月15日	(月祝)	講義	3～5時間	調剤 4 調剤 3	TDM	製剤																		
6	9月16日	(火)	講義	3～5時間																					
7	9月17日	(水)	講義	3～5時間				コミュニケーション																	
8	9月18日	(木)	講義	3～5時間																					
9	9月23日	(火祝)	講義	3～5時間																					
10	9月24日	(水)	講義	3～5時間	コミュニケーション	コミュニケーション	調剤 1	無菌 1	管理																
11	9月25日	(木)	講義	3～5時間			調剤 2	管理	無菌 1																
12	9月29日	(月)	講義	3～5時間			調剤 3 調剤 4	製剤	TDM																
13	9月30日	(火)	ツ反	3～5時間			調剤 4 調剤 3	TDM	製剤																
14	10月1日	(水)	講義	3～5時間				コミュニケーション																	
15	10月2日	(木)	判定	3～5時間																					
16	10月7日	(火)	講義	3～5時間																					
17	10月8日	(水)		3～5時間																					
18	10月9日	(木)		3～5時間	無菌 1 管理	コミュニケーション	コミュニケーション	コミュニケーション	コミュニケーション	調剤 1															
19	10月14日	(火)		3～5時間	管理 無菌 1					調剤 2															
20	10月15日	(水)		3～5時間	製剤 TDM					調剤 3 調剤 4															
21	10月16日	(木)		3～5時間	TDM 製剤					調剤 4 調剤 3															
22	10月21日	(火)		3～5時間				コミュニケーション	調剤 1																
23	10月22日	(水)		3～5時間												調剤 2									
24	10月23日	(木)		3～5時間												調剤 3 調剤 4									
25	10月28日	(火)		3～5時間												調剤 4 調剤 3									
26	10月29日	(水)		3～5時間	調剤 5	鑑査	コミュニケーション	コミュニケーション	コミュニケーション	コミュニケーション	調剤 6		無菌 2	コミュニケーション	コミュニケーション	コミュニケーション									
27	10月30日	(木)		3～5時間	調剤 6	無菌 2					調剤 5		鑑査												
28	11月6日	(木)		3～5時間	コミュニケーション	調剤 5	鑑査				調剤 6		無菌 2												
29	11月11日	(火)		3～5時間		調剤 6	無菌 2				調剤 5		鑑査												
30	11月12日	(水)		3～5時間	鑑査	コミュニケーション	コミュニケーション	コミュニケーション	コミュニケーション	調剤 5	無菌 2	コミュニケーション	コミュニケーション	コミュニケーション	コミュニケーション	コミュニケーション									
31	11月13日	(木)	講義	3～5時間	無菌 2					調剤 6	鑑査														
32	11月18日	(火)		2～5時間	調剤 7・8	鑑査	コミュニケーション	コミュニケーション	コミュニケーション	コミュニケーション	調剤 7・8		無菌 3	コミュニケーション	コミュニケーション	コミュニケーション									
33	11月19日	(水)		2～5時間		無菌 3					鑑査														
34	11月20日	(木)		2～5時間	コミュニケーション	調剤 7・8	鑑査				調剤 7・8		無菌 3												
35	11月25日	(火)		2～5時間		無菌 3	鑑査					鑑査													
36	11月26日	(水)		2～5時間	鑑査	コミュニケーション	コミュニケーション	コミュニケーション	コミュニケーション	調剤 7・8	無菌 3	コミュニケーション	コミュニケーション	コミュニケーション	コミュニケーション	コミュニケーション									
37	11月27日	(木)		2～5時間	無菌 3					鑑査															
38	11月28日	(金)		1, 2, 4, 5時間	総括																				
39	11月29日	(土)		2時間	試験																				
40	9月27日	(土)	講義	2時間	連携講座																				
41	10月25日	(土)		3～5時間	心肺蘇生法																				
42	9月20日	(土)	講義	3～5時間	生涯教育研修聴講																				
43	10月18日	(土)	講義	3～5時間																					
44	11月8日	(土)	講義	3～5時間																					
	10月11日	(土)			予備日																				

(基礎資料6-3)実務実習事前学習スケジュール(事前学習講義)

月 日	時 間	講義担当者	所 属	講義内 容
9月9日 (火)	1	高田 充隆	近畿大学	オリエンテーション
	2	細見 光一 藤本 麻依	近畿大学	調剤(水剤・軟膏・計数・疑義照会)
	3	北小路 学 井上 知美	近畿大学	調剤(散剤調剤)・調剤鑑査
	4	小竹 武 石渡 俊二	近畿大学	製剤・TDM・無菌操作
	5	松山 賢治 大鳥 徹	近畿大学	コミュニケーション実習について
9月10日 (水)	1	大鳥 徹	近畿大学	コミュニケーションについて
	2	松山 賢治	近畿大学	薬剤師と薬物療法
9月11日 (木)	1, 2	森嶋 祥之	近畿大学医学部附属病院 臨床検査部	臨床検査
9月12日 (金)	1, 2	谷澤 靖博	大阪府薬剤師会 専務理事	薬局薬剤師の役割
9月15日 (月祝)	1, 2	長橋 かよ子	医療法人 医誠会病院 薬剤科	病院薬剤師の役割
9月16日 (火)	1, 2	中川 博之 近藤 尚美	イング株式会社薬剤課長 クオール株式会社 御堂薬局薬局長	リスクマネジメントと薬剤師
9月17日 (水)	1, 2	大里 恭章	八尾徳洲会総合病院 薬剤部長	医薬品管理
9月18日 (木)	1, 2	吉年 正宏	近畿大学医学部附属病院 薬剤部	TDMの意義と実際
9月23日 (火祝)	1, 2	山添 讓	近畿大学医学部附属病院 薬剤部 薬局長	放射性医薬品と薬剤師
9月24日 (水)	1, 2	小泉 祐一	府中病院 薬剤部リーダー	がん化学療法と薬剤師
9月25日 (木)	1, 2	村田 卓	マルゼン薬局 代表取締役	調剤報酬および調剤報酬明細書1
9月29日 (月)	1, 2	坂本 紀夫	クニーズメディカル 薬局統括部長	調剤報酬および調剤報酬明細書2
9月30日 (火)	1, 2	井上 知美	近畿大学	感染症と予防接種1(採血・ツ反)
10月1日 (水)	1, 2	野村 守弘	近畿大学医学部附属病院 薬剤部 副薬局長	治験とCRC
10月2日 (木)	1, 2	井上 知美	近畿大学	感染症と予防接種2(ツ反判定)
10月7日 (火)	1, 2	井上 知美	近畿大学	心肺蘇生法
11月13日 (木)	1, 2	高田 充隆	近畿大学	事前学習まとめ講義

(基礎資料6－4) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール(グループA)まとめ

日		実習・演習内容	1限目	2限目	3限目	4限目	5限目
1	9月9日	(火)		講義	講義	講義	講義
2	9月10日	(水)	調剤1	講義	講義	実習・演習	実習・演習
3	9月11日	(木)	調剤2	講義	講義	実習・演習	実習・演習
4	9月12日	(金)	調剤3	講義	講義	実習・演習	実習・演習
5	9月15日	(月祝)	調剤4	講義	講義	実習・演習	実習・演習
6	9月16日	(火)		講義	講義		
7	9月17日	(水)		講義	講義		
8	9月18日	(木)		講義	講義		
9	9月20日	(土)			講義(生涯教育)	講義(生涯教育)	講義(生涯教育)
10	9月23日	(火祝)		講義	講義		
11	9月24日	(水)	コミュニケーション1	講義	講義	実習・演習	実習・演習
12	9月25日	(木)	コミュニケーション2	講義	講義	実習・演習	実習・演習
13	9月27日	(土)	連携講座		講義		
14	9月29日	(月)	コミュニケーション3	講義	講義	実習・演習	実習・演習
15	9月30日	(火)	コミュニケーション4	ツ反	ツ反	実習・演習	実習・演習
16	10月1日	(水)		講義	講義		
17	10月2日	(木)		ツ反判定	ツ反判定		
18	10月7日	(火)		講義	講義		
19	10月9日	(木)	無菌1			実習・演習	実習・演習
20	10月14日	(火)	管理			実習・演習	実習・演習
21	10月15日	(水)	製剤			実習・演習	実習・演習
22	10月16日	(木)	TDM			実習・演習	実習・演習
23	10月18日	(土)			講義(生涯教育)	講義(生涯教育)	講義(生涯教育)
24	10月25日	(土)	心肺蘇生法			実習・演習	実習・演習
25	10月29日	(水)	調剤5			実習・演習	実習・演習
26	10月30日	(木)	調剤6			実習・演習	実習・演習
27	11月6日	(木)	コミュニケーション5			実習・演習	実習・演習
28	11月8日	(土)			講義(生涯教育)	講義(生涯教育)	講義(生涯教育)
29	11月11日	(火)	コミュニケーション6			実習・演習	実習・演習
30	11月12日	(水)	鑑査1			実習・演習	実習・演習
31	11月13日	(木)	無菌2	講義	講義	実習・演習	実習・演習
32	11月18日	(火)	調剤7		実習・演習	実習・演習	実習・演習
33	11月19日	(水)	調剤8		実習・演習	実習・演習	実習・演習
34	11月20日	(木)	コミュニケーション7		実習・演習	実習・演習	実習・演習
35	11月25日	(火)	コミュニケーション8		実習・演習	実習・演習	実習・演習
36	11月26日	(水)	鑑査2		実習・演習	実習・演習	実習・演習
37	11月27日	(木)	無菌3		実習・演習	実習・演習	実習・演習
38	11月28日	(金)	総括	実習・演習	実習・演習		実習・演習
39	11月29日	(土)			試験		

(基礎資料6-5)4年次の実務実習事前学習のスケジュール(グループA)

		1限目	2限目	実習・演習内容	3限目	4限目	5限目
9月1日	月						
9月2日	火						
9月3日	水						
9月4日	木						
9月5日	金						
9月6日	土						
9月7日	日						
9月8日	月						
9月9日	火	講義(常勤1名) S202, 205, 206, 207, S303 (常勤2名)		実習講義	講義 S203, 205, 206, 207 (常勤1名)	講義 S205, 206, 207, 208 (常勤1名)	講義S209, 602, 604 (常勤1名)
9月10日	水	講義S205, S602, S605, S208 (常勤2名)		調剤 1	実習・演習S203, 210, 211 (常勤4名・非常勤13名)		
9月11日	木(祝)	講義 (非常勤1名)		調剤 2	実習・演習S201, 202, 204, 210 (常勤4名・非常勤13名)		
9月12日	金	講義S101, 102, 107, 409 (非常勤1名)		調剤 3	実習・演習S204, 206, 210, 305 (常勤2名・非常勤7名)		
9月13日	土						
9月14日	日						
9月15日	月(祝)	講義S101, 102, 107, 201, 209, 408 (非常勤)		調剤 4	実習・演習S210, 211, 506, 507 (常勤2名・非常勤6名)		
9月16日	火	講義 S101, 102, 105, 201, 203, 204, 301, 501, 502 , 504					
9月17日	水	講義S401, 402, 403, 404, 405, 414 (非常勤 1名)					
9月18日	木	講義S503 (非常勤1名)					
9月19日	金						
9月20日	土				生涯教育研修聴講	生涯教育研修聴講	生涯教育研修聴講
9月21日	日						
9月22日	月						
9月23日	火	講義S407 (非常勤1名)					
9月24日	水	講義S104, 403 (非常勤1名)		コミュニケーション1	実習・演習S104, 105, 106, 603, 604, 605, 606 (常勤3名・非常勤		
9月25日	木	講義 (非常勤1名)		コミュニケーション2	実習・演習S104, 105, 106, 603, 604, 605, 606 (常勤3名・非常勤		
9月26日	金						
9月27日	土		連携講座聴講				
9月28日	日						
9月29日	月	講義 (非常勤1名)		コミュニケーション3	実習・演習S103, 106, 603, 604, 605, 606 (常勤3名・非常勤		
9月30日	火	ツ反(常勤1名)		コミュニケーション4	実習・演習S603, 604, 605, 606 (常勤3名・非常勤		

		1限目	2限目	実習・演習内容	3限目	4限目	5限目
10月1日	水	講義S601 (非常勤1名)					
10月2日	木	少反判定 (常勤1名)					
10月3日	金						
10月4日	土						
10月5日	日						
10月6日	月						
10月7日	火	講義 (非常勤1名)					
10月8日	水						
10月9日	木			無菌 1	実習・演習S411, 412, 413, 414 (常勤1名・非常勤13名)		
10月10日	金						
10月11日	土	予備日					
10月12日	日						
10月13日	月 (祝)	祝日					
10月14日	火			管理	実習・演習 S401, 402, 403, 404, 405, 406, 407, 501, 502, 503, 505, 506, 507 (常勤2名・非常勤9名)		
10月15日	水			製剤	実習・演習S408, 409, 410, 414 (常勤2名・非常勤9名)		
10月16日	木			TDM	実習・演習S206, 207, 208, 305 (常勤2名・非常勤9名)		
10月17日	金						
10月18日	土				生涯教育研修聴講	生涯教育研修聴講	生涯教育研修聴講
10月19日	日						
10月20日	月						
10月21日	火						
10月22日	水						
10月23日	木						
10月24日	金						
10月25日	土	心肺蘇生法(常勤1名・非常勤11名)					
10月26日	日						
10月27日	月						
10月28日	火						
10月29日	水			調剤5	実習・演習S206, 301, 303, 305, 306 (常勤2名・非常勤7名)		
10月30日	木			調剤6	実習・演習S206, 207, 208, 302, 305 (常勤2名・非常勤6名)		
10月31日	金						

		1限目	2限目	学習内容	3限目	4限目	5限目			
11月1日	土	大学祭								
11月2日	日	大学祭								
11月3日	月（祝）	大学祭								
11月4日	火	大学祭								
11月5日	水	創立記念日								
11月6日	木	コミュニケーション5 実習・演習S603, 604, 605, 606（常勤3名・非常勤11名）								
11月7日	金									
11月8日	土			生涯教育研修聴講	生涯教育研修聴講	生涯教育研修聴講				
11月9日	日									
11月10日	月									
11月11日	火	コミュニケーション6 実習・演習S603, 604, 605, 606（常勤3名・非常勤11名）								
11月12日	水	鑑査1 実習・演習S210, 211, 501, 502, 506（常勤2名・非常勤9名）								
11月13日	木	講義（常勤7名）		無菌2 実習・演習S411, 412, 413, 414（常勤1名・非常勤13名）						
11月14日	金									
11月15日	土									
11月16日	日									
11月17日	月									
11月18日	火	調剤7 実習・演習 S701(常勤4名・非常勤13名)								
11月19日	水	調剤8 実習・演習 S701(常勤4名・非常勤13名)								
11月20日	木	コミュニケーション7 実習・演習S603, 604, 605, 606（常勤3名・非常勤11名）								
11月21日	金									
11月22日	土									
11月23日	日（祝）	祝日								
11月24日	月（祝）	祝日								
11月25日	火	コミュニケーション8 実習・演習S603, 604, 605, 606, 701（常勤3名・非常勤11名）								
11月26日	水	鑑査2 実習・演習 S210, 211, 701（常勤2名・非常勤9名）								
11月27日	木	無菌3 実習・演習S411, 412, 413, 414（常勤1名・非常勤13名）								
11月28日	金	総括 実習・演習S701 (常勤7名)		実習・演習S701 (常勤7名)						
11月29日	土	試験								
11月30日	日	OSCE本試験								

(基礎資料6-6)4年次の実務実習事前学習のスケジュール(「調剤学」・「臨床薬学」)

		1限目	2限目	3限目	4限目	5限目
日付	曜日					
4月1日	火	春期休み				
4月2日	水	春期休み				
4月3日	木	春期休み				
4月4日	金	春期休み				
4月5日	土	入学式				
4月6日	日					
4月7日	月				臨床薬学① S101, 102, 209	
4月8日	火					
4月9日	水					
4月10日	木					
4月11日	金				調剤学① S101, 102	
4月12日	土					
4月13日	日					
4月14日	月				臨床薬学② S104, 105	
4月15日	火					
4月16日	水					
4月17日	木					
4月18日	金				調剤学②	
4月19日	土					
4月20日	日					
4月21日	月				臨床薬学③ S209, 601	
4月22日	火					
4月23日	水					
4月24日	木					
4月25日	金				調剤学③	
4月26日	土					
4月27日	日					
4月28日	月				臨床薬学④	
4月29日	火					
4月30日	水					

		1限目	2限目	3限目	4限目	5限目
日付	曜日					
5月1日	木					
5月2日	金				調剤学④ S401, 403, 404, 405	
5月3日	土					
5月4日	日					
5月5日	月	祝日				
5月6日	火	祝日				
5月7日	水					
5月8日	木					
5月9日	金				調剤学⑤ S205, 206, 207, 208, 30 5	
5月10日	土					
5月11日	日					
5月12日	月				臨床薬学⑥ S605	
5月13日	火					
5月14日	水					
5月15日	木					
5月16日	金				調剤学⑥ S305	
5月17日	土					
5月18日	日					
5月19日	月				臨床薬学⑥ S605	
5月20日	火					
5月21日	水					
5月22日	木					
5月23日	金				調剤学⑦ S201, 202, 203	
5月24日	土					
5月25日	日					
5月26日	月				臨床薬学⑦ S209, 605	
5月27日	火					
5月28日	水					
5月29日	木					
5月30日	金				調剤学⑧ S301	
5月31日	土					

		1限目	2限目	3限目	4限目	5限目
日付	曜日					
6月1日	日					
6月2日	月				臨床薬学⑧ S209, 605	
6月3日	火					
6月4日	水					
6月5日	木					
6月6日	金				調剤学⑨	
6月7日	土					
6月8日	日					
6月9日	月				臨床薬学⑨ S602	
6月10日	火					
6月11日	水					
6月12日	木					
6月13日	金				調剤学⑩	
6月14日	土					
6月15日	日					
6月16日	月				臨床薬学⑩ S605	
6月17日	火					
6月18日	水					
6月19日	木					
6月20日	金				調剤学⑪	
6月21日	土					
6月22日	日					
6月23日	月				臨床薬学⑪ S301, 303	
6月24日	火					
6月25日	水					
6月26日	木					
6月27日	金				調剤学⑫	
6月28日	土					
6月29日	日					
6月30日	月				臨床薬学⑫ S301, 303, 305	

		1限目	2限目	3限目	4限目	5限目
7月1日	火					
7月2日	水					
7月3日	木					
7月4日	金				調剤学⑬ S403	
7月5日	土					
7月6日	日					
7月7日	月				臨床薬学⑭ S305	
7月8日	火					
7月9日	水					
7月10日	木					
7月11日	金				調剤学⑮ S407, 414	
7月12日	土					
7月13日	日					
7月14日	月				臨床薬学⑯ S305, 605	
7月15日	火					
7月16日	水					
7月17日	木					
7月18日	金				調剤学⑯ S501, 502, 503, 504	
7月19日	土					
7月20日	日					
7月21日	月				臨床薬学⑯ S305, 605	
7月22日	火					
7月23日	水					
7月24日	木					
7月25日	金					
7月26日	土					
7月27日	日					
7月28日	月	定期試験				
7月29日	火	定期試験				
7月30日	水	定期試験				
7月31日	木	定期試験				

		1限目	2限目	3限目	4限目	5限目
日付	曜日	定期試験				
8月1日	金	定期試験				
8月2日	土	定期試験				
8月3日	日					
8月4日	月	定期試験				
8月5日	火	定期試験				
8月6日	水	CBT体験受験				
8月7日	木					
8月8日	金					
8月9日	土					
8月10日	日					
8月11日	月					
8月12日	火					
8月13日	水					
8月14日	木					
8月15日	金					
8月16日	土					
8月17日	日					
8月18日	月					
8月19日	火					
8月20日	水					
8月21日	木					
8月22日	金					
8月23日	土					
8月24日	日					
8月25日	月					
8月26日	火					
8月27日	水					
8月28日	木					
8月29日	金					
8月30日	土					
8月31日	日					

(資料6-7)4年次の実務実習事前学習のスケジュール(LSとの関連でのまとめ)

(1) 事前学習を始めるにあたって

LS	到達目標	学習方法	科目	内容	人的資源		時間
					専任教員	非常勤講師	
《薬剤師業務に注目する》							
S101	①医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。	講義	臨床薬学	ファーマシューティカル・ケア	1	0	90 x 1
			調剤学	医療と薬剤師	1	0	90 x 1
			事前学習	リスクマネージメントと薬剤師、病院薬剤師の役割、薬局薬剤師の役割	1	0	90 x 2
S102	②医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。	講義	臨床薬学	ファーマシューティカル・ケア	1	0	90 x 1
			調剤学	医療と薬剤師	1	0	90 x 1
			事前学習	リスクマネージメントと薬剤師、病院薬剤師の役割、薬局薬剤師の役割	1	0	90 x 2
S103	③薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそつたものであることについて討議する。	演習	事前学習	薬剤師の患者応対と薬品情報提供	3	11	90 x 1
《チーム医療に注目する》							
S104	①医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。	講義	臨床薬学	チーム医療	1	0	90 x 1
			事前学習	がん化学療法と薬剤師 フィジカルシミュレーターを用いた臨床模擬実習①②	1	0	90 x 3
S105	②チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。	講義	臨床薬学	チーム医療	1	0	90 x 1
			事前学習	リスクマネージメントと薬剤師 フィジカルシミュレーターを用いた臨床模擬実習①②	1	0	90 x 3
S106	③自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)	演習	事前学習	フィジカルシミュレーターを用いた臨床模擬実習①② 薬剤師の患者応対と薬品情報提供	3	11	90 x 2
《医薬分業に注目する》							
S107	①医薬分業の仕組みと意義を概説できる。	講義	事前学習	病院薬剤師の役割 薬局薬剤師の役割	1	0	90 x 1

(2) 処方せんと調剤

LS	到達目標	学習方法		内容	人的資源		時間
					専任教員	非常勤講師	
《処方せんの基礎》							
S201	①処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。②処方オーダリングシステムを概説できる。	講義	調剤学	処方せんと調剤(1)～処方と処方せん	1	0	90 x 1
			事前学習	リスクマネージメントと薬剤師、病院薬剤師の役割 処方せんと調剤(調剤2)	1	0	90 x 2
S202	②処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。	講義・演習	調剤学	処方せんと調剤(1)～処方と処方せん	1	0	90 x 1
			事前学習	処方せんと調剤(調剤2)	4 (演習時)	13 (演習時)	90 x 1
S203	③調剤を法的根拠に基づいて説明できる。④代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(技能)	講義・演習	調剤学	処方せんと調剤(1)～処方と処方せん	1	0	90 x 1
			事前学習	リスクマネージメントと薬剤師 処方せん鑑査(調剤1)	1	0	90 x 2
S204	⑤不適切な処方せんの処置について説明できる。	講義・演習	事前学習	リスクマネージメントと薬剤師	1	0	90 x 1
			事前学習	処方せんと調剤(調剤2) 計数調剤(調剤3)	4 (演習時)	13 (演習時)	90 x 2
《医薬品の用法・用量》							
S205	①代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。	講義	調剤学	医薬品の投与方法	1	0	90 x 1
			事前学習	薬剤師と薬物治療	0	1	90 x 1
S206	②患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能)	講義・演習	調剤学	医薬品の投与方法	1	0	90 x 1
			事前学習	計数調剤(調剤3) 疑義照会(調剤5) 計量調剤における注意点(調剤6)	4 (演習時)	13 (演習時)	90 x 3
S207	③患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊娠など)に適した用法・用量について説明できる。④患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)	講義・演習	調剤学	医薬品の投与方法	1	0	90 x 1
			事前学習	計量調剤における注意点(調剤6)	4 (演習時)	13 (演習時)	90 x 1
S208	⑤病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。	講義・演習	調剤学	医薬品の投与方法	1	0	90 x 1
			事前学習	薬剤師と薬物療法	1	0	90 x 1
S209	⑥服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。	講義	事前学習	計量調剤における注意点(調剤6)	4 (演習時)	13 (演習時)	90 x 1
			事前学習	ノアーマシュークル・ノア 患者の基本的権利と守秘義務 コンプライアンスとアドヒアランス 服薬指導の基礎	1	0	90 x 1
《服薬指導の基礎》							
S209	⑦服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。	講義	臨床薬学	ノアーマシュークル・ノア 患者の基本的権利と守秘義務 コンプライアンスとアドヒアランス 服薬指導の基礎	0	1	90 x 1

《調剤室業務入門》

S210	◎代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。(技能) ◎処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。(技能) ◎処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。(技能) ◎調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(技能)	実習	事前学習	処方せん鑑査（調剤1） 処方せんと調剤（調剤2） 計数調剤（調剤3） 計量調剤とリスクマネージメント（調剤4） 調剤鑑査（鑑査1）（鑑査2）	4+2	13+9	90 x 6
S211	◎処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。(態度)	演習	事前学習	処方せん鑑査（調剤1） 計量調剤とリスクマネージメント（調剤4） 調剤鑑査（鑑査1）（鑑査2）	4+2	13+9	90 x 4

(3) 疑義照会

LS	到達目標	学習方法		内容	人的資源		時間
					専任教員	非常勤講師	
《疑義照会の意義と根拠》							
S301	◎疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。	講義	臨床薬学	疑義照会の基礎 疑義照会の根拠	1	0	90 x 1
			調剤学	処方せんと調剤(2)～処方せん鑑査と疑義照会～	1	0	90 x 1
			事前学習	リスクマネージメントと薬剤師 疑義照会（調剤5）	1	0	90 x 2
S302	◎代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる。◎特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。(技能)	実習	事前学習	計量調剤における注意点（調剤6）	4	13	90 x 3
S303	◎不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。	講義	臨床薬学	疑義照会の基礎 疑義照会の根拠	1	0	90 x 1
			事前学習	疑義照会（調剤5）	1	0	90 x 3

《疑義照会入門》

S304	◎処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する	演習	事前学習	疑義照会（調剤5）	4	13	90 x 1
S305	◎代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。◎代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。◎代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。◎疑義照会の流れを説明できる。	講義	臨床薬学	疑義照会の根拠 疑義照会の実際 臨床薬学管理の事例（基礎疾患） 臨床薬学管理の事例（慢性疾患）	1	0	90 x 1
			調剤学	医薬品の投与方法 医薬品の配合変化と薬物相互作用	1	0	90 x 1
			事前学習	計数調剤（調剤3） 疑義照会（調剤5） 計量調剤における注意点（調剤6）	1	0	90 x 1
S306	◎代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。◎代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。◎代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。◎疑義照会をシミュレートする。(技能・態度)	実習・演習	事前学習	疑義照会（調剤5）	4	13	90 x 1

(4) 医薬品の管理と供給

LS	到達目標	学習方法		内容	人的資源		時間
					専任教員	非常勤講師	
《医薬品の安定性に注目する》							
S401	◎医薬品管理の意義と必要性について説明できる。	講義	調剤学	医薬品の管理および供給	1	0	90 x 1
			事前学習	医薬品管理1・2 医薬品の取り扱いと安全管理（管理）	1	0	90 x 2
S402	◎代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。	講義	事前学習	医薬品管理1・2 医薬品の取り扱いと安全管理（管理）	1	0	90 x 2
《特別な配慮を要する医薬品》							
S403	◎毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。◎麻薬、向精神薬などの管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。	講義	調剤学	医薬品の管理および供給 麻薬と向精神薬	1	0	90 x 1
			事前学習	医薬品管理1・2 がん化学療法と薬剤師 医薬品の取り扱いと安全管理（管理）	1	0	90 x 2
S404	◎血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。◎輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。	講義	調剤学	医薬品の管理および供給	1	0	90 x 1
			事前学習	医薬品管理1・2 医薬品の取り扱いと安全管理（管理）	1	0	90 x 2
S405	◎代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。◎生物製剤の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。	講義	調剤学	医薬品の管理および供給	1	0	90 x 1
			事前学習	医薬品管理1・2 医薬品の取り扱いと安全管理（管理）	1	0	90 x 2

S406	◎薬事・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。◎ 血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。◎輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。◎代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。◎生物製剤の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。◎麻薬の取扱いをシミュレーション(技能)	実習	事前学習	医薬品の取り扱いと安全管理(管理)	2	9	90 x 3
------	--	----	------	-------------------	---	---	--------

S407	◎代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。◎放射性医薬品の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。	講義	調剤学	特殊医薬品(放射性医薬品、診断用医薬品、消毒薬)	1	0	90 x 1
			事前学習	放射性医薬品と薬剤師 医薬品の取り扱いと安全管理(管理)	1	0	90 x 2

《製剤化の基礎》							
S408	◎院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。	講義	事前学習	病院薬剤師の役割 状況に応じた剤形への製剤や濃度の 調製(製剤) 薬局薬剤師の役割 状況に応じた剤形への製剤や濃度の 調製(製剤)、前処方(医師の處方)、医薬品 の調製(製剤)	1	0	90 x 2
S409	◎薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。	講義	事前学習	病院薬剤師の役割 状況に応じた剤形への製剤や濃度の 調製(製剤)、前処方(医師の處方)、医薬品 の調製(製剤)	1	0	90 x 2
S410	◎代表的な院内製剤を調製できる。(技能)	実習	事前学習	病院薬剤師の役割 状況に応じた剤形への製剤や濃度の 調製(製剤)	2	9	90 x 3
S411	◎無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能) ◎抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる。(技能)	実習	事前学習	注射薬調製・輸液と消毒薬に関して (無菌1) 抗悪性腫瘍剤の正しい取扱い方 (無菌2) 無菌操作の実技総括(無菌3)	1	13	90 x 3

《注射剤と輸液》							
S412	◎注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。◎代表的な配合変化を検出できる。(技能)	実習	事前学習	注射薬調製・輸液と消毒薬に関して (無菌1) 抗悪性腫瘍剤の正しい取扱い方 (無菌2) 無菌操作の実技総括(無菌3)	1	13	90 x 3
S413	◎代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。◎体内電解質の過不足を判断して補正できる。(技能)	実習	事前学習	注射薬調製・輸液と消毒薬に関して (無菌1) 抗悪性腫瘍剤の正しい取扱い方 (無菌2) 無菌操作の実技総括(無菌3)	1	13	90 x 3

《消毒薬》							
S414	◎代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。◎消毒薬調製時の注意点を説明できる。	講義	調剤学	特殊医薬品(放射性医薬品、診断用医薬品、消毒薬)	1	0	90 x 1
			事前学習	医薬品管理1・2 注射薬調製・輸液と消毒薬に関して (無菌1) 抗悪性腫瘍剤の正しい取扱い方 (無菌2) 無菌操作の実技総括(無菌3) 状況に応じた剤形への製剤や濃度の 調製(無菌)	1	0	90 x 2

LS	到達目標	学習方法		内容	人 的 資 源	時間	
				専任教員	非常勤講師		
《安全管理に注目する》							
S501	◎薬剤師業務の中で起こりやすい事故例を挙げ、その原因を説明できる。	講義	調剤学	調剤過誤とリスクマネージメント	1	0	90 x 1
			事前学習	リスクマネージメントと薬剤師 医薬品の取り扱いと安全管理(管理) 調剤鑑査(鑑査1)	1	0	90 x 2
S502	◎誤りを生じやすい投薬例を挙げできる。	講義	調剤学	調剤過誤とリスクマネージメント	1	0	90 x 1
			事前学習	リスクマネージメントと薬剤師 医薬品の取り扱いと安全管理(管理) 調剤鑑査(鑑査1)	1	0	90 x 2
S503	◎院内感染の回避方法について説明できる。	講義	調剤学	調剤過誤とリスクマネージメント	1	0	90 x 1
			事前学習	リスクマネージメントと薬剤師 医薬品の取り扱いと安全管理(管理)	1	0	90 x 2
《副作用に注目する》							
S504	◎代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。	講義	調剤学	調剤過誤とリスクマネージメント	1	0	90 x 1
			事前学習	リスクマネージメントと薬剤師	1	0	90 x 1
S505	◎代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。	演習	事前学習	医薬品の取り扱いと安全管理(管理)	2	9	90 x 1
《リスクマネージメント入門》							
S506	◎誤りを生じやすい調剤例を挙げできる。◎リスクを回避するための具体策を提案する。(態度)	演習	事前学習	計量調剤とリスクマネージメント (調剤4) 医薬品の取り扱いと安全管理(管理) 調剤鑑査(鑑査1)	4+2	13+9	90 x 3
S507	◎事故が起こった場合の対処方法について提案する。(態度)	演習	事前学習	計量調剤とリスクマネージメント (調剤4) 医薬品の取り扱いと安全管理(管理)	4+2	13+9	90 x 2

(6) 服薬指導と患者情報

LS	到達目標	学習方法	内容	人 的 資 源		時間
				専任教員	非常勤講師	
《服薬指導に必要な技能と態度》						
S601	◎患者の基本的権利、自己決定権、インフォームドコンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。	講義	臨床薬学	患者の基本的権利と守秘義務	1	0
			事前学習	治験とCRC	1	0
S602	◎代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。◎代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。	講義	臨床薬学	服薬指導の実際	1	0
			事前学習	薬剤師と薬物治療	0	1
S603	◎インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。(態度) ◎適切な言葉を使い、適切な手順を経て服薬指導する。(技能・態度) ◎医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(知識・態度)	演習	事前学習	フィジカルシミュレーターを用いた 臨床模擬実習①② 薬剤師の患者応対と薬品情報提供 初回面談と薬品情報提供 コミュニケーション能力の醸成と 患者情報収集能力を身につける	3	11
S604	◎患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。	講義	事前学習	フィジカルシミュレーターを用いた 臨床模擬実習①② 薬剤師の患者応対と薬品情報提供 初回面談と薬品情報提供 コミュニケーション能力の醸成と 患者情報収集能力を身につける	1	0
《患者情報の重要性に注目する》						
S605	◎服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。◎患者背景、情報(コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など)を把握できる。(技能) ◎医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。◎患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。	講義・演習	臨床薬学	POS (Problem Oriented System) と薬学診断 薬物治療に必要な患者情報 コンプライアンスとアドヒアランス 服薬指導の基礎 経過記録の記載方法 臨床薬学管理の事例（基礎疾患） 臨床薬学管理の事例（慢性疾患）	1	0
			事前学習	フィジカルシミュレーターを用いた 臨床模擬実習①② 薬剤師の患者応対と薬品情報提供 初回面談と薬品情報提供 コミュニケーション能力の醸成と 患者情報収集能力を身につける	3 (演習時)	11 (演習時)
《服薬指導入門》						
S606	◎自分で扱う医薬品について、適切な服薬指導ができる。(知識・技能) ◎共感の態度で患者インタビューを行う。(技能・態度) ◎患者背景に配慮した服薬指導ができる。(技能) ◎代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。(技能)	演習	事前学習	フィジカルシミュレーターを用いた 臨床模擬実習①② 薬剤師の患者応対と薬品情報提供 初回面談と薬品情報提供 コミュニケーション能力の醸成と 患者情報収集能力を身につける	3	11

(7) 事前学習のまとめ

LS	到達目標		内容	人 的 資 源		時間
				専任教員	非常勤講師	
《総合実習》						
S701	◎代表的な処方せん例の鑑査を行うことができる。(技能) ◎疑義照会をシミュレートする。(技能・態度) ◎処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。(技能) ◎処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。(技能) ◎調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(技能) ◎患者背景に配慮した服薬指導ができる。(技能)	実習	事前学習	処方せん鑑査、計数調剤、計量調剤および疑義照会について総合実習(調剤7・8)(2~5限)×2 コミュニケーション能力の醸成と 患者情報収集能力を身につける 調剤鑑査(鑑査2)	4+3+2	13+11+9

(8) アドバンスト

LS	到達目標		内容	人 的 資 源		時間
				専任教員	非常勤講師	
《アドバンスト》						
S801	◎薬剤師を対象として開催される生涯教育研修を受講することにより、薬剤師が注目すべき最新の話題に触れ、将来、薬剤師となることへのモチベーションを醸成する。	講義	事前学習	生涯教育研修聴講	0	9
S802	◎社会における薬剤師の活躍の現状に触れ、将来、薬剤師となることへのモチベーションを醸成する。	講義	事前学習	連携講座	0	1
S803	◎積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度) ◎チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度) ◎一次救命処置(心肺蘇生、外傷対応等)を説明し、シミュレーターを用いて実施できる。(知識・技能) ◎生命にかかる緊急事態(冠血管症候群、脳血管疾患など)の症状、対処方法を説明できる。(知識)	実習・演習	事前学習	心肺蘇生法	0	9

(基礎資料7) 学生受入状況について

	学科名	入試の種類		平成22年度 入試（21年度 実施）	平成23年度 入試（22年度 実施）	平成24年度 入試（23年度 実施）	平成25年度 入試（24年度 実施）	平成26年度 入試（25年度 実施）	平成27年度 入試（26年度 実施）	募集定員数に 対する入学者 数の比率（6 年間の平均）
薬 学 部	医 療 学 科	一般入試	受験者数	1,724	1,824	2,467	3,320	3,472		
			合格者数	308	321	317	270	292		
			入学者数(A)	77	92	80	94	74		
			募集定員数(B)	83	83	78	78	78		
			A/B*100(%)	92.8	110.8	102.6	120.5	94.9		
		大学入試センター 入試	受験者数	289	237	352	464	606		
			合格者数	51	50	70	73	67		
			入学者数(A)	3	7	3	8	3		
			募集定員数(B)	12	12	12	12	12		
			A/B*100(%)	25.0	58.3	25.0	66.7	25.0		
		公募推薦入試	受験者数	780	947	959	1,479	1,659		
			合格者数	117	130	161	145	108		
			入学者数(A)	27	36	38	34	31		
			募集定員数(B)	55	55	60	60	60		
			A/B*100(%)	49.1	65.5	63.3	56.7	51.7		
		附属校推薦	受験者数	22	19	20	20	19		
			合格者数	22	19	20	20	19		
			入学者数(A)	22	19	20	20	19		
			募集定員数(B)	(55)	(55)	(60)	(60)	(60)		
			A/B*100(%)	—	—	—	—	—		
		準附属・系属校 推薦	受験者数	0	0	2	1	2		
			合格者数	0	0	2	1	2		
			入学者数(A)	0	0	2	1	2		
			募集定員数(B)	(55)	(55)	(60)	(60)	(60)		
			A/B*100(%)	—	—	—	—	—		
		指定校推薦	受験者数	18	14	15	17	25		
			合格者数	18	14	15	17	25		
			入学者数(A)	18	14	15	17	25		
			募集定員数(B)	(55)	(55)	(60)	(60)	(60)		
			A/B*100(%)	—	—	—	—	—		
		協定校推薦	受験者数	3	2	2	2	2		
			合格者数	3	2	2	2	2		
			入学者数(A)	3	2	2	2	2		
			募集定員数(B)	(55)	(55)	(60)	(60)	(60)		
			A/B*100(%)	—	—	—	—	—		
		留学生入試	受験者数	0	0	0	0	1		
			合格者数	0	0	0	0	1		
			入学者数(A)	0	0	0	0	0		
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名		
			A/B*100(%)	—	—	—	—	—		
		学 科 計	受験者数							
			合格者数							
			入学者数(A)							
			募集定員数(B)							
			A/B*100(%)							
		学 科 計	受験者数	2,836	3,043	3,817	5,303	5,786		
			合格者数	519	536	587	528	516		
			入学者数(A)	150	170	160	176	156		
			募集定員数(B)	150	150	150	150	150		
			A/B*100(%)	100.0	113.3	106.7	117.3	104.0		

- [注]
- 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。
 - 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。
なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
 - 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合を算出してください。
 - 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
 - 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
 - 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
 - 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料8) 教員・事務職員数

①設置基準において、必要な6年制薬学科の教員数 * 1	28名
②設置基準において、必要な実務家教員数 * 2	9名

* 1 大学設置基準 第2条別表第一、イ備考四

* 2 大学設置基準 別表第一、イ十号

(教員の部)	教授	准教授	専任講師	助教	助手	備考
教養教育						
語学教育	1	1				
薬学基礎教育	4			1		
専門薬学教育	15	11	8	10	2	教授に特任教授1名含む。 TA 34名
実務実習教育	3(3)	4(4)	1(1)	1(1)		9(9)=実務家教員
小計	23(3)	16(4)	9(1)	13(1)	2	
専任教員数	63(9)					教員数に創薬科学科(4年制課程)、 薬学総合研究所教員を含む。
(事務職員の部)	局長	部長	課長	事務員	その他の職種	備考
大学業務関連		1	2	8(7)	2	8(7)=8名のうち2名が嘱託職員、 5名が契約職員(うち1名が薬学総合 研究所出向)
法人業務関連						
小計		1	2	8(7)	2	その他の職種2名は薬用植物園出向 の嘱託職員(技術職)
事務職員数	11(7)					

- [注] 1 主に担当する科目(業務)で算出し、重複しないように注意してください。
- 2 該当する場合は、()内に実務家教員、見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。(例示: 6(2)=6名のうち2名が特任)
- 3 該当する場合は、()内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。(例示: 3(1)=3名のうち1名が嘱託事務職員)
- 4 「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。
- 5 専任教務補助員(例えば、いわゆる副手、実験補助員等)、ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

(基礎資料9) 専任教員年齢構成

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教 授		3	8	4			15
	%	20%	53.3%	26.7%	%	%	100%
准教授		1	3	7(2)			11(2)
	%	9.1%	27.3%	63.6%	%	%	100%
専任講師				2	4(1)		6(1)
	%	%	%	33.3%	66.7%	%	100%
助教			1(1)		5(2)		6(3)
	%	%	16.7%	%	83.3%	%	100%
合計		4	12(1)	13(2)	9(3)		38(6)
	%	10.5%	31.6%	34.2%	23.7%	%	100%
定年年齢		66歳					

[注] 1 上段には人数、下段には%を記入してください。

2 () に女性の数を記入してください。 (例示 : 2(1) = 2名のうち1名が女性)

3 「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別) (年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均每週授業時間数	最終学歴及び学位称号		
							科目名	毎週授業時間数										
								講義		演習		実験・実習・実技		計				
医療薬学科 (兼創薬科学科)	生物薬剤学 研究室	教授	いわき まさひろ 岩城正宏	男 58	1979.4.1	2000.4.1	基礎ゼミ	1.5	0.7	3.0	3.0	3.0	6.8	0.0	3.8	岐阜薬科大学 薬学部 厚生薬学科 薬学博士		
							薬学概論	0.1										
							薬物動態学	1.5										
							薬物安全性・相互作用											
							薬効薬物動態解析実習											
			たにの ただとし 谷野公俊	男 48	1991.4.1	2003.4.1	総合演習1											
							総合演習2											
							臨床薬物動態学											
							病院・薬局実務実習											
							計	3.8										
医療薬学科 (兼創薬科学科)	生物薬剤学 研究室	講師	かわせ あつし 川瀬篤史	男 36	2005.4.1	2008.4.1	基礎ゼミ	1.5	1.5	3.0	3.0	3.0	4.5	0.0	2.3	近畿大学 薬学研究科 博士前期課程 修了 (薬)		
							薬物速度論											
							薬効薬物動態解析実習											
							総合演習1											
							総合演習2											
			にしだ しょうぞう 西田升三	男 56	1988.4.1	2005.4.1	病院・薬局実務実習											
							がん治療学医薬看連携講義											
							計	1.5										
							基礎ゼミ	1.5	0.8	3.0	3.0	3.0	4.5	0.0	3.0	京都大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 (薬)		
							薬学概論	0.1										
医療薬学科 (兼創薬科学科)	薬物治療学 研究室	教授	しばき まさのぶ 椿正寛	男 34	2006.4.1	2013.4.1	病理学	1.5										
							薬効薬物動態解析実習											
							総合演習1											
							総合演習2											
							実践病態と治療											
			がん治療学医薬看連携講義	西田升三	男 56	1988.4.1	病院・薬局実務実習											
							がん治療学医薬看連携講義											
							計	3.5										
							基礎ゼミ	1.5	0.4	3.0	3.0	3.0	4.5	0.0	4.6	近畿大学 医学研究科 博士課程 修了 医学博士		
							薬学概論	0.1										
医療薬学科 (兼創薬科学科)	薬物治療学 研究室	講師	しばき まさのぶ 椿正寛	男 34	2006.4.1	2013.4.1	病理学	1.5										
							薬効薬物動態解析実習											
							総合演習1											
							総合演習2											
							実践病態と治療											
			がん治療学医薬看連携講義	椿正寛	男 34	2006.4.1	病院・薬局実務実習											
							がん治療学医薬看連携講義											
							計	1.9										
							基礎ゼミ	1.5										
							星期体験学習	0.7										

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別) (年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目							年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号		
							科目名	毎週授業時間数									
								講義		演習		実験・実習・実技		計			
医療薬学科 (兼創薬科学科)	薬物治療学 研究室	助手	たけだ ともや 武田朋也	男 27	2014.4.1	2014.4.1	基礎ゼミ	1.5				3.0		1.5	0.0	2.3	神戸大学 医学研究科 バイオメディ カルサイエン ス専攻 修了 修士
							早期体験学習							0.0	0.0		
							薬効薬物動態解析実習							3.0	0.0		
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0		
							計							0.0	0.0		
							基礎ゼミ	1.5				3.0		4.5	0.0		
							基礎薬理学							1.5	0.0		
医療薬学科 (兼創薬科学科)	病態薬理学 研究室	教授	かわばた あつみ 川畑篤史	男 53	1985.4.1	2005.4.1	病態生理学1							0.0	1.5	4.5	近畿大学 医学研究科 修士課程 修了 博(薬)
							薬理学2							0.8	0.0		
							薬効薬物動態解析実習							3.0	0.0		
							総合演習1		0.2	0.4			3.0		0.0		
							実践病態と治療							0.0	0.0		
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0		
							計							7.0	1.9		
医療薬学科 (兼創薬科学科)	病態薬理学 研究室	准教授	せきぐち ふみこ 関口富美子	女 47	1991.4.1	2008.4.1	基礎ゼミ	1.5	1.5			3.0		1.5	0.0	4.1	徳島大学 薬学部 博(薬)
							薬理学1							0.0	1.5		
							病態生理学2							1.5	0.0		
							薬効薬物動態解析実習							3.0	0.0		
							総合演習1							0.0	0.0		
							総合演習2							0.0	0.0		
							実践病態と治療							0.2	0.4		
医療薬学科 (兼創薬科学科)	病態薬理学 研究室	助教	つぼた まほ 坪田真帆	女 31	2008.4.1	2013.4.1	病院・薬局実務実習	0.2	0.4			3.0		0.0	0.0	2.9	近畿大学 医学研究科 博士前期課程 修了 博(薬)
							総合演習2							0.0	0.0		
							計							2.4	0.4		
							基礎ゼミ							1.5	0.0		
							薬理学2							0.7	0.0		
							薬効薬物動態解析実習							3.0	0.0		
							実践病態と治療							0.2	0.4		
医療薬学科 (兼創薬科学科)	生化学 研究室	教授	いちだ せいじ 市田成志	男 65	1978.4.1	1995.4.1	病院・薬局実務実習	0.1	1.5			3.0		1.5	0.0	5.7	大阪大学 医学研究科 博士課程 修了 医学博士
							総合薬学演習2							0.1	0.1		
							総合演習2							4.6	3.0		
							計							0.1	0.0		
							基礎生物学							0.6	0.0		
							生物学演習							1.5	0.6		
							生化学							0.0	1.5		
							生物学概論							0.1	0.0		
							基礎薬科学実習							3.0	0.6		
							生物学英語							0.0	1.5		
							免疫・分子生物学実習							0.0	3.0		
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0		
							総合薬学演習2							0.1	0.0		
							総合演習2							4.7	6.6		

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別) (年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目							年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号	
							科目名	毎週授業時間数								
								講義		演習		実験・実習・実技		計		
医療薬学科 (兼創薬科学科)	生化学研究室	准教授	わだ てつゆき 和田 哲幸	男 49	1991.4.1	2007.4.1	基礎ゼミ	1.5						1.5	0.0	5.5 近畿大学 薬学研究科 博士前期課程 修了 博(薬)
							基礎生物学	1.5						1.5	0.0	
							生物学演習	1.5						1.5	0.0	
							基礎生化学	1.5						1.5	0.0	
							基礎薬科学実習							0.0	0.6	
							免疫・分子生物学実習							0.0	3.0	
							総合演習1	0.2						0.2	0.0	
							総合演習2		0.4					0.0	0.0	
							実践病態と治療							0.2	0.4	
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0	
							総合薬学演習2							0.5	0.0	
							計	6.9	0.4	0.0	0.0	0.0	3.6	6.9	4.0	
							基礎ゼミ	1.5						1.5	0.0	5.1 近畿大学 薬学研究科 博士前期課程 修了 博(薬)
医療薬学科 (兼創薬科学科)	生化学研究室	講師	ふなかみ よしのり 船上仁範	男 40	2000.4.1	2011.4.1	基礎生物学	1.5						1.5	0.0	
							生物学演習	1.5						1.5	0.0	
							基礎薬科学実習							0.6	0.6	
							免疫・分子生物学実習							0.0	3.0	
							臨床薬学英語							1.5	0.0	
							総合演習1	1.5						0.0	0.0	
							総合演習2							0.0	0.0	
							実践病態と治療							0.2	0.4	
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0	
							計	6.2	0.4	0.0	0.0	0.0	3.6	6.2	4.0	
医療薬学科 (兼創薬科学科)	製剤学研究室	准教授	いとう よしまさ 伊藤吉将	男 63	1985.4.1	2007.4.1	基礎ゼミ	1.5						1.5	0.0	3.8 東京薬科大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 薬学博士
							薬学概論	0.1						0.1	0.0	
							製剤学	1.5						1.5	0.0	
							医薬品物性・製剤学実習							3.0	0.0	
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0	
							総合演習2							0.0	0.0	
							製剤工学							0.0	1.5	
							計	3.1	1.5	0.0	0.0	3.0	0.0	6.1	1.5	
医療薬学科 (兼創薬科学科)	製剤学研究室	講師	ながい のりあき 長井紀章	男 34	2005.4.1	2013.4.1	基礎ゼミ	1.5						1.5	0.0	3.0 近畿大学 薬学研究科 博士前期課程 修了 博(薬)
							早期体験学習		1.5					0.0	0.0	
							生物学英語							0.0	1.5	
							医薬品物性・製剤学実習							3.0	0.0	
							総合演習1							0.0	0.0	
							総合演習2							0.0	0.0	
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0	
							計	1.5	1.5	0.0	0.0	3.0	0.0	4.5	1.5	
医療薬学科 (兼創薬科学科)	病態分子解析学研究室	准教授	たが あつし 多賀淳	男 46	1992.4.1	2013.4.1	基礎ゼミ	1.5						1.5	0.0	3.9 近畿大学 薬学研究科 博士前期課程 修了 博(薬)
							自校学習		0.7					0.0	0.0	
							基礎化学		0.7					0.7	0.0	
							化学演習		0.1					0.7	0.0	
							薬学概論							0.1	0.0	
							基礎薬科学実習							0.0	1.2	
							日本薬局方							0.0	1.5	
							基礎化学英語		1.5					1.5	0.0	
							総合演習1		0.3					0.3	0.0	
							総合演習2							0.0	0.0	
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0	
							総合薬学演習2		0.2					0.2	0.0	
							生体成分分析化学		1.5					1.5	0.0	
							計	6.5	1.5	0.0	0.0	0.0	1.2	5.0	2.7	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別) (年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号			
							科目名	毎週授業時間数											
								講義		演習		実験・実習・実技		計					
医療薬学科 (兼創薬科学科)	病態分子 解析学研究室	准教授	みたむら くにこ 三田村 邦子	女 46	2005.4.1	2009.4.1	基礎ゼミ	1.5	1.5	1.5	1.5	1.2	1.2	1.5	0.0	2.9	金沢大学 薬学部 博(薬)		
							基礎薬科学実習	0.0						0.0	1.2				
							臨床検査学	0.0						0.0	1.5				
							病態検査学	0.0						0.0	0.0				
							病院・薬局実務実習	0.0						0.0	0.0				
	病態分子 解析学研究室	助教	やまもと てつし 山本 哲志	男 34	2013.4.1	2013.4.1	計	3.0						3.0	2.7				
							基礎ゼミ	1.5						1.5	0.0	1.5	近畿大学 薬学研究科 博士前期課程 修了 博(医)		
							基礎薬科学実習	0.0						0.0	1.2				
							病院・薬局実務実習	0.0						0.0	0.0				
							総合薬学演習2	0.2						0.2	0.0				
医療薬学科 (兼創薬科学科)	有機薬化学 研究室	教授	むらおか おさむ 村岡 修	男 64	1980.4.1	1999.4.1	基礎ゼミ	1.5	0.1	1.5	0.2	2.7	2.7	1.5	0.0	5.9	大阪大学 薬学研究科 博士課程 修了 薬学博士		
							薬学概論	0.1						0.1	0.0				
							基礎薬科学実習	0.0						0.0	3.0				
							有機化学2	1.5						1.5	0.0				
							有機化学・生薬学実習	0.0						2.7	2.7				
	有機薬化学 研究室	准教授	たなべ げんぞう 田邊 元三	男 52	1985.4.1	2007.4.1	病院・薬局実務実習	0.0						0.0	0.0				
							総合薬学演習2	0.2						0.2	0.0				
							総合演習2	0.1						0.1	0.0				
							病院・薬局実務実習	0.0						0.0	0.0				
							総合薬学演習2	0.0						0.1	0.0				
医療薬学科 (兼創薬科学科)	公衆衛生学 研究室	教授	かわさき なおひと 川崎 直人	男 46	1993.4.1	2010.4.1	計	1.9	0.1	1.5	0.0	2.7	5.7	1.5	0.0	6.7	近畿大学 薬学部 博(薬)		
							基礎ゼミ	1.5						0.0	1.5				
							薬学概論	0.1						0.1	0.0				
							食品衛生学	1.5						0.0	3.0				
							環境衛生学	0.0						0.0	1.5				
	公衆衛生学 研究室	教授	おがた ふみひこ 緒方 文彦	男 31	2010.4.1	2010.4.1	衛生化学・放射化学実習	1.5						3.0	0.0	4.6	近畿大学 薬学研究科 博士前期課程 修了 博(薬)		
							保健衛生学	1.5						1.5	0.0				
							総合演習1	0.2						0.0	0.0				
							総合演習2	0.1						0.0	0.0				
							病院・薬局実務実習	0.0						0.0	0.0				
医療薬学科 (兼創薬科学科)	公衆衛生学 研究室	助教	おがた ふみひこ 緒方 文彦	男 31	2010.4.1	2010.4.1	計	4.6						7.6	1.5		3.0 近畿大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 博(薬)		
							基礎ゼミ	1.5						1.5	0.0				
							衛生化学	1.5						0.0	1.5				
							衛生化学・放射化学実習	1.5						3.0	0.0				
							総合演習1	0.0						0.0	0.0				
							総合演習2	0.0						0.0	0.0				
							病院・薬局実務実習	0.0						0.0	0.0				
							計	1.5						4.5	1.5				

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別) (年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目							年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号		
							科目名	毎週授業時間数									
								講義		演習		実験・実習・実技		計			
医療薬学科 (兼創薬科学科)	化学療法学 研究室	教授	なかやま たかし 中山 隆志	男 44	1999.1.1	2012.4.1	基礎ゼミ	1.5	1.5	3.0	3.0	3.0	6.3	1.5	4.1	京都薬科大学 薬学研究科 博士前期課程 修了 博(薬)	
							薬学概論	0.1						0.1	0.0		
							微生物学	1.5						1.5	0.0		
							化学療法学							0.0	1.5		
							衛生化学・放射化学実習							3.0	0.0		
	化学療法学 研究室	助教	まつお かずひこ 松尾一彦	男 31	2012.4.1	2012.4.1	総合演習1	0.2						0.0	0.0		
							総合演習2							0.0	0.0		
							実践病態と治療							0.2	0.4		
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0		
							計	3.3						1.9	0.0		
医療薬学科 (兼創薬科学科)	臨床薬学部門 臨床薬剤情報学分野	教授 (実務家)	たかだ みつたか 高田 充隆	男 59	2006.4.1	2006.4.1	基礎ゼミ	1.5	0.4	3.0	3.0	3.0	0.0	1.5	0.0	2.6	大阪大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 博(薬)
							薬学概論	0.1						0.1	0.0		
							早期体験学習							0.2	0.4		
							医薬品情報学							0.0	0.0		
							実務実習事前学習							0.0	13.2		
	臨床薬学部門 臨床薬剤情報学分野	准教授 (実務家)	細見光一	男 45	2010.4.1	2010.4.1	医療薬学総論							0.0	0.0		
							実践病態と治療							0.2	0.4		
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0		
							総合薬学演習2							0.4	0.0		
							計	3.7						0.4	0.0		
医療薬学科 (兼創薬科学科)	臨床薬学部門 臨床薬剤情報学分野	准教授 (実務家)	ほそみ こういち 細見光一	男 45	2010.4.1	2010.4.1	基礎ゼミ	1.5	0.4	13.2	13.2	13.2	0.0	1.5	0.0	8.7	京都薬科大学 薬学研究科 修士課程 修了 博(薬)
							薬学概論	0.1						0.1	0.0		
							早期体験学習							0.0	0.0		
							臨床薬学							1.5	0.0		
							実務実習事前学習							0.0	13.2		
	臨床薬学部門 臨床薬剤情報学分野	助教 (実務家)	藤本 麻依	女 32	2013.4.1	2013.4.1	医療薬学総論							0.0	0.0		
							実践病態と治療							0.2	0.4		
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0		
							総合薬学演習2							0.4	0.0		
							計	3.7						0.4	0.0		
医療薬学科 (兼創薬科学科)	臨床薬学部門 医薬品評価 解析学分野	教授 (実務家)	まつやま けんじ 松山 賢治	男 64	2009.4.1	2009.4.1	基礎ゼミ	1.5	0.4	13.2	13.2	13.2	0.0	1.5	0.0	7.8	京都薬科大学 薬学部
							薬学概論	0.1						0.1	0.0		
							早期体験学習							0.0	0.0		
							実務実習事前学習							0.2	0.4		
							総合演習1							0.0	0.0		
	臨床薬学部門 医薬品評価 解析学分野	助教 (実務家)	藤本 麻依	女 32	2013.4.1	2013.4.1	医療薬学総論							0.0	0.0		
							実践病態と治療							0.2	0.4		
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0		
							総合薬学演習2							0.2	0.4		
							計	3.3						0.4	0.0		

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別) (年齢)	就業年月日	現職就任年月日	授業科目							年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号	
							科目名	毎週授業時間数								
								講義		演習		実験・実習・実技		計		
医療薬学科 (兼創薬科学科)	臨床薬学部門 医薬品評価 解析学分野	准教授 (実務家)	きたこうじ まなぶ 北小路 学	男 56	2005. 4. 1	2008. 4. 1	基礎ゼミ	1.5						1.5	0.0	8.6 近畿大学 薬学部 医学博士
							早期体験学習	1.5						0.0	0.0	
							調剤学	1.5						1.5	0.0	
							実務実習事前学習							0.0	13.2	
							医療薬学総論							0.0	0.0	
							実践病態と治療	0.2	0.4					0.2	0.4	
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0	
							総合薬学演習2	0.4						0.4	0.0	
							計	3.6	0.4	0.0	0.0	0.0	13.2	3.6	13.6	
医療薬学科 (兼創薬科学科)	臨床薬学部門 医薬品評価 解析学分野	准教授 (実務家)	おおとり とおる 大鳥 徹	男 46	2006. 4. 1	2011. 4. 1	基礎ゼミ	1.5						1.5	0.0	9.8 京都薬科大学 薬学部 博(薬)
							早期体験学習	1.5						0.0	0.0	
							情報科学実習1							2.4	0.0	
							薬と経済							1.5	0.0	
							実務実習事前学習							0.0	13.2	
							総合演習1							0.0	0.0	
							医療薬学総論							0.0	0.0	
							実践病態と治療	0.2	0.4					0.2	0.4	
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0	
							総合薬学演習2	0.4						0.4	0.0	
医療薬学科 (兼創薬科学科)	臨床薬学部門 医療薬剤学分野	教授 (実務家)	こたけ たけし 小竹 武	男 54	2010. 4. 1	2010. 4. 1	基礎ゼミ	1.5						1.5	0.0	9.3 大阪薬科大学 薬学部 博(薬)
							薬学概論	0.1						0.1	0.0	
							早期体験学習							0.0	0.0	
							総合薬学演習1 A	2.0						2.0	0.0	
							臨床医学概論							0.0	0.0	
							実務実習事前学習							0.0	13.2	
							医療薬学総論							0.0	0.0	
							実践病態と治療	0.2	0.4					0.2	0.4	
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0	
							臨床薬物動態学							0.8	0.0	
医療薬学科 (兼創薬科学科)	臨床薬学部門 医療薬剤学分野	准教授 (実務家)	いしわたり しゅんじ 石渡 俊二	男 46	2002. 4. 1	2012. 4. 1	基礎ゼミ	1.5						1.5	0.0	8.6 東北大 学薬学研究科 博士後期課程 修了 博(薬)
							早期体験学習	1.5						0.0	0.0	
							臨床薬学英語							1.5	0.0	
							実務実習事前学習							0.0	13.2	
							医療薬学総論							0.0	0.0	
							実践病態と治療	0.2	0.4					0.2	0.4	
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0	
							総合薬学演習2	0.4						0.4	0.0	
							計	3.6	0.4	0.0	0.0	0.0	13.2	3.6	13.6	
医療薬学科 (兼創薬科学科)	臨床薬学部門 医療薬剤学分野	講師 (実務家)	いのうえ ともみ 井上 知美	女 38	2010. 4. 1	2010. 4. 1	基礎ゼミ	1.5						1.5	0.0	8.2 武庫川女子 大学 薬学部
							早期体験学習							0.0	0.0	
							実務実習事前学習							0.0	13.2	
							医療薬学総論							0.8	0.0	
							実践病態と治療							0.2	0.4	
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0	
							総合薬学演習2							0.3	0.0	
							計	2.8	0.4	0.0	0.0	0.0	13.2	2.8	13.6	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別) (年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号		
							科目名	毎週授業時間数										
								講義		演習		実験・実習・実技		計				
医療薬学科 (兼創薬科学科)	教育専門部門	教授	なかむら たけお 中 村 武 夫	男 59	1980.4.1	2006.4.1	基礎ゼミ	1.5	1.5	3.0	0.0	7.5	1.5	4.5	徳島大学 栄養学研究科 修士課程 修了 医学博士			
							自校学習											
							生活環境科学											
							早期体験学習											
							衛生化学・放射化学実習											
							医療・薬事関係法規1											
							医療・薬事関係法規2											
							総合演習1											
							総合演習2											
							病院・薬局実務実習											
							計	4.5										
医療薬学科 (兼創薬科学科)	教育専門部門	教授	いとう えいじ 伊 藤 栄 次	男 58	1980.4.1	2010.4.1	基礎ゼミ	1.5	0.8	3.0	0.0	7.5	1.5	6.0	近畿大学 薬学部 博(薬)			
							基礎生物学											
							生物学演習											
							早期体験学習											
							人体生理学2											
							薬物安全性・相互作用											
							薬効薬物動態解析実習											
							生命倫理											
							総合演習1											
							総合演習2											
							実践病態と治療											
医療薬学科 (兼創薬科学科)	教育専門部門	教授	まつの すみお 松 野 純 男	男 48	2010.4.1	2010.4.1	基礎ゼミ	1.5	1.5	3.0	0.0	10.7	1.2	4.4	大阪大学 薬学研究科 博士課程前期 修了 博(薬)			
							自校学習											
							早期体験学習											
							基礎薬科学実習											
							薬学統計学											
							衛生化学・放射化学実習											
							総合薬学演習1B											
							総合演習2											
							病院・薬局実務実習											
							総合薬学演習2											
							計	3.7										
医療薬学科 (兼創薬科学科)	教育専門部門	教授	おおうち ひでかず 大 内 秀 一	男 47	2013.4.1	2013.4.1	基礎ゼミ	1.5	1.5	2.7	2.7	6.4	4.2	5.3	東北薬科大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 博(薬)			
							自校学習											
							基礎化学											
							化学演習											
							基礎有機化学											
							早期体験学習											
							有機化学・生薬学実習											
							総合演習1											
							総合演習2											
							病院・薬局実務実習											
							総合薬学演習2											
							計	3.7										
医療薬学科 (兼創薬科学科)	教育専門部門	助教	はちけん ひろこ 八 軒 浩 子	女 52	1985.4.1	2014.4.1	基礎ゼミ	1.5	13.2	2.4	13.2	5.4	13.2	9.3	近畿大学 薬学部 博(薬)			
							情報科学入門											
							星期体験学習											
							情報科学実習1											
							実務実習事前学習											
							病院・薬局実務実習											
							計	3.0										

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別) (年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号			
							科目名	毎週授業時間数											
								講義		演習		実験・実習・実技		計					
医療薬学科 (兼創薬科学科)	教養・基礎教育部門	教授	まさご かおる 眞砂 薫	男 59	1980.4.1	2008.4.1	基礎ゼミ	1.5	3.0	3.0			1.5	0.0	3.8	神戸大学 文学研究科 修士課程修了 文学修士			
							英語演習1								3.0				
							英語演習2								0.0	3.0			
							病院・薬局実務実習								0.0	0.0			
							計	4.5		3.0	0.0	0.0	0.0	4.5	3.0				
							オーラルイングリッシュ1	1.5	1.5	1.5			1.5	0.0	3.8	米国バーモント州セントマティケルズ大学 学院修士課程修了 教育学修士			
医療薬学科 (兼創薬科学科)	教養・基礎教育部門	准教授	ういりあむ・ちゃーるず・ ふいごーに ウイリアム・チャーリーズ・フィゴーニ	男 51	2012.4.1	2012.4.1	オーラルイングリッシュ2								0.0	1.5			
							オーラルイングリッシュ3	1.5							0.0	0.0			
							オーラルイングリッシュ4								0.0	1.5			
							留学英語A								1.5	0.0			
							計	4.5		3.0	0.0	0.0	0.0	4.5	3.0				
							基礎ゼミ	1.5		1.5	0.0								
創薬科学科 (兼医療薬学科)	薬用資源学 研究室	教授	まつだ ひであき 松田 秀秋	男 60	1993.4.1	2006.4.1	薬用資源学		1.5	1.5		0.6	1.5	0.0	4.9	近畿大学 薬学部 薬学博士			
							基礎薬科学実習								0.0	1.5			
							漢方薬学								0.0	0.6			
							有機化学・生薬学実習		0.1	1.0		1.8	1.8	1.8	4.9				
							病院・薬局実務実習								0.0	0.0			
							総合薬学演習2								0.1	0.0			
							総合演習1								1.0	0.0			
							計	2.6		3.0	0.0	0.0	1.8	2.4	4.4	5.4			
創薬科学科 (兼医療薬学科)	薬用資源学 研究室	助手	しまくら ちかり 島倉知里	女 47	1994.4.1	1995.4.1	基礎ゼミ	1.5				0.6	1.5	0.0	2.9	京都大学 薬学研究科 修士課程修了 薬学修士			
							基礎薬科学実習								0.0	0.6			
							有機化学・生薬学実習								1.8	1.8			
							病院・薬局実務実習		1.5	0.0	0.0	1.8	1.8	0.0	2.9				
							計	1.5							3.3	2.4			
							基礎ゼミ	1.5							1.5	0.0			
創薬科学科 (兼医療薬学科)	細胞生物学 研究室	教授	ますこ たかし 益子 高	男 60	2000.4.1	2013.4.1	細胞生物学	1.5	1.5	1.5		0.2	0.2	3.0	4.2	東北大学 薬学研究科 博士課程修了 薬学博士			
							免疫学								0.0	0.6			
							免疫・分子生物学実習								0.0	3.0			
							病院・薬局実務実習		0.3	0.4		0.2	0.2	0.2	4.2				
							総合薬学演習2								0.3	0.0			
							実践病態と治療								0.0	0.4			
創薬科学科 (兼医療薬学科)	細胞生物学 研究室	准教授	やぎ ひでき 八木秀樹	男 52	2001.4.1	2007.4.1	基礎ゼミ	1.5	1.5	1.5		0.6	3.0	1.5	4.7	東北大学 薬学研究科 修士課程修了 博(薬)			
							解剖組織学								0.0	0.0			
							人体生理学1								0.0	1.5			
							基礎薬科学実習		0.3	0.4		0.1	0.3	0.3	4.7				
							免疫・分子生物学実習								0.0	0.0			
							総合演習1								0.2	0.4			
創薬科学科 (兼医療薬学科)	医薬品化学 研究室	教授	みき やすよし 三木 康義	男 65	1977.4.1	1999.4.1	基礎ゼミ	1.5				0.1	2.7	3.0	5.0	大阪大学 薬学研究科 博士課程修了 薬学博士			
							基礎薬科学実習								0.0	3.0			
							有機化学・生薬学実習								2.7	2.7			
							病院・薬局実務実習		0.3	0.4		0.0	0.0	0.0	5.0				
							総合薬学演習2								0.1	0.0			
							計	1.5							0.0	4.3			

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別) (年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号			
							科目名	毎週授業時間数											
								講義		演習		実験・実習・実技		計					
創薬科学科 (兼医療薬学科)	医薬品化学 研究室	准教授	まえがわ ともひろ 前川智弘	男 38	2013.4.1	2013.4.1	基礎ゼミ	1.5					3.0	1.5	0.0	6.5	大阪大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 博(薬)		
							基礎薬科学実習	0.4						0.0	3.0				
							医薬品開発論							0.4	0.0				
							有機化学・生薬学実習							2.7	2.7				
							医薬品化学							1.5	0.0				
							病院・薬局実務実習	0.1		1.0				0.0	0.0				
							総合薬学演習2							0.1	0.0				
							総合演習2							0.0	0.0				
							構造活性相関							0.0	1.0				
							計	3.5	1.0	0.0	0.0	2.7	5.7	6.2	6.7				
創薬科学科 (兼医療薬学科)	医薬品化学 研究室	助教	なかむら あきら 中村光	男 31	2014.4.1	2014.4.1	基礎ゼミ	1.5						3.0	1.5	0.0	6.1	大阪大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 博(薬)	
							基礎薬科学実習	1.5						0.0	3.0				
							基礎化学英語							1.5	0.0				
							有機化学・生薬学実習							2.7	2.7				
							病院・薬局実務実習	0.7						0.0	0.0				
							有機反応化学							0.7	0.0				
							計	3.7	0.0	0.0	0.0	2.7	5.7	6.4	5.7				
							基礎ゼミ	1.5						1.5	0.0				
							薬品物理化学生	1.5	1.5					0.0	1.5				
							情報科学実習2							0.0	2.4				
創薬科学科 (兼医療薬学科)	創薬分子 設計学研究室	教授	なかにし いさお 仲西功	男 53	2008.4.1	2008.4.1	医薬品開発論	0.3						3.0	0.3	5.4	大阪大学 薬学研究科 博士前期課程 修了 博(薬)		
							医薬品物性・製剤学実習							0.3	0.0				
							総合演習1	0.3		1.5				0.3	0.0				
							総合演習2							0.0	0.0				
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0				
							総合薬学演習2	0.2						0.0	0.0				
							創薬物理化学	1.5						0.2	0.0				
							計	3.8	1.5	0.0	0.0	3.0	2.4	6.8	3.9				
							基礎ゼミ	1.5						1.5	0.0				
							情報科学実習2	1.5	0.2					2.4	3.0				
創薬科学科 (兼医療薬学科)	創薬分子 設計学研究室	講師	にしわき けいじ 西脇敬二	男 45	1997.4.1	2009.4.1	医薬品物性・製剤学実習	0.2		0.2				3.0	0.2	4.9	大阪市立大学 理学研究科 前期博士課程 修了 博(薬)		
							合成化学							0.2	0.0				
							総合演習1	0.3						0.0	0.0				
							総合演習2							0.0	0.0				
							病院・薬局実務実習	0.3						0.0	0.0				
							総合薬学演習2							0.3	0.0				
							有機反応化学	0.8						0.8	0.0				
							計	4.3	0.0	0.0	0.0	3.0	2.4	7.3	2.4				
							基礎ゼミ	1.5						1.5	0.0				
							基礎物理化学生	1.5	0.1					2.4	3.0				
創薬科学科 (兼医療薬学科)	創薬分子 設計学研究室	助教	なかむら しんや 中村真也	男 31	2008.4.1	2013.4.1	情報科学実習2							2.4	3.0	4.5	京都大学 薬学研究所 博士前期課程 修了 博(薬)		
							医薬品物性・製剤学実習							0.1	0.0				
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0				
							総合薬学演習2							0.1	0.0				
							総合演習2	0.5						0.0	0.0				
							構造活性相関							0.0	0.5				
							計	3.0	0.5	0.1	0.0	3.0	2.4	6.1	2.9				
							基礎ゼミ	1.5						1.5	0.0				
							基礎物理化学生	1.5	0.1					2.4	3.0				
							情報科学実習2							0.0	0.0				

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別) (年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号			
							科目名	毎週授業時間数											
								講義		演習		実験・実習・実技		計					
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
創薬科学科 (兼医療薬学科)	分子医療・ ゲノム創薬学 研究室	教授	すぎうら　れいこ 杉浦麗子	女 55	2004.4.1	2004.4.1	基礎ゼミ	1.5	1.5					1.5	0.0	3.8	神戸大学 医学部 博(医)		
							分子ゲノム薬科学							0.0	1.5				
							免疫・分子生物学実習							0.0	3.0				
							ゲノム医療とゲノム創薬							1.0	0.0				
							総合演習1	1.0						0.0	0.0				
							総合演習2		0.4					0.0	0.0				
							実践病態と治療							0.2	0.4				
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0				
							計	2.7	1.9	0.0	0.0	0.0	3.0	2.7	4.9				
創薬科学科 (兼医療薬学科)	分子医療・ ゲノム創薬学 研究室	助教	きた　あやこ 喜多綾子	女 36	2004.4.1	2007.4.1	基礎ゼミ	1.5	1.5					1.5	0.0	3.3	神戸大学 医学研究科 博士課程 修了 博(医)		
							生物学英語							0.0	1.5				
							免疫・分子生物学実習							0.0	3.0				
							実践病態と治療							0.2	0.4				
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0				
							総合演習2							0.0	0.0				
							計	1.7	1.9	0.0	0.0	0.0	3.0	1.7	4.9				
創薬科学科 (兼医療薬学科)	分子医療・ ゲノム創薬学 研究室	助教	さとう　りょうすけ 佐藤亮介	男 29	2014.4.1	2014.4.1	基礎ゼミ	1.5						1.5	0.0	2.9	近畿大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 博(薬)		
							免疫・分子生物学実習							0.0	3.0				
							ゲノム医療とゲノム創薬							0.5	0.0				
							実践病態と治療							0.2	0.4				
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0				
							総合薬学演習2							0.0	0.2				
							総合演習2							0.0	0.0				
							計	2.2	0.4	0.0	0.2	0.0	3.0	2.2	3.6				
創薬科学科 (兼医療薬学科)	薬品分析学 研究室	教授	すずき　しげお 鈴木茂生	男 58	1982.4.1	2006.4.1	基礎ゼミ	1.5	1.5					1.5	0.0	3.8	大阪大学 薬学研究所 博士前期課程 修了 博(薬)		
							基礎分析化学							0.0	1.5				
							薬学概論							0.1	0.0				
							機器分析学							1.5	0.0				
							医薬品物性・製剤学実習							3.0	0.0				
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0				
							計	3.1	1.5	0.0	0.0	3.0	0.0	6.1	1.5				
創薬科学科 (兼医療薬学科)	薬品分析学 研究室	准教授	きのした　みつひろ 木下充弘	男 40	1999.4.1	2014.4.1	基礎ゼミ	1.5						1.5	0.0	6.4	近畿大学 薬学研究科 博士前期課程 修了 博(薬)		
							情報科学入門							1.5	0.0				
							情報科学							0.0	1.5				
							基礎生物学英語							0.0	1.5				
							情報科学実習1・2							2.4	2.4				
							基礎化学英語							1.5	0.0				
							総合演習1							0.0	0.0				
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0				
							医薬品開発論							0.5	0.0				
							計	5.0	3.0	0.0	0.0	2.4	2.4	7.4	5.4				
創薬科学科 (兼医療薬学科)	薬品分析学 研究室	助教	やまもと　さちお 山本佐知雄	男 32	2013.4.1	2013.4.1	基礎ゼミ	1.5						1.5	0.0	2.4	近畿大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 博(薬)		
							医薬品物性・製剤学実習							3.0	0.0				
							病院・薬局実務実習							0.0	0.0				
							総合薬学演習2							0.2	0.0				
							総合演習2							0.0	0.0				
							計	1.5	0.0	0.2	0.0	3.0	0.0	4.7	0.0				

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別) (年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目							年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号		
							科目名	毎週授業時間数									
								講義	演習	実験・実習・実技		計					
(兼医療薬学科)	薬学総合研究所	教授	かくたに こうじ 角 谷 晃 司	男 48	1993.4.1	2013.4.1	基礎ゼミ	1.5	1.5			1.5	0.0	1.5	近畿大学農学研究科博士後期課程修了博(農)		
							基礎生物学英語			病院・薬局実務実習		0.0	1.5				
							計	1.5	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0				
							基礎ゼミ	1.5	1.5			1.5	0.0	6.6	京都薬科大学薬学研究科博士前期課程修了博(薬)		
							基礎薬科学実習			天然物薬化学会	0.0	0.0	0.0				
(兼医療薬学科)	薬学総合研究所	准教授	もりかわ としお 森 川 敏 生	男 41	2005.4.1	2010.4.1	構造分析化学	1.5	1.5	有機化学・生薬学実習	2.7	2.7	2.7	0.0	6.6	京都薬科大学薬学研究科博士前期課程修了博(薬)	
							病院・薬局実務実習			総合薬学演習2	0.0	0.0	0.0				
							総合演習2	3.0	1.5	0.2	0.0	2.7	5.7	5.9	7.2		
							計	1.5	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
							基礎ゼミ	1.5	1.5	総合薬学演習2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	京都大学理学研究科博士後期課程修了博(理)	
(兼医療薬学科)	薬学総合研究所	准教授	もりやま ひろゆき 森 山 博 由	男 41	2010.4.1	2010.4.1	有機化学・生薬学実習			総合演習2			0.1	0.0			
							計	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0		
							基礎ゼミ	1.5	1.5	食品薬学	0.0	0.0	0.0	0.0			
							基礎薬科学実習			計			1.5	0.0			
							有機化学・生薬学実習	1.5	0.0	0.0	0.0	2.7	2.7	2.7	0.0		
(兼医療薬学科)	薬学総合研究所	講師	にのみや きよふみ 二 宮 清 文	男 42	2006.4.1	2011.4.1	病院・薬局実務実習	1.5	0.0	0.0	0.0	2.7	2.7	3.0	0.0	5.7	京都薬科大学薬学研究科博士後期課程修了博(薬)
							食品薬学	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0		
							計	3.0	0.0	0.0	0.0	2.7	5.7	5.7	5.7		
(兼医療薬学科)	薬学総合研究所	助教	なかむら きょうこ 中 村 恒 子	女 39	2009.4.1	2009.4.1	早期体験学習	1.5	0.0	0.0	0.0	2.7	2.7	3.0	0.0	0.8	高取大学医学系研究科博士後期課程修了博(システム生命科学)
							計	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0		
(兼医療薬学科)	薬学総合研究所	特任教授	はやかわ たかお 早 川 善 夫	男 72	2007.10.1	2007.10.1	医薬品開発論	0.3						0.0	0.0	0.2	大阪大学薬学研究科博士課程修了薬学博士
							計	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0		

- 【注】 1 「所属学科」には、（ ）に兼担の学科名を記入してください。
 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
 3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。（例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間）
 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時間数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。（例：実習科目「□□□□」は担当教員2名で前後期各6.0時間の場合、6.0時間を2で除す。）また、担当時間数が明らかな場合はそれを考慮して時間数を算出してください。（例：前期の講義科目「○○○○○」で○○教員が担当時間3.0時間、△△教員が担当時間1.5時間と明らかな場合）
 6 「年間平均每週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。
 7 卒業研究は授業科目から除外して作成してください。

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況

3年生の在籍学生数 167 名

4年生の在籍学生数 153 名

5年生の在籍学生数 152 名

6年生の在籍学生数 176 名

	配属講座など	指導教員数	3年生 配属学生数	4年生 配属学生数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計
1	薬用資源学	3	2	7	8	7	24
2	細胞生物学	2		8	8	8	24
3	医薬品化学	3	2	6	2	6	16
4	創薬分子設計学	3		9	8	9	26
5	分子医療・ゲノム創薬学	3	1	8	8	8	25
6	生物薬剤学	3		8	9	8	25
7	薬物治療学	3		8	9	8	25
8	病態薬理学	3		9	8	8	25
9	生化学	3		4	5	9	18
10	製剤学	2	1	7	8	10	26
11	病態分子解析学	3		9	0	6	15
12	有機薬化学	2	1	4	6	7	18
13	薬品分析学	3	1	7	11	13	32
14	公衆衛生学	2	1	8	8	9	26
15	化学療法学	2		9	8	1	18
16	臨床薬学部門・臨床薬剤情報学分野	3		6	6	6	18
17	臨床薬学部門・医薬品評価解析学分野	3		7	8	5	20
18	臨床薬学部門・医療薬剤学分野	3		8	7	6	21
19	機能性植物工学	2		9	8	5	22
20	食品薬学	2	1	7	8	9	25
21	先端バイオ医薬	1		5	9	7	21
22							0
23							0
24							0
25							0
26							0
27							0
28							0
29							0
30							0
合 計		54	10	153	152	155	470

[注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。

2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。

3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

(基礎資料12-1) 講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室 数	総面積(m ²) (A)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数 (B)	利用学生 1人当 たり面積 (m ²) (A/B)	備 考
東大阪キャンパス 39号館	講義室	3	942.18	専用	699	1,147	0.82	
	演習室	6	1,273.55	専用	834	1,147	1.11	
	学生自習室	1	44.66	専用	24	1,147	0.04	
	学生相談室	3	55.37	専用	19	1,147	0.05	
	学生指導室	1	34.25	専用	21	1,147	0.03	
	セミナー室							
	コンピュータ室	1	331.37	共用	222	22,230	0.01	法(3,061)／経済(3,050)／ 経営(5,315)／理工(4,482) 建築(1,086)／薬(1,147)／ 文芸(2,132)／総合社会(1,957)
	模擬薬局							
	化学系実習室	1	317.30	専用	144	1,147	0.28	
	生物系実習室	2	624.79	専用	264	1,147	0.54	
	実習準備室	3	111.84	専用	—	1,147	0.10	

- [注]
- 1 6年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。
 - 2 全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。
 - 3 共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名（学生数）を記載し、「利用学生総数（B）」欄にもその数を含めて記入してください。
 - 4 「利用学生 1人当たり面積」は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記入してください。
 - 5 例示のように適宜行を追加して作成してください。

(基礎資料12-2) 講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室 数	総面積(m ²) (A)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数 (B)	利用学生 1人当 たり面積 (m ²) (A/B)	備 考
東大阪キャンパス 38号館	講義室	2	273.78	専用	183	1,147	0.24	
	演習室							
	学生自習室							
	学生相談室							
	学生指導室							
	セミナー室	1	44.07	専用	33	1,147	0.04	
	コンピュータ室							
	模擬薬局							
	化学系実習室	1	319.41	専用	184	1,147	0.28	
	生物系実習室							
	実習準備室							現在教員研究室として使用しているため

- [注]
- 1 6年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。
 - 2 全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。
 - 3 共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名（学生数）を記載し、「利用学生総数（B）」欄にもその数を含めて記入してください。
 - 4 「利用学生 1人当たり面積」は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記入してください。
 - 5 例示のように適宜行を追加して作成してください。

(基礎資料12-3) 講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室 数	総面積(m ²) (A)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数 (B)	利用学生 1人当 たり面積 (m ²) (A/B)	備 考
東大阪キャンパス 31号館	講義室							
	演習室							
	学生自習室							
	学生相談室							
	学生指導室							
	セミナー室							
	コンピュータ室							
	臨床薬学研修センター	1	310.42	専用	30	156	1.99	
	化学系実習室							
	生物系実習室							
	実習準備室							

- [注]
- 1 6年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。
 - 2 全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。
 - 3 共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名（学生数）を記載し、「利用学生総数（B）」欄にもその数を含めて記入してください。
 - 4 「利用学生 1人当たり面積」は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記入してください。
 - 5 例示のように適宜行を追加して作成してください。

(基礎資料12-4) 講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室 数	総面積(m ²) (A)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数 (B)	利用学生 1人当 たり面積 (m ²) (A/B)	備 考
東大阪キャンパス 30号館	講義室							
	演習室							
	学生自習室							
	学生相談室							
	学生指導室							
	セミナー室							
	コンピュータ室							
	臨床薬学研修センター2	1	704.41	専用	156	156	4.52	
	化学系実習室							
	生物系実習室							
	実習準備室							

- [注]
- 1 6年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。
 - 2 全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。
 - 3 共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名（学生数）を記載し、「利用学生総数（B）」欄にもその数を含めて記入してください。
 - 4 「利用学生 1人当たり面積」は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記入してください。
 - 5 例示のように適宜行を追加して作成してください。

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

図書室(館)の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容 定員数(B)	収容定員に対する 座席数の割合(%) A / B * 100	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況	備 考
中央図書館	2,030 (分室、自習室 スペース含む)	20,288	10.0%	自由閲覧室 (中央図書館の 中央館6階部分)	247 (座席数はAに含む)	情報処理端末 0台設置	【収容定員内訳】 法学部 2720 経済学部 2600 経営学部 4640 理工学部 3840 建築学部 960 薬学部 1020 文芸学部 1820 総合社会学部 1800 留学生別科 30 短期大学部 160 法学研究科 35 商学研究科 55 経済学研究科 55 総合理工学研究科356 薬学研究科 45 文芸学研究科 21 総合文化研究科 21 法務研究科 110
計	2,030	20,288	10.0%		247		

- [注] 1 「学生収容定員（B）」には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。
 2 「備考」欄には学生収容定員（B）の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。
 3 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理末端をいくつ設置しているか等を記載してください。

(基礎資料14)図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料 の所蔵数 (点数)	電子ジャーナル の種類 (種類)	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の冊数	開架図書の冊 数(内)	内国書	外国書			平成25年度	平成24年度	平成23年度	
中央図書館	1,504,499	802,785	7,810	6,415	40,609	38,400	31,283	25,615	28,002	分室(理工、文芸、法科大学院)を含む。
計										

[注] 1 雑誌等すでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

2 開架図書の冊数(内)は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。

3 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、

4 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。

5 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	生物薬剤学研究室	職名 教授 氏名 岩城 正宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成18年～現在	パワーポイントで講義を進め、同じ内容の資料を毎回配付。講義の最後には問題形式で内容の確認および課題提出させ、次回の講義の初めに解説していることが学生に評価されている。説明はわかりやすいと評価され、授業評価は3.5～4.1であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成22年4月10日 平成23年2月10日 平成23年4月1日 平成23年4月5日 平成23年4月25日 平成23年9月5日 平成23年12月15日 平成24年4月10日 平成25年6月9日 平成26年3月30日	コンパス生物薬剤学(岩城正宏、伊藤智夫編) 南江堂 NEWパワーブック生物薬剤学(金尾義治、森本一洋編) 廣川書店 くすり、痛み、病気から薬学ってものを考えた薬学概論(岩城正宏、安原智久編著) 京都廣川書店 リアリストイック薬学複合問題(岩城正宏他2名編) 京都廣川書店 医薬品情報・評価学(改訂3版) 南江堂 リアリストイック統・薬学複合問題(岩城正宏他2名編) 京都廣川書店 新薬剤学(原島秀吉編) 南江堂 コンパス薬物速度論(岩城正宏編著) 南江堂 臨床薬物動態学(岩城正宏他2名編) 京都廣川書店 わかりやすい生物薬剤学(荻原琢男、岩城正宏ら著) 廣川書店
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成22年3月 平成22年3月	チーム基盤型学習(TBL)を導入した薬学部・医学部連携教育、日本薬学会第130年会(共同発表者) 学生のニーズ把握と具体的な問題解決手法の修得を目的とした学生ワークショップの試み、日本薬学会第130年会(共同発表者)
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成16年9月～現在 平成20年～22年 平成21年4月～現在 平成22年～26年 平成23年～24	薬学共用試験センターCBT実施委員会委員としてCBTの実施に貢献 医薬連携プログラム実施責任者として、医薬合同学習会の立ち上げおよび実施 学習・学生生活支援委員会委員長として、学生の退学率減少の原因調査およびその改善取組 高等教育に関する講演会に積極的に出向き、高等教育および教育方法に関する講演を聴講している 薬学概論において分野横断型講義の試みと実践
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
H. Komura & M. Iwaki: In vitro liver systems to study induction/inhibition. Prediction of in vivo metabolism and drug-drug interactions, Komura H. and Iwaki M., Encyclopedia of Drug Metabolism and Interactions Vol. III, A.V. Lyubimov (Ed). John Wiley & Sons.		共著	平成24年
A. Kawase, M. Sakata, N. Yada, M. Nakasaka, T. Shimizu, Y. Kato, M. Iwaki: Decreased Radixin Function for ATP-Binding Cassette Transporters in Liver in Adjuvant-Induced Arthritis Rats		共著	平成26年12月
A. Kawase, S. Norikane, A. Okada, M. Adachi, Y. Kato, M. Iwaki: Distinct Alterations in ATP-Binding Cassette Transporter Expression in Liver, Kidney, Small Intestine, and Brain in Adjuvant-induced Arthritic Rats		共著	平成26年8月
A. Kawase, A. Ito, A. Yamada, M. Iwaki: Age-related Changes in mRNA Levels of Hepatic Transporters, Cytochrome P450 and UDP-glucuronosyltransferase in Female Rats		共著	平成26年6月
M. Uraki M, A. Kawase, Y. Matsushima, M. Iwaki : Effects of Dose, Flow Rate and Bile Acid on Diclofenac Disposition in the Perfused Rat Liver		共著	平成27年2月
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Species Difference in Stereoselective Oxidation of Carvedilol Enantiomers in Rat and Human: M. Iwaki, S. Bandoh, M. Itoh, K. Yamasaki, H. Komura		平成26年5月	5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress
Development for hemiacetal ester of new quinolone avoiding chelation with metal containing drugs, together with avoiding pseudomembranous colitis: K. Matsuyama, T. Ohtori, A. Kawase, M. Iwaki		平成26年10月	19th North American Regional ISSX Meeting and 29th JSSX Meeting
Alterations in expression and function of ezrin/radixin/moesin proteins for transporters in adjuvant-induced arthritis rats: M. Iwaki, A. Kawase, M. Sakata, M. Nakasaka, Y. Kato		平成26年10月	19th North American Regional ISSX Meeting and 29th JSSX Meeting
III 学会および社会における主な活動			
平成16年9月～現在	薬学共用試験センターCBT実施委員会委員		
平成20年10月～現在	日本薬局学会「薬局薬学」編集委員長		
平成21年5月～現在	日本薬局学会評議員		

平成23年11月～現在	日本薬物動態学評議員
平成23年6月～現在	日本薬局学会学術総会プログラム編集委員
平成26年4月～現在	日本薬剤学会評議員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	生物薬剤学研究室	職名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成25年~現在	近年問題解決型講義を導入し、図表から情報を読み取って解を論じる講義に変更した。授業評価は10段階方式で、8.2前後評価を得ている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成26年12月	徳島文理大学大学院で薬剤学に関する特別講義を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成20年~現在	本学で実施されるOSCE実施に参画しており、さらに専門薬剤養成の大学院の管理・運営を行っている。さらに地域に根ざ先端的な薬剤師育成のための学内・学外研修会を開催している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(著書) 特集 Ng W., Tanino T., et al.		共著	平成24年10月
(論文) Sharma AM., Novalen M., Tanino T., et al.		共著	平成25年5月
(論文) Ishida D., Nawa A., Tanino T., et al.		共著	平成22年2月
(論文) Tanino T. et al.		共著	平成21年8月
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Changes in mRNA expression and activity of xenobiotic		2013.11	Elsevier, Adv. Pharmacol. (1) 81-135
炎症モデルラットにおけるOATPsおよびMRP2活性の変動：プラバス		2013.11	Chem. Res. Toxicol., 26 (2013) 817-827
MRPs依存的メトトレキサート輸送に対する非ステロイド系抗炎症薬		2013.3	Cancer Lett., 288 (2010) 17-27
Phloridzin-sensitive transport of echinacoside and acteoside		2012.11	J. Pharm. Pharmacol., 61 (2009) 1029-1035
Stereoselective contribution of human hepatic cytochrome P450		2012.11	日本薬学会第133年会
Phloridzin-sensitive transport of echinacoside and acteoside		2012.11	日本薬物動態学会第27年会
Stereoselective contribution of human hepatic cytochrome P450		2012.11	日本薬物動態学会第27年会
III 学会および社会における主な活動			
平成26年8月	生体機能と創薬シンポジウム2014発表審査委員		
平成26年8月~現在	柏原市都市計画審議会 学識委員		
平成24年4月~平成27年3月	文部科学省採択 先端的がん教育基盤創造プラン教育改革部門委員		
平成22年8月~平成23年8月	カナダ州立トロント大学薬学部招聘研究員		
平成20年4月~平成27年3月	認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(近畿) 運営委員		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表(評価対象年度のみ)」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	生物薬剤学研究室	職名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成18年～現在	配布教材および問題の解答などをMoodleに掲示することで復習促した。板書中心に授業を実施することで、計算過程を思考しながら講義を受講できる体制とした。授業評価は3.8～4.5であつた。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23年	薬学概論 くすり、痛み、病気から薬学っていうものを考えた 京都廣川書店（岩城正宏、安原智久、川瀬篤史ら）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成22年～26年	薬学概論にて実施した科目横断型授業の試みを薬学雑誌にて発表するとともに日本薬学会にて発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成20年～現在	本学で実施されたCBTおよびOSCE実施に参画した。OSCEでは、スターショーン管理者として運営に関わった。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
(著書) 薬学概論 くすり、痛み、病気から薬学って		共著	平成23年 4月
(論文) A. Kawase: Alterations in expression and function of ABC transporters and ERM proteins in inflammation		単著	平成26年9月
(論文) A. Kawase, M. Sakata, N. Yada, M. Nakasaka, T. Shimizu, Y. Kato, M. Iwaki, Decreased radixin function for ATP-binding cassette transporters in liver in adjuvant-induced arthritis rats		共著	平成26年12月
(論文) A. Kawase, S. Norikane, A. Ukada, M. Adachi, Y. Kato, M. Iwaki, Distinct alterations in ATP-binding cassette transporter expression in liver, kidney, small intestine, and brain in adjuvant-induced arthritic rats		共著	平成26年8月
(論文) A. Kawase, A. Ito, A. Yamada, M. Iwaki, Age-related changes in mRNA levels of hepatic transporters, cytochrome P450 and UDP-glucuronosyltransferase in female rats		共著	平成26年5月
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 炎症におけるトランスポーター変動とERMタンパク質の関連		平成26年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会
(演題名) Alterations in expression and function of ABC transporters and ERM proteins in adjuvant-induced arthritis rats: A. Kawase		平成26年6月	Anti-Aging International Mini-Symposium 2014 Cell Signaling and Therapeutic Targets for Geriatric and Inflammatory Diseases
(演題名) Alterations in expression and function of ABC transporters and ERM proteins in inflammation		平成26年12月	Global Education Seminar West 2014-1st, Academy of Pharmaceutical Science and Technology, Japan
(演題名) Alterations in expression and function of ezrin/radixin/moesin proteins for transporters in adjuvant-induced arthritis rats: A. Kawase		平成26年10月	19th North American Regional ISSX Meeting and 29th JSSX Meeting
(演題名) Development for hemiacetal ester of new quinolone avoiding chelation with metal containing drugs, together with avoiding pseudomembranous colitis		平成26年10月	19th North American Regional ISSX Meeting and 29th JSSX Meeting
III 学会および社会における主な活動			
平成18年12月～現在	トランスポーター研究会幹事		
平成24年4月～現在	日本薬剤学会英語セミナー西地区委員		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成18年～現在	一般的な教科書ではなく、講義内容に沿った教材を作成した。また、再度読み返したとき、内容が把握できるように工夫している。さらに各疾患の理解に必要な写真・イラストを駆使し、視覚的補助を加え講義するように工夫している。授業評価は4.0～4.2であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成22年12月 平成24年3月	外来がん化学療法(田中登美編)学研メディカル秀潤社 化学療法学(栄田敏之、岡村昇編)広川書店
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成25年3月	近畿大学FD研究会集会で教育講演を行う。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成13年11月 平成19年4月 平成24年4月 平成20年～現	私立大学情報教育協会賞受賞 がんプロフェッショナル養成プラン採択 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン採択 学部内及び大学全体のFD研修会には毎回参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) M. Tsubaki, T. Takeda, T. Tani, H. Shimaoka, N. Suzuyama, K. Sakamoto, A. Fujita, N. Ogawa, T. Itoh, M. Imano, Y. Funakami, S. Ichida, T. Satou, S. Nishida: PKC/MEK inhibitors suppress oxaliplatin-induced neuropathy and potentiate the antitumor effects.	共著	平成26年11月	International Journal of Cancer, In press.
(論文) M. Tsubaki, M. Komai, T. Itoh, M. Imano, K. Sakamoto, H. Shimaoka, N. Ogawa, K. Mashimo, D. Fujiwara, T. Takeda, J. Mukai, K. Sakaguchi, T. Satou, S. Nishida: Inhibition of the tumour necrosis factor-alpha autocrine loop enhances the sensitivity of multiple myeloma cells to anticancer drugs.	共著	平成25年11月	European Journal of Cancer, vol. 48, 3708-3717.
(論文) M. Tsubaki, T. Itoh, T. Satou, M. Imano, M. Komai, N. Ogawa, J. Mukai, S. Nishida: Nitrogen-containing bisphosphonates induce apoptosis of hematopoietic tumor cells via inhibition of Ras signaling pathways and Bim-mediated activation of the intrinsic apoptotic pathway.	共著	平成25年1月	Biochemical Pharmacology, vol. 85, 163-172.
(論文) M. Tsubaki, T. Satou, T. Itoh, M. Imano, M. Yanae, C. Kato, R. Takagoshi, M. Komai, S. Nishida: Bisphosphonate- and statin-induced enhancement of OPG expression and inhibition of CD9, M-CSF, and RANKL expressions via inhibition of the Ras/MEK/ERK pathway and activation of p38MAPK in mouse bone marrow stromal cell line ST2.	共著	平成24年9月	Molecular and Cellular Endocrinology, vol. 361, 219-231.
(論文) M. Tsubaki, T. Satou, T. Itoh, M. Imano, M. Ogaki, M. Yanae, S. Nishida: Reduction of metastasis, cell invasion, and adhesion in mouse osteosarcoma by YM529/ONO-5920-induced blockade of the Ras/MEK/ERK and Ras/PI3K/Akt pathway.	共著	平成24年3月	Toxicology and Applied Pharmacology, vol. 259, 402-410.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) RANKL/RANKによるNF-κappaB活性化を介したEMT誘導効果:西田升三、椿正寛、武田朋也、鳶岡弘高、坂本洸太郎、藤田亜里沙、小川直希、山添譲、向井淳治。		平成26年6月	第18回日本がん分子標的治療学会学術集会
(演題名) Src阻害に基づく抗がん剤耐性多発性骨髄腫での耐性克服効果:藤田亜里沙、椿正寛、武田朋也、鳶岡弘高、坂本洸太郎、小川直希、山添譲、向井淳治、西田升三。		同上	同上
(演題名) RANK/RANKLによるシグナル伝達因子活性化を介した多発性骨髄腫での抗がん剤耐性獲得機序:椿正寛、武田朋也、鳶岡弘高、坂本洸太郎、藤田亜里沙、眞下恵次、藤原大一郎、阪口勝彦、西田升三。		同上	同上
(演題名) 大腸癌でのRas経路阻害による抗がん剤感受性増強効果:鳶岡弘高、椿正寛、武田朋也、坂本洸太郎、藤田亜梨沙、眞下恵次、藤原大一郎、阪口勝彦、西田升三。		平成26年9月	第73回日本癌学会学術総会
(演題名) StatinsによるRho経路阻害を介した腫瘍増殖・転移抑制効果:坂本洸太郎、椿正寛、武田朋也、鳶岡弘高、藤田亜梨沙、眞下恵次、藤原大一郎、阪口勝彦、西田升三。		同上	同上

(演題名) ビスフォスフォネート及びスタチンによるMIP-1alpha 分泌抑制効果：西田 升三、椿 正寛、武田 朋也、鳴岡 弘高、坂本 洋太郎、藤田 亜梨沙、小川 直希、山添 譲、向井 淳治。	同上	同上
(演題名) 多発性骨髄腫での薬剤排泄トランスポーターとアポトーシス調節因子の発現調節を介した抗がん剤耐性機序の解明：椿 正寛、武田 朋也、鳴岡 弘高、坂本 洋太郎、藤田 亜梨沙、西田 升三。	平成26年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会
(演題名) 骨肉腫細胞でのRANK/RANKL によるEMT 誘導効果：森下 彩香、椿 正寛、武田 朋也、鳴岡 弘高、坂本 洋太郎、藤田 亜梨沙、西田 升三。	同上	同上
(演題名) 造血器腫瘍でのインテグリンを介した抗がん剤耐性機序：上田 絵美、椿 正寛、武田 朋也、鳴岡 弘高、坂本 洋太郎、藤田 亜梨沙、西田 升三。	同上	同上
(演題名) DMF によるNF- κ B 阻害を介した造血器腫瘍でのアポトーシス誘導効果：橋口 りえ、椿 正寛、武田 朋也、鳴岡 弘高、坂本 洋太郎、藤田 亜梨沙、西田 升三。	同上	同上
(演題名) Src阻害に基づく抗がん剤耐性多発性骨髄腫での耐性克服効果.		

III 学会および社会における主な活動

平成18年9月～現在	東大阪市立総合病院臨床研究審査委員会委員
平成24年12月～26年11月	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員
平成20年1月～現在	大阪地区地域連携推進協議会委員
平成18年4月～平成20年3月	大阪府薬剤師会組織・会員検討特別委員会委員
平成23年4月～現在	NPO近畿がん診療推進ネットワーク理事

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	講師 氏名 椿 正寛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成26年～現在	一般的の教科書ではなく、教材を作成した。また、講義にあたり重要ポイントを適宜指示し、再度読み返したとき、内容が把握できるように工夫している。さらに写真・イラストを駆使し、視覚的補助を加え講義するように工夫している。授業評価は3.8～4.1であった。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成20年～現在	学部内及び大学全体のFD研修会には毎回参加し、積極的に自身の講義の見直しなどを行っている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) M. Tsubaki, T. Takeda, T. Tani, H. Shimaoka, N. Suzuyama, K. Sakamoto, A. Fujita, N. Ogawa, T. Itoh, M. Imano, Y. Funakami, S. Ichida, T. Satou, S. Nishida: PKC/MEK inhibitors suppress oxaliplatin-induced neuropathy and potentiate the antitumor effects.	共著	平成26年11月	International Journal of Cancer, In press.
(論文) M. Tsubaki, M. Komai, T. Itoh, M. Imano, K. Sakamoto, H. Shimaoka, N. Ogawa, K. Mashimo, D. Fujiwara, T. Takeda, J. Mukai, K. Sakaguchi, T. Satou, S. Nishida: Inhibition of the tumour necrosis factor-alpha autocrine loop enhances the sensitivity of multiple myeloma cells to anticancer drugs.	共著	平成25年11月	European Journal of Cancer, vol. 48, 3708-3717.
(論文) M. Tsubaki, T. Itoh, T. Satou, M. Imano, M. Komai, N. Ogawa, J. Mukai, S. Nishida: Nitrogen-containing bisphosphonates induce apoptosis of hematopoietic tumor cells via inhibition of Ras signaling pathways and Bim-mediated activation of the intrinsic apoptotic pathway.	共著	平成25年1月	Biochemical Pharmacology, vol. 85, 163-172.
(論文) M. Tsubaki, T. Satou, T. Itoh, M. Imano, M. Yanae, C. Kato, R. Takagoshi, M. Komai, S. Nishida: Bisphosphonate- and statin-induced enhancement of OPG expression and inhibition of CD9, M-CSF, and RANKL expressions via inhibition of the Ras/MEK/ERK pathway and activation of p38MAPK in mouse bone marrow stromal cell line ST2.	共著	平成24年9月	Molecular and Cellular Endocrinology, vol. 361, 219-231.
(論文) M. Tsubaki, T. Satou, T. Itoh, M. Imano, M. Ogaki, M. Yanae, S. Nishida: Reduction of metastasis, cell invasion, and adhesion in mouse osteosarcoma by YM529/ONO-5920-induced blockade of the Ras/MEK/ERK and Ras/PI3K/Akt pathway.	共著	平成24年3月	Toxicology and Applied Pharmacology, vol. 259, 402-410.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) RANKL/RANKによるNF-κappaB活性化を介したEMT誘導効果: 西田 升三、椿 正寛、武田 朋也、島岡 弘高、坂本 洸太郎、藤田 亜里沙、小川 直希、山添 讓、向井 淳治。		平成26年6月	第18回日本がん分子標的治療学会学術集会
(演題名) Src阻害に基づく抗がん剤耐性多発性骨髄腫での耐性克服効果: 藤田 亜里沙、椿 正寛、武田 朋也、島岡 弘高、坂本 洸太郎、小川 直希、山添 让、向井 淳治、西田 升三。	同上	同上	同上
(演題名) RANK/RANKLによるシグナル伝達因子活性化を介した多発性骨髄腫での抗がん剤耐性獲得機序: 椿 正寛、武田 朋也、島岡 弘高、坂本 洸太郎、藤田 亜里沙、眞下 恵次、藤原 大一郎、阪口 勝彦、西田 升三。	同上	同上	同上

(演題名) 大腸癌でのRas 経路阻害による抗がん剤感受性増強効果 : 島岡 弘高、椿 正寛、武田 朋也、坂本 洸 太郎、藤田 亜梨沙、眞下 恵次、藤原 大一朗、阪口 勝彦、西田 升三。	平成26年9月	第73回日本癌学会学術総会
(演題名) Statins によるRho 経路阻害を介した腫瘍増殖・転移抑制効果 : 坂本 洸太郎、椿 正寛、武田 朋也、島岡 弘高、藤田 亜梨沙、眞下 恵次、藤原 大一朗、阪口 勝彦、西田 升三。	同上	同上
(演題名) ビスフオスフォネート及びスタチンによるMIP-1alpha 分泌抑制効果 : 西田 升三、椿 正寛、武田 朋也、島岡 弘高、坂本 洸太郎、藤田 亜梨沙、小川 直希、山添 讓、向井 淳治。	同上	同上
(演題名) 多発性骨髄腫での薬剤排泄トランスポーターとアポトーシス調節因子の発現調節を介した抗がん剤耐性機序の解明 : 椿 正寛、武田 朋也、島岡 弘高、坂本 洸太郎、藤田 亜梨沙、西田 升三。	平成26年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会
(演題名) 骨肉腫細胞でのRANK/RANKL によるEMT 誘導効果 : 森下 彩香、椿 正寛、武田 朋也、島岡 弘高、坂本 洸太郎、藤田 亜梨沙、西田 升三。	同上	同上
(演題名) 造血器腫瘍でのインテグリンを介した抗がん剤耐性機序 : 上田 紘美、椿 正寛、武田 朋也、島岡 弘高、坂本 洸太郎、藤田 亜梨沙、西田 升三。	同上	同上
(演題名) DMF によるNF-κB 阻害を介した造血器腫瘍でのアポトーシス誘導効果 : 橋口 りえ、椿 正寛、武田 朋也、島岡 弘高、坂本 洸太郎、藤田 亜梨沙、西田 升三。	同上	同上
III 学会および社会における主な活動		
	特になし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成26年4月～現在	実習において、実習書等を配布した。また、実習の最後に口頭試問を実施し、学生の理解力を養った。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成26年4月～現在	全学のFD研究集会及び薬学部・薬学研究科FD研修会に積極的に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)
(論文) S. Nozaki, T. Takeda, T. Kitaura, N. Takenaka, T. Kataoka, T. Satoh. Akt2 regulates Rac1 activity in the insulin-dependent signaling pathway leading to GLUT4 translocation to the plasma membrane in skeletal muscle cells.		共著	平成25年6月
(論文) M. Tsubaki, M. Komai, T. Itoh, M. Imano, K. Sakamoto, H. Shimaoka, N. Ogawa, K. Mashimo, D. Fujiwara, T. Takeda, J. Mukai, K. Sakaguchi, T. Satou, S. Nishida. Inhibition of the tumour necrosis factor-alpha autocrine loop enhances the sensitivity of multiple myeloma cells to anticancer drugs.		共著	平成25年11月
(論文) M. Tsubaki, M. Komai, T. Itoh, M. Imano, K. Sakamoto, H. Shimaoka, T. Takeda, N. Ogawa, K. Mashimo, D. Fujiwara, J. Mukai, K. Sakaguchi, T. Satou, S. Nishida. By inhibiting Src, verapamil and dasatinib overcome multidrug resistance via increased expression of Bim and decreased expressions of MDR1 and survivin in human multidrug-resistant myeloma cells.		共著	平成26年1月
(論文) M. Tsubaki, M. Komai, T. Itoh, M. Imano, K. Sakamoto, H. Shimaoka, T. Takeda, N. Ogawa, K. Mashimo, D. Fujiwara, J. Mukai, K. Sakaguchi, T. Satou, S. Nishida. Nitrogen-containing bisphosphonates inhibit RANKL- and M-CSF-induced osteoclast formation through the inhibition of ERK1/2 and Akt activation.		共著	平成26年2月
(論文) M. Tsubaki, N. Ogawa, T. Takeda, K. Sakamoto, H. Shimaoka, A. Fujita, T. Itoh, M. Imano, T. Satou, S. Nishida. Dimethyl fumarate induces apoptosis of hematopoietic tumor cells via inhibition of NF-κB nuclear translocation and down-regulation of Bcl-xL and XIAP.		共著	平成26年10月
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Activation of NF-kappaB by the RANKL/RANK induces EMT in mammary tumor cell lines : Tomoya Takeda, Masanobu Tsubaki, Hirotaka Shimaoka, Kotaro Sakamoto, Arisa Fujita, Naoki Ogawa, Yuzuru Yamazoe, Junji Mukai, Shozo Nishida		平成26年9月	第73回日本癌学会学術総会(神奈川)
(演題名) RANKLによるEMT誘導に基づく浸潤促進効果 : 武田朋也, 植正寛, 嵐岡弘高, 坂本亮太郎, 藤田亜梨沙, 西田升三		平成26年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都)
III 学会および社会における主な活動			
	特になし		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表(評価対象年度のみ)」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	病態薬理学研究室	職名 教授 氏名 川畑 篤史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成18年～現在	自家製教材を毎回配布し、その中に復習用演習問題も含めて、レポート提出させることで復習する機会を持たせた。過去5年以上の中間試験、定期試験の問題をすべてWeb上に公開し、すべての学生が同じ情報を得て試験勉強できるようにした。授業評価はいずれの科目も概ね4前後であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24年1月	最新薬理学 初版(赤池、石井 編) 廣川書店、東京
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Y. Terada, M. Fujimura, S. Nishimura, M. Tsubota, F. Sekiguchi, A. Kawabata. Roles of Cav3.2 and TRPA1 channels targeted by hydrogen sulfide in pancreatic nociceptive processing in mice with or without acute pancreatitis.	共著	2015年2月	Journal of Neuroscience Research, 23 (2015) 361-369
(論文) J. Tanaka, K. Yamaguchi, H. Ishikura, M. Tsubota, F. Sekiguchi, Y. Seki, T. Tsujiuchi, A. Murai, T. Umemura, A. Kawabata. Bladder pain relief by HMGB1 neutralization and soluble thrombomodulin in mice with cyclophosphamide-induced cystitis.	共著	2014年4月	Neuropharmacology, 79 (2014) 112-118
(論文) F. Sekiguchi, Y. Miyamoto, D. Kanaoka, H. Ide, S. Yoshida, T. Ohkubo, A. Kawabata. Endogenous and exogenous hydrogen sulfide facilitates T-type calcium channel currents in Cav3.2-expressing HEK293 cells.	共著	同 年2月	Biochemical and Biophysical Research Communications, 28 (2014) 225-229
(論文) J. Tanaka, K. Yamaguchi, H. Ishikura, M. Tsubota, F. Sekiguchi, Y. Seki, T. Tsujiuchi, A. Murai, T. Umemura, A. Kawabata. Bladder pain relief by HMGB1 neutralization and soluble thrombomodulin in mice with cyclophosphamide-induced cystitis.	共著	2013年11月	British Journal of Pharmacology, 170 (2013) 1233-1241
(論文) F. Sekiguchi, Y. Aoki, M. Nakagawa, D. Kanaoka, Y. Nishimoto, M. Tsubota-Matsunami, A. Kawabata. AKAP-dependent sensitization of Cav3.2 channels via the EP4 receptor/cyclic AMP pathway mediates prostaglandin E2-induced mechanical hyperalgesia	共著	2013年2月	British Journal of Pharmacology, 168 (2013) 734-745
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名	
(演題名) High mobility group box 1 as a target for prevention and therapeutic treatment of chemotherapy-induced neuropathic pain: A. Kawabata, Y. Kawaishi, T. Nishida, H. Yamanishi, N. Kamitani, M. Tsubota, F. Sekiguchi, H. Ishikura, M. Nishibori	2014年12月	Pharmacology 2014 (ロンドン・イギリス)	
(演題名) Hydrogen sulfide: Importance of T-type calcium channels as the molecular target: A. Kawabata	2014年9月	International Symposium "Gasotransmitters: Physiology and Pathophysiology" (カザン・ロシア)	
(演題名) Prevention and reversal of chemotherapy-induced neuropathic pain by HMGB1 neutralization in rodents: A. Kawabata, Y. Kawaishi, T. Nishida, H. Yamanishi, N. Kamitani, M. Tsubota, H. Ishikura, F. Sekiguchi, M. Nishibori	2014年7月	9th FENS Forum of European Neuroscience (ミラノ・イタリア)	
(演題名) Roles of the hydrogen sulfide-Cav3.2 T-type calcium channel pathway in neuronal and neuroendocrine differentiation: A. Kawabata	2014年6月	Third International Conference on Hydrogen Sulfide in Biology and Medicine (京都)	
(演題名) Roles of Cav3.2 T-type Ca ²⁺ channels in prostate cancer cells: impact on an androgen-independent stage: A. Kawabata	2014年3月	Symposium "Novel aspects of voltage-gated Ca ²⁺ channels: emerging trends for drug development. 第87回日本薬理学会年会(仙台)	

III 学会および社会における主な活動	
平成7年4月～現在	日本薬理学会評議員
平成15年～現在	日本疼痛学会評議員
	登録販売者試験委員
平成24年～現在	薬剤師試験委員（薬外資国家試験出題委員）

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	病態薬理学研究室	職名 氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成14年～現在	講義中は私語を徹底的に禁止し、学生が静穏な環境で受講できるよう心がけている。講義の重要点は、講義ごとに配布し、次回の講義前日までに提出させるレポートにすべて示している。定期試験範囲もこのレポートから出題することを明言し、単位修得に必要な学習内容を学生に周知している。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成14年～現在	薬剤師国家試験対策、CBT対策（H21年～）、OSCE実施（H21年～）、病院・薬局実務実習に関する業務に従事した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Sekiguchi F, Matsumoto Y, Maeda Y, Tsubota-Matsunami M, Nishikawa H, Kawabata A. Biological activity of Helicobacter pylori components in mammalian cells: is it independent of proteinase-activated receptors?	共著	2012年12月	J. Physiol. Pharmacol. vol. 63, No. 6, p. 571-716.
(論文) Sekiguchi F, Aoki Y, Nakagawa M, Kanaoka D, Nishimoto Y, Tsubota-Matsunami M, Yamanaka R, Yoshida S, Kawabata A. AKAP-dependent sensitization of Cav3.2 channels via the EP4 receptor/cyclic AMP pathway mediates prostaglandin E2-induced mechanical hyperalgesia.	共著	2013年2月	Br. J. Pharmacol. vol. 168, No. 3, p. 734-745.
(総説) Sekiguchi F, Kawabata A. T-type calcium channels: functional regulation and implication in pain signaling.	共著	2013年8月	J. Pharmacol. Sci. vol. 122, No. 4, p. 244-250.
(論文) Sekiguchi F, Miyamoto Y, Kanaoka D, Ide H, Yoshida S, Ohkubo T, Kawabata A. Endogenous and exogenous hydrogen sulfide facilitates T-type calcium channel currents in Cav3.2-expressing HEK293 cells.	共著	2014年2月	Biochem. Biophys. Re.s Commun. vol. 445, No. 1, p. 225-229.
(論文) Maeda Y, Sekiguchi F, Yamanaka R, Sugimoto R, Yamasoba D, Tomita S, Nishikawa H, Kawabata A. Mechanisms for proteinase-activated receptor 1-triggered prostaglandin E2 generation in mouse osteoblastic MC3T3-E1 cells.	共著	2014年 in press	Biol. Dhem. 2014 in press.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名	
(演題名) ヒト胃癌由来AGS細胞における内因性硫化水素の細胞増殖への関与とその下流シグナルの解析。 小椋彩加、関本晃己、関口富美子、川畑篤史。	平成26年6月	第125回日本薬理学会近畿部会（岡山）	
(演題名) Cav3.2 T型Ca ²⁺ チャネルを阻害するascorbic acidの欠乏は硫化水素による体性痛・内臓痛およびpaclitaxel誘起神経障害性疼痛を増強する。 上坊健太、三木好輝、坪田真帆、関口富美子、近藤嘉高、高橋経太、増富裕文、石神昭人、川畑篤史。	平成26年6月	第125回日本薬理学会近畿部会（岡山）	
(演題名) Involvement of endogenous hydrogen sulfide and T-type calcium channels in cyclic AMP-induced neuronal differentiation in NG108-15 cells. Sekiguchi F, Takeda Y, Kanaoka D, Yoshida S, Kawabata A.	平成26年6月	Third International Conference on Hydrogen Sulfide in Biology and Medicine (京都)	
(演題名) 新規T型Ca ²⁺ チャネル阻害薬sophoraflavanone Gの薬理学的特徴と痛覚過敏抑制効果。 関口富美子、川畑篤史。	平成26年6月	第36回日本疼痛学会（大阪）	
(演題名) Sophoraflavanone G as a novel T-type Ca ²⁺ channel inhibitor: electrophysiological evidence in Cav3.2-expressing HEK293 cells and anti-hyperalgesic activity in mice. Sekiguchi F, Fujita T, Deguchi T, Ichii M, Yamaoka S, Nishikawa H, Yoshida S, Murata K, Matsuda M, Ohkubo T, Kawabata A.	平成26年7月	9th FENS Forum of European Neuroscience (ミラノ、イタリア)	

(演題名) Exploration of novel T-type Ca ²⁺ channel inhibitors for treatment of intractable pain. <u>Sekiguchi F</u> , Kawabata A. (シンポジウム)	平成26年8月	生体機能と創薬シンポジウム2014 (大阪)
(演題名) Calcineurin阻害薬tacrolimusはTRPV1を介してcerulein誘起急性膀胱炎関連痛を増強する。 寺田侑加、坪田真帆、 <u>関口富美子</u> 、和田恭一、葉原 健、高田充隆、川畠篤史。	平成26年8月	生体機能と創薬シンポジウム2014 (大阪)
(演題名) Histone deacetylase阻害薬は内因性high mobility group box 1遊離を介して神経前駆細胞株NG108-15細胞の神経突起伸長を誘起する。 杉本陵、上田菜生、 <u>関口富美子</u> 、川畠篤史。	平成26年8月	次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2014 (大阪)
(演題名) 第5腰神経切断神経障害性疼痛ラットにおけるCav3.2 T型Ca ²⁺ チャネル発現増加機序の解析：転写調節因子Egr-1と脱ユビキチン化酵素USP5の挙動について。 富田詩織、 <u>関口富美子</u> 、坪田真帆、川畠篤史。	平成26年10月	第126回日本薬理学会近畿部会 (和歌山)
(演題名) The novel cognitive enhancer ST101 induces neurite outgrowth in NG108-15 cells and hyperalgesia in mice through T-type Ca ²⁺ channels. Ohno S, Kanaoka D, Ide H, <u>Sekiguchi F</u> , Yoshida S, Fukunaga K, Kawabata A.	平成26年12月	Pharmacology 2014 (ロンドン、英国)

III 学会および社会における主な活動

平成4年1月～現在	日本薬理学会 学術評議委員
平成4年7月～現在	日本平滑筋学会 学術評議委員
平成14年4月～現在	日本薬学会 会員
平成15年12月～現在	日本疼痛学会 会員
平成19年1月～現在	The Biochemical Society (UK) 会員
平成20年1月～現在	Cytoprotection研究会 会員
平成23年1月～現在	Society for Neuroscience (USA) 会員

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	病態薬理学研究室	職名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年～現在	演習問題を配布し、試験問題を演習問題から出題することを明らかにし、学生の試験に対する不安を解消した。配布資料に図を多く取り入れることで薬物の作用機序を理解し、記憶に残りやすいよう努めた。また、授業時間内に授業内容の演習問題の解説を行うことで授業の理解度を確認できるようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書			特記すべき事項なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特記すべき事項なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2011年～現在	本学で実施されたOSCEにおいて放送部門を担当し、試験の開始、終了が乱れないように留意し、放送を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Matsunami M, Miki T, Nishiura K, Hayashi Y, Okawa Y, Nishikawa H, Sekiguchi F, Kubo L, Ozaki T, Tsujiuchi T, Kawabata A. Involvement of the endogenous hydrogen sulfide/Ca _v 3.2 T-type Ca ²⁺ channel pathway in cystitis-related bladder pain in mice.	共著	2012年10月	Br J Pharmacol. 2012;167:917-928.
(論文) Tsubota-Matsunami M, Noguchi Y, Okawa Y, Sekiguchi F, Kawabata A. Colonic hydrogen sulfide-induced visceral pain and referred hyperalgesia involve activation of both Ca _v 3.2 and TRPA1 channels in mice.	共著	2012年6月	J Pharmacol Sci. 2012;119:293-296.
(論文) Matsunami M, Kirishi S, Okui T, Kawabata A. Hydrogen sulfide-induced colonic mucosal cytoprotection involves T-type calcium channel-dependent neuronal excitation in rats.	共著	2012年2月	J Physiol Pharmacol. 2012;63:61-68.
(論文) Matsunami M, Kirishi S, Okui T, Kawabata A. Chelating luminal zinc mimics hydrogen sulfide-evoked colonic pain in mice: possible involvement of T-type calcium channels.	共著	2011年5月	Neuroscience. 2011;181:257-264.
(論文) Matsunami M, Tarui T, Mitani K, Nagasawa K, Fukushima O, Okubo K, Yoshida S, Takemura M, Kawabata A. Luminal hydrogen sulfide plays a pronociceptive role in mouse colon.	共著	2009年6月	Gut. 2009;58:751-761.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名	
(演題名) HMGB1はoxaliplatin誘起神経障害性疼痛の発現および維持に関与する:福田亮太郎、山西広樹、坪田真帆、関口富美子、西田武司、石倉宏恭、西堀正洋、川畑篤史	2015年3月	日本薬学会第135年会	
(演題名) HMGB1を標的とする内臓痛治療: 坪田真帆、川畑篤史	2015年3月	第88回日本薬理学会年会	
(演題名) The NK1 receptor antagonist prevents the cyclophosphamide-induced cystitis-related bladder pain and upregulation of cystathionine-γ-lyase, an H2S-generating enzyme, in mice.: Ozaki, T., Tsubota, M., Kawabata, A.	2014年12月	Pharmacology 2014	
(演題名) マクロファージ由来HMGB1の炎症性痛覚過敏への関与と分子作用メカニズムの解析: 山唄大智、関由加里、山西広樹、坪田真帆、関口富美子、八木秀樹、益子 高、西堀正洋、川畑篤史	2014年10月	第126回日本薬理学会近畿部会	
(演題名) Mechanisms for upregulation of cystathionine-γ-lyase, a hydrogen sulfide-generating enzyme, in mice with cyclophosphamide-induced cystitis: Involvement of substance P/NK1 pathway and NF-κappaB signals: Ozaki, T., Tsubota, M., Kawabata, A	2014年9月	International Symposium "Gasotransmitters: Physiology and Pathophysiology".	
(演題名) Capsaicin誘起結腸痛に対するcalcineurin阻害薬FK506の増強効果: 松井和樹、寺田侑加、坪田真帆、関口富美子、川畑篤史	2014年8月	次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2014	

(演題名) ヒト可溶性トロンボモジュリンを用いた痛みの治療 : HMGB1吸着・分解促進作用の関与:坪田真帆、川畠篤史	2014年8月	生体機能と創薬シンポジウム2014.
(演題名) Prevention and reversal of chemotherapy-induced neuropathic pain by HMGB1 neutralization in rodents.: Kawabata, A., Kawaishi, Y., Nishida, T., Yamanishi, H., Kamitani, N., Tsubota, M., Ishikura, H., Sekiguchi, F., Nishibori, M.	2014年7月	9th FENS Forum of European Neuroscience
(演題名) 可溶性トロンボモジュリンおよび抗HMGB1中和抗体は Lipopolysaccharideあるいはsubstance P膀胱内注入により誘起される膀胱痛を抑制する:久保里紗、坪田真帆、関口富美子、石倉宏恭、西堀正洋、川畠篤史。	2014年6月	第125回日本薬理学会近畿部会
(演題名) Ascorbic acid deficiency augments hyperalgesia induced by hydrogen sulfide in mice.: Tsubota, M., Uebo, K., Miki, K., Sekiguchi, F., Kondo, Y., Takahashi, K., Masutomi, H., Ishigaki, A., Kawabata, A.	2014年6月	Third International Conference on Hydrogen Sulfide in Biology and Medicine
III 学会および社会における主な活動		
特記すべき事項なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成20年4月から現在	毎回、power pointを使って講義し、その講義内容をプリントにして学生に配布教材として使用するように指導している。また、プリント内の重要な単語については、空欄を作り、授業中に記入することで理解し、覚えることが出来るよう配慮した。授業評価は3.6~4.0であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成21年4月から現在	「イラストレイテッド生化学」原書4版 Pamela C. Champe et al. 著 石崎泰樹、丸山敬 監訳（丸善株式会社）8,000円+税
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特に無し
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成20年4月から現在	本学部において実施されたCBT、OSCEなどの共用試験ならびに実務実習に関する説明会に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Specific alternation of rhythm in temperature stress-induced irritable bowel syndrome-like changes in mice and effects of drugs. Funakami Y, Itoh E, Hata T, Wada T, Ichida S	共著	平成22年3月	Biol Pharm Bull. 33, 1545-1549, 2010
(論文) Effects of the α 1-adrenoceptor agonist phenylephrine on SART stress-induced orthostatic hypotension in rats. Funakami Y, Itoh E, Hata T, Wada T, Ichida S	共著	平成22年4月	Biopsychosoc Med. 4, 13, 2010
(論文) Differential expression of the 5-HT3A and 5-HT3B receptor in differentiated NG108-15 Cells, Hajime Asano, Akinori Miyamoto, Mariko Nakao, Chiyuki Wakaki, Takuma Iida, Yoshinori Funakami, Tetsuyuki Wada and Seiji Ichida.	共著	平成24年3月	Neurochem Res 37, 1738-1746, 2012
(論文) CDDP化学療法における吃逆発現因子の探索と制吐療法の評価 - クラスター分析を用いて - , 浅野肇, 渡辺瑞貴, 川口明範, 柳江正嗣, 船上仁範, 和田哲幸, 松野純男, 山添謙, 西田升三, 市田成志,	共著	平成25年12月	癌と化学療法 (Gan To Kagaku Ryoho) 、40(8), 1031-1036, 2013
(論文) PKC/MEK inhibitors suppress oxaliplatin-induced neuropathy and potentiate the antitumor effects. Tsubaki M, Takeda T, Tani T, Shimaoka H, Suzuyama N, Sakamoto K, Fujita A, Ogawa N, Itoh T, Imano M, Funakami Y, Ichida S, Satou T, Nishida S.	共著	平成26年3月	Int J Cancer. 2014 Nov 28. doi: 10.1002/ijc. 29367
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 植芝 慧子, 大友 菜, 杉原小雪, 山村愛美, 船上 仁範, 和田 哲幸, 市田 成志, SARTストレス誘発肺胞マクロファージ貪食能低下に対する β 2受容体剤 激葉サルブタモールの改善効果とそのシグナル伝達経路について		平成27年3月	日本薬学会 第135年会（神戸）
(演題名) Yoshinori Funakami, Keiko Ueshiba, Chisato Nishijima, Nosomi Tashiro, Tetsuyuki Wada, Seiji Ichida. The adrenergic agonists improve the impaired phagocytosis of alveolar macrophages in chronically stressed mice.		平成26年12月	Pharmacology 2014. 2014.12.16-18. London
(演題名) 船上 仁範, 宮本 朋佳, 阪井 邦正, 植芝 慧子, 西坂 香名子, 和田 哲幸, 市田 成志. MifepristoneはSARTストレスマウスにおける視床下部-脳下垂体-副腎皮質系の機能障害を改善する。		平成26年9月	日本神経科学大会. H26. 9. 11-13. 横浜
III 学会および社会における主な活動			
平成21年4月～平成24年3月	薬学評価機構 評価者		
平成18年年度～平成26年年度	薬剤師国家試験問題検討委員会基礎薬学部会 委員		
平成21年4月～現在	近畿大学動物実験委員会 委員		
平成24年4月～現在	7大学連携先端的がん教育基盤創造プラン 改革部門 委員		
昭和56年4月～平成26年12月	日本薬理学会 評議委員		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			配布教材および問題の解答などをプリントを作成し、講義内容の質問に応じて、理解しづらかったところや質問を把握することで、次回の講義に活かした。講義内容を詳しく説明するため板書を多用した講義した。授業評価は3.5～4.0であった。
2 作成した教科書、教材、参考書			特記なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			イオンチャネルの構造と機能から疾患を読み解く 第14回 南大阪薬剤師業務研究会 2010年11月
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成24年度	がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 申請者 近畿大学 入学試験問題作成委員（理科・生物）
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Takechi M, Wada T, Yagi H, Masuko T, Kawabata A. Uabain exerts cytoprotection by diminishing the intracellular K ⁺ concentration increase caused by distinct stimuli in human leukemic cells	単著	平成26年8月	Journal of Pharmacy and Pharmacology The Royal Pharmaceutical Society
(論文) Nishiwaki K, Kawase A, Wada T, Yagi H, Kawasaki N, Ito E, Iwaki M. Team-based learning (TBL) in the interdisciplinary lecture	共著	平成26年2月	Yakugaku Zasshi Journal of the Pharmaceutical Society of Japan
(論文) Asano H, Watanabe M, Kawaguchi A, Yanae M, Funakami Y, Wada T, Matzno S, Yamazoe Y, Nishida S, Ichida S. A search for the risk factors for hiccups and evaluation of antiemetic therapy in CDDP-based chemotherapy, using cluster analysis	単著	平成25年8月	Journal of Pharmacy and Pharmacology The Royal Pharmaceutical Society
(論文) Asano H, Watanabe M, Kawaguchi A, Yanae M, Funakami Y, Wada T, Matzno S, Yamazoe Y, Nishida S, Ichida S. Differential expression of the 5-HT(3A) and 5-HT(3B) receptor in differentiated NG108-15 cells	単著	平成24年8月	Neurochem Res. 37(8):1738-46 New York, Plenum Press
(論文) Matsushima K, Imanishi T, Asano H, Funakami Y, Wada T, Ichida S. Changes in characteristics of the specific binding of [³ H]LY-278584, a 5-HT ₃ -receptor antagonist, on differentiated NG108-15 cells	共著	平成22年10月	New York, Plenum Press
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) MifepristoneはSARTストレスマウスにおける視床下部-脳下垂体-副腎皮質系の機能障害を改善する		2014年9月	Neuroscience2014 POSTER
(演題名) 細胞内カリウム濃度上昇は神経細胞分化を誘導する		2014年8月	生体機能と創薬シンポジウム2014 POSTER
(演題名) SARTストレス誘発肺胞マクロファージの機能異常に対する自律神経系の関与		2014年8月	生体機能と創薬シンポジウム2014 POSTER
(演題名) RELATIONSHIP BETWEEN INTRACELLULAR K ⁺ CONCENTRATION INCREASE AND CELL DIFFERENTIATION		2014年7月	THE FEDERATION OF EUROPEAN NEUROSCIENCE SOCIETIES (FENS)
(演題名) A CHARACTERISTIC OF THE FUNCTION OF THE HYPOTHALAMUS-PITUITARY-ADRENAL AXIS IN AGED AND CHRONIC STRESSED MICE		2014年7月	THE FEDERATION OF EUROPEAN NEUROSCIENCE SOCIETIES (FENS) 9th FENS Italy
(演題名) CHRONIC STRESS DECREASES THE FUNCTION OF THE HYPOTHALAMUS-PITUITARY-ADRENAL AXIS VIA GLUCOCORTICOID RECEPTORS IN MICE		2014年7月	THE FEDERATION OF EUROPEAN NEUROSCIENCE SOCIETIES (FENS) 9th FENS Italy

III 学会および社会における主な活動	
平成19年10月から現在	がんプロフェッショナル養成プランならびにがんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 実行委員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	生化学研究室	職名 講師 氏名 船上 仁範
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成18年～現在	講義後に学生から質問や理解しづらかったところを毎回の授業評価表に書いてもらい、次回の講義の冒頭で説明した。授業評価は3.5～4.0であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成18年～現在	実習に使用する実習書の作成や編集を行っている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Tsubaki M, Takeda T, Tani T, Shimaoka H, Suzuyama N, Sakamoto K, Fujita A, Ogawa N, Itoh T, Imano M, Funakami Y, Ichida S, Satou T, Nishida S : PKC/MEK inhibitors suppress oxaliplatin-induced neuropathy and potentiate the antitumor effects.	共著	平成26年11月	Int J Cancer. Impress.
(論文) Asano H, Watanabe M, Kawaguchi A, Yanae M, Funakami Y, Wada T, Matzno S, Yamazoe Y, Nishida S, Ichida S : A search for the risk factors for hiccups and evaluation of antiemetic therapy in CDDP-based chemotherapy, using cluster analysis.	共著	平成25年8月	Gan To Kagaku Ryoho. 40(8):1031-1036
(論文) Asano H, Miyamoto A, Nakao M, Wakaki C, Iida T, Funakami Y, Wada T, Ichida S : Differential expression of the 5-HT(3A) and 5-HT(3B) receptor in differentiated NG108-15 cells.	共著	平成24年8月	Neurochem Res. 37:1738-1746
(論文) Funakami Y, Itoh E, Hata T, Wada T, Ichida S : Effects of the α 1-adrenoceptor agonist phenylephrine on SART stress-induced orthostatic hypotension in rats.	共著	平成22年10月	Biopsychosoc Med. 4:13.
(論文) Funakami Y, Itoh E, Hata T, Wada T, Ichida S : Specific alteration of rhythm in temperature (SART) stress-induced irritable bowel syndrome-like changes in mice and effects of drugs.	共著	平成22年9月	Biol Pharm Bull. 33:1545-1549
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名	
(演題名) The adrenergic agonists improve the impaired phagocytosis of alveolar macrophages in chronically stressed mice. Yoshinori Funakami, Keiko Ueshiba, Chisato Nishijima, Nosomi Tashiro, Tetsuyuki Wada, Seiji Ichida.	平成26年12月	イギリス薬理学会 (Pharmacology2014)	
(演題名) MifepristoneはSARTストレスマウスにおける視床下部一脳下垂体一副腎皮質系の機能障害を改善する。船上 仁範, 宮本 朋佳, 阪井 邦正, 植芝 慧子, 西坂 香名子, 和田 哲幸, 市田 成志。	平成26年9月	第37回日本神経科学会大会	
(演題名) SARTストレス誘発肺胞マクロファージの機能異常に対する自律神経系の関与植芝慧子, 船上仁範, 大友 葉, 杉原小雪, 山村 愛美, 和田哲幸, 市田成志	平成26年8月	生体機能と創薬シンポジウム2014	
(演題名) A characteristic of the function of the hypothalamus-pituitary-adrenal axis in aged and chronic stressed mice. Yoshinori Funakami, Tomoyoshi Miyamoto, Takuma Iida, Kunimasa Sakai, Keiko Ueshiba, Tetsuyuki Wada, Seiji Ichida	平成26年7月	ヨーロッパ神経科学会 (9th FENS)	
(演題名) Chronic stress decreases the function of the hypothalamus-pituitary-adrenal axis via glucocorticoid receptors in mice. Seiji Ichida, Yoshinori Funakami, Tomoyoshi Miyamoto, Takuma Iida, Kunimasa Sakai, Keiko Ueshiba, Tetsuyuki Wada.	平成26年7月	ヨーロッパ神経科学会 (9th FENS)	
(演題名) Relationship between intercellular K ⁺ concentration increase and cell differentiation. T. Wada, M. Takechi, K. Sakai, K. Ueshiba, Y. Funakami, S. Yoshida, S. Ichida.	平成26年7月	ヨーロッパ神経科学会 (9th FENS)	

III 学会および社会における主な活動	
平成20年4月～現在	日本薬理学会・学術評議員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成18年～現在	毎回講義内容をまとめたプリントを配布し、板書した内容を記載できるよう余白を設けた。又、毎回の講義における課題を提示し、記述した物を提出させ、次の講義において詳細について解説をした。授業評価は3.8～4.0であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23年3月 平成26年3月	「最新製剤学」第3版（上釜兼人、川島嘉明、竹内洋文、松田芳久）廣川書店、薬剤師国家試験問題の過去問を収載した解説テキストを作製し、pdfファイル化して学生に配布した。なお、このファイルはスマホ及びPadで閲覧可能とした。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成23年10月	「近畿眼科医学会」にて点眼薬及び眼科用医薬品の取り扱いについての説明を医学生及び薬学生を対象にして講義した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成20年～現在	本学で実施されたCBT実施に参画した。また、「OSCEトライアル」を初め、本学で実施された共用試験ならびに実務実習に関する説明会に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
(論文) Nagai N, Ito Y, Okamoto N, Shimomura Y: A nanoparticle formulation reduces the corneal toxicity of indomethacin eye drops and enhances its corneal permeability.		共著	2014年11月
(論文) Ito Y, Nagai N, Okamoto N, Shimomura Y, Nakanishi K, Tanaka R: Reduction of Enhanced Rabbit Intraocular Pressure by Instillation of Pyroglutamic Acid Eye Drops.		共著	2013年4月
(論文) Nagai N, Ito Y.: Effect of Magnesium Ion Supplementation on Obesity and Diabetes Mellitus in Otsuka Long-Evans Tokushima Fatty (OLETF) Rats Under Excessive Food Intake.		共著	2013年6月
(論文) Nagai N, Takeda A, Itanami Y, Ito Y.: Co-administration of Water Containing Magnesium Ion Prevents Loxoprofen-Induced Lesions in Gastric Mucosa of Adjuvant-Induced Arthritis Rat.		共著	2012年6月
(論文) Nagai N, Ito Y.: Dysfunction in Cytochrome c Oxidase Caused by Excessive Nitric Oxide in Human Lens Epithelial Cells Stimulated with Interferon- and Lipopolysaccharide.		共著	2012年5月
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) Ito Y., Nagai N., Yoshioka C., Okamoto N., Shimomura Y.: Improved corneal toxicity and permeability of Tranirast by the preparation of ophthalmic formulations containing its nanoparticle.		2014年7月	XXI International Congress of Eye Research, San Francisco, California, USA
(演題名) Nagai N., Ogata F., Kawasaki N., Ito Y., Okamoto N., Shimomura Y.: Effect of supplementary water contains minerals on corneal wound healing rate in ovariectomized rats.		2014年10月	3th Congress of the International Society of Ocular Toxicology, Kanazawa, Japan
III 学会および社会における主な活動			
平成15年1月～現在	水晶体研究会幹事		
平成26年1月	第40回水晶体研究会大会会長		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	講師 氏名 長井 紀章
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成18年～現在	基本形式として、講義前半は板書を中心とし要点を押さえた講義を行った。その後演習問題とスライドを用いた解説を組み合わせ、説明ごとに理解度を確認した。これまでの講義における授業評価は8.5-9点(10点満点)と高い値であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		現在進行中 (平成28年度用)	教科書「医歯薬系学生のための基礎化学」(京都廣川書店)を現在執筆中である。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成27年3月	オーガナイザーとして第135年会日本薬学会にて「統合型プログラムの限界を打ち破る新たな展開—ジグソーフ法による教授と学習の一体化の改革について」というタイトルで行われるシンポジウムをオーガナイズしている。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成20～現在 平成26年11月	本学で実施されたCBT実施に参画した。また、「OSCEトライアル」を初め、本学で実施された共用試験ならびに実務実習に関する説明会に参加した。 神戸薬科大学で開催された教育法に関するFD講習会に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 長井紀章、伊藤吉将. 薬局「徹底理解！点眼剤—眼科領域の薬物療法に活かすポイント」	共著	平成26年5月	株式会社 南山堂, Vol. 65, No. 5 (2014) pp. 37-43
(論文) N. Nagai, Y. Ito Y, Effect of Solid Nanoparticle of Indomethacin on Therapy for Rheumatoid Arthritis in Adjuvant-Induced Arthritis Rat.	共著	平成26年7月	Biol Pharm Bull, 37 (2014) 1109-1118 World Biomedical Frontiersにて引用
(論文) N. Nagai, Y. Ito, N. Okamoto, Y. Shimomura, A nanoparticle formulation reduces the corneal toxicity of indomethacin eye drops and enhances its corneal permeability.	共著	平成26年5月	Toxicology, 319 (2014) 53-62
(論文) N. Nagai, Y. Ito, Excessive hydrogen peroxide enhances the attachment of amyloid β 1-42 in the lens epithelium of UPL rats, a hereditary model for cataracts.	共著	平成26年1月	Toxicology, 315 (2014) 55-64
(論文) N. Nagai, Y. Ito, Therapeutic Effects of Sericin on Diabetic Keratopathy in OLETF Rat.	共著	平成25年12月	World J Diabetes, 4 (2013) 282-289 TOPIC HIGHLIGHT, Review
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名	
(演題名) 薬物ナノ結晶を用いた新規経口製剤の創製とその有用性評価—バイオアベイラビリティの向上と副作用軽減へのアプローチ—：長井紀章、多田奈都美、林 真帆、伊藤吉将	平成26年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会、京都	
(演題名) インドメタシンナノ結晶を用いた外用皮膚剤の設計とその評価：真野 裕、高山千鶴、谷本紫苑、長井紀章、伊藤吉将	同上	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会、京都、優秀ポスター賞受賞	
(演題名) セリシンを用いた外用皮膚剤の設計と創傷治療への応用：田辺 航、長井紀章、伊藤吉将	同上	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会、京都、優秀ポスター賞受賞	
(演題名) あたらしいNSAIDs服用法の提案：ミネラルイオン併用による消化管傷害の軽減効果：林 真帆、長井紀章、伊藤吉将	同上	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会、京都	
(演題名) レバミピドナノ結晶化に伴う製剤機能の向上と糖尿病性角膜症治療への応用：勝井結美、辰巳賀陽子、長井紀章、岡本紀夫、下村嘉一、伊藤吉将	同上	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会、京都	
(演題名) Effect of supplementary water contains minerals on corneal wound healing rate in ovariectomized rats : N. Nagai, F. Ogata, N. Kawasaki, Y. Ito, N. Okamoto, Y. Shimomura.	同上	13th Congress of the International Society of Ocular Toxicology, Ishikawa	
(演題名) Decrease in Corneal Damage due to Benzalkonium Chloride by the Addition of Mannitol into Timolol Maleate Eye Drops : C. Yoshioka, N. Nagai, Y. Ito, N. Okamoto, Y. Shimomura.	同上	13th Congress of the International Society of Ocular Toxicology, Ishikawa	
(演題名) 皮質白内障患者におけるアミロイド β 蓄積とATP量の低下：長井紀章、真野 裕、伊藤吉将、柴田哲平、久保江理、佐々木洋	平成26年9月	第53回日本白内障学会総会、品川	

(演題名) 薬物粒子径変更に伴うプリンゾラミド懸濁性点眼液の角膜透過性向上 : 真野 裕、長井紀章、松平有加、山岡咲絵、伊藤吉 将、岡本紀夫、下村嘉一	同上	第34回日本眼薬理学会、岐阜
(演題名) Improved corneal toxicity and permeability of Tranirast by the preparation of ophthalmic formulations containing its nanoparticle : Y. Ito, N. Nagai, C. Yoshioka, N. Okamoto, Y. Shimomura.	平成26年7月	XXI International Congress of Eye Research, San Francisco, California, USA
III 学会および社会における主な活動		
平成26年1月	第40回水晶体研究会、大阪。事務局責任者	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成25年～現在	基礎系科目では、自分が届く限り全員が一定レベルを維持できるよう配慮した。アドバンス科目では、基礎は控えて応用例を示すことと、理論より使途を中心に講義した。専門科目では、CBT国家試験を意識した練習問題を取り入れて学生自身が目的意識をもてるように配慮した。授業評価は4.0～4.3であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23年9月 平成23年9月	NEW薬学機器分析（伊藤允好・萩中淳・和田昭盛編集）第2版、第3.5節（p. 241-261）、廣川書店 リアリスティック統薬学複合問題 京都廣川書店（2011年9月）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			廣川書店の基礎化學を執筆済み（新年度に発売予定）。また、京都廣川書店で新しい教科書を作成中である。 また、直接の薬学教育ではないが、実学教育の一貫として、学生に、本学開発商品の販売現場で消費者の声を直接聞く機会を設けたところ、注目され、産経新聞の一面に掲載された。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）多賀淳：第9章 第7節 キャピラリー電気泳動	単著	平成26年3月	技術情報協会、「誤ったデータ」, p.308-319
（著書）多賀淳：第1編、第2章、第4節 汚染水中放射性物質の除去が可能なぜオカ漆喰	単著	平成27年2月	エヌ・ティー・エス、放射性物質対策技術-除去
（論文）N. Nagai, T. Yamamoto, W. Tanabe, Y. Ito, A. Taga* : Inhibitory effect of maple syrup on the cell growth and invasion of human colorectal cancer cells	共著	平成27年	Oncology Reports, in press.
（論文）T. Yamamoto, K. Uemura, K. Moriyama, K. Mitamura, A. Taga* : Changes in Plasma Glucose Levels in Type 2 Diabetes Otsuka Long-Evans Tokushima Fatty Rats by Oral Administration of Various Maple Syrup Grade	共著	平成27年	Journal of Oleo Science, in press
（論文）M. Akabane, A. Yamamoto, S. Aizawa, A. Taga, S. Kodasa* : Simultaneous enantioseparation of monosaccharides derivatized with L-tryptophan by reversed phase HPLC	共著	平成26年7月	Analytical Science, 30, 739-743 (2014)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）High Speed Molecular Weight Measurement of Proteins by Capillary Electrophoresis, A. Taga, Y. Miyazaki, T. Yamamoto, K. Mitamura		平成26年8月	20th International Symposium on Separation Sciences (Prague)
（演題名）ショットガンプロテオミクス解析による大腸癌早期発見のための新規診断マーカーの探索、上村健太朗、山本哲志、三田村邦子、工藤光洋、内藤善哉、多賀淳		平成26年3月	日本薬学会第134年会（熊本）
III 学会および社会における主な活動			
平成25年～現在	The Open Access Journal of Science and Technology (OAJoST), Editorial Board		
平成23年～現在	Hindawi ISRN Analytical Chemistry, Editorial Board		
平成19年～平成21年	日本薬学会ファルマシアトピックス専門小委員		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成20年～現在	ほぼ毎回講義後に確認テストを行い、学生の理解度を確認した。また、各問題の解答・解説をMoodle、UNIPAIに掲示し、学生の復習に利用できるようにした。授業評価は3以上であった。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成20年11月 平成22年8月	'ライフサイエンス系の基礎英語テクニカルターム' 飯田隆編、三共出版 '薬学性のための臨床化学' 第3版、後藤順一、片山善章編、南江堂	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成20年～現在	全学及び薬学部で開催されるFD研究集会に参加した。また、「OSCEトライアル」を初め、本学で実施された共用試験ならびに実務実習に関する説明会に参加した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数) 等の名称
(著書) 試料分析講座	共著	平成23年9月	丸善出版
(論文) Mitamura K, Satoh (née Okihara) R, Kamibayashi M, Sato K, Iida T, Ikegawa S. 2. Simultaneous determination of 18 tetrahydrocorticosteroid sulfates in human urine by liquid chromatography/electrospray ionization-tandem mass spectrometry.	共著	2014年6月	<i>Steroids</i> , 85 , 18–29 (2014).
(論文) Mitamura K, Mabuchi T, Nagae K, Nakajima M, Matsumoto R, Fujioka S, Sato K, Satoh née Okihara R, Iida T, Ogawa S, Hofmann AF, Ikegawa S. 8. Synthesis of multiply deuterated 3- and 21-monosulfates of allo-tetrahydrocorticosteroids as internal standards for mass spectrometry.	共著	2012年11月	<i>Steroids</i> , 77 , 1423–1437 (2012).
(論文) Mitamura K., Hori N., Iida T., Suzuki M., Shimizu T., Nittono H., Takaori K., Takikawa H., Honmann A. F., Ikegawa S. 13. Identification of S-acyl glutathione conjugates of bile acids in human bile by means of LC/ESI-MS.	共著	2011年12月	<i>Steroids</i> , 76 , 1609–1614 (2011).
(論文) Mitamura K., Aoyama E., Sakai T., Iida T., Hofmann A.F., Ikegawa S. 17. Characterization of non-enzymatic acylation of amino or thiol groups of bionucleophiles by the acyl-adenylate or acyl-CoA thioester of cholic acid. Mitamura K., Aoyama E., Sakai T., Iida T., Hofmann A.F., Ikegawa S.	共著	2011年6月	<i>Anal. Bioanal. Chem.</i> , 400 , 2253–2259 (2011).
2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名	
(演題名) High Speed Molecular Weight Measurement of Proteins by Capillary Electrophoresis Atsushi Taga, Yuri Miyazaki, Tetsushi Yamamoto, Kuniko Mitamura	平成26年11月	ISSS 2014	
(演題名) LC/ESI-LIT-MS/MSにおけるPQD及びCID測定による尿中硫酸抱合型ステロイドの分析：三田村邦子、蔵渕 慧、上田麻美子、池川繁男、山本哲志、多賀 淳	平成26年10月	第39回日本医用マススペクトル学会年会	
(演題名) LC/ESI-MS/MSによる尿中抱合型テトラヒドロコルチコステロイドのプロファイル分析—硫酸抱合体とグルクロン酸抱合体の分別定量の試み：上田麻美子、三田村邦子、山本哲志、多賀淳	平成26年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会大会	
(演題名) HPLC及びLC/MSによるヒト血清中テイコプラニンの定量の試み：新 幸子、三田村邦子、山本哲志、多賀淳	平成26年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会大会	

(演題名) 同位体希釈LC/ESI-MS/MSによるヒト尿中硫酸抱合型オキシステロールの高感度直接一斉定量法の開発：蔵渕慧、三田村邦子、池川繁男、山本哲志、多賀淳	平成26年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会大会
(演題名) ホルマリン固定パラフィン包埋大腸癌組織を用いた新規治療標的の探索：山本 哲志、工藤 光洋、彭 炳霞、高田 英志、三田村 邦子、多賀 淳、内藤 善哉	平成26年9月	第73回日本癌学会学術総会
(演題名) Maple syrup の大腸癌抑制作用：上村 健太朗、山本 哲志、三田村 邦子、多賀 淳	平成26年9月	第73回日本癌学会学術総会
III 学会および社会における主な活動		
平成18年4月～現在	日本臨床化学会近畿支部評議員	
平成20年4月～現在	日本分析化学会近畿支部幹事	
平成21年9月～現在	日本医用マススペクトル学会評議員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成25年～現在	毎回演習課題および小テストを作成・配布し演習中心の講義を行った。疑問点や理解し難い点があった場合は都度対応し、早急に問題点を解決できるようにした。授業評価はおよそ4.0であった。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成25年～現在	本学で実施されたOSCEに実施委員会の一員として参画した。また、CBTを初め、本学で実施された共用試験ならびに実務実習に関する説明会に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Takayama R, Ansai SI, Ishiwata T, Yamamoto T, Matsuda Y, Naito Z, Kawana S.: Expression of Lumican in Hidroacanthoma Simplex and Clonal-Type Seborrheic Keratosis as a Potent Differential Diagnostic Marker.	共著	平成26年8月	American Journal of Dermatopathology, vol. 36, 655-660, 2014
(論文) Yamamoto T, Kudo M, Peng WX, Naito Z.: Analysis of protein expression regulated by lumican in PANC_1 cells using shotgun proteomics.	共著	平成25年10月	Oncology Reports, vol. 30, 1609-1621, 2013
(論文) Yamamoto T, Matsuda Y, Kawahara K, Ishiwata T, Naito Z.: Secreted 70kDa lumican stimulates growth and inhibits invasion of human pancreatic cancer.	共著	平成24年7月	Cancer letters, vol. 320, 31-39, 2012
(論文) Yamamoto T, Matsuda Y, Kawahara K, Naito Z, Ishiwata T.: Keratinocyte growth factor stimulates growth of MIA PaCa-2 cells through ERK phosphorylation.	共著	同 年2月	Oncology Letters, vol. 3, 307-310, 2012
(論文) Matsuda Y, Ishiwata T, Yamahatsu K, Kawahara K, Hagio M, Peng WX, Yamamoto T, Nakazawa N, Seya T, Ohaki Y, Naito Z.: Overexpressed fibroblast growth factor receptor 2 in the invasive front of colorectal cancer as a potential therapeutic target of colorectal cancer.	共著	平成23年10月	Cancer Letters, vol. 309, 209-219, 2011
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) LC/ESI-LIT-MS/MSにおけるPQQ及びCID測定による尿中硫酸抱合型ステロイドの分析: 三田村邦子, 藏渕 慧、上田麻美子、池川繁男、山本哲志、多賀淳	平成26年12月	第39回日本医用マススペクトル学会年会(千葉)	
(演題名) 同位体希釈LC/ESI-MS/MSによるヒト尿中硫酸抱合型オキシステロールの高感度直接一斉定量法の開発: 藏渕 慧、三田村邦子、池川繁男、山本哲志、多賀淳	平成26年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会(京都)	
(演題名) LC/ESI-MS/MSによる尿中抱合型テトラヒドロコルチコステロイドのプロファイル分析: 上田麻美子、三田村邦子、山本哲志、多賀淳	同上	同上	
(演題名) HPLC及びLC/MSによるヒト血清中テイコプラニンの定量の試み: 新 幸子、三田村邦子、山本哲志、多賀淳	同上	同上	
(演題名) Proteomic analysis of formalin-fixed paraffin-embedded colorectal tissue for identification of therapeutic target.: 山本哲志、工藤光洋、彭為霞、高田英志、三田村邦子、多賀淳、内藤善哉	平成26年9月	第73回日本癌学会学術総会(神奈川)	

(演題名) Anti-cancer effect of maple syrup on colorectal cancer. :上村健太朗、山本哲志、三田村邦子、多賀淳	同上	同上
(演題名) dentification of down-regulated proteins using formalin-fixed paraffin-embedded HCC tissue. :高田英志、工藤光洋、山本哲志、和田龍一、彭為霞、石野孔祐、手塚潔、藤井雄文、河本陽子、内田英志、内藤善哉	同上	同上
III 学会および社会における主な活動		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	有機薬化学研究室	職名 教授 氏名 村岡 修
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学部長としてアカデミックラーニングの FD を企画
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) J. Akaki, T. Morikawa, S. Miyake, K. Ninomiya, M. Okada, G. Tanabe, Y. Pongpiriyadacha, M. Yoshikawa, O. Muraoka. Evaluation of Salacia species as anti-diabetic natural resources based on quantitative analysis of eight sulphonium constituents: a new class of glucosidase inhibitors.	共著	平成26年12月	Phytochem. Anal., 25(6), 544-550.
(論文) N. Tsutsui, G. Tanabe, G. Gotoh, N. Morita, N. Nomura, A. Kita, R. Sugiura, O. Muraoka. Structure-activity relationship studies on acremomannolipin A, the potent calcium signal modulator with a novel glycolipid structure 2: Role of the alditol side chain stereochemistry	共著	平成26年2月	Bioorg. Med. Chem., 22(3), 945-959.
(論文) N. Tsutsui, G. Tanabe, A. Kita, R. Sugiura, O. Muraoka. The first total synthesis of Acremomannolipin A, the potential Ca^{2+} signal modulator with a characteristic glycolipid structure, isolated from the filamentous fungus Acremonium strictum.	共著	平成25年2月	Tetrahedron Lett., 54(6), 451-453.
(論文) G. Tanabe, K. Matsuoka, M. Yoshinaga, W. Xie, N. Tsutsui, M. F. A. Amer, S. Nakamura, I. Nakanishi, X. Wu, M. Yoshikawa, O. Muraoka. Role of side chain stereochemistry in the α -glucosidase inhibitory activity of kotalanol, a potent natural α -glucosidase inhibitor. Part 2.	共著	平成24年11月	Bioorg. Med. Chem., 20(21), 6321-6334.
(論文) G. Tanabe, S. Nakamura, N. Tsutsui, G. Balakishan, W. Xie, S. Tsuchiya, J. Akaki, T. Morikawa, K. Ninomiya, I. Nakanishi, M. Yoshikawa, O. Muraoka. In silico design, synthesis and evaluation of 3'-0-benzylated analogs of salacinol, a potent α -glucosidase inhibitor from Ayurvedic traditional medicine "Salacia".	共著	平成24年7月	Chem. Commun., 48(69), 8646-8648.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名	
(演題名) アーユルベーダ天然薬物“サラシア”由来 α -グルコシダーゼ阻害剤, neoponkoranol の新規ジアステレオ選択的合成. 田邊元三, 至田智行, 松本裕朗, 筒井 望, 村岡 修.	平成27年3月	日本薬学会第135年会(神戸)	
(演題名) バンレイシ科植物, Hornschuchia obliqua 由来 4,5-didehydro- guadiscine の合成およびそのメラニン形成抑制活性評価. 田邊元三, 白戸美希, 菅野雄太, 蘭田直樹, 森川敏生, 二宮清文, 筒井 望, 村岡 修.	同上	同上	
(演題名) アーユルベーダ天然薬物“サラシア”由来 salacinol をシードとする α -グルコシダーゼ阻害剤の in silico 設計, 合成及び in vitro 評価. 田邊元三, 松田侑也, 筒井 望, 森川敏生, 赤木淳二, 二宮清文, 仲西 功, 中村真也, 吉川雅之, 村岡 修.	平成26年11月	第20回天然薬物の開発と応用シンポジウム(東京)	
(演題名) 森川敏生, 赤木淳二, 二宮清文, 木内恵里, 田邊元三, 仲西 功, 中村真也, 吉川雅之, 村岡 修. サラシア属植物含有 α -グルコシダーゼ阻害活性成分 salacinol およびその類縁体の食後過血糖改善作用.	同上	同上	

(演題名) 新規 calcium シグナル調節物質 acremomannolipin A の構造活性相関：糖アルコール側鎖部の構造が活性に及ぼす効果。筒井 望, 田邊元三, 後藤元気, 森田直, 野村尚央, 岡山善知, 喜多綾子, 杉浦麗子, 村岡修.	同上	第32回メディシナルケミストリーシンポジウム（神戸）
(演題名) アーユルベーダ天然薬物“サラシア”由来スルホニウム塩型 α -グルコシダーゼ阻害剤の新規ジアステレオ選択的合成法の開発。田邊元三, 松田侑也, 松本裕朗, 筒井 望, 村岡 修。	平成26年10月	第56回天然有機化合物討論会（高知）
(演題名) アーユルベーダ天然薬物“サラシア”由来スルホニウム塩型 α -グルコシダーゼ阻害剤の効率的簡便合成法の開発—新規ジアステレオ選択的 neosalacinol 合成—。田邊元三, 松田侑也, 松本裕朗, 筒井 望, 村岡 修。	同上	第64回日本薬学会近畿支部大会（京都）
(演題名) Development of a New Facile Route to Sulfonium Salts, a New Class of α -Glucosidase Inhibitors Isolated from Ayurvedic Medicine “Salacia”. G. Tanabe, Y. Matsuda, O. Muraoka.	平成26年9月	24th French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry. Lyon, France.
(演題名) Salacinol and related analogs, new leads for type 2 diabetes therapeutic candidates from Thai traditional natural medicina Salacia chinensis. T. Morikawa, J. Akaki, K. Ninomiya, E. Kinouchi, G. Tanabe, M. Yoshikawa, O. Muraoka.	平成26年5月	5th International Conference on Natural Products for Health and Beauty (NATPRO5), (Phuket, Thailand)
(演題名) サラシア属植物由来スルホニウム塩型および既存 α -グルコシダーゼ阻害剤の同時分析。赤木淳二, 森川敏生, 二宮清文, 三宅莊八郎, 田邊元三, 吉川雅之, 村岡 修。	同上	第68回日本栄養・食糧学会大会（北海道）
III 学会および社会における主な活動		
平成 21 年 4 月～平成22年3月	日本薬学会 生薬天然物部会 財務幹事	
平成 22 年 4 月～現在	日本薬学会 生薬天然物部会 評議員	
平成 23 年 4 月～現在	日本薬史学会 関西支部長 常任理事	
平成 22 年 4 月～現在	(公財) 小森記念財団 評議員 (奨学金貸与者選考委員)	
平成 23 年 4 月～現在	(公財) 大阪薬業クラブ 評議員 (公益事業選定委員)	

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成18年～現在	これまでに、基礎化学および有機化学系教科を担当してきた。全ての教科において、教科書の重要なポイントを抜粋し、練習問題も組み入れた講義用教材を作成・配布した。配布資料がモノクロのため、資料のカラーデータおよび問題の解答をMoodleに掲示し、学生の予習・復習効率の向上に努めた。有機化学系教科では、分子構造や反応様式について動画的にアレンジした教材も作成し、理解の向上を図った。さらに、有機分子の立体化学や結合様式について、3D動画ソフトを用いた。これらが学生に好評であった。また、講義後の質問に対応することで、理解しづらかった項目を把握し、次の講義の冒頭で再度説明した。授業評価は、いずれの科目も良好(平成21年度から10点評価: 8.1-8.4)である。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成22年9月	Innovated 構造解析プラクティス(京都廣川書店)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			全学FD研修会に参加し、FDに関する諸問題に関する見識を高めるように心がけている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(著書) 薬用食品の開発Ⅱ—薬用・有用植物の機能性食品素材への応用ー		共著	平成24年4月
(論文) N. Tsutsui, G. Tanabe, G. Gotoh, N. Morita, N. Nomura, A. Kita, R. Sugiura, O. Muraoka. Structure-activity relationship studies on acremannolipin A, the potent calcium signal modulator with a novel glycolipid structure 2: Role of the alditol side chain stereochemistry		共著	平成26年2月
(論文) N. Tsutsui, G. Tanabe, A. Kita, R. Sugiura, O. Muraoka. The first total synthesis of Acremoniannolipin A, the potential Ca^{2+} signal modulator with a characteristic glycolipid structure, isolated from the filamentous fungus Acremonium strictum.		共著	平成25年2月
(論文) G. Tanabe, K. Matsuoka, M. Yoshinaga, W. Xie, N. Tsutsui, M. F. A. Amer, S. Nakamura, I. Nakanishi, X. Wu, M. Yoshikawa, O. Muraoka. Role of side chain stereochemistry in the α -glucosidase inhibitory activity of kotalanol, a potent natural α -glucosidase inhibitor, Part 2.		共著	平成24年11月
(論文) G. Tanabe, S. Nakamura, N. Tsutsui, G. Balakishan, W. Xie, S. Tsuchiya, J. Akaki, T. Morikawa, K. Ninomiya, I. Nakanishi, M. Yoshikawa, O. Muraoka. In silico design, synthesis and evaluation of 3'-0-benzylated analogs of salacinol, a potent α -glucosidase inhibitor from Ayurvedic traditional medicine "Salacia".		共著	平成24年7月
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) アーユルベーダ天然薬物“サラシア”由来 α -グルコシダーゼ阻害剤、neoponkoranol の新規ジアステレオ選択的合成。田邊元三、至田智行、松本裕朗、筒井 望、村岡 修。		平成27年3月	日本薬学会第135年会(神戸)
(演題名) バンレイシ科植物、Hornschuchia obliqua 由来 4,5-didehydro-guadiscine の合成およびそのメラニン形成抑制活性評価。田邊元三、白戸美希、菅野雄太、園田直樹、森川敏生、二宮清文、筒井 望、村岡 修。		同上	同上

(演題名) アーユルベーダ天然薬物“サラシア”由来 salacinal をシードとする α -グルコシダーゼ阻害剤の <i>in silico</i> 設計、合成及び <i>in vitro</i> 評価。田邊元三、松田侑也、筒井 望、森川敏生、赤木淳二、二宮清文、仲西 功、中村真也、吉川雅之、村岡 修。	平成26年11月	第20回天然薬物の開発と応用シンポジウム（東京）
(演題名) 森川敏生、赤木淳二、二宮清文、木内恵里、田邊元三、仲西 功、中村真也、吉川雅之、村岡 修。サラシア属植物含有 α -グルコシダーゼ阻害活性成分 salacinal およびその類縁体の食後過血糖改善作用。	同上	同上
(演題名) 新規 calcium シグナル調節物質 acremomannolipin A の構造活性相関：糖アルコール側鎖部の構造が活性に及ぼす効果。筒井 望、田邊元三、後藤元気、森田直、野村尚央、岡山善知、喜多綾子、杉浦麗子、村岡 修。	同上	第32回メディシナルケミストリーシンポジウム（神戸）
(演題名) アーユルベーダ天然薬物“サラシア”由来スルホニウム塩型 α -グルコシダーゼ阻害剤の新規ジアステレオ選択的合成法の開発。田邊元三、松田侑也、松本裕朗、筒井 望、村岡 修。	平成26年10月	第56回天然有機化合物討論会（高知）
(演題名) アーユルベーダ天然薬物“サラシア”由来スルホニウム塩型 α -グルコシダーゼ阻害剤の効率的簡便合成法の開発—新規ジアステレオ選択的 neosalacinal 合成—。田邊元三、松田侑也、松本裕朗、筒井 望、村岡 修。	同上	第64回日本薬学会近畿支部大会（京都）
(演題名) Developement of a New Facile Route to Sulfonium Salts, a New Class of α -Glucosidase Inhibitors Isolated from Ayurvedic Medicine “Salacia”. G. Tanabe, Y. Matsuda, O. Muraoka.	平成26年9月	24th French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry. Lyon, France.
(演題名) Salacinal and related analogs, new leads for type 2 diabetes therapeutic candidates from Thai traditional natural medicina Salacia chinensis. T. Morikawa, J. Akaki, K. Ninomiya, E. Kinouchi, G. Tanabe, M. Yoshikawa, O. Muraoka.	平成26年5月	5th International Conference on Natural Products for Health and Beauty (NATPRO5), (Phuket, Thailand)
(演題名) サラシア属植物由来スルホニウム塩型および既存 α -グルコシダーゼ阻害剤の同時分析。赤木淳二、森川敏生、二宮清文、三宅莊八郎、田邊元三、吉川雅之、村岡 修。	同上	第68回日本栄養・食糧学会大会（北海道）
III 学会および社会における主な活動		
	特になし	

【注】 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	公衆衛生学研究室	職名 教授 氏名 川崎 直人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成20年～現在	教科書にマーカーを入れ、書き込みを多くすることで時間を要しているが、学生は講義に集中している。また、演習問題中心の教科書を用いることにより、反復練習できる機会を設けている。授業評価は8.0以上の高評価であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成26年9月 平成27年3月 平成27年3月	バザバ 衛生薬学（川崎直人、緒方文彦ら著）京都廣川書店、京都 最新 公衆衛生学第6版（上野 仁ら編）廣川書店 東京 薬学領域の食品衛生化学（川崎直人、長澤一樹編）廣川書店 東京
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成23年5～7月 平成24年5～7月	1年生の薬学概論で、科目間の関連を判りやすくするため、専門分野の異なる教員複数による、パネルディスカッション的な授業を試行した。さらに、TBLを導入し、試行した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成21年～現在	平成21年の学部内FDにおいて、さらに、平成23年から全学新任教員研修会においてファシリテーターとして従事している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
(著書) リアリストイック薬学複合問題		共著	平成24年6月
(論文) 西脇敬二、川瀬篤史、和田哲幸、八木秀樹、川崎直人、伊藤栄次、岩城正宏、分野横断型講義におけるTeam-based Learning (TBL)について		共著	平成26年2月
(論文) F. Ogata, M. Kangawa, Y. Iwata, A. Ueda, Y. Tanaka, N. Kawasaki, A stdy on the adsorption of heavy metals by using raw wheat bran bioadsorbent in aqueous solution phase		共著	平成26年3月
(論文) F. Ogata, A. Ueda, N. Kawasaki, Removal of phosphate ions by PGAF (Poly-g-glutamic acid and flocculants)		共著	平成26年5月
(論文) F. Ogata, Y. Iwata, N. Kawasaki, Properties of novel adsorbent produced by hydrothermal treatment of waste fly ash in alkaline solution and its capability for adsorption of tungsten from aqueous solution		共著	平成27年1月
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) ケイ酸マグネシウム（ブリスコール）による食用油の劣化抑制に関する研究：谷脇孝典、嫌井一気、板東明人、緒方文彦、川崎直人		平成26年8月	日本食品科学工学会第61回大会（福岡）
(演題名) ブリスコールによる油中酸性化合物の吸着除去に関する研究：谷脇孝典、嫌井一気、板東明人、緒方文彦、川崎直人		平成26年9月	第53回日本油化学会年会（札幌）
(演題名) Removal mechanism of arsenic ion in drinking water by calcined aluminum oxide: N. Kawasaki, F. Ogata		平成26年9月	IWA World Water Congress & Exhibition2014
(演題名) Ni-Co共沈水酸化物の焼成による物理化学的性質の変化と吸着剤への適用：谷脇孝典、嫌井一気、板東明人、緒方文彦、川崎直人		平成26年10月	第64回 日本薬学会近畿支部総会・大会（京都）
(演題名) 富栄養化防止を指向した焼成水酸化コバルトによるリン酸イオンの吸着能：木村匡志、今井大輔、緒方文彦、川崎直人、戸田徳、大谷昌司		平成26年10月	第64回 日本薬学会近畿支部総会・大会（京都）
(演題名) Development of drinking water treatment using vegetable biomass: N. Kawasaki, F. Ogata		平成26年11月	The 11th International Symposium on Southeast Asian
III 学会および社会における主な活動			
平成5年～現在	日本健康体力栄養学会幹事		
平成12年～平成14年	日本公衆衛生学会評議員		
平成17年～平成24年	日本水環境学会関西支部幹事		
平成23年～現在	日本薬学会代議員		
平成25年～現在	日本水環境学会関西支部幹事長		
平成25年～現在	関西衛生科学研究会会長		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	公衆衛生学研究室	職名 助教
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成22年4月～現在	講義中に不定期に小休憩を取り入れ、学生の授業への集中力を保持に努めました。また、毎回授業で学生からの質問を受付け、次回授業で補助解説を行い、授業内容の理解向上に努めました。さらに、板書時間を確保することで講義説明を十分に聴講できる授業体制を整えました。(授業評価: 8.2～9.0)
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24年4月1日 平成26年7月26日 （第2版）	バザバ “衛生薬学演習” (京都廣川書店) バザバ “衛生薬学演習第2版” (京都廣川書店)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成24年8月19, 20日	Science Akademia of NWUSS (ScAN2014) ScAN2014のEnvironmental scienceのワークショップにアシスタントとして参画
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)
(著書) ”バザバ” 薬学演習シリーズ⑪ 衛生薬学演習 第2版		共著	平成26年7月
(論文) F. Ogata, N. Kawasaki, Adsorption of Au(III) from aqueous solution by calcined gibbsite		共著	平成26年1月
(論文) F. Ogata, N. Kawasaki, Adsorption of Pt(IV) and Pd(II) by calcined aluminum hydroxide gel from aqueous solution system		共著	平成25年8月
(論文) F. Ogata, Y. Iwata, N. Kawasaki, Adsorption of rhodium(III) from plating solutions by calcined gibbsite		共著	平成25年9月
(論文) F. Ogata, H. Tominaga, H. Yabutani, A. Taga, N. Kawasaki, Granulation of gibbsite with inorganic binder and its ability to adsorb Mo(VI) from aqueous solution		共著	平成24年3月
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 谷脇孝典, 嫌井一氣, 板東明人, 緒方文彦, 川崎直人, ケイ酸マグネシウム(ブリスコール)による食用油の劣化抑制に関する研究		平成26年6月	日本食品科学工学会第61回大会(福岡)
(演題名) F. Ogata, N. Kawasaki, Adsorption of Pt(IV) and Pd(II) by calcined dried aluminum hydroxide gel from aqueous solution		平成26年9月	IWA World Water Congress & Exhibition2014 (Portugal)
(演題名) N. Kawasaki, F. Ogata, Removal mechanism of arsenic ion in drinking water by calcined aluminum oxide		平成26年9月	IWA World Water Congress & Exhibition2014 (Portugal)
(演題名) 今井大輔, 木村匡志, 緒方文彦, 川崎直人, 戸田徳, 大谷昌司, Ni-Co共沈水酸化物の焼成による物理化学的性質の変化と吸着剤への適用		平成26年10月	第64回 日本薬学会近畿支部総会・大会(京都)
(演題名) 石渡俊二, 多賀淳, 緒方文彦, 北小路学, 山西弘城, 稲垣昌代, 伊藤哲夫, 土壤に含まれる放射性セシウム溶出法の検討		平成26年10月	第64回 日本薬学会近畿支部総会・大会(京都)
(演題名) 木村匡志, 今井大輔, 緒方文彦, 川崎直人, 戸田徳, 大谷昌司, 富栄養化防止を指向した焼成水酸化コバルトによるリン酸イオンの吸着能		平成26年10月	第64回 日本薬学会近畿支部総会・大会(京都)
(演題名) N. Nagai, F. Ogata, N. Kawasaki, Y. Ito, N. Okamoto, Y. Shimomura, Effect of supplementary water contains minerals on corneal wound healing rate in		平成26年10月	13th Congress of the International Society of Ocular Toxicology (Japan)
(演題名) N. Kawasaki, F. Ogata, Development of drinking water treatment using vegetable biomass		平成26年11月	The 11th International Symposium on Southeast Asian Water Environment (Thailand)
III 学会および社会における主な活動			
平成25年4月～現在	公益社団法人 日本水環境学会 関西支部幹事		
平成25年4月～現在	日本健康体力栄養学会 評議員		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表(評価対象年度のみ)」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	化学療法学研究室	職名 教授 氏名 中山 隆志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24年～現在	配布教材および問題などをMoodleに掲示し、質問に対応することで、理解しづらかったところや質問を把握し、以降の講義の改善に役立てている。授業評価は4.0程度であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成22年12月	新臨床腫瘍学。がん薬物療法専門医のために ”感染と発がん” 2012 : 45-49
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成24年～現在	本学で実施されたOBT実施に参画した。また、本学で実施された共用試験ならびに実務実習に関する説明会に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) T. Higuchi, T. Nakayama, T. Arao, K. Nishio, O. Yoshie: SOX4 is a direct target gene of FRA-2 and induces expression of HDAC8 in adult T-cell leukemia/lymphoma.	共著	平成25年5月	Blood. 2;121(18)
(論文) T. Nakayama, T. Higuchi, N. Oiso, A. Kawada, O. Yoshie: Expression and function of FRA2/JUND in cutaneous T-cell lymphomas.	共著	平成24年4月	Anticancer Res. 32(4)
(論文) T. Nakayama, Y. Watanabe, N. Oiso, T. Higuchi, A. Shigeta, N. Mizuguchi, F. Katou, K. Hashimoto, A. Kawada, O. Yoshie: Eotaxin-3/CC Chemokine Ligand 26 Is a Functional Ligand for CX3CR1.	共著	平成22年12月	J Immunol. 1;185(11)
(論文) T. Nakayama, K. Hieshima, T. Arao, Z. Jin, D. Nagakubo, AK. Shirakawa, Y. Yamada, M. Fujii, N. Oiso, A. Kawada, K. Nishio, O. Yoshie: Aberrant expression of Fra-2 promotes CCR4 expression and cell proliferation in adult T-cell leukemia.	共著	平成20年5月	Oncogene. 22;27(23)
(論文) E. Poole, E. Atkins, T. Nakayama, O. Yoshie, I. Groves, A. Alcamí, J. Sinclair: NF-kappaB-mediated activation of the chemokine CCL22 by the product of the human cytomegalovirus gene UL144 escapes regulation by viral IE86.	共著	平成20年5月	J Virol. 82(9)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名	
(演題名) ケモカイン受容体CCR4アンタゴニストの特性解析ならびにアジュバント活性評価：小山 篤、松尾一彦、西脇敬二、義江修、中山隆志	平成27年3月	日本薬学会第135年会（神戸市）	
(演題名) 成人ヒトT細胞白血病/リンパ腫(ATLL) 発がんにおけるSOX4の役割の解明：小森悠平、樋口智紀、松尾一彦、義江 修、中山 隆志	平成27年3月	日本薬学会第135年会（神戸市）	
(演題名) ケモカインMEC/CCL28の腸管組織における生物学的役割：松尾一彦、北田卓也、重田暁子、藤田 貢、義江 修、中山 隆志	平成27年3月	日本薬学会第135年会（神戸市）	
(演題名) 和漢薬ライブラリーを利用したケモカイン受容体CCR3及びCCR4のアンタゴニスト成分の探索：北田卓也、松尾一彦、小泉桂一、義江 修、中山 隆志	平成27年3月	日本薬学会第135年会（神戸市）	
(演題名) メース (Myristica fragrans, 仮種皮) のケモカイン受容体CCR3選択的のアンタゴニスト作用を指標とした抗アレルギー作用成分の探索：森川敏生、松尾一彦、八幡郁子、二宮清文、村岡修、中山 隆志	平成26年10月	第56回天然有機化合物討論会（高知市）	

(演題名) メース (<i>Myristica fragrans</i> , 仮種皮) の機能性成分 (4); ケモカイン受容体CCR3選択的アンタゴニスト作用成分の探索 : 森川敏生、八幡郁子、松尾一彦、二宮清文、村岡 修、中山隆志	平成26年9月	日本生薬学会第61回年会（福岡市）
(演題名) ケモカインMEC/CCL28はIgA抗体産生細胞の腸管組織への遊走を制御することでDSS誘発性大腸炎の劇症化抑制に寄与する : 北田卓也、松尾一彦、重田暁子、藤田 貢、義江 修、中山隆志	平成26年8月	生体機能と創薬シンポジウム2014（東大阪市）
III 学会および社会における主な活動		
平成24年4月～現在	7大学連携先端のがん教育基盤創造プラン 薬学部研究者養成部門 部門長	
平成25年4月～平成27年3月	薬剤師国家試験問題検討委員会薬理学部会委員	
平成26年8月	生体機能と創薬シンポジウム2014 実行委員	

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	化学療法学研究室	職名 助教 氏名 松尾 一彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24年4月~	少人数制のチーム基盤型学習 (Team-Based Learning; TBL) 形式を導入することで、学生の自主的学習や問題解決能力を育成に力を入れた。授業評価は4~4.2であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24年4月~	要点をまとめた資料を作成し、講義用資料として配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成24年4月~	本学で実施された共用試験に参画し、他大学で実施されたOSCEの評価者を担当した。また、本学で実施されたFD研修会に參加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Matsuo K, Okamoto H, Kawai Y, Quan YS, Kamiyama F, Hirobe S, Okada N, Nakagawa S. Vaccine efficacy of transcutaneous immunization with amyloid using a dissolving microneedle array in a mouse model of Alzheimer's disease.	共著	平成26年1月	J. Neuroimmunol. 2014 Jan 15;266(1-2):1-11.
(論文) Matsuo K, Ishii Y, Kawai Y, Saiba Y, Quan YS, Kamiyama F, Hirobe S, Okada N, Nakagawa S. Analysis of transcutaneous antigenic protein delivery by a hydrogel patch formulation.	共著	平成25年6月	J. Pharm. Sci., 2013 Jun;102 (6):1936-47.
(論文) Matsuo K, Hirobe S, Yokota Y, Ayabe Y, Seto M, Quan YS, Kamiyama F, Tougan T, Horii T, Mukai Y, Okada N, Nakagawa S. Transcutaneous immunization using a dissolving microneedle array protects against tetanus, diphtheria, malaria, and influenza.	共著	平成24年6月	J. Control. Release 2012 Jun;160 (3):495-501.
(論文) Matsuo K, Yokota Y, Zhai Y, Quan YS, Kamiyama F, Mukai Y, Okada N, Nakagawa S. A low-invasive and effective transcutaneous immunization system using a novel dissolving microneedle array for soluble and particulate antigens.	共著	同 年1月	J. Control. Release 2012 Jan;161 (1):10-17.
(論文) Matsuo K, Hirobe S, Okada N, Nakagawa S. Frontiers of transcutaneous vaccination systems: Novel technologies and devices for vaccine delivery.	共著	平成25年3月	Vaccine 2013 May;31(19):2403-2415.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ケモカイン受容体CCR4アンタゴニストの特性解析ならびにアジュバント活性評価：小山篤、松尾一彦、西脇敬二、義江修、中山隆志		平成27年3月	日本薬学会第135年会（神戸）
(演題名) 成人ヒトT細胞白血病/リンパ腫(ATLL) 発がんにおけるSOX4の役割の解明：小森悠平、樋口智紀、松尾一彦、義江修、中山隆志		同上	同上
(演題名) ケモカインMEC/CCL28の腸管組織における生物学的役割：松尾一彦、北田卓也、重田暁子、藤田貢、義江修、中山隆志		同上	同上
(演題名) 和漢薬ライブラリーを利用したケモカイン受容体CCR3及びCCR4のアンタゴニスト成分の探索：北田卓也、松尾一彦、小泉桂一、義江修、中山隆志		同上	同上
(演題名) メース (Myristica fragrans, 仮種皮) のケモカイン受容体CCR3選択性的アンタゴニスト作用を指標とした抗アレルギー作用成分の探索：森川敏生、松尾一彦、八幡郁子、二宮清文、村岡修、中山隆志		平成26年10月	第56回天然有機化合物討論会（高知）
(演題名) メース (Myristica fragrans, 仮種皮) の機能性成分(4)：ケモカイン受容体CCR3選択性的アンタゴニスト作用成分の探索：森川敏生、八幡郁子、松尾一彦、二宮清文、村岡修、中山隆志		同年9月	日本生薬学会第61回年会（福岡）
(演題名) ケモカインMEC/CCL28はIgA抗体産生細胞の腸管組織への遊走を制御することでDSS誘発性大腸炎の劇症化抑制に寄与する：北田卓也、松尾一彦、重田暁子、藤田貢、義江修、中山隆志		同年8月	生体機能と創薬シンポジウム2014（東大阪）

III 学会および社会における主な活動	
平成24年～現在	創薬・創剤基盤技術研究会 幹事

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成18年～現在	毎回の講義内容について問題を作成し配布、次回の講義の初めに解説を行う。授業評価は3.8～3.9であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		2009年 2009年 2009年 2012年 2013年 2014年	薬剤疫学への招き 医薬品の開発と適正使用をめざして、1-186, 京都廣川書店 グラフィックガイド 薬剤師の技能 理論まるごと実践へ、京都廣川書店 シナリオ症例解析 一療法の現場で今… SCIENTIFIC疾患分析解析, 京都廣川書店 Applied臨床薬物動態学—有効灘・安全な薬物治療と投与計画 図解医薬品情報学改定3版, 南山堂
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2009年6月 2009年6月 2010年2月 2010年3月 2010年3月 2010年6月 2010年11月 2011年2月 2012年2月	長期実務実習の実施にむけて、大阪府下市立病院薬剤部長会 学术講演会 実務実習事前教育を理解する、近畿国立病院薬剤師会研修会 薬学教育実務実習の実施方法について、近畿国立病院薬剤師会薬剤師実習技能研修会 薬一薬連携、中河内ブロック研修会 薬学6年制実習、中河内ブロック研修会 特別講演 薬学6年制実務教育 一これまでの反省と今後の展望ー、大阪府病院薬剤師会総会 薬学6年制教育の現状と今後の展望、大阪府病院薬剤師会第一支部研修会 実務実習の現状と今後、中河内ブロック研修会 6年制教育一期生を送り出すにあたって、中河内ブロック研修会
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成21年～現在	実務実習事前学習および病院・薬局実務実習の体制作りを行った。実務実習事前学習は、多くの現役薬剤師が参加する臨場感あふれる実習を目標としている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) Mai Fujimoto, Tomoya Higuchi, Kouichi Hosomi, Mitsutaka Takada, Association of statin use with storage lower urinary tract symptoms: Data mining of claims database		共著	2014年10月 J Pharmacovigilance, 2:147
(論文) Mitsutaka Takada, Mai Fujimoto, Kohei Yamazaki, Masashi Takamoto, Kouichi Hosomi, Association of Statin Use with Sleep Disturbances: Data Mining of a Spontaneous Reporting Database and a Prescription Database		共著	2014年4月 Drug Saf, 37, 421-43
(論文) Mai Fujimoto, Tomoya Higuchi, Kouichi Hosomi, Mitsutaka Takada, Association of statin use with storage lower urinary tract symptoms (LUTS): Data mining of prescription database		共著	2014年4月 Int J Clin Pharmacol Ther, 52, 762-769
(論文) Mai Fujimoto, Kouichi Hosomi, Mitsutaka Takada, Statin-associated lower urinary tract symptoms: Data mining of the public version of the FDA adverse event reporting system, FAERS		共著	2014年2月 Int J Clin Pharmacol Ther, 52, 259-266
(論文) Mitsutaka Takada, Mai Fujimoto, Kouichi Hosomi, Difference in risk of gastrointestinal complications between users of enteric-coated and buffered low-dose aspirin		共著	2014年1月 Int J Clin Pharmacol Ther, 52, 181-191
2. 学会発表(評価対象年度のみ)			発表年・月
(演題名) PMDA医薬品副作用データベースを用いた漢方製剤の安全性シグナルの解析：細見光一, 増井怜香, 藤本麻依, 高田充隆			2014年7月 第17回日本医薬品情報学会総会・学術大会
(演題名) PMDA医薬品副作用データベースを用いた安全性シグナルの解析—横紋筋融解症、悪性症候群、アナフィラキシー反応、ステイーブンス・ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死症—：増井怜香, 細見光一, 藤本麻依, 高田充隆			2014年6月 医療薬学フォーラム2014
III 学会および社会における主な活動			
2006年～現在	OSCE実施委員会大学委員		
2008年～2011年	大阪府薬剤師会薬学生実務実習受入対策特別委員会副委員長		
2006年～2011年	病院・薬局実務実習近畿地区調整機構委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成22年～現在	「教科書の記載」が「医療現場での実際」につながるような伝え方を心掛けた。患者・医療スタッフへの医薬品に関する情報提供を紹介し、医薬品に関する知識について、薬剤師が如何に活用しているか、を具体的に伝えた。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成22年～26年 平成22年～26年	実務実習事前学習書 実務実習事前学習記録
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成22年～現在 平成23年～現在	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ 教員免許状更新講習「くすりのリスクと社会的課題」
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成22年～現在 平成22年～26年 平成25年、26年 平成25年、26年 平成26年	全学FD研究集会、薬学部FD研修会に参加 薬学共用試験OSCEモニター員 奈良県薬剤師会研修会にて講演 フィジカルアセスメント講習会スタッフ 無菌注射剤調剤講習会スタッフ
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) M. Takada, M. Fujimoto, K. Hosomi: Difference in risk of gastrointestinal complications between users of enteric-coated and buffered low-dose aspirin	共著	平成26年3月	International Journal of Clinical Pharmacology and Therapeutics, 181-191, 2014
(論文) 細見光一、藤本麻依、八軒浩子、炭床啓太、高田充隆：米国有害事象自発報告（FAERS）を用いたアスピリンおよび併用薬の消化管傷害に関する解析	共著	平成26年4月	医薬品情報学, 147-154, 2014
(論文) M. Fujimoto, K. Hosomi, M. Takada: Statin-associated lower urinary tract symptoms: data mining of the public version of the FDA adverse event reporting system, FAERS	共著	平成26年4月	International Journal of Clinical Pharmacology and Therapeutics, 259-266, 2014
(論文) 猪瀬諒、細見光一、朴ビナウル、藤本麻依、高田充隆：分子標的抗がん剤によるB型肝炎、C型肝炎の解析 一日米の有害事象自発報告データベースを用いてー	共著	平成26年5月	医療薬学, 268-277, 2014
(論文) M. Takada, M. Fujimoto, K. Yamazaki, M. Takamoto, K. Hosomi: Association of Statin use with sleep disturbances: Data mining of a spontaneous reporting database and a prescription database	共著	平成26年6月	Drug Safety, 421-431, 2014
2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名	
(演題名) PMDA医薬品副作用データベースを用いた安全性シグナルの解析：増井怜香、細見光一、藤本麻依、高田充隆	平成26年6月	医療薬学フォーラム2014（東京）	
(演題名) データマイニング手法によるオピオイド受容体鎮痛薬の安全性シグナルの解析：仁田雅之、細見光一、藤本麻依、高田充隆	平成26年6月	医療薬学フォーラム2014（東京）	
(演題名) 処方せんデータを用いたスタチン系薬剤と腎尿症状の関連性についての研究：樋口智也、藤本麻依、細見光一、高田充隆	平成26年6月	医療薬学フォーラム2014（東京）	
(演題名) 日米の有害事象自発報告データベースを用いたSMQ分類による有害事象別性差の解析：乗本賀世、細見光一、藤本麻依、高田充隆	平成26年6月	医療薬学フォーラム2014（東京）	
(演題名) PMDA医薬品副作用データベースを用いた漢方製剤の安全性シグナルの解析：細見光一、増井怜香、藤本麻依、高田充隆	平成26年7月	第17回日本医薬品情報学会総会・学術大会（鹿児島）	
(演題名) アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬及びACE阻害薬によるがん発症リスクの検討データベースを用いた解析ー：狩野汀、藤本麻依、細見光一、高田充隆	平成26年8月	生体機能と創薬シンポジウム2014（大阪）	
(演題名) スタチン系薬剤による腎尿機能障害の副作用リスクに関する研究：田村美加子、藤本麻依、細見光一、高田充隆	平成26年8月	生体機能と創薬シンポジウム2014（大阪）	
(演題名) 各種データベースを用いたスタチン系薬剤と膀胱がんとの関連性についての研究：樋口智也、藤本麻依、細見光一、高田充隆	平成26年8月	生体機能と創薬シンポジウム2014（大阪）	
(演題名) 処方せんデータベースを用いたスタチン系薬剤使用と睡眠障害・うつ症状の関連性について：高木真志、藤本麻依、細見光一、高田充隆	平成26年8月	生体機能と創薬シンポジウム2014（大阪）	
(演題名) Association between statin use and cancers: Data mining of a spontaneous reporting database and a claim database: M. Fujimoto, T. Higuchi, K. Hosomi, M. Takada	平成26年12月	Pharmacology 2014 (London, UK)	

III 学会および社会における主な活動	
平成22年～現在	神戸薬学ネットワーク顧問

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	臨床薬剤情報学分野	職名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成25年～現在	担当科目は実践病態と治療で代謝の領域を担当した。より臨床的な知識を習得できるような配布資料を作成して講義を行った。全体を通して70%近くの学生が資料の提示などが明瞭であったと評価していた。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成25年～現在	例年通り、円滑にOSCEを実施することができた。 実務実習事前学習では、次年度の病院・薬局での実務実習のために、現役薬剤師の先生方を非常勤講師として協力していただくなどし、より臨床的な知識を事前に付け、実務実習へのモチベーションが上がるような内容にした。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 1. Fujimoto M, Higuchi T, Hosomi K, Takada M. Association of statin use with storage lower urinary tract symptoms: Data mining of claims database	共著	2014年	J Pharmacovigilance, 2:147
(論文) Fujimoto M, Higuchi T, Hosomi K, Takada M, Association of statin use with storage lower urinary tract symptoms (LUTS): Data mining of prescription database	共著	2014年	Int J Clin Pharmacol Ther, 52, 762-769
(論文) Fujimoto M, Hosomi K, Takada M, Statin-associated lower urinary tract symptoms: Data mining of the public version of the FDA adverse event reporting system, FAERS	共著	2014年	Int J Clin Pharmacol Ther, 52, 259-266
(論文) Takada M, Fujimoto M, Yamazaki K, Takamoto M, Hosomi K, Association of Statin use with sleep disturbances: Data mining of a spontaneous reporting database and a prescription database	共著	2014年	Drug Saf, 37, 421-431
(論文) 藤本麻依、高本真志、細見光一、高田充隆、レセプトデータを用いたスタチン系薬剤による睡眠障害のリスクに関する解析	共著	2014年	医薬品情報学16, 53-62
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名	
(演題名) 処方せんデータを用いたスタチン系薬剤と蓄尿症状の関連性についての研究、樋口智也、藤本麻依、細見光一、高田充隆	2014.6	医療薬学フォーラム2014 第14回クリニカルファーマシーシンポジウム(東京)	
(演題名) 処方箋データベースを用いたHMG-CoA還元酵素阻害薬であるスタチン系薬剤による睡眠障害の解析、高本真志、藤本麻依、細見光一、高田充隆	2014.6	医療薬学フォーラム2014 第14回クリニカルファーマシーシンポジウム(東京)	
(演題名) スタチン系薬剤による糖尿病発症のリスク - 処方せんデータによる解析 - 、狩野汀、藤本麻依、細見光一、高田充隆	2014.6	医療薬学フォーラム2014 第14回クリニカルファーマシーシンポジウム(東京)	
(演題名) データマイニング手法によるオピオイド受容体鎮痛薬の安全性シグナルの解析 —ペントゾシンと急性膀胱炎の関連性—、仁田雅之、細見光一、藤本麻依、高田充隆	2014.6	医療薬学フォーラム2014 第14回クリニカルファーマシーシンポジウム(東京)	
(演題名) 日米の有害事象自発報告データベースを用いたSMQ分類による有害事象別性差の解析、乗本賀世、細見光一、藤本麻依、高田充隆	2014.6	医療薬学フォーラム2014 第14回クリニカルファーマシーシンポジウム(東京)	
(演題名) PMDA医療品副作用データベースを用いた安全性シグナルの解析—横紋筋融解症、悪性症候群、アナフィラキシー反応、スティブンス・ジョンソン症候群、中毒表皮壊死症-、増井怜香、細見光一、藤本麻依、高田充隆	2014.6	医療薬学フォーラム2014 第14回クリニカルファーマシーシンポジウム(東京)	
(演題名) 処方せんデータベースを用いたスタチン系薬剤使用と睡眠障害・うつ症状の関連性について、高本真志、藤本麻依、細見光一、高田充隆	2014.8	生体機能と創薬シンポジウム2014(大阪)	
(演題名) アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬及びACE阻害薬によるがん発症リスクの検討、狩野汀、藤本麻依、細見光一、高田充隆	2014.8	生体機能と創薬シンポジウム2014(大阪)	
(演題名) 各種データベースを用いたスタチン系薬剤と膀胱がんとの関連性についての研究、樋口智也、藤本麻依、細見光一、高田充隆	2014.8	生体機能と創薬シンポジウム2014(大阪)	

(演題名) Association between statin use and cancers: Data mining of a spontaneous reporting database and a claim database, Mai Fujimoto, Tomoya Higuchi, Kouichi Hosomi, Mitsutaka Takada	2014.12	Pharmacology 2014 (ロンドン)
III 学会および社会における主な活動		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	年月日 平成21年～現在	概要 薬効薬理処方解析学並びにCBT対策講義の際、薬の化学構造式、一般名のシステムの講義を行い、応用力の涵養に努めている。また、実務実習事前学習では課題症例を用いて薬剤師に必要な知識・技能・態度に関するSGDを多く取り入れ、学生が問題解決型の思考の実習を行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2013年3月 2012年3月	プログラム学習による病態と処方解析（松山賢治編集）廣川SCIENTIFIC 疾患分解解析（松山賢治著）京都廣川書店	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2015/2/28、2014年2月15日、3月15日、5月10日、8月30日、2015年2月7日	私立大学情報教育協会においてアクティブラーニングの事例研究会を主宰して、教育方法の改善に寄与した。現役薬剤師を対象に、バイタルサインのチェックや血圧測定方法などに関する指導を行う「フィジカルアセスメント講習会」を5回開催した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成21年～現在	本学で実施されたOSCEやCBT実施に参画した。また、近隣の模擬患者の会を主催して、実務実習に参画してもらったり、OSCEに際して模擬患者として活動してもらう際の教育に尽力した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別		発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) プログラム学習による病態と処方解析	総括編集	2013年3月	廣川書店
SCIENTIFIC 疾患分解解析	編著	2012年3月	京都廣川書店
(論文) Stability of Polaprezinc-Containing Oral rinse and its clinical effectiveness against Radiotherapy -Induced Oral Mucositis.	共著	2013年3月	Jpn.J.Drug.Inform., 15 (3) 133-138
(論文) Evaluation of injectable generic drugs using thermogravimetry and the influence of d-mannitol on the stability of gabexate mesilate	共著	同 年7月	Intl. J. Pharm. Tech. July- 2012. Vol. 4. No. 2. 4549-4559
(論文) APPLICATION OF NEAR-INFRARED SPECTROSCOPY FOR EVALUATING GENERIC FORMULATIONS OF THE DRUG AMLODIPINE	共著	2013年10月	Intl. J. Pharm. Tech., 5, 5783-5792
2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名	
(演題名) 近赤外分光法による ロサルタンカリウム後発薬の 非破壊的試験と溶出試験の比較：大鳥 徹、下村 卓也、長井 紀章、松山 賢治	2014年7月	第17回日本医薬品情報学会総会・学術大会	
(演題名) Development of hemiacetal esterified New Quinolone to prevent chelation with metal containing drugs and to prevent pseudomembranous colitis:Kenji Matsuyama, Toru Otori, Atsushi Kawase, Masahiro Iwaki, Tetsutaro Kimachi and Yoshikazu Ishii	2014年10月	第29回日本薬物動態学会(JSSX) 第19回国際薬物動態学会(ISSX)北米年会合同年会でポスター発表	
III 学会および社会における主な活動			
平成20年～現在	日本医薬品情報学会評議員		
平成21年～現在	私立大学情報教育協会薬学委員長		
平成23年～現在	厚生労働省薬剤師国家試験委員		
平成24年～現在	日本在宅医療薬学会理事		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成18年～現在	薬局薬剤師での「在宅医療」、「セルフメディケーション」や病院薬剤師での「病棟常駐化」など、医療現場での話題も随時授業に取り上げるとともに、病院・薬局薬剤師以外のMRや治験業務、卸管理薬剤師といった各職能について、授業項目と関連づけて講義と解説を行った。授業のポイントは、パワーポイントや書画カメラを随時用いて提示するとともに、重要項目等はアニメーション機能を使い、教科書あるいは配布資料に書き込みを意識して行わせた。授業スピード、声の大きさ、話し方等は例年通り、分かりやすい授業と評価を受けた。また、ほぼ毎回、授業のうち15～20分程度の時間をかけて、復習の意図を兼ねたQBT問題、国家試験過去問題を中心とした要点確認問題を課し、その解説を加えることで学生から好評を得た。授業評価はいずれの項目も平均値をすべて上回る良好な評価を得た。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成25年3月 平成21年8月	・新しい衛生薬学 第7版 4刷 (小野崎菊夫、河村典久ほか共著:廣川書店) ・グラフィックガイド薬剤師の技能 理論まるごと実践へ (高田充隆、荒川行生ほか共著:京都廣川書店)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成25年7月	第21回クリニカルファーマシー・シンポジウムにおいて、「薬剤師の在宅医療参画に関する薬学部生の意識～実務実習前及び実習中の在宅医療体験による相違～」のタイトルで発表を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成20年～現在	本学で実施されたOSCE実施に参画した。平成18年より実務実習指導薬剤師養成ワークショップのタスクフォースおよび模擬患者の会担当教員のほか、平成20年からは医学部との医薬連携教育プログラムでの担当教員を務めている。また、平成24年より病院・薬局実習実習近畿地区調整機構の大学委員として、その任を果たしている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 新しい衛生薬学 第7版 4刷	共著	平成25年3月	廣川書店
(著書) グラフィックガイド薬剤師の技能 理論まるごと実践へ	共著	平成21年8月	京都廣川書店
(論文) 北小路学、李 薫香：薬局薬剤師の在宅医療に対する意識調査	共著	平成25年5月	医学と生物学157, 713-718(2013)
(論文) 北小路学、石渡俊二：静注用脂肪乳剤の過酸化脂質生成に影響を与える因子	共著	同 年4月	医学と生物学157, 334-337(2013)
(論文) 北小路学、李 薫香、高田充隆：薬局薬剤師による在宅医療への参画について～アンケート調査から見えてくるもの～	共著	平成24年7月	大阪府薬雑誌63(7) 20-23(2012)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 薬剤師の在宅医療参画に関する薬学部生の実務実習を通しての意識変化：北小路 学、長樂寿子、堀野智美、大和幹枝、高田充隆、大鳥徹、松野純男、松山賢治		平成26年11月	第8回日本薬学会学術総会(広島)
(演題名) オゾンガスによる抗がん剤除去効果の検討：村田龍亮、石渡俊二、梶本麻美、福田由之、北小路 学、井上知美、松山賢治、小竹 武		平成26年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都)
(演題名) 土壌に含まれる放射性セシウム溶出法の検討：石渡俊二、多賀淳、緒方文彦、北小路 学、山西弘城、稻垣昌代、伊藤哲夫	同上	同上	
(演題名) 災害時支援医薬品供給管理システムの構築：加藤 寛、北小路 学、石渡俊二、安藤和佳子、安達秀樹、鵜山泰詳、櫻田ゆかり、井上知美、松山賢治、小竹 武		平成26年9月	第24回日本医療薬学会(名古屋)
(演題名) 災害時欠乏が予想される医薬品の抽出～平常時から災害時を予測する～：北小路 学、加藤 寛、櫻田ゆかり、鵜山泰詳、石渡俊二		平成26年3月	日本薬学会第134年会(熊本)
III 学会および社会における主な活動			
平成17年4月～現在	社会福祉法人「正真会」評議員		
平成21年4月～現在	近畿大学学園教職員互助会理事		
平成25年4月～現在	日本腎臓病薬物療法学会誌 査読委員		
平成26年4月～現在	社会薬学会学会誌 査読委員		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表(評価対象年度のみ)」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成19年～現在	国家試験並びにCBT対策講義の際、携帯電話試験システムにより学生の講義理解度をリアルタイムで把握し、理解度の悪い部分の反復指導と補足説明を行っている。実務実習事前学習では課題症例を用いて薬剤師に必要な知識・技能・態度に関するSGDを多く取り入れ、学生が問題解決型の思考の実習を行って
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年3月	プログラム学習による病態と処方解析（松山賢治編集）廣川書店
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2014年2月15日、3月15日、5月10日、8月30日、2015年2月7日	現役薬剤師を対象に、バイタルサインのチェックや血圧測定方法などに関する指導を行う「フィジカルアセスメント講習会」を5回開催した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成19年～現在	本学で実施されたOSCE実施に参画した。また、「CBT」を初め、本学で実施された共用試験ならびに実務実習に関する説明会を開催した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
(著書) プログラム学習による病態と処方解析		共著	2013年3月
(論文) 池西政幸 林口剛泰 佐野雅俊 上田睦明 樽野陽亮 大鳥徹 松山賢治 澤田康文 中塚英太郎：癌化学療法施行中のてんかん患者においてカベシタビン投与により血清中フェニトイン濃度が持続的に上昇した一症例		共著	2011年4月
(論文) 大鳥 徹 村上悦子 松山賢治；薬学コミュニケーション教育におけるフィジカルアフィギアの活用		共著	2012年3月
(論文) Toru Otori, Sumio Matzno, Masahiro Hyodo, Sara Sugimoto, Takayoshi Kimura, Kenji Matsuyama : Evaluation of injectable generic drugs using thermogravimetry and the influence of d-mannitol on the stability of gabexate mesilate		共著	同 年7月
(論文) Toru Otori*, Yoshiyuki Hashimoto, William Figoni, Kenji Matsuyama : APPLICATION OF NEAR-INFRARED SPECTROSCOPY FOR EVALUATING GENERIC FORMULATIONS OF THE DRUG AMLODIPINE		共著	2013年10月
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 近赤外分光法によるロサルタンカリウム後発薬の非破壊的試験と溶出試験の比較：大鳥 徹、下村 卓也、長井 紀章、松山 賢治		2014年7月	第17回日本医薬品情報学会総会・学術大会
(演題名) Development of hemiacetal esterified New Quinolone to prevent chelation with metal containing drugs and to prevent pseudomembranous colitis:Kenji Matsuyama, Toru Otori, Atsushi Kawase, Masahiro Iwaki, Tetsutaro Kimachi and Yoshikazu Ishi		2014年10月	第29回日本薬物動態学会(JSSX) 第19回国際薬物動態学会(ISSX)北米年会合同年会
III 学会および社会における主な活動			
平成20年～現在	奈良県薬剤師会実務実習連絡会		
平成20年～現在	奈良県病院薬剤師会実務実習連絡会		
平成20年～平成22年	薬学教育協議会病院・薬局実務実習近畿地区調整機構実務実習記録ワーキング		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成22年～現在	総合薬学演習1Aでは臨床薬学の導入に際する振り返りを行うきっかけとなるように授業ごとの課題提出を必須とした。臨床薬物動態学では臨床領域の国家試験に関連する内容を含めた授業を実施した。評価は3.5～4.0であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23年6月	Applied臨床薬物動態学 —有効・安全な薬物治療と投与計画— 岩城正宏ら編著, 2013年, 京都廣川書店
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成26年8月	知識型学習内容(患者問題解決能力)におけるICTを活用したPBL,TBL形式教育の効果, ICT利用による教育改善研究発表会(公益社団法人私立大学情報教育協会主催)
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成22年～現在	実務実習委員長および近畿地区調整機構委員として実務実習実施に關わる業務を遂行し、OSCEにおいては、ST責任者、CBTは導入部分監督者として薬学共用試験の実施の役割を担っている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) Applied臨床薬物動態学 —有効・安全な 薬物治療と投与計画—	共著	平成23年6月	京都廣川書店
(論文) 長井 紀章, 緒方 文彦, 塚本 あゆみ, 林 友典, 西浦 早織, 松岡 寛, 小竹 武, 川崎 直人, 伊藤 吉将 : デキストリン併用投与がクレメジン細 粒経管投与時の低回収率およびチューブ詰まりに 与える影響	共著	平成26年4月	薬局薬学, 6: 22-27
(論文) 井上 知美, 石渡 俊二, 野々木 宏, 小竹 武 : 薬学部における一次救命処置講習導入 と教育効果	共著	in press平成26年	臨床シミュレーション研究
(論文) 井上 知美, 高田 幸千子, 横山 広行, 大 西 純子, 嘉田 晃子, 米本 尚裕, 小竹 武, 野々 木 宏 : 心肺蘇生講習会実施による病院職員の救 命意識の変化。	共著	平成24年6月	日本臨床救急医学会雑誌, 15: 401-407
(論文) 大鳥徹, 村上悦子, 北小路学, 細見光一, 井上知美, 小竹武, 高田充隆, 松山賢治 : 6年制長 期実務実習第1期、第2期に關する学生アンケート 調査Customer Satisfaction(CS)分析により抽出さ れた改善項目	共著	平成23年4月	日本ファーマシューティカルコ ミュニケーション学会会誌, 9: 17-26
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名	
(演題名) 救急に論じる薬剤師養成コースの推進 : 窪田 愛恵, 高橋 直子, 高 木 祐美子, 竹内 あづさ, 井上 知美, 小竹 武, 木下 理恵, 田口博一, 西内 辰也, 平出 敦	平成26年11月	日本プライマリ・ケア連合学会第 28回近畿地方会(大阪)	
(演題名) 当薬局における抗精神病薬の時系列使用変遷の解析 : 伴 信人, 前田 栄子, 中島 礼子, 細川 かおる, 坂本 紀夫, 新井 邦彦, 岡本 韶也, 井上 知美, 石渡 俊二, 小竹 武	平成26年10月	第47回日本薬剤師会学術大会(山 形)	
(演題名) 保険薬局医療従事者の認知症研修会の有用性について : 坂本 紀 夫, 新井 邦彦, 清水 俊希, 井上 知美, 石渡 俊二, 小竹 武, 島田 由佳, 神原 明夫, 長谷川 肇, 田齋 秀章, 増田 修也	同上	同上	
(演題名) 当薬局における抗アレルギー薬の使用変遷と季節性ニーズの解 析 : 中島 礼子, 森川 友紀子, 八木 亮平, 細川 かおる, 伴 信人, 坂本 紀夫, 新井 邦彦, 波多 孝次郎, 井上 知美, 石渡 俊二, 小竹 武	同上	同上	
(演題名) ステロイド(ヒドロコルチゾンコハク酸エステナルトリウム)バ ルス療法の糖代謝・電解質異常リスク要因の解析 : 児玉 曜人, 吉野 新太 郎, 岩田 智津子, 高橋 文香, 八尾 祥子, 森 信介, 小竹 武	平成26年9月	第24回日本医療薬学会年会(名古 屋)	
(演題名) 災害時支援医薬品供給管理システムの構築 : 加藤 寛, 北小路 学, 石渡 俊二, 安藤 和佳子, 安達 秀樹, 鵜山 泰詳, 櫻田 ゆかり, 井上 知美, 松山 賢治, 小竹 武	同上	同上	
(演題名) 抗がん剤汚染防止用「もれま栓キャップ」の開発 : 石渡 俊二, 多賀 淳, 藤田 秀樹, 井上 知美, 小竹 武, 長谷川 満	同上	同上	
(演題名) 救急医療におけるトレーニングシミュレーションの今後 将來の 救急認定薬剤師養成にむけて~薬学部学生への一次救命処置トレーニングに ついて~ : 井上 知美, 八重樫 栄穂, 木島 彩, 富田 ゆり絵, 小竹 武, 野々木 宏	平成26年8月	第17回日本脳低温療法学会(静岡)	

III 学会および社会における主な活動	
平成26年～現在	大阪府登録販売者試験委員
平成26年～現在	大阪府薬学生実務実習受入対策委員
平成23年～現在	近畿地区調整機構委員
平成23年～現在	ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当委員
平成22年～現在	薬剤師国家試験問題検討委員実務部会

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成18年～現在	授業に演習形式を取り入れることで、実践的な能力を高めるように配慮してきた。授業評価も4程度と概ね良好であり、平均を上回っている。実習では新たな新たな教科書と教材を作成し、その成果はOSCEの良好な結果に表れている。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成19年 平成19年	グラフィックガイド薬剤師の技能－理論まるごと実践－ 京都廣川書店 共著 抗がん剤調製トレーニングキット”LUPHTEK(ルフテック)” 株式会社ルミカ 共同開発
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			化学発光を利用した注射剤混合調製トレーニングシステムの実習への応用性の検討 石渡俊二ほか、日本病院薬剤師会雑誌 48, 189-192 (2012)
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成18年～現在	本学で行われているOSCEおよびCBTに参加してきた。独自に実習用の教材などを開発しており、1年生を対象とした自校学習でも紹介してきた。また、FDにも可能な限り参加している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) 石渡俊二、多賀淳、藤田秀樹、品川隆		共著	平成25年5月
(論文) 北小路学、石渡俊二 静注用脂肪乳剤の過酸化脂質生成に影響を与える因子		共著	平成25年4月
(論文) 多賀淳、石渡俊二、藤田秀樹、西田升三、喜多綾子、杉浦麗子 注射剤調製時のバイアルからの漏液量測定法の確立と注射針形状の漏液量への影響		共著	平成24年6月
(論文) 森村毅、多賀淳、石渡俊二、緒方文彦 99%以上のセシウムを除去するゼオCa漆喰の開発および適用施設例		共著	平成24年12月
(論文) Ishiwata S, Taga A, Sano H, Kobayashi M, Nomiyama J, Harada S, Kita A, Takada M, Sugiura R Evaluation of brilliance and visibility of fluorescence and		共著	平成22年9月
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 抗がん剤汚染防止用「もれま栓キャップ」の開発：石渡俊二、多賀淳、藤田秀樹、井上知美、小竹武、長谷川満		平成26年9月	第24回日本医療薬学会年会
(演題名) 土壤に含まれる放射性セシウム溶出法の検討：石渡俊二、多賀淳、緒方文彦、北小路学、山西弘城、稻垣昌代、伊藤哲夫		平成26年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会
(演題名) オゾンガスによる抗がん剤除去効果の検討：村田龍亮、石渡俊二、梶本麻美、福田由之、北小路学、井上知美、松山賢治、小竹武		平成26年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会
(演題名) クラウド上に構築した災害時支援医薬品供給管理システム：北小路学、加藤寛、石渡俊二、安藤和佳子、安達秀樹、鵜山泰詳、櫻田ゆかり、井上知美、松山賢治、小竹武		平成27年2月	第20回日本集団災害医学会総会・学術集会
III 学会および社会における主な活動			
平成25年1月～現在	大阪赤十字病院治験審査委員会 外部評価委員		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表(評価対象年度のみ)」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成22年～現在	病院・薬局実務実習を実施する前に必要な知識を補充する目もあるため、実務実習事前学習で習得している内容の復習お臨床現場で必要な知識について補完できる講義内容とした。授業評価は3.6～4.2であった。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成26年8月	第17回日本脳低温療法学会 多職種シンポジウムにおいて、「将来の救急認定薬剤師養成にむけて～薬学部学生への一次救命処置トレーニングについて～」というタイトルで薬学部実施している実習について講演を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成22年～現在	学生全員が有意義に病院・薬局実務実習できるよう適切な実施設配置や指導を行った。円滑なOSCE実施が行えるよう事前当日の運営に従事した。学内FD研究集会に参加し、教育法の取り組んでいる。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 井上 知美、高田 幸千子、横山 広行、大西 純子、嘉田 晃子、米本 尚裕、小竹 武、野々木 宏：心肺蘇生講習会実施による病院職員の救命意識の変化。	共著	平成24年6月	日本臨床救急医学会雑誌；2012：15. 401-407
(論文) 大鳥 徹、村上 悅子、北小路 学、細見 光一、井上 知美、小竹 武、高田 充隆、松山 賢治：6年制長期実務実習第1期、第2期に関する学生アンケート調査 Customer Satisfaction(CS)分析により抽出された改善項目。	共著	平成23年11月	日本ファーマシューティカル コミュニケーション学会学会誌；2011：.28 (1) 17-26.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 救急に強い薬剤師養成コースの推進：窪田 愛恵、高橋 直子、高木 祐美子、竹内 あづさ、井上 知美、小竹 武、木下 理恵、田口博一、西内 辰也、平出 敦	共著	平成26年11月	日本プライマリ・ケア連合学会第28回近畿地方会（大阪）
(演題名) 保険薬局医療従事者の認知症研修会の有用性について：坂本 紀夫、新井 邦彦、清水 俊希、井上 知美、石渡 俊二、小竹 武、島田 由佳、神原 明夫、長谷川 肇、田齋 秀章、増田 修也	共著	平成26年10月	第47回日本薬剤師会学術大会（山形）
(演題名) 薬局における抗アレルギー薬の使用変遷と季節性ニーズの解析：中島 礼子、森川 友紀子、八木 亮平、細川 かおる、伴 信人、坂本 紀夫、新井 邦彦、波多 孝次朗、井上 知美、石渡 俊二、小竹 武	共著	平成26年10月	第47回日本薬剤師会学術大会（山形）
(演題名) 当薬局におけるピロリ除菌薬の使用状況と除菌効果の解析について：辰巳 和代、細川 かおる、中島 礼子、伴 信人、坂本 紀夫、新井 邦彦、成田 雄亮、井上 知美、石渡 俊二、小竹 武	共著	平成26年10月	第47回日本薬剤師会学術大会（山形）
(演題名) 当薬局における抗精神病薬の時系列使用変遷の解析：伴 信人、前田 栄子、中島 礼子、細川 かおる、坂本 紀夫、新井 邦彦、岡本 卓也、井上 知美、石渡 俊二、小竹 武	共著	平成26年10月	第47回日本薬剤師会学術大会（山形）
(演題名) 肝疾患における点滴静注用バンコマイシンモニタリング法の検証：酒井 果林、松尾 史、若林 巨樹、井上 知美、石渡 俊二、小竹 武、吉村 尋典	共著	平成26年9月	第24回日本医療薬学会年会（名古屋）
(演題名) 災害時支援医薬品供給管理システムの構築：加藤 寛、北小路 学、石渡 俊二、安藤 和佳子、安達 秀樹、鵜山 泰詳、櫻田 ゆかり、井上 知美、松山 賢治、小竹 武	共著	平成26年9月	第24回日本医療薬学会年会（名古屋）
(演題名) 将來の救急認定薬剤師養成にむけて～薬学部学生への一次救命処置トレーニングについて～：井上 知美、八重樫 栄穂、木島 彩、富田 ゆり絵、小竹 武、野々木 宏	共著	平成26年8月	第17回日本脳低温療法学会 多職種シンポジウム（静岡）

(演題名) 知識型学習内容（患者問題解決能力）における ICTを活用したPBL, TBL形式教育の効果 : 小竹 武、石渡 俊二、大島 徹、北小路 学、松山 賢治、藤本 麻依、細見 光一、高田 充隆、井上 知美	共著	平成26年8月	ICT利用による教育改善研究発表会（東京）
(演題名) 救急に強い薬剤師養成コースの開発 : 窪田 愛恵、田口 博一、西内 辰也、今村 武尊、木下 潤一、下田平 和子、橋本 英之、井上 知美、小竹 武、平出 敦	共著	平成26年5月	第17回日本臨床救急医学会総会・学術集会（栃木）
III 学会および社会における主な活動			
平成18年11月～現在	日本循環器学会 AHA BLS for Healthcare Provider Course コースディレクター		
平成24年9月～現在	ワールドハートデー連絡協議会 市民公開講座 講師		
平成22年12月～平成23年12月	大阪府立消防学校 救命救急士養成課程 講師		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	教育専門部門	職名 教授 氏名 中村 武夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成18年～現在	学生が理解しがたい法令内容について、条文をパワーポイントを用いて図解する等により工夫し、理解力向上を図った。また裁判例を用いて、薬剤師業務における法律の社会的意義について説明した。授業評価は3.5～3.9であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成21年3月 平成21年9月	早期体験学習ガイドブック改訂版(村田正弘編)ネオメディ裁判例から学ぶ!薬剤師と医療コミュニケーション(秋本義雄、鈴木政雄監修)薬ゼミファーマブック
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成19年11月	日本社会薬学会四国支部設立記念講演会シンポジウムにおいて「新しい薬学教育における早期体験学習の重要性」と題して講演した。また早期体験学習実施による成果について日本薬学会年会、日本薬剤師会学術大会、日本医療薬学会年会等で発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成25年4月～現在	日本私立薬科大学協会 薬剤師国家試験問題検討委員会(法規・制度・倫理部会)および薬学教育協議会 薬学と社会教科担当教員会議の各委員長を務めている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(著書) これからの中学生の社会薬学 改訂第2版		共著	平成25年3月
(著書) わかりやすい薬事関係法規・制度(第2)		共著	平成24年1月
(論文) T. Nakamura, T. Tamura: Indigo carmine removal by carbonaceous adsorbents from lees of Yuzu as agricultural by-		共著	平成25年6月
(論文) M. Takikawa, T. Nakamura, T. Tamura, Y. Kokubu, K. Kanayama: Awareness survey of teachers after the introduction of the cervical cancer vaccine onto the market.		共著	平成22年8月
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 中学生の喫煙および飲酒意識 : 中村武夫、伊藤栄次		平成26年11月	第61回日本学校保健学会学術大会(金沢)
(演題名) 小学生の喫煙および飲酒意識に対する学校薬剤師による教育効果 : 中村武夫、田村隆教		平成26年11月	第73回日本公衆衛生学会総会(宇都宮)
(演題名) 使用期限年数から見たデッドストック医薬品の再利用に関する検討 : 中村武夫、伊藤栄次、蒲谷亘、増井政昭、金井郷太郎、守屋大、増田信也		平成26年10月	第47回日本薬剤師会学術大会(山形)
(演題名) 薬学部1年生の災害支援・救援活動への参加意識について : 中村武夫、伊藤栄次、田村隆教		平成26年9月	第24回日本医療薬学会年会(名古屋)
(演題名) デッドストック医薬品の廃棄の現状 : 中村武夫、蒲谷亘、増田信也、増井政昭、金井郷太郎、守屋大、安部雅之、伊内秋夫		平成26年9月	日本社会薬学会第33年会(東京)
(演題名) 就学前児童の歯科口腔保健に対する薬剤師の役割に関する一考察 : 中村武夫、伊藤栄次、森口保香、谷村真美、伊内秋夫、		平成26年6月	医療薬学フォーラム2014(東京)
III 学会および社会における主な活動			
平成5年4月～平成24年12月	日本健康体力栄養学会 監事		
平成6年4月～現在	日本衛生学会 評議員		
平成15年4月～現在	日本栄養改善学会 評議員		
平成15年4月～現在	日本栄養改善学会近畿支部 幹事		
平成18年4月～現在	大阪府毒物劇物取扱者試験委員		
平成25年1月～現在	日本健康体力栄養学会誌 編集委員長		
平成25年4月～現在	日本私立薬科大学協会 薬剤師国家試験問題検討委員会(法規・制度・倫理部会) 委員長		
平成25年4月～現在	薬学教育協議会 薬学と社会教科担当教員会議 委員長		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表(評価対象年度のみ)」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧					
大学名	講座名	教育専門部門	職名 教授 氏名 伊藤 栄次		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成18年～現在	毎回の講義終了時に独自の授業評価アンケートをとり、その質問を次の講義の冒頭で説明した。講義では必要最低限のを配布した。教科書と配布資料をもとに板書中心に講義した学部共通の授業評価は、3.5～4.2であった。		
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23年4月	くすり、痛み、病気から薬学っていうものを考えた薬学概論(岩城正宏、安原智久 編)		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成21年～現在	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務指導者養成小委員会委員長として、認定実務実習指導薬剤師のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in 近畿を企画、開催し、認定実務実習指導薬剤師を養成に関わった。		
II 研究活動					
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称		
(著書) くすり、痛み、病気から薬学っていうものを考えた薬学概論	共著	平成23年4月	京都廣川書店		
(論文) 西脇敬二、川瀬篤史、和田哲幸、八木秀樹、川崎直人、伊藤栄次、岩城正宏：分野横断型講義におけるTeam-based Learning (TBL) について	共著	平成26年2月	薬学雑誌 vol. 134, 171-177 (2014)		
(論文) 安原智久、川崎直人、八木秀樹、伊藤栄次、川瀬篤史、大島徹、和田哲幸、松山賢治、岩城正宏：初年次における分野横断的統合型薬学教育の試み	共著	平成22年12月	薬学雑誌 vol. 130, 1647-1653, 2010		
(論文) Funakami Y, Itoh E, Hata T, Wada T, Ichida S: Effects of the α_1 -adrenoceptor agonist phenylephrine on SART stress-induced orthostatic hypotension in rats.	共著	平成22年10月	Biopsychosoc Med. 2010 Oct 12;4:13		
(論文) Funakami Y, Itoh E, Hata T, Wada T, Ichida S: Specific alteration of rhythm in temperature (SART) stress-induced irritable bowel syndrome-like changes in mice and effects of drugs	共著	平成22年9月	Biol Pharm Bull. 2010;33(9):1545-9.		
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名			
(演題名) 地域医療に貢献する薬剤師が救急医療を実践するための救急医療コース ～救急に強い薬剤師コースプロジェクトより～：高橋直子、窪田愛恵、伊藤栄次、植嶋利文、木下理恵、田口博一、西内辰也、平出敦	平成26年11月	第8回日本薬局学会学術総会(広島)			
(演題名) 早期体験学習(薬局見学)における薬剤師による学生評価－8年間のまとめと今後の課題－：伊藤栄次、中村武夫、松野純男、大内秀一、八軒浩子	平成26年11月	第17回近畿薬剤師学術大会(和歌山)			
(演題名) 薬剤師が救急医療を実践し地域医療に貢献するための救急医療コース ～救急に強い薬剤師コースプロジェクトより～	平成26年11月	第17回近畿薬剤師学術大会(和歌山)			
(演題名) ブレホスピタルを担う薬剤師養成のためのファーストエイドコース構築 ～救急に強い薬剤師養成コースプロジェクトより～：高橋直子、窪田愛恵、伊藤栄次、植嶋利文、木下理恵、田口博一、西内辰也、平出敦	平成26年10月	第47回日本薬剤師会学術大会(山形)			
(演題名) 使用期限年数から見たデッドストック医薬品の再利用に関する検討：中村武夫、伊藤栄次、蒲谷亘、増井政昭、金井郷太郎、守屋大、増田信也	平成26年10月	第47回日本薬剤師会学術大会(山形)			
III 学会および社会における主な活動					
平成5年4月～現在	日本薬理学会学術評議員				
平成22年4月～平成24年3月	日本薬剤師会代議員				
平成24年4月～現在	大阪府薬剤師会理事				
平成21年4月～現在	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導者養成小委員会委員長				

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表(評価対象年度のみ)」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	教育専門部門	職名 教授 氏名 松野 純男
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成23年～現在	統計学に関する講義では、Moodleを用いてレポート課題はオンライン提出を義務づけ、締切日まで繰り返し再提出可能とした。この際、随時コメントを返却し、レポートの不備を解説して再提出を促した。このようなフィードバックの繰り返しによって、学生は統計学に関する理解の深化が認められた。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23年9月 平成24年3月	「リアリスティック 統薬学複合問題」(京都廣川書店) 「SCIENTIFIC 疾患分解解析」(京都廣川書店)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成27年2月	私情協主催「薬学教育におけるアクティブ・ラーニングの事例研究」にてパネリストの一人として「学生の意識を高める統計学教育の試み」として事例報告を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成27年3月	近畿大学全学FD研究集会(3月11日)において、上記統計学に関する事例研究の一部が紹介される予定である。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(著書) PRACTICAL薬学統計解析		単著	平成23年8月
(著書) 医療系のための実践的基礎統計学		共著	平成25年3月
(著書) 薬学領域の放射科学		共著	平成27年3月
(論文) アンケートと唾液中ストレスマーカーによる鍼灸整骨施術効果定量化の試み：松野純男、池田智絵、渡邊一臣、中村良平、高松花絵、萩中淳、松山賢治		共著	平成26年5月
(論文) Fingolimod (FTY720) stimulates Ca ²⁺ /calcineurin signaling in fission yeast : Hagihara K, Kita A, Mizukura A, Yao M, Kitai Y, Kunoh T, Masuko T, Matzno S, Chiba K, Sugiura R		共著	平成25年12月
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) プロ野球の応援歌が及ぼす生理的・心理的影响：岩本まみ、松野純男、長谷川裕紀、竹原直美、青木智美、吉里瞳子、松本佳久子、一ノ瀬智子		平成26年6月	第26回音楽の科学研究会(西宮)
(演題名) 音楽と映像の相乗効果が気分と印象に与える影響：松野純男、向畠美菜、竹原直美、松本佳久子、一ノ瀬智子、長谷川裕紀		平成26年9月	第14回 日本音楽療法学会学術大会(名古屋)
(演題名) 3Dプリントと3Dディスプレイによる医薬品立体構造の理解向上の試み：中谷明嗣、松野純男、大星直樹		平成27年2月	日本e-Learning学会第17回学術講演会(東京)
III 学会および社会における主な活動			
平成24年7月～現在	NPO法人薬学共用試験センター	システム検討委員会副委員長(2006年より委員)	
平成24年7月～現在	NPO法人薬学共用試験センター	運営委員会委員	
平成21年4月～現在	公益社団法人私立大学情報教育協会	薬学教育FD/ICT活用研究委員会委員	

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表(評価対象年度のみ)」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧					
大学名	講座名	教育専門部門	職名		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成25年～現在	基本的な項目を中心に学生の理解度を確認しながら行うように心掛けている。講義は、学生自身が講義ノートを作り易いように板書を工夫している。また、大きな単元ごとに独自の問題プリントを配布し、問題を解く演習形式の時間を増やして知識の定着を図っている。授業評価は3.8～4.3(5.0点満点)であった。		
2 作成した教科書、教材、参考書		平成25年～現在	1年生で行っている早期体験実習の「早期体験実習報告書近畿大学薬学部」を毎年度作成している。 5年生の成績下位者の基礎学力維持のために行っている「チーム基盤型学習」の教材(課題プリント)を毎年度作成している。 6年生の問題解決力を伸ばすための「複合型学習」の教材(パワーポイント資料)を毎年度作成している。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成25年11月 平成26年7月	薬学部・薬学研究科FD研修会(近畿大学薬学部FD委員会・薬学研究科FD委員会主催)以下のタイトルで講演を行った。 「学習者中心の大学教育～アクティブラーニング～」「学生が主体的学びに向かう教学改革」		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成25年～現在 平成26年11月 平成26年10月 平成26年～現在	近畿大学全学FD研究集会の全て「グローバル人材の育成と大学の課題(平成25年8月)」、「近畿大学の研究力の現状把握と将来計画(平成26年3月)」、「研究者の行動規範(平成26年7月)」に参加。 関西地区FD連絡協議会事業「学生主体の学びと深い理解を引き起こすジグソーラーニングの原理と実際」に参加。 CITI Japan プロジェクト eラーニング「薬学部コース(2014)」修了。 4年生のCBT対策責任者として、成績不振者のためのCBT特別補講を(問題が解けるようになるまで)行っている。		
II 研究活動					
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称		
(著書) 薬剤師の強化書 これからはじめるIT活用術	共著	平成21年12月	南山堂		
(論文) H. Nishikawa, T. Noshita, A. Tai, H. Ouchi, T. Okamoto, A. Saito, T. Yamada, A. Iomori, N. Ishimata, Syntheses and biological activities of the proposed structure of apteniol A and its derivatives.	共著	平成26年9月	Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, vol. 78 (9), 1485-1489 (2014)		
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名			
(演題名) 早期体験学習(薬局見学)における薬剤師による学生評価-8年間のまとめと今後の課題ー:伊藤栄次、中村武夫、松野純男、大内秀一、八軒浩子	平成26年11月	第17回近畿薬剤師学術大会 (和歌山)			
(演題名) Hindsiiilacton A の合成研究:野下俊郎、曾田綾乃、西川輝、大内秀一	平成27年1月	日本農芸化学会中四国支部第41回講演会(山口)			
(演題名) テキストマイニングによる早期体験学習レポートの年度変化の解析:松野純男、八軒浩子、伊藤栄次、中村武夫、大内秀一	平成27年3月	日本薬学会第135年会(兵庫)			
(演題名) 人命救助意識の向上を指向した早期体験学習の教育効果:八軒浩子、伊藤栄次、松野純男、大内秀一、中村武夫	平成27年3月	日本薬学会第135年会(兵庫)			
III 学会および社会における主な活動					
平成2年12月～現在	日本薬学会会員				
平成15年1月～現在	有機合成化学協会会員				
平成18年4月～現在	薬学教育協議会 有機化学系教科担当教員会議委員				
平成18年4月～平成25年3月	日本私立薬科大学協会・薬剤師国家試験問題検討委員会 基礎薬学部会委員				
平成26年4月～現在	IDE大学協会会員				

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表(評価対象年度のみ)」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	教育専門部門	職名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成26年～現在	(経営学部) 図や画像を多く取り入れた教材プリントを配布し、講義内容をできるだけ平易に説明した。授業評価は3.3～4.0であった。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成19年～現在	本学での実務実習および模擬患者の会の準備などを行った。本学で実施された共用試験およびトライアルに参加した。他大学で実施されたOSCEに評価者として参加した。本学で実施された早期体験学習に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 細見光一、藤本麻依、八軒浩子、炭床啓太、高田充隆：米国有害事象自発報告(FAERS)を用いたアスピリンおよび併用薬の消化管傷害に関する解析	共著	2014年2月	医薬品情報学、2014；15, 147-154.
(論文) Hiroko Hachiken, Ai Murai, Kyoichi Wada, Takeshi Kuwahara, Kouichi Hosomi and Mitsutaka Takada: Difference between the frequencies of antisecretory drug prescriptions in users of buffered versus	共著	2013年3月	International Journal of Clinical Pharmacology and Therapeutics, 2013；51, 807-815.
(論文) 八軒浩子、松岡有紗、村井亜衣、木下佐昌子、高田充隆：医療薬学研究のテキストマイニングによる計量的分析～「医療薬学」と「日本病院薬剤師会雑誌」の比較～。	共著	2012年2月	医薬品情報学、2012；13, 152-159.
(論文) 後藤佐昌子、八軒浩子、高田充隆：医療薬学研究の変遷に関する計量的分析。	共著	2011年1月	医療薬学、2011；37, 21-30.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 人命救助意識の向上を志向した早期体験の教育効果：八軒浩子、伊藤栄次、松野純男、大内秀一、中村武夫。		2015年3月	日本薬学会第135年会
(演題名) テキストマイニングによる早期体験学習レポートの年度変化の解析：松野純男、八軒浩子、伊藤栄次、中村武夫、大内秀一。		2015年3月	日本薬学会第135年会
III 学会および社会における主な活動			
日本薬学会			
日本医療薬学会			
日本医薬品情報学会			

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表(評価対象年度のみ)」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧					
大学名	講座名	職名	氏名		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成26年4月	薬学部1, 2年生の英語クラス編成の改善： 入学時ブレイスメントテストの習熟度を基に、全クラスの 均等レベルクラス編成を実施し、同時に協同學習を導入。 Team Based Cooperative Learningを全英語クラスで実施した。		
2 作成した教科書、教材、参考書			なし		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成26年7月	医薬系学部の教育と評価 薬学部、医学部におけるVELCテストの導入と教育評価について (英語運用能力測定評価研究会：東京 日本教育会館にて)		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成26年1月 平成26年7月 平成26年3月 平成26年3月	薬学部、医学部における英語教育策定 医学部2015年度からの新カリキュラムの英語カリキュラム作成 薬学部医療薬学科新カリキュラム 英語教育カリキュラム作成 大学院英語教育におけるTOEFLを軸にした英語力向上案策定		
II 研究活動					
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)		
「英語運用能力テストの英語教育への貢献」		単著	平成26年11月		
「国際共通語としての英語の再定義」		単著	平成25年7月		
「大学における学力低下の背景：日米比較」		単著	平成24年11月		
「学習言語能力CALPの重要性」		単著	同 年7月		
「国際補助語としてのグローバリッシュの可能性」		単著	平成23年3月		
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月			
(演題名) 「英語学習の外側：日本の英語学習・教育の外側」		平成26年5月			
III 学会および社会における主な活動					
平成20年～現在に至る	神戸英語教育学会 理事、(平成23年より副会長)				
平成15年～現在に至る	Help Nepal Association Japan 顧問				

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表(評価対象年度のみ)」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	近畿大学	講座名	教養基礎教育 英語
職名	准教授	氏名	ウィリアム・フィゴーニ
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年4月～現在に至る	オーラルコミュニケーションは、演習、双方向、協同学習型の授業である「聞く話す」を中心、ペア、グループワークを通して会話表現や語彙を習得する。また、学生オリジナルの会話の作成、発表、多読教育の課題学習を行い、授業評価も高得点を得ている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成24年4月 平成23年2月 平成22年2月 平成21年2月	Insights 2012 (Figoni, 深山他) 金星堂 Insights 2011 (Figoni, 深山他) 金星堂 Insights 2010 (Figoni, 深山他) 金星堂 Insights 2009 (Figoni, 深山他) 金星堂	
3 教育方法・教育実践に関する発表、	平成25年5月 平成24年10月	Implementing content-based instruction (ESP) in an EFL course by combining a graded reader with the film Apolo 13. The 17th STEM International Conference Seoul, Korea What do your students really think of their classes?JALT	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	H24.4～25.3 H24.4～26.3 H24.4～現在 H25.4～現在	入試問題作成委員 医学部英語を担当、医学部ネイティブ教員のコーディネーター 薬学教員、大学院生の学会発表、論文作成の英語指導校正 薬学部ホームページ作成委員	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
University Technology student's integrative motivation	共著	平成26年4月	Journal of Osaka Univ. of Economics 65
Implementing content-based ESP instruction in ESL course	共著	平成25年5月	STEM Journal, 14(2), 23-24
Using a class evaluation instrument	共著	平成24年10月	Jouranal of Osaka Univ. of Economics 62(5)
Making and testing an EFL class evaluation survey	共著	平成23年10月	Journal of Osaka Univ. of Economics 65(2)
Student Motivation	共著	平成22年10月	Journal of Osaka Univ. of Economics 61(4)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名	
What do your students really think of their classes?	平成25年5月	JALT 北海道語学教育研究会	
Creating, developing, and applying an EFL class evaluation survey	平成25年10月	第11回JALT学会	
III 学会および社会における主な活動			
平成20年9月～平成26年4月	JALT 学会Professional Administration Language and Education部会 会計		
平成7年より現在に至る	武術太極拳の公民館での指導、地域貢献		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表(評価対象年度のみ)」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成18年～現在	学生の理解度を高めるために液晶プロジェクターを駆使した講義を行い、呈示内容はすべてコピー配布した。立体的にして興味ある薬学教育を行うために、生薬の標本の提示や漢方湯液の試飲を行った。授業評価4前後であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成21年2月	大観漢方生薬学—生薬のパノラマ的解析から漢方医療の実際面への応用— (松田秀秋(編・著)、京都廣川書店)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成24年11月	“近畿大学薬学部における薬学教育の中での漢方教育について”、漢方と最新治療誌にリレー寄稿した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成20年～現在	本学で開催された教育関係のFDに毎回参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可) 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 総天然色 世界の漢方生薬画譜—漢方生薬の一生を追って—		編集・共著	平成23年8月 京都廣川書店
(著書) Melanoma—From Early Detection to Treatment		共著	平成23年9月 InTech
(論文) Murata K., Abe Y., Futamura-Masuda M., Uwaya A., Isami F., Deng S., Matsuda H. : Effect of Morinda citrifolia fruit extract and its iridoid glycosides on blood fluidity		共著	平成26年4月 J. Nat. Med., 68, 498–504 (2014)
(論文) Murata K., Noguchi K., Kondo M., Onishi M., Watanabe N., Okamura K., Matsuda H. : Promotion of Hair Growth by Rosmarinus officinalis Leaf Extract		共著	平成25年8月 Phytotherapy Research, 27, 212–217 (2013)
(論文) Murata K., Noguchi K., Kondo M., Onishi M., Watanabe N., Okamura K., Matsuda H. : Inhibitory activities of Puerariae Flos against testosterone 5 α -reductase and its hair growth promotion activities		共著	平成24年4月 J. Nat. Med., 66, 158–165 (2012)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 吉田朋香, 上野義弘, 田中佳苗, 村田和也, 松田秀秋, 吉岡百合、松村晋一：線香の抗認知症作用に関する研究 —Acetylcholinesterase 阻害作用について—		平成26年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都)
(演題名) 安楽拓哉, 村田和也, 二村(増田)めぐみ, 本田麻美, 本田俊一, 松田秀秋：歯周病に起因する口臭の予防・治療素材の探索研究—升麻—		同上	同上
(演題名) 出口貴浩, 村田和也, 上野義弘, 古田朋香, 松村晋一, 東野正行, 松田秀秋：インド産薬用資源・インドキノの血液レオロジー改善作用		平成26年9月	日本生薬学会第61回年会(福岡)
(演題名) 松田秀秋, 小野ゆうこ, 村田和也, 二村(増田)めぐみ, 得永裕美子, ○伊藤仁久, 文室政彦, 宇都宮直樹：柑橘類果実からの新規抗アレルギー作用素材の探索研究—シキキツについて		同上	同上
(演題名) 松田秀秋：漢方医学に学ぶ口臭治療素材の探索研究(基調講演)		平成26年7月	日本口臭学会第5回学術大会(大阪)
(演題名) 本田麻美, 松田秀秋, 樋口均也, 本田俊一：生理学的口臭症の治療におけるポータブル口臭ガス測定器の治療前後の精度評価について		同上	同上
(演題名) 安楽拓哉, 村田和也, 二村(増田)めぐみ, 本田麻美, 本田俊一, 松田秀秋：歯周病に起因する口臭の予防・治療素材の探索研究—升麻について—		同上	同上
III 学会および社会における主な活動			
平成18年～現在	日本生薬学会評議員		
平成18年～現在	日本口臭学会常任理事		
平成18年～現在	和漢医薬学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
近畿大学	薬用資源学研究室	助手	島倉 知里
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		～現在	実習講義内容をプロジェクトを用いて提示し学生の理解度を高めるように工夫しています。さらに、実習を終了した順に一人づつ若しくは少人数でディスカッションをおこない、実習内容の定着化をはかっています。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年改訂 ～現在 平成25年～現在	有機科学・生薬学実習実習書一生薬学分野編－基礎薬科学実習（薬用資源学分野）テキスト 創薬科学実習1（薬用資源学分野）テキスト
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成24年11月	『漢方と最新治療』誌の「薬学教育と漢方」の欄へ、近畿大学薬学部における薬学教育と漢方教育について、寄稿しました。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成21年～現在 平成24年～現在 ～現在	全学FD、薬学部FDおよび大学院FD研修会に参加しました。障がい学生支援講演会に、開始以来毎年参加しています。本学で開催される安全教育講演会、防災訓練、動物実験講演会、人権習慣講演会に参加しています。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2012年4月~	プリントの配布、随時板書、スライドを中心とした授業 授業評価はほぼ平均(3.5~4.0)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2012年	スタンダード薬学シリーズ4 生物系薬学III 生体防御 東京化学同人 増刷	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2012年~	本学CBT、本学および他大学のOSCEに参画	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Yoshikawa M, Tsuchihashi K, Ishimoto T, Yae T, Motohara T, Sugihara E, Onishi N, Masuko T, Yoshizawa K, Kawashiri S, Mukai M, Asoda S, Kawana H, Nakagawa T, Saya H and Nagano O: xCT inhibition depletes CD44v-expressing tumor cells that are resistant to EGFR-targeted therapy in head and neck squamous cell carcinoma.	共著	平成25年3月	Cancer Res 2013; 73: 1855-66.
(論文) Yae T, Ishimoto T, Nagano O, Tamada M, Oshima H, Oshima M, Masuko T, Shimizu T, Kai K, Takahashi E, Imamura Y, Baba Y, Ohmura M, Suematsu M, Baba H, Saya H. CD44 variant regulates redox status in cancer cells by stabilizing the xCT subunit of system xc- and thereby promotes tumor growth.	共著	平成24年6月	Nature Communications 2012; 19: 387-400.
(論文) Hara K, Okazaki S, Ohno Y, Tanaka T, Yagi H, Okazaki S, Kawahara R, Takechi M, Enomoto T, Hashimoto Y, Masuko K, Masuko T. NIH3T3 cells over-expressing CD98 heavy chain resist early G1 arrest and apoptosis induced by serum starvation.	共著	平成24年8月	Cancer Science 2012; 103: 1460-6.
(論文) Masuko K, Okazaki S, Satoh M, Tanaka G, Ikeda T, Torii R, Ueda E, Nakano T, Danbayashi M, Tsuruoka T, Ohno Y, Yagi H, Yabe N, Yoshida H, Tahara T, Kataoka S, Oshino T, Shindo T, Niwa S, Ishimoto T, Baba H, Hashimoto Y, Saya H, Masuko T.	共著	平成24年1月	PLoS ONE 2012; 7: 1-12.
(論文) Ishimoto T, Nagano O, Yae T, Tamada M, Oshima H, Oshima M, Ikeda T, Asaba R, Yagi H, Masuko T, Shimizu T, Kai K, Takahashi E, Imamura Y, Baba Y, Ohmura M, Suematsu M, Baba H, Saya H. CD44 variant regulates redox status in cancer cells by stabilizing the xCT subunit of system xc- and thereby promotes tumor growth.	共著	平成23年3月	Cancer Cell 2011; 19: 387-400.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名	
(演題名) Evaluation of diagnostic and therapeutic potential of monoclonal antibodies against CD98hc by the hybridoma transplantation strategy. Kazuma Terashima, Takuya Imaida, Shinya Abe, Shiho Ueda, Kouki Okita, Hideki Yagi, Takashi Masuko			

(演題名) Specificity of novel monoclonal antibodies recognizing CD44v8, v9 and v10 of CD44R1 in human epithelial cancers. Shiho Ueda, Ryo Tokiwa, Shogo Okazaki, Kouki Okita, Hideki Yagi, Toshiaki Yoshioka, Yasufumi Ohmori, Takashi Masuko		
(演題名) Anti-tumor effect of novel anti-HER3 rat monoclonal antibodies. Kouki Okita, Shinya Abe, Shiho Ueda, Hideki Yagi, Masahiro Inoue, Toshiaki Yoshioka, Yasufumi Ohmori, Dai Ogura, Shin-ichiro Niwa, Takashi Masuko		
(演題名) Anti-tumor effect of monoclonal antibodies against CD98hc-LAT1 molecular complex. Shinya Abe, Shiho Ueda, Kouki Okita, Hideki Yagi, Dai Ogura, Shin-ichiro Niwa, Takashi Masuko		第73回日本癌学会学術総会
(演題名) Differential expression of amino-acid transporters, adhesion molecules and oncogene products in human cancer cells revealed by novel monoclonal antibodies. Takuya Imaida, Kazuma Terashima, Shinya Abe, Ryo Tokiwa, Shiho Ueda, Kouki Okita, Shogo Okazaki, Hideki Yagi, Takashi Masuko	2014年9月	第73回日本癌学会学術総会（横浜）
III 学会および社会における主な活動		
2008年～	日本癌学会 評議員	
1998年～	基盤的癌免疫研究会 運営委員	
2010年～	日本癌免疫学会 評議員	
2014年～	日本癌免疫学会 監事	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	細胞生物学研究室	職名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成20年から現在	配布教材をMoodleに掲示し、学生の予習復習に役立てた。毎回小テストをMoodleにて実施し、理解の助けとした。講義後の質問に対応することで、理解しづらかったところを把握、次回講義に活用した。ノートを作成するように指示した。授業評価は4.1~4.5であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23年4月1日 平成23年4月5日 平成23年9月5日	くすり、痛み、病気から薬学っていうものを考えた薬学概論 (岩城正宏、安原智久編) 京都廣川 リアリストイック薬学複合問題 (編者、岩城正宏、斎藤浩司、灘井雅行) 京都廣川 リアリストイック 続 薬学複合問題 (編者、岩城正宏、斎藤浩司、灘井雅行) 京都廣川
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成20年から現在	本学で実施されたCBT実施に参画した。また、「OSCEトライアル」を初め、本学で実施された共用試験ならびに実務実習に関する説明会に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) S1P lyase in thymic perivascular spaces promotes egress of mature thymocytes via up-regulation of S1P receptor 1	共著	平成26年 5月	Int Immunol 26:245-55 (2014)
(論文) Involvement of intestinal intraepithelial lymphocytes in turnover of intestinal epithelial cells: morphological and functional alterations due to daily administration of FK506.	共著	平成24年 10月	Cell Immunol 279:124-133 (2012)
(論文) Kupffer cells support extramedullary erythropoiesis induced by nitrogen-containing bisphosphonate in splenectomized mice.	共著	平成23年 6月	Cell Immunol 271:197-204 (2011)
(論文) Towards therapeutic antibodies to membrane oncoproteins by a robust strategy using rats immunized with transfectants expressing target molecules fused to green fluorescent protein	共著	平成23年 1月	Cancer Sci 102: 25-35 (2011)
(論文) CD44 Variant Regulates Redox Status in Cancer Cells by Stabilizing the xCT Subunit of System xc- and Thereby Promotes Tumor Growth	共著	平成23年 3月	Cancer Cell, 19: 387-400 (2011)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 抗体薬品のシーズ創出を目指して		平成26年 8月	生体機能と創薬シンポジウム2014
(演題名) Kupffer cells support emergent erythropoiesis caused by nitrogen-containing bisphosphonate in splenectomized mice.		平成26年 6月	The 22nd International Symposium on Molecular Cell Biology of Macrophages
(演題名) Expression of mouse S1P3 receptor on dendritic cells and macrophages	同上		同上
(演題名) フローサイトメトリーを活用した新規抗マウスS1P5モノクローナル抗体の作製とその性状解析	同上		第24回日本サイトメトリー学会学術集会
(演題名) フローサイトメトリーを用いた新規抗マウスS1P3モノクローナル抗体の作製と性状解析	同上		同上
(演題名) マウスリンパ組織におけるSphingosine 1-phosphate lyase (SPL) の局在解析	同上		同上
(演題名) 各種sphingosine 1-phosphate (S1P) 受容体サブタイプに対するモノクローナル抗体を用いたS1P受容体の生体内分布の検索		平成26年 8月	生体機能と創薬シンポジウム2014
(演題名) S1P3受容体のマウス生体内分布 —新規抗マウスS1P3 monoclonal antibodyの作製—		平成26年 10月	第64回薬学会近畿支部総会・大会
(演題名) Expression of mouse sphingosine 1-phosphate receptor-3 (S1P3) receptor on dendritic cells and macrophage subset		平成26年 12月	第43回日本免疫学会学術集会
(演題名) Expression of S1P lyase (SPL) in mouse lymphoid tissue	同上		同上

III 学会および社会における主な活動	
平成24年4月～平成26年3月	日本サイトメトリー学会・評議員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	医薬品化学研究室	職名 教授 氏名 三木 康義
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24年4月～現在	創薬科学科（4年制）の1年生の有機化学を教えています。パワーポイントで作成した資料を配付し、毎回、小試験を行い学生の不得意な箇所間違いやすい箇所をピックアップしている。また、間違いやすい箇所を前任に認識させている。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成16年4月～平成26年4月	平成16年5月に発行した「創薬化学-有機合成からのアプローチ」を教科書として採用して、毎年学生が理解しにくい箇所を理解させるための補助のプリントを作成して、この教科書とプリントを有効利用して授業を行っている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特にありません。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成20年4月～現在	毎年、有機系教科担当教員会議に出席しています。本会議において、有機化学の考え方についての検討会に参加して、その内容を授業にフィードバックしています。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) T. Onaka, H. Umemoto, Y. Miki, A. Nakamura, T. Maegawa [Cu(OH)(TMEDA)] ₂ CI ₂ -catalyzed regioselective 2-arylation of 5-substituted tetrazoles with boronic acids under mild conditions.	共著	平成26年7月	J. Org. Chem. 2014, 79, 6703-6707.
(論文) Y. Miki, H. Umemoto, M. Dohshita, H. Hamamoto Synthesis of pyrrolophenanthridone alkaloid kalbretorine from indolecarboxylic acids via hypervalent iodine(III) mediated halodecarboxylation and reduction	共著	平成24年4月	Tetrahedron Lett., 2012, 53, 1924-1927.
(論文) H. Umemoto, M. Dohshita, H. Hamamoto, Y. Miki Simple synthesis of pratosine and hippadine by intramolecular palladium-catalyzed cyclization and decarboxylation.	共著	平成23年5月	Heterocycles, 2011, 83, 1111-1119.
(論文) H. Hamamoto, S. Hattori, K. Takemaru, Y. Miki Hypervalent iodine(III)-LiX combination in fluoroalcohol solvent for aromatic halogenation of electron-rich arenecarboxylic acids.	共著	同23年11月	Synlett, 2011, 1563-1566 .
(論文) H. Hamamoto, H. Umemoto, M. Umemoto, C. Ohta, M. Dohshita, Y. Miki Hypervalent iodine(III) mediated decarboxylative halogenation of indolecarboxylic acids for the synthesis of haloindole derivatives	共著	平成22年9月	Synlett, 2010, 2593-2596.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) インドール-2,3-ジカルボン酸メチルのヨウ素化および塩素化について 三木康義、牧野範子、平田有佳理、中村光、前川智弘		2014年 9月	第24回日仏精密化学会議（フランス、リヨン）
(演題名) インドール-2,3-ジカルボン酸メチルのヨウ素化および塩素化について 三木康義、牧野範子、平田有佳理、中村光、前川智弘		2014年 10月	第64回日本薬学会近畿支部大会（京都）
(演題名) 超原子価ヨウ素試薬を用いるケトオキシムのBeckmann転位について 前川智弘、大石嶽平、中村光、三木康義		2014年 10月	第64回日本薬学会近畿支部大会（京都）
(演題名) オキシムの超原子価ヨウ素試薬に対する反応性について 前川智弘、大石嶽平、加納穂嵩、中村光、三木康義		2014年 11月	第40回反応と合成の進歩シンポジウム（仙台）
(演題名) 2-Acylaminochalconeからのキノリン合成 前川智弘、中村光、三木康義		2015年 3月	
III 学会および社会における主な活動			
平成11年4月～平成27年3月	日本薬学会近畿支部委員		
平成20年4月～平成25年3月	有機系教科担当教員会議委員		
平成20年6月～平成26年10月	日本薬学会代議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	医薬品化学研究室	職名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成25年～現在	授業ではスライドを準備し、視覚的に分かりやすい内容のものを心がけた。また、授業の最後に確認問題を行い、その日の授業内容の復習をはかった。中間アンケートの結果を授業にフィードバックし、多くの学生が分かるように努めた。スライドはMoodleに掲示した。授業評価は3.5～4.0であった。
2 作成した教科書、教材、参考書			特になし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成25年～現在	本学で実施されたCBTならびにOSCE実施に参画した。また、本学および薬学部主催のFD講習会にも参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(著書) Fujioka, H.; Maegawa, T.: Triethylsilyl trifluoromethansulfonate (e-EROS Encyclopedia of Reagents for Organic Synthesis)	共著	2013年	John Wiley & Sons, Inc.
(論文) Maegawa, T.; Otake, K.; Hirosawa, K.; Goto, A.; Fujioka, H.: Method for the Efficient Synthesis of Highly-Substituted Oxetan- and Azetidin-, Dihydrofuran- and Pyrrolidin-3-ones and Its Application to the Synthesis of (±)-Pseudodeflectusin	共著	2012年6月	American Chemical Society
(論文) Fujioka, H.; Yahata, K.; Kubo, O.; Sawama, Y.; Hamada, T. Maegawa, T.: Reversing the Reactivity of Carbonyl Functions with Phosphonium Salts: Enantioselective Total Synthesis of (+)-Centrolobine	共著	2011年11月	John Wiley & Sons, Inc.
(論文) Fujioka, H.; Goto, A.; Otake, K.; Kubo, O.; Sawama, Y. Maegawa, T.: An unusual reaction of α -alkoxyphosphonium salts with Grignard reagents under an O ₂ atmosphere	共著	2011年8月	Royal Society of Chemistry
(論文) Maegawa, T.; Otake, K.; Goto, A.; Fujioka, H.: Direct conversion of acetals to esters with high regioselectivity via O,P-acetals	共著	2011年6月	Royal Society of Chemistry
2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名	
(演題名) インドールジカルボン酸ジメチルのハロゲン化反応における窒素上の置換基の影響について：前川智弘、平田有佳理、藤田絵美、牧野範子、中村光、濱本博三、三木康義	2014年8月	日本プロセス化学会2014サマーシンポジウム	
(演題名) BF ₃ ·Et ₂ O-MEDIATED QUINOLINE SYNTHESIS FROM Cbz-PROTECTED 2-AMINOCHALCONES: Tomohiro Maegawa, Yasuyoshi Miki	2014年9月	XXIII International Symposium on Medicinal Chemistry	
(演題名) 超原子価ヨウ素試薬を用いるケトキシムのBeckmann転位について：前川智弘、大石峻平、中村光、三木康義	2014年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会	
(演題名) インドール-2, 3-ジカルボン酸ジメチルのヨウ素化および塩素化について：三木康義、牧野範子、平田有佳理、中村光、前川智弘	2014年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会	
(演題名) オキシムの超原子価ヨウ素試薬に対する反応性について：前川智弘、大石峻平、加納穂嵩、中村光、三木康義	2014年11月	第40回反応と合成の進歩シンポジウム	
III 学会および社会における主な活動			
	特になし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	医薬品化学研究室	職名 助教 氏名 中村 光
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成26年～現在	生徒間で理解度に大きな差が生じないように、グループワーク中心の授業を行った。また簡単なアンケートを数回実施することにより、授業の難易度やベース配分などを調節するようにした。授業評価は3.5～4.0であった。
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) Kenichi Murai, Tomoyo Matsushita, Akira Nakamura, Hyogo Norimichi, Junki Nakajima, Hiromichi Fujioka: Kinetic Resolution of β -Substituted Olefinic Carboxylic Acids by Asymmetric Bromolactonization		共著	平成25年3月
(論文) Koji Morimoto, Yusuke Ohnishi, Akira Nakamura, Kazuma Sakamoto, Toshifumi Dohi, Yasuyuki Kita: N1-Selective Oxidative C-NCoupling of Azoles with Pyrroles Using a Hypervalent Iodine Reagent		共著	平成26年4月
(論文) Takuya Onaka, Hideaki Umemoto, Yasuyoshi Miki, Akira Nakamura, Tomohiro Maegawa: [Cu(OH)(TMEDA)] ₂ C12-Catalyzed Regioselective 2-Arylation of 5-Substituted Tetrazoles with Boronic Acids under Mild Conditions		共著	同 年6月
(論文) Takuya Onaka, Hideaki Umemoto, Yasuyoshi Miki, Akira Nakamura, Tomohiro Maegawa: The Reaction of 2-((Trimethylsilyl)methyl)-2H-tetrazoles with Aldehydes and Ketones in the Presence of 1,8-Diazabicyclo[5.4.0]undec-7-ene		共著	同 年10月
(論文) Hideaki Umemoto, Takuya Onaka, Yasuyoshi Miki, Akira Nakamura, Tomohiro Maegawa: Reactions of 2-[Lithio(trimethylsilyl)methyl]-2H-tetrazoles: Synthesis of 2-[1-(Trimethylsilyl)alkyl]-2H-tetrazoles and (2H-Tetrazol-2-yl)acetates		共著	平成27年1月
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) オキシムの超原子価ヨウ素試薬に対する反応性について：前川智弘、大石峻平、加納穂嵩、中村光、三木康義		平成26年11月	第40回反応と合成の進歩シンポジウム
(演題名) 銅触媒を用いたカップリング反応による高選択性の2,5-置換テトラゾール合成法の開発：中村光、前川智弘、三木康義、大中卓也、梅本英彰		平成27年3月	日本薬学会第135年会
III 学会および社会における主な活動			
		該当なし	

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表(評価対象年度のみ)」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成20年～現在	講義内容の要点をまとめたスライド資料を作成し、それに沿って講義を進めた。また、各回の講義資料と演習問題の解答はMoodleからダウンロードできるようにした。毎回の講義は、前回の復習から始め関連性がよくわかるようにした。 (授業評価 4前後)	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成20年7月 平成24年4月	インシリコ創薬科学-ゲノム情報から創薬へ- (藤井信孝、辻本豪三、奥野恭史編) 京都廣川書店 よくわかる物理化学 第4版 (中村和夫編) 廣川書店	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成20年10月～平成24年3月 平成24年9月～現在 平成25年4月～現在	平成24年度からの創薬科学科カリキュラム作成WGリーダー 薬学部教務委員長 全学FD支援ワーキンググループリーダー	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) T. Kosugi, I. Nakanishi, K. Kitaura: Binding free energy calculations of adenosine deaminase inhibitor and the effect of methyl substitution in inhibitors.	共著	2009年2月	J. Chem. Inf. Model., 49, 618-622.
(論文) Z. Hou, I. Nakanishi, T. Kinoshita, et al.: Structure-based design of novel potent protein kinase CK2 (CK2) inhibitors with phenyl-azole scaffolds.	共著	2012年2月	J. Med. Chem., 55, 2899-2903.
(論文) G. Tanabe, S. Nakamura, N. Tsutsui, I. Nakanishi et al.: In silico design, synthesis and evaluation of 3'-O-benzylated analogs of salacinol, a potent α-glucosidase inhibitor isolated from an Ayurvedic traditional medicine "Salacia".	共著	2012年6月	Chem. Commun., 48, 8646-8648.
(論文) T. Takeuchi, S. Ohishi, M. Kaneda, I. Nakanishi et al.: Kinesin spindle protein inhibitors with diaryl amine scaffolds: Crystal packing analysis for improved aqueous solubility.	共著	2014年3月	ACS Med. Chem. Lett., 5, 566-571.
(論文) D. G. Fedorov, N. Asada, I. Nakanishi, K. Kitaura: The use of many-body expansions and geometry optimizations in fragment-based methods.	共著	2014年8月	Acc. Chem. Res., 47, 2846-2856.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名	
(演題) タンパク質調整過程で結合したヒトCK2αリガンドのエントロピーを考慮した推定：櫻井淳史、中村真也、仲庭哲津子、関口雄介、曾我部祐里、木下誉富、仲西功	2014年3月	日本薬学会第134年会	
(演題) がん免疫療法のためのCOMBINE法を用いた高親和性ペプチド予測：中村真也、大村梨恵、仲西功	2014年3月	日本薬学会第134年会	
(演題) XO阻害活性を有するHydroxychavicolの結合様式推定と高活性化合物の探索：大東可苗、西脇敬二、中村真也、村田和也、松田秀秋、仲西功	2014年3月	日本薬学会第134年会	
(演題) Identification of protein kinase CK2 inhibitors by the solvent ordering virtual screening method. : I. Nakanishi, K. Murata, N. Nagata, et al.	2014年9月	ISMC/EFMC2014	
(演題) α-グルコシダーゼ阻害活性物質salacinolおよびその誘導体の血糖値上昇抑制活性：森川敏生、木内恵里、赤木淳二、二宮清文、田邊元三、仲西功、中村真也、吉川雅之、村岡修	2014年9月	日本生薬学会第61回年会	
(演題) Binding mode analysis of protein kinase CK2 inhibitors with a purine scaffold. : A. Sakurai, S. Nakamura, S. Taniguchi, I. Nakanishi, et al.	2014年10月	CBI Annual Meeting 2014	
(演題) アーユルベーダ天然薬物"サラシア"由来salacinolをシードとするα-グルコシダーゼ阻害剤のin silico設計、合成及びin vitro評価： 田邊元三、松田侑也、筒井望、森川敏生、赤木淳二、二宮清文、仲西功、中村真也、吉川雅之、村岡修	2014年11月	第20回 天然薬物の開発と応用シンポジウム	

(演題) スフィンゴシンキナーゼ阻害活性を有するJaspine B誘導体の構造活性相関研究：本田真歩、宮垣潤、吉光佑二、岩田顕、仲西功、他6名	2014年11月	第32回メディシナルケミストリーシンポジウム
(演題) 構造活性相関解析に基づくXO阻害剤Hydroxychavicolの結合様式推定：大東可苗、西脇敬二、中村真也、出口貴浩、村田和也、松田秀秋、仲西功	2014年11月	第32回メディシナルケミストリーシンポジウム
(演題) 結合自由エネルギーを指標としたProtein kinase CK2阻害剤のデザインと構造活性相関：中西伸介、岡田裕規、森脇寛智、仲西功、他6名	2014年11月	第37回情報化学討論会
III 学会および社会における主な活動		
平成15年4月～現在	日本薬学会構造活性相関部会幹事・常任幹事（2006年～）	
平成18年4月～現在	奈良県立奈良高等学校SSH運営委員	
平成24年4月～現在	日本薬学会近畿支部幹事	
平成26年12月～現在	科学研究費委員会専門委員	
平成27年2月～現在	日本薬学会代議員	

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			教科書を中心として、補足教材および演習問題を配布し、解答などをMoodleに掲示し、授業評価は3.0~4.0であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23年9月	リアリストイック 続薬学複合問題（京都廣川書店）岩城正宏・齊藤浩司・灘井雅行 編著
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成25年3月29日	西脇敬二、川瀬篤史、和田哲幸、八木秀樹、川崎直人、伊藤栄次、岩城正宏、「分野横断型講義におけるTBLについて」、日本薬学会第133年会(教育フォーラム)、横浜。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成20年～現在	本学で実施されたCBT実施に参画した。また、「OSCEトライアル」を初め、本学で実施された共用試験ならびに実務実習に関する説明会に参加した。また近畿圏内(鈴鹿医療科学技術大学を含む)のCBTにモニター員として、参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) リアリストイック 続薬学複合問題	共著	平成23年9月	京都廣川書店
(論文) Kouichi Matsumoto, Hayato Shimazaki, Yu Miyamoto, Kazuaki Shimada, Fumi Haga, Yuki Yamada, Hirotugu Miyazawa, Keiji Nishiwaki and Shigenori Kashimura, Simple and Convenient Synthesis of Esters from Carboxylic Acids and Alkyl Halides Using Tetrabutylammonium Fluoride.	共著	平成26年5月	J. Oleo. Sci., 63 (5), 5395 - 44 (2014)
(論文) 西脇敬二、川瀬篤史、和田哲幸、八木秀樹、川崎直人、伊藤栄次、岩城正宏、分野横断型講義におけるTeam-based Learning (TBL) について。	共著	平成26年2月	薬学雑誌, 134 (2), 171-177 (2014).
(論文) Keizo Matsuo, Junko Hikita, Keiji Nishiwaki, Synthesis of (R)-(+)-tanikolide, a toxic and antifungal δ -lactone from the marine cyanobacterium Lyngbya majuscula.	共著	平成23年11月	Heterocycles, 83 (11), 2601-2605 (2011).
2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名	
(演題名) Binding pose prediction of Xantine oxidase inhibitor hydroxychavicol and drug design of its analogues. Keiji Nishiwaki, Kanae Ohigashi, Shinya Nakamura, Kazuya Murata, Hideaki Matsuda, Isao Nakanishi. 2014. 9. 7-11, Lisbon (Portugal).	平成26年9月	International Symposium on Medicinal Chemistry 2014 (Lisbon, Portugal).	
(演題名) Simple and convenient synthesis of esters from carboxylic acids and alkyl halides using tetrabutylammonium fluoride. Kouichi Matsumoto, Hayato Shimazaki, Yu Miyamoto, Kazuaki Shimada, Fumi Haga, Yuki Yamada, Hirotugu Miyazawa, Keiji Nishiwaki, Shigenori Kashimura.	平成26年9月	International Symposium on Medicinal Chemistry 2014 (Lisbon, Portugal).	
(演題名) 構造活性相関解析に基づくXO阻害剤Hydroxychavicolの結合様式推定：大東 可苗、西脇 敬二、中村 真也、出口 貴浩、村田 和也、松田 秀秋、仲西 功	平成26年11月	第32回メディシナルケミストリーシンポジウム(兵庫)	
(演題名) 結合自由エネルギーを指標としたProtein kinase CK2阻害剤のデザインと構造活性相関、中西 伸介、岡田 裕規、森脇 寛智、西脇 敬二、中村 真也、木下 誉富、大石 真也、大野 浩章、藤井 信孝、仲西 功、第37回情報化学討論会、2014. 11. 27-28、豊橋。	平成26年11月	第37回情報化学討論会（豊橋）	

III 学会および社会における主な活動	
平成25年4月～	薬学教育懇話会世話人

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			他の教科に比べ理解の難しい理論系科目の担当であるため、理論は実際の現象につながることを、出来るだけ身近な例から解説し、演習問題をMoodleでも配信し、再度解答ができるようにすることで理解の定着を図っている。
2 作成した教科書、教材、参考書			出版されたものは作成しておらず、自作した講義資料で授業を行っている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当する講演は行っていない。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成23年～現在	本学で実施されたCBTに際し主任監督者として従事し、進捗状況の一覧性向上のためのツール作成も行った。また学内のCBT演習用サーバの管理も担当し、演習管理を行っている。また、学外や卒業生のため、Web配信システム(CAPEL)の構築を行い管理している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Miyamoto K, Ishikawa F, Nakamura S, Hayashi Y, Nakanishi I, Kakeya H; A 7-dimethylallyl tryptophan synthase from a fungal <i>Neosartorya</i> sp.: Biochemical characterization and structural insight into the regioselective prenylation.	共著	平成26年4月	Bioorg. Med. Chem., 2014, 22, 2517–2528.
(論文) Takeuchi I, Uishi S, Kaneda M, Ohno H, Nakamura S, Nakanishi I, Yamane M, Sawada J, Asai A, Fujii N; Kinesin spindle protein inhibitors with diaryl amine scaffolds: Crystal packing analysis for improved aqueous solubility	共著	平成26年3月	ACS Med. Chem. Lett. 2014, 5, 566–571.
(論文) Kinoshita T, Nakaniwa T, Sekiguchi Y, Sogabe Y, Sakurai A, Nakamura S, Nakanishi I; Crystal structure of human CK2 α at 1.06 Å resolution	共著	平成25年11月	J. Synchrotron Rad., 2013, 20, 974–979.
(論文) Nakamura S, Takahira K, Tanabe G, Muraoka O, Nakanishi I; Homology Modeling of Human alpha-glucosidase catalytic domains and SAR study of salacinol derivatives.	共著	平成24年9月	Open J. Med. Chem., 2012, 2, 50–60.
(論文) Nakamura S, Takahira K, Tanabe G, Morikawa T, Sakano M, Ninomiya K, Yoshikawa M, Muraoka O, Nakanishi I; Docking and SAR studies of salacinol derivatives as alpha-glucosidase inhibitors	共著	平成22年9月	Bioorg. Med. Chem. Lett., 2010, 20, 4420–4423.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名	
結合自由エネルギーを指標としたProtein kinase CK2阻害剤のデザインと構造活性相関(中西伸介, 岡田裕規, 森脇寛智, 西脇敬二, 中村真也, 木下豊富, 大石真也, 大野浩章, 藤井信孝, 仲西功)	平成26年11月	第37回情報化学討論会(豊橋)	
Binding mode analysis of protein kinase CK2 inhibitors with a purine scaffold (Atsushi Sakurai, Shinya Nakamura, Seiya Taniguchi, Naoya Nagata, Masakuni Kurono, Katsumi Murata, Kazuo Kitaura, Akira Hirasawa, Gozoh Tsujimoto, Isao Nakanishi)	平成26年11月	CBI Annual Meeting 2014 (Tokyo)	
スフィンゴシンキナーゼ阻害活性を有するJaspine B誘導体の構造活性相関研究(本田真歩、宮垣潤、吉光佑二、岩田顕、大槻和裕、丸山透、中村真也、仲西功、大石真也、大野浩章、藤井信孝)	平成26年11月	第32回メディシナルケミストリーシンポジウム(神戸)	
構造活性相関解析に基づくX0阻害剤Hydroxychavicolの結合様式推定(大東可苗、西脇敬二、中村真也、出口貴浩、村田和也、松田秀秋、仲西功)	平成26年11月	第32回メディシナルケミストリーシンポジウム(神戸)	
天然物サラシアを起源とする α グルコシダーゼ阻害薬創出への計算化学的アプローチ(中村真也)	平成26年10月	第23回創薬情報研究会(依頼講演)(京都)	

COMPUTER-AIDED DESIGN OF NOVEL ALPHA-GLUCOSIDASE INHIBITORS BASED ON SALACINOL DERIVED FROM SALACIA RETICULATA OF AYURVEDIC TRADITIONAL MEDICINE(Shinya Nakamura, Genzoh Tanabe, Osamu Muraoka, Isao Nakanishi)	平成26年9月	23rd International Symposium on Medicinal Chemistry (Lisbon)
III 学会および社会における主な活動		
平成25年11月～現在	日本化学会情報化学部会 若手の会コアメンバー	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成16年～現在	独自の配布プリントを作成するとともに、毎回の講義で学生より提出される質問事項に対する詳細な回答を作成し、それを次回の講義で全学生に配布することにより、アドバンスドな興味を喚起し授業評価は常にトップ3位以内に位置していた。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成21年10月	WELCOME TO ゲノムワールド ゲノム創薬科学最前線（編著／杉浦麗子）京都廣川書店	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演	平成22年8月	「ゲノム薬理研究が医療の革命を起こす：～遺伝子検査からがんのデーターメード（個別）医療まで～」 杉浦麗子 第3回日本ゲノム薬理学研究会講演会	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) E Cisneros-Barroso, T Yance-Chávez, A Kita, R Sugiura, A Gomez-Hierro, D Gimenez-Zaragoza, R Alique: Negative feedback regulation of calcineurin-independent Prz1 transcription factor by the CaMKK-CaMK1 axis in fission yeast.	共著	2014年7月31日	Nucleic Acids Research. vol. 42 No. 15
(論文) K Hagihara, A Kita, A Mizukura, M Yao, Y Kitai, T Kunoh, T Masuko, S Matzno, K Chiba, R Sugiura, :Fingolimod (FTY720) Stimulates Ca ²⁺ /Calcineurin Signaling in Fission Yeast.	共著	2013年12月3日	PLoS ONE. vol. 8 No. 12
(論文) R Sugiura, A Kita, N Tsutsui, O Muraoka, K Hagihara, N Umeda, T Kunoh, H Takada, D Hirose, :Acremoniollipin A, the potential calcium signal modulator with a characteristic glycolipid structure from the filamentous fungus Acremonium strictum.	共著	2012年11月1日	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters. vol. 22 No. 21
(論文) H Takada, A Nishida, M Domae, A Kita, Y Yamano, A Uchida, S Ishiwata, Y Fang, X Zhou, T Masuko, M Kinoshita, K Kakehi, R Sugiura, :The Cell Surface Protein Gene ecm33+ Is a Target of the Two Transcription Factors Atf1 and Mbx1 and Negatively Regulates Pmk1 MAPK Cell Integrity Signalling in Fission Yeast.	共著	2010年2月15日	Mol Biol Cell. Vol. 21 No. 4
(論文) R Satoh, T Morita, H Takada, A Kita, S Ishiwata, A Doi, K Hagihara, A Taga, Y Matsumura, H Tohda, R Sugiura, :The Role of the RNA-Binding Protein Nrd1 and Pmk1 MAPK in the Regulation of Myosin mRNA Stability in Fission Yeast.	共著	2009年5月1日	Mol Biol Cell. Vol. 20 No. 9
2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名	
(演題名) RNA結合蛋白質Nrd1の溶液構造解析：中西絢子、小林彩保、佐藤亮介、藤原俊伸、伊藤隆、杉浦麗子、三島正規	平成26年11月	第37回日本分子生物学会年会	
(演題名) プロテインキナーゼPKN3 ノックアウトマウスにおけるがん転移抑制メカニズムの解析：窪内康二、辻本翔、神田勇輝、木戸友絵、小野祐輝、喜多綾子、佐藤亮介、西田升三、椿正寛、向井秀幸、杉浦麗子	同上	同上	
(演題名) FTY720を介するカルシニューリングナル伝達経路とストレス応答MAPキナーゼ経路のクロストーク機構：北井佑樹、萩原加奈子、水庫彩、喜多綾子、佐藤亮介、益子高、松野純男、千葉健治、杉浦麗子	同上	同上	
(演題名) イノシトールリン脂質代謝に関わる新規因子群の機能解析：小倉尚也、李翠芳、喜多綾子、加藤彩香、水野稟子、佐藤亮介、奥公秀、阪井康能、伊藤俊樹、杉浦麗子	同上	同上	

(演題名) S1P受容体調節剤FTY720を介する遺伝子発現プロファイリングの網羅的解析：萩原加奈子、水庫彩、八百麻里子、北井佑樹、石田紘基、喜多綾子、佐藤亮介、近重裕次、益子高、松野純男、千葉健治、杉浦麗子	同上	同上
(演題名) A chemical genomics screen to discover compounds that modulate MAPK signaling and its application to drug discovery : Reiko Sugiura	平成26年11月	第11回プロテインホスファターゼ国際カンファレンス
(演題名) 低分子量Gタンパク質Rabファミリーを介するメンブレントラフィックとイノシトールリン脂質シグナル伝達経路の空間的制御 : 杉浦麗子	平成26年10月	第87回日本生化学会大会
(演題名) MAPキナーゼシグナル依存的なRNA結合タンパク質Nrd1による細胞運命制御機構 : 佐藤亮介、伊藤祐奈、喜多綾子、萩原加奈子、谷時雄、杉浦麗子	同上	同上
(演題名) ヒトPDK1分裂酵母ホモログKsg1の細胞形態制御とCa2+シグナル伝達経路における役割 : 大浦惇義、土井章、宇野貴哉、佐藤駿、神田勇輝、喜多綾子、萩原加奈子、比嘉真理、佐藤亮介、杉浦麗子	同上	同上
(演題名) MAP キナーゼシグナル依存的なRNA 結合タンパク質Nrd1 によるストレス顆粒形成機構 : 佐藤亮介、伊藤祐奈、喜多綾子、萩原加奈子、谷時雄、杉浦麗子	平成26年7月	第16回日本RNA学会年会
III 学会および社会における主な活動		
平成14年～現在	日本薬理学会 評議員	
平成17年～現在	日本学術振興会 科学研究費補助金審査委員	
平成20年	日本学術振興会 博士研究員審査委員	
平成22年～現在	独立行政法人科学技術振興機構 産業連携展開 研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）審査委員	
平成23年4月～現在	日本RNA学会 会計幹事	

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成18年4月～	講義内容を吟味すると共に、学生の声に耳を傾け学生にとって実りある授業になるように工夫した。授業評価は3.5～4であった。
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成21年3月～	本学で開催されるFD研修会には特別な理由がない限り全て参加している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Ayako Kita, Mari Higa; Akira Doi; Ryosuke Satoh, Reiko Sugiura, Imp2, the PSTPIP homologue in fission yeast, affects sensitivity to the immunosuppressant FK506 and membrane trafficking in fission yeast	共著	2015年2月	Biochem. Biophys. Res. Commun. 457(3) 273-279
(論文) Cuifang Li, Ayako Kita, Yuuka Hashimoto, Misako Ihara, Ayako Kato, Naoya Ogura, Akira Doi, Masahide Oku, Toshiki Itoh, Yasuyoshi Sakai, Reiko Sugiura, Functional link between Rab GTPase-mediated membrane trafficking and PI4,5P2 signaling.	共著	2013年12月	Genes Cells 19(3) : 177-197
(論文) Kanako Hagihara, Ayako Kita, Aya Mizukura, Mariko Yao, Yuki Kitai, Tatsuki Kunoh, Takashi Masuko, Sumino Matzno, Kenji Chiba, Reiko Sugiura, Fingolimod (FTY720) Stimulates Ca ²⁺ /Calcineurin Signaling in Fission Yeast	共著	2013年12月	PLoS ONE 8(12) : e81907
(論文) Reiko Sugiura, Ayako Kita, Nozomi Tsutsui, Osamu Muraoka, Kanako Hagihara, Nanae Umeda, Tatsuki Kunoh, Hirofumi Takada, Dai Hirose, Acremoniollipin A, the potential calcium signal modulator with a characteristic glycolipid structure from the filamentous fungus Acremonium strictum	共著	2012年11月	Bioorg. Med. Chem. Lett. 22(21) : 6735-6739
(論文) Ayako Kita, Cuifang Li, Yang Yu, Nanae Umeda, Akira Doi, Mitsuko Yasuda, Shunji Ishiwata, Atsushi Taga, Yoshihiro Horiuchi, Reiko Sugiura, Role of the Small GTPase Rho3 in Golgi/Endosome Trafficking through Functional Interaction with Adaptin in Fission Yeast	共著	2011年2月	PLoS ONE 6(2) : e16842
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名	
(演題名) イノシトールリン脂質代謝に関わる新規因子群の機能解析：小倉尚也、李翠芳、喜多綾子、加藤彩香、水野稜子、佐藤亮介、奥公秀、阪井康能、伊藤俊樹、杉浦麗子	2014年11月	第37回日本分子生物学会年会	
(演題名) Novel functional roles for calcineurin inhibitor DSCR1/RCAN1 in the regulation of calcium and oxidative stress signaling : Koji Kubouchi, Ayako Kita, Mari Higa, Ryosuke Satoh, Reiko Sugiura	2014年11月	11th International Conference on Protein Phosphatase (ICPP11)	
(演題名) 热刺激に応答したカルシニューリンの局在制御機構の解析：比嘉真理、喜多綾子、萩原加奈子、土井章、長底利恵、伊賀弓佳、佐藤亮介、杉浦麗子	2014年10月	第126回日本薬理学会近畿部会	

(演題名) イノシトールリン脂質代謝を制御するPH domainタンパク質の同定と機能解析：水野稜子、李翠芳、小倉尚也、加藤彩香、喜多綾子、佐藤亮介、奥公秀、阪井康能、伊藤俊樹、杉浦麗子	2014年10月	第126回日本薬理学会近畿部会
(演題名) MAPキナーゼシグナル依存的なRNA結合タンパク質Nrd1による細胞運命制御機構：佐藤亮介、伊藤祐奈、喜多綾子、萩原加奈子、谷時雄、杉浦麗子	2014年10月	第87回日本生化学会大会
(演題名) 酵母モデル生物を用いたERK MAPKシグナル伝達経路阻害薬の探索：小野太貴、松浦一貴、野口大輝、山中真之、竹内健太、佐藤亮介、喜多綾子、益子高、杉浦麗子	2014年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会
(演題名) AP-1アクセサリータンパク質Sip1のゴルジ/エンドゾームにおける細胞内膜輸送の役割：片山雄大、于陽、新谷真未、窪内康二、喜多綾子、杉浦麗子	2014年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会
(演題名) Role of RNA-binding protein in MAPK signaling and cell fate regulation. : Ryosuke Satoh, Yuna Ito, Ayako Kita, Kanako Hagihara, Akira Doi, Reiko Sugiura	2014年9月	The FEBS EMBO 2014 Conference
(演題名) MAPキナーゼシグナル依存的なRNA結合タンパク質Nrd1によるストレス顆粒形成機構	2014年7月	第16回日本RNA学会年会
(演題名) S1P受容体調節剤FTY720を介する新たなシグナル伝達機構の解明：石田紘基、萩原加奈子、水庫彩、八百麻里子、岡田千聖、高塚三恵、北井佑樹、喜多綾子、益子高、松野純男、千葉健治、杉浦麗子	2014年6月	日本ケミカルバイオロジー学会 第9回年会
III 学会および社会における主な活動		
該当なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			担当講義では時事問題を織り交ぜることにより、退屈せず興味を引く内容になるよう努めた。講義毎の重要ポイントについて、その都度小テストを実施することにより理解度を高めるようにした。短時間でより多くの情報量を提供するためにはなるべく文字による表記を避け、図や写真を用いたスライドによる講義を実施した。授業評価は3.6~4.2であった。
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			平成26年度の新任教員研修会に参加し、入試・入学における本学の現状や体制、本学の教育方針や就職支援、さらには学内でのハラスマント防止への取り組みについて学んだ。また、学会参加等の特別な理由がない限り、FD研究集会に積極的に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) R. Satoh, T. Morita, H. Takada, A. Kita, S. Ishiwata, A. Doi, K. Hagihara, A. Taga, Y. Matsumura, H. Tohda, R. Sugiura, Role of the RNA-binding Protein Nrd1 and Pmk1 Mitogen-activated Protein Kinase in the Regulation of Myosin mRNA Stability in Fission Yeast	共著	平成21年5月	Molecular Biology of the Cell, Vol. 20(9), 2473-2485
(著書) R. Sugiura, R. Satoh, S. Ishiwata, N. Umeda, A. Kita, Role of RNA-Binding Proteins in MAPK Signal Transduction Pathway	共著	平成23年2月	Journal of Signal Transduction, Vol. 2011 (2011), 1-8
(論文) T. Morita, R. Satoh, N. Umeda, A. Kita, R. Sugiura, The stress granule protein Vg11 and poly(A)-binding protein Pab1 are required for doxorubicin resistance in fission yeast <i>Schizosaccharomyces pombe</i>	共著	平成24年1月	Biochemical and Biophysical Research Communications, Vol. 417(1), 399-403
(論文) R. Satoh, A. Tanaka, A. Kita, T. Morita, Y. Matsumura, N. Umeda, M. Takada, S. Hayashi, T. Tani, K. Shimmyozu, R. Sugiura, Role of the RNA-Binding Protein Nrd1 in Stress Granule Formation and Its Implication in the Stress Response in Fission Yeast	共著	平成24年1月	PLoS ONE, Vol. 7(1), e29683
(論文) A. Kobayashi, T. Kanaba, R. Satoh, T. Fujiwara, Y. Ito, R. Sugiura, M. Mishima, Structure of the second RRM domain of Nrd1, a fission yeast MAPK target RNA binding protein, and implication for its RNA recognition and regulation	共著	平成25年3月	Biochemical and Biophysical Research Communications, Vol. 473(1), 12-17
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) プロテインキナーゼPKN3ノックアウトマウスにおけるがん転移抑制メカニズムの解析：窪内康二、辻本翔、神田勇輝、木戸友絵、小野祐輝、喜多綾子、佐藤亮介、西田升三、椿正寛、向井秀幸、杉浦麗子		平成26年11月	第37回日本分子生物学会年会
(演題名) FTY720を介するカルシニューリングナル伝達経路とストレス応答MAPキナーゼ経路のクロストーク機構：北井佑樹、萩原加奈子、水庫彩、喜多綾子、佐藤亮介、益子高、松野純男、千葉健治、杉浦麗子	同上	同上	同上
(演題名) イノシトールリン脂質代謝に関わる新規因子群の機能解析：小倉尚也、李翠芳、喜多綾子、加藤彩香、水野稜子、佐藤亮介、奥公秀、阪井康能、伊藤俊樹、杉浦麗子	同上	同上	同上
(演題名) Novel functional roles for calcineurin inhibitor DSCR1/RCAN1 in the regulation of calcium and oxidative stress signaling : K. Kubouchi, A. Kita, M. Higa, R. Satoh, R. Sugiura	同上		11th International Conference on Protein Phosphatase (ICPP11)

(演題名) 热刺激に応答したカルシニューリンの局在制御機構の解析 : 比嘉真理、喜多綾子、萩原加奈子、土井章、長底利恵、伊賀弓佳、佐藤亮介、杉浦麗子	平成26年10月 同上	第126回日本薬理学会近畿部会 同上
(演題名) SH3ドメインタンパク質Skb5によるPKC/MAPKシグナル制御メカニズムの解明 : 神田勇輝、土井章、辻本翔、喜多綾子、成瀬一、佐藤亮介、杉浦麗子	同上	
(演題名) MAPキナーゼシグナル依存的なRNA結合タンパク質Nrd1による細胞運命制御機構 : 佐藤亮介、伊藤祐奈、喜多綾子、萩原加奈子、谷時雄、杉浦麗子	同上	第87回日本生化学会大会
(演題名) Role of RNA-binding protein in MAPK signaling and cell fate regulation : R. Satoh, Y. Ito, A. Kita, K. Hagihara, A. Doi, R. Sugiura	平成26年9月	The FEBS EMBO 2014 Conference
(演題名) MAPキナーゼシグナル依存的なRNA結合タンパク質Nrd1によるストレス顆粒形成機構 : 佐藤亮介、伊藤祐奈、喜多綾子、萩原加奈子、谷時雄、杉浦麗子	平成26年7月	第16回日本RNA学会年会
(演題名) Role of RNA-binding protein in MAPK signaling and cell fate regulation : R. Satoh, R. Sugiura	平成26年6月	Anti-Aging International Mini-Symposium 2014: Cell Signaling and Therapeutic Targets for Geriatric and Inflammatory Diseases
III 学会および社会における主な活動		
平成22年10月～平成23年11月	RNA Study Meeting 代表	
平成23年6月13日	Satellite Mini-Symposium of RNA2011 Kyoto 世話人	
平成26年9月16日～18日	RNAフロンティアミーティング2014 世話人	

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	薬品分析学研究室	職名 教授 氏名 鈴木 茂生
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成18年～現在	配布教材および問題の解答などをMoodleに掲示し、講義5の質問に対応することで、理解しづらかったところや質問を把握し、次回の講義の冒頭で説明した。ノートをとるように伝え、板書中心に講義した。授業評価は3.5～4.0であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23年11月	薬学分析化学の基礎と応用 第3版（片岡洋行、田和理市編）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成26年8月	第8回物理系薬学の教育・研究を展望するシンポジウムにおいて、「薬学部における分析化学教育と研究」というタイトルで講演を行った。（第27回バイオメドカル分析科学シンポジウム併設シンポジウム、日本薬学会物理系薬学部会主催）
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成20年～現在	本学で実施されたCBT実施に参画した。また、「OSCEトライアル」を初め、本学で実施された共用試験ならびに実務実習に関する説明会に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 改定六版 分析化学便覧	共著	平成23年9月	丸善出版
(論文) S. Suzuki: Review. Recent Development in Liquid Chromatography and Capillary Electrophoresis for the Analysis of Glycoprotein Glycans	単著	平成25年12月	Analytical Sciences vol. 29(12), 1117-1128
(論文) M. Yodoshi, N. Ikeda, N. Yamaguchi, M. Nagata, N. Nishida, K. Kakehi, T. Hayakawa, S. Suzuki: A novel condition for capillary electrophoretic analysis of reductively aminated saccharides without removal of excess reagents	共著	同 年12月	Electrophoresis, 34 (2013) 3198-3205
(論文) E. Fukushima, Y. Yagi, S. Yamamoto, Y. Nakatani, K. Kakehi, T. Hayakawa, S. Suzuki: Partial filling affinity capillary electrophoresis using large-volume sample stacking with an electroosmotic flow pump for sensitive profiling of glycoprotein-derived oligosaccharides	共著	平成24年1月	Journal of Chromatography A, vol. 1246 84-89 (2012)
(論文) Y. Yagi, S. Yamamoto, K. Kakehi, T. Hayakawa, T. Ohyama, S. Suzuki: Application of partial filling capillary electrophoresis using lectins and glycosidases to the characterization of oligosaccharides in therapeutic antibody	共著	平成23年11月	Electrophoresis, 32 (2011) 2979-2985
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) ヒト黒色細胞腫のグライコフォームーフォーカストプロテオミクス：木下充弘、三ツ井洋介、山本佐知雄、鈴木茂生		平成26年12月	第25回クロマトグラフィー科学会議（京都）
(演題名) 酶素固定化アクリルアミドゲルチップを用いる糖蛋白質糖鎖調製法の開発：山本佐知雄、植田麻希、木下充弘、鈴木茂生		同上	
(演題名) マイクロチップ電気泳動法を用いた抗体医薬品の分解物評価：八木有紀、鈴木茂生		同上	第34回キャビラリー電気泳動シンポジウム（京都）
(演題名) カラムスイッチングによるオリゴ糖誘導体のオンラインHPLC法の開発：橋本真一、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生		平成26年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会（京都）
(演題名) 化学修飾型シリカナノ粒子を用いるキャビラリー電気泳動法の開発：竹田悠人、林優花、高本智世、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生		同上	同上
(演題名) 酶素固定化アクリルアミドゲルチップを用いる糖蛋白質糖鎖調製法の開発、植田麻希、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生		同上	同上

(演題名) 部分導入アフィニティーキャピラリー電気泳動による糖タンパク質糖鎖の高感度解析技術の開発：鈴木茂生	同上	第65回日本電気泳動学会総会「最新の電気泳動技術30の話題」招待講演
(演題名) 糖タンパク質糖鎖の定量的網羅的解析法の開発：鈴木茂生、八木有紀、西田憲晃、山本佐知雄	平成26年9月	日本分析化学会第63年会 依頼講演（広島）
III 学会および社会における主な活動		
平成15年4月～現在	日本分析化学会近畿支部幹事	
平成18年～平成21年	Analytical Sciences編集委員	
平成23年～現在	Journal of Pharmaceutical Analysis編集委員	
平成21年～現在	薬剤師国家試験出題委員	
平成14年4月～現在	電気泳動分析研究懇談会	
平成14年4月～現在	クロマトグラフィー科学会理事	
平成25年4月～平成26年4月	Chromatography編集委員長	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	薬品分析学研究室	職名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成19年～現在	各回講義冒頭に「学習メモ」を用いて授業内容のテーマとポイントを説明し、終了5分前は質問時間とした。質問多い項目について、次講義時に解説した。また、予習のため次回講義内容を予告し、配布資料も事前に配布した。授業評価は3.5～4.0であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23年～現在	講義に使用する教科書、参考書の執筆はないが、講義には独自に作成したポイント集としてA4一枚の「学習メモ」を作成した。「学習メモ」はノート機能を備え、また当該講義確認用の問題(3問)を含むものであり、復習に役立つ教材となるよう工夫した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当項目なし。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成20年～現在	薬学部就職支援委員として、各種就職支援関連のガイドンスの講師を務めた他、企業・公務員インターンシップを企画・実施した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Yamada K, Kinoshita M, Jo Y, Inoue T, Aoshima M, Hasegawa K, Sei K, Kita S, Kakehi K. Structural analysis of carboxymethyl cellulose used as an antiadhesive material for surgical wound healing	共著	平成26年7月	Yakugaku Zasshi. 134(2014) 1209-1217.
(著書) Methos in Molecular Biology-Lectins	共著	平成26年4月	Humana Press
(論文) Kinoshita M, Mitsui Y, Kakoi N, Yamada K, Hayakawa T, Kakehi K, Common glycoproteins expressing polylactosamine-type glycans on matched patient primary and metastatic melanoma cells show different glycan profiles	共著	平成26年2月	J Proteome Res. 13(2) (2014) 1021-1033
(論文) Iwatsuka K, Iwamoto H, Kinoshita M, Inada K, Yasueda S, Kakehi K., Comparative Studies of N-Glycans and Glycosaminoglycans Present in SIRC (Statens Serum Institut Rabbit Corneal) Cells and Corneal Epithelial Cells from Rabbit	共著	平成26年1月	Eyes. Curr Eye Res. 39(7) (2014) 686-694
(論文) Kinoshita M, Nakatsuji Y, Suzuki S, Hayakawa T, Kakehi K. Quality assurance of monoclonal antibody pharmaceuticals based on their charge variants using microchip isoelectric focusing method.	共著	平成25年6月	J Chromatogr A. 1309 (2013) 76-83.
(論文) Kinoshita M, Kakoi N, Matsuno YK, Hayakawa T, Kakehi K. Determination of sulfate ester content in sulfated oligo- and poly-saccharides by capillary electrophoresis with indirect UV detection.	共著	平成23年5月	Biomed Chromatogr. 25(2011) :588-593.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名	
(演題名) ヒト黒色細胞腫のグライコフォームーフォーカストプロテオミクス：木下充弘、三ツ井洋介、山本佐知雄、鈴木茂生	平成26年11月	第25回クロマトグラフィー科学会議(京都)	
(演題名) 酵素固定化アクリルアミドゲルチップを用いる糖蛋白質糖鎖調製法の開発：山本佐知雄、植田麻希、木下充弘、鈴木茂生	平成26年11月	第25回クロマトグラフィー科学会議(京都)	
(演題名) LC-MS-TOF MSを用いるスフィンゴ糖脂質の一斉分析とがん細胞解析への応用 木下充弘、大塚瑞乃、山田佳太、鈴木茂生、掛樋一晃	平成26年9月	第33回日本糖質学会年会(名古屋)	
(演題名) 浸透圧ストレスが上皮細胞の糖鎖合成に及ぼす影響 岩本裕貴、安井裕太郎、岩塚欣也、木下充弘、鈴木茂生、早川堯夫、掛樋一晃	平成26年9月	第33回日本糖質学会年会(名古屋)	
(演題名) バイオ医薬品における分離分析技術の役割：木下充弘、鈴木茂生、掛樋一晃	平成26年7月	第41回BMSコンファレンス 依頼講演(能登)	

III 学会および社会における主な活動	
平成26年2月～現在	電気泳動分析研究懇談会委員
平成26年4月～現在	次世代バイオ医薬品製造技術開発プロジェクト委員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年～現在	医薬品物性・製剤学実習の分析化学分野の実習内容を理解してもらうために、実験上の注意事項および実験方法の原理を重点的に解説した。講義では図等で分かりやすくまとめたプリントを配布し、板書でさらに詳しく説明を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年～現在	医薬品物性・製剤学実習（分析化学分野）実習書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2013年～現在	本学で実施されたCBT実施に参画した。また、「OSCEトライアル」を初め、本学で実施された共用試験ならびに実務実習に関する説明会に参加した。また全学FD研究集会、薬学部・薬学研究科FD研修会および大学院FD研修会に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数) 等の名称
(論文) Yamamoto S., Shinohara C., Fukushima E., Kakehi K., Hayakawa T., Suzuki S., Paratial filling affinity capillary affinity electrophoresis of glycoprotein oligosaccharides derivatized with 8-aminopyrene-1,3,6-trisulfonic acid	共著	2011年7月	Journal of Chromatography A Vol. 1218 Iss. 29
(論文) Yamamoto S., Watanabe Y., Nishida N., Suzuki S., Simultaneous Concentration Enrichment and Electrophoretic Separation of Weak Acids on a Microchip, Using <i>in situ</i> Photopolymerized Carboxylate-type Polyacrylamide Gels as the Permeselective Preconcentrator	共著	2011年11月	Journal of Separation Science Vol. 34 Iss. 20
(論文) Yamamoto S., Suzuki S., Suzuki S., Microchip electrophoresis of oligosaccharides using lectin-immobilized preconcentrator gels fabricated by <i>in situ</i> photopolymerization	共著	2013年2月	Analyst vol. 137 Iss. 9
(論文) Yamamoto S., Nakatani Y., Suzuki S., Application of online preconcentration affinity capillary electrophoresis method to glycans labeled with 8-aminopyrene-1,3,6-trisulfonic acid using blue light emitting diode-induced fluorescence detection	共著	2013年11月	Analytical Sciences vol. 29 No. 8
(論文) Yamamoto S., Nagai E., Asada Y., Kinoshita M., Suzuki S., A rapid and highly sensitive microchip electrophoresis of mono- and mucin-type oligosaccharides labeled with 7-amino-4-methylcoumarin	共著	2015年1月	Analytical and Bioanalytical Chemistry (2015) 407:1499-1503
2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名	
光重合性アクリルアミドを利用したマイクロチップ電気泳動における新規オンライン濃縮電気泳動法の開発 ○山本 佐知雄, 木下 充弘, 鈴木 茂生	2014年5月	Cheminas 29(東京)	
(演題名) ヒト黒色細胞腫のグラムフォームーフォーカストプロテオミクス：木下充弘、三ツ井洋介、山本佐知雄、鈴木茂生	2014年12月	第25回クロマトグラフィー科学会議（京都）	
(演題名) 酵素固定化アクリルアミドゲルチップを用いる糖蛋白質糖鎖調製法の開発：山本佐知雄、植田麻希、木下充弘、鈴木茂生	同上	同上	
(演題名) マイクロチップ電気泳動法を用いた抗体医薬品の分解物評価：八木有紀、鈴木茂生	同上	第34回キャビラリー電気泳動シンポジウム（京都）	
(演題名) カラムスイッティングによるオリゴ糖誘導体のオンラインHPLC法の開発：橋本真一、山本佐知雄、木下充弘、鈴木茂生	2014年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会（京都）	

(演題名) 光硬化性アクリルアミドゲルを用いるリン酸化化合物のオンライン濃縮マイクロチップ電気泳動法の開発 山本佐知雄, 小林正弥, 赤松美紀, 木下充弘, 鈴木茂生	2014年12月	Cheminas 30(北海道)
III 学会および社会における主な活動		
2014年4月～	日本分析化学会近畿支部 若手の会	
2012年9月～2013年9月	日本分析化学会第63年会実行委員	
2014年5月～	第22回クロマトグラフィーシンポジウム実行委員	

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成18年～現在	板書やプロジェクターを利用し、具体的な例を紹介することで講義内容が理解しやすいように工夫した。また少人数のグループを作り、討論・発表させることにより、理解度をより高める工夫をした。授業評価は3.5～4.0であった。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 植物工場生産システムと流通技術の最前線	共著	平成25年4月	エヌ・ティー・エス
(著書) 薬用食品の開発Ⅱ - 薬用・有用植物の機能性食品素材への応用 -	共著	平成24年4月	シーエムシー出版
(論文) Kakutani K., Matsuda Y., Haneda K., Sekoguchi D., Nonomura T., Kimbara J., Kusakari S. and Toyoda H.	共著	平成24年2月	Journal of Electrostatics (2012) 70:207-211
(論文) Kakutani K., Matsuda Y., Haneda K., Nonomura T., Kimbara J., Kusakari S., Osamura K. and Toyoda H.	共著	平成24年3月	Annals of Applied Biology (2012) 160:250-259
(論文) Kakutani K., Matsuda Y., Nonomura T., Kimbara J., Kusakari S. and Toyoda H	共著	平成24年1月	Journal of Agricultural Science (2012) 4:51-60
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) サフラン茎組織から分化させた柱頭様組織のクロシン產生		平成26年8月	日本植物細胞分子生物学会
(演題名) Resveratrol および Fisetin により誘導する抗加齢関連遺伝子の発現解析		平成26年9月	日本生薬学会
III 学会および社会における主な活動			
平成17年4月～平成19年3月	日本植物細胞分子生物学会評議委員		
平成19年3月～平成24年3月	Natural Medicines論文審査員		
平成20年4月～平成27年3月	Biol. Pharm. Bull.の論文審査員		
平成17年4月～平成21年3月	奈良県地域結集型研究開発プログラム参画委員		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表(評価対象年度のみ)」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成21年～現在 (最近6年間)	担当講義について、いずれも独自にパワーポイントにて作成した教材を配布するとともに映写しながら講義を実施した。講義終了時に、毎回の講義内容の確認および復習ができる課題として演習問題を配布し、次回講義時にその解説から実施するなど、知識の定着と反復学習を努めた。授業評価は3.5～4.0であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成21年～現在 (最近6年間)	担当実習科目である「基礎薬科学実習（化学系）」および「有機化学・生薬学実習（有機化学）」の実習書について編纂した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成21年～現在 (最近6年間)	全学および薬学部（あるいは薬学研究科）にて実施されているFD研修について、毎回出席している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) T. Morikawa, K. Ninomiya, K. Imura, T. Yamaguchi, Y. Akagi, M. Yoshikawa, T. Hayakawa, O. Muraoka: Hepatoprotective triterpenes from traditional Tibetan medicine <i>Potentilla anserina</i> .	共著	平成26年1月	Phytochemistry, 102 , 169–181 (2014).
(論文) T. Morikawa, K. Ninomiya, S. Miyake, Y. Miki, M. Okamoto, M. Yoshikawa, O. Muraoka: Flavonol glycosides with lipid accumulation inhibitory activity and simultaneous quantitative analysis of 15 polyphenols and caffeine in the flower buds of <i>Camellia sinensis</i> from different regions	共著	平成25年9月	Food Chem., 140 , 353–360 (2013).
(論文) T. Morikawa, M. Sueyoshi, S. Chaipech, H. Matsuda, Y. Nomura, M. Yabe, T. Matsumoto, K. Ninomiya, M. Yoshikawa, Y. Pongpiriyadacha, T. Hayakawa, O. Muraoka: Suppressive effects of coumarins from <i>Mammea siamensis</i> on inducible nitric oxide synthase expression in RAW264.7 Cells.	共著	平成24年8月	Bioorg. Med. Chem., 20 , 4968–4977 (2012).
(論文) T. Morikawa, S. Chaipech, H. Matsuda, M. Hamao, Y. Umeda, H. Sato, H. Tamura, H. Kon'i, K. Ninomiya, M. Yoshikawa, Y. Pongpiriyadacha, T. Hayakawa, O. Muraoka: Antidiabetogenic oligostilbenoids and 3-ethyl-4-phenyl-3,4-dihydroisocoumarins from the bark of <i>Shorea roxburghii</i> .	共著	同 年7月	Bioorg. Med. Chem., 20 , 832–840 (2012).
(論文) T. Morikawa, K. Imura, S. Miyake, K. Ninomiya, H. Matsuda, C. Yamashita, O. Muraoka, T. Hayakawa, M. Yoshikawa: Promoting the effect of chemical constituents from the flowers of <i>Poacynum hendersonii</i> on adipogenesis in 3T3-L1 cells.	共著	同 年1月	J. Nat. Med., 66 , 39–48 (2012).
2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名	
(演題名) サラシア属植物の α -グルコシダーゼ阻害活性成分を指標とした品質評価. 森川敏生, 赤木淳二, 二宮清文, 田邊元三, 吉川雅之, 村岡 修	平成26年11月	第43回生薬分析シンポジウム（大阪）	
(演題名) サラシア属植物含有 α -グルコシダーゼ阻害活性成分 salacinoI およびその類縁体の食後過血糖改善作用. 森川敏生, 赤木淳二, 二宮清文, 木内恵里, 田邊元三, 仲西 功, 中村真也, 吉川雅之, 村岡 修	平成26年11月	第20回天然薬物の開発と応用シンポジウム（東京）	
(演題名) Acylated phenylethanoid glycosides, echinacoside and acteoside from <i>Cistanche tubulosa</i> , improve glucose tolerance in mice. T. Morikawa, K. Ninomiya, M. Imamura, J. Akaki, Y. Pan, D. Yuan, M. Yoshikawa, X. Jia, Z. Li, O. Muraoka	平成26年10月	International Conference on Food for Health in Niigata 2014 (ICFHN2014, Niigata, Japan)	

(演題名) メース (<i>Myristica fragrans</i> , 仮種皮) のケモカイン受容体CCR3選択的アンタゴニスト作用を指標とした抗アレルギー作用成分の探索. 森川敏生, 松尾一彦, 八幡郁子, 二宮清文, 村岡修, 中山隆志	平成26年10月	第56回天然有機化合物討論会（高知）
(演題名) Effects of constituents from hooks of <i>Uncaria rhynchophylla</i> on neurite outgrowth and TNF-alpha-induced cell damage. K. Ninomiya, T. Minamino, K. Ozeki, N. Matsuo, C. Kawabata, T. Hayakawa, T. Morikawa	平成26年9月	The 8th JSP-CCTCM-KSP Joint Symposium on Pharmacognosy, (Fukuoka, Japan)
(演題名) Simultaneous quantitative analysis of alkaloids with melanogenesis inhibitory activity in "lotus flower", the flower buds of <i>Nelumbo nucifera</i> . T. Morikawa et al. 1(11).	平成26年9月	The 8th JSP-CCTCM-KSP Joint Symposium on Pharmacognosy, (Fukuoka, Japan)
(演題名) Antiallergic principles from <i>Myristica fragrans</i> : inhibitors of degranulation and TNF-alpha release in RBL-2H3 cells. T. Morikawa, I. Hachiman, K. Ninomiya, H. Matsuda, Y. Hata, K. Sugawara, Y. Sakata, M. Yoshikawa, T. Hayakawa, O. Muraoka	平成26年9月	The 27th International Conference on Polyphenols (ICP2014, Nagoya, Japan)
(演題名) Inhibitory effects of oligostilbenoids from bark of <i>Shorea roxburghii</i> on malignant melanoma cell growth: implications for a candidate of novel topical anticancer agents. T. Michiyama, H. Moriyama, M. Moriyama, T. Hayakawa, K. Ninomiya, O. Muraoka, S. Chaipech, T. Morikawa	平成26年9月	The 27th International Conference on Polyphenols (ICP2014, Nagoya, Japan)
(演題名) Anti-inflammatory effects and mode of action of prenylcoumarins from Thai natural medicine <i>Mammea siamensis</i> . K. Ninomiya, T. Morikawa, T. Matsumoto, M. Sueyoshi, S. Miyazawa, S. Saeki, S. Chaipech, T. Hayakawa, O. Muraoka	平成26年9月	The 27th International Conference on Polyphenols (ICP2014, Nagoya, Japan)
(演題名) Salacinal and related analogs, new leads for type 2 diabetes therapeutic candidates from Thai traditional natural medicina <i>Salacia chinensis</i> . T. Morikawa, J. Akaki, K. Ninomiya, E. Kinouchi, G. Tanabe, M. Yoshikawa, O. Muraoka	平成26年5月	5th International Conference on Natural Products for Health and Beauty (NATPR05, Phuket, Thailand)
III 学会および社会における主な活動		
平成26年4月～	日本薬学会学術雑誌編集委員	
平成26年4月～	日本生薬学会学会誌編集委員	
平成26年9月～	和漢医薬学会評議員	

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成22年～現在	ほとんどの担当講義において、毎回小テストを行う際に講義アンケートを実施した。その意見等を、講義毎の配布教材や次回の講義構成に反映した。また、講義によっては、講義内容や課題解説などをMoodleに掲示し、学生の講義後の質問に対応することで、講義後の学習をサポートした。授業評価は3.8～4.5の範囲で評価された。
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			本学で実施されたFD研究会に参加した。本学で実施されたCBT実施に参画した。「OSCEトライアル」を初め、本学で実施された共用試験ならびに実務実習に関する説明会に参加し
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) Moriyama H, Moriyama M, Isshi H, Ishihara S, Okura H, Ichinose A, Ozawa T, Matsuyama A, Hayakawa T		共著	平成26年9月
(論文) Moriyama M, Moriyama H, Uda J, Matsuyama A, Osawa M, Hayakawa T.		共著	平成26年6月
(論文) Moriyama H, Moriyama M, Sawaragi K, Okura H, Ichinose A, Matsuyama A, Hayakawa T.		共著	平成25年6月
(著書) 森山博由		単著	平成26年9月
(論文) Moriyama M, Moriyama H, Ueda A, Nishibata Y, Okura H, Ichinose A, Matsuyama A, Hayakawa T.		共著	平成24年8月
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 低酸素暴露を介する脂肪由来間葉系幹細胞のドバミン産生細胞分化誘導：森山博由		2014年・3月	第13回日本再生医療学会総会 京都
(演題名) 再生医療を照らす脂肪由来幹細胞の製造法と派生効果：		2014年・5月	国際バイオテクノロジー展/技術会議-アカデミックフォーラム(東京)
(演題名) ROLE OF NOTCH SIGNALING IN THE MAINTENANCE OF HUMAN MESENCHYMAL STEM CELLS UNDER HYPOXIC CONDITIONS : Hiroyuki Moriyama		2014年・6月	12th ISSCR at Vancouver, CANADA
(演題名) BNIP3 Plays Crucial Roles in the Differentiation and Maintenance of Epidermal Keratinocytes. :Hiroyuki Moriyama		2014年・9月	European society for dermatological research (ESDR). Copenhagen, Denmark.
(演題名) BNIP3 PLAYS CRUCIAL ROLES IN THE DIFFERENTIATION AND MAINTENANCE OF EPIDERMAL KERATINOCYTES. :Hiroyuki Moriyama		2014年・9月	Australian society for Dermatology Research (ASDR). Sydney, Australia.
III 学会および社会における主な活動			
平成25年4月～現在	細胞再生医療研究会 運営委員		
平成25年4月～現在	生命機能研究会 運営委員		
平成24年4月～現在	大阪府バイオヘッドクウォーター 連携委員		
平成25年9月～現在	国際学術誌 Frontiers Group (Nature Publishing Group) 責任編集委員		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表(評価対象年度のみ)」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成21年～現在 (最近6年間)	担当講義について、いずれも独自にパワーポイントにて作成した教材を配布、映写しながら講義を実施した。一部の講義については、講義終了時に、毎回の講義内容に関する演習問題を課題として配布し、次回にその解説から実施するなど、知識の定着と反復学習を促した。授業評価は概ね学部内で平均的であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成21年～現在 (最近6年間)	担当実習科目である「基礎薬科学実習（化学系）」および「有機化学・生薬学実習（有機化学）」の実習書について編纂した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成21年～現在 (最近6年間)	全学および薬学部にて実施されているFD研修について、全て出席している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) T. Morikawa, K. Ninomiya, K. Imura, T. Yamaguchi, Y. Akagi, M. Yoshikawa, T. Hayakawa, O. Muraoka: Hepatoprotective triterpenes from traditional Tibetan medicine <i>Potentilla anserina</i> .	共著	平成26年1月	Phytochemistry, 102, 169–181 (2014).
(論文) T. Morikawa, K. Ninomiya, S. Miyake, Y. Miki, M. Okamoto, M. Yoshikawa, O. Muraoka: Flavonol glycosides with lipid accumulation inhibitory activity and simultaneous quantitative analysis of 15 polyphenols and caffeine in the flower buds of <i>Camellia sinensis</i> from different regions.	共著	平成25年9月	Food Chem., 140, 353–360 (2013).
(論文) T. Morikawa, M. Sueyoshi, S. Chaipach, H. Matsuda, Y. Nomura, M. Yabe, T. Matsumoto, K. Ninomiya, M. Yoshikawa, Y. Pongpiriyadacha, T. Hayakawa, O. Muraoka: Suppressive effects of coumarins from <i>Mammea siamensis</i> on inducible nitric oxide synthase expression in RAW264.7 cell.	共著	平成24年8月	Bioorg. Med. Chem., 20, 4968–4977 (2012).
(論文) T. Morikawa, S. Chaipach, H. Matsuda, M. Hamao, Y. Umeda, H. Sato, H. Tamura, H. Kon' i, K. Ninomiya, M. Yoshikawa, Y. Pongpiriyadacha, T. Hayakawa, O. Muraoka: Antidiabetogenic oligostilbenoids and 3-ethyl-4-phenyl-3,4-dihydroisocoumarins from the bark of <i>Shorea roxburghii</i> .	共著	同 年7月	Bioorg. Med. Chem., 20, 832–840 (2012).
(論文) T. Morikawa, K. Imura, S. Miyake, K. Ninomiya, H. Matsuda, C. Yamashita, O. Muraoka, T. Hayakawa, M. Yoshikawa: Promoting the effect of chemical constituents from the flowers of <i>Poacynum hendersonii</i> on adipogenesis in 3T3-L1 cells.	共著	同 年1月	J. Nat. Med., 66, 39–48 (2012).
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) サラシア属植物の α -グルコシダーゼ阻害活性成分を指標とした品質評価. 森川敏生, 赤木淳二, 二宮清文, 田邊元三, 吉川雅之, 村岡 修		平成26年11月	第43回生薬分析シンポジウム（大阪）
(演題名) サラシア属植物含有 α -グルコシダーゼ阻害活性成分 salacinol およびその類縁体の食後過血糖改善作用. 森川敏生, 赤木淳二, 二宮清文, 木内恵里, 田邊元三, 仲西 功, 中村真也, 吉川雅之, 村岡 修		平成26年11月	第20回天然薬物の開発と応用シンポジウム（東京）
(演題名) Acylated phenylethanoid glycosides, echinacoside and acteoside from <i>Cistanche tubulosa</i> , improve glucose tolerance in mice. T. T. Morikawa, K. Ninomiya, M. Imamura, J. Akaki, Y. Pan, D. Yuan, M. Yoshikawa, X. Jia, Z. Li, O. Muraoka		平成26年10月	International Conference on Food for Health in Niigata 2014 (ICFHN2014, Niigata, Japan)

(演題名) メース (<i>Myristica fragrans</i> , 仮種皮) のケモカイン受容体CCR3選択的アントゴニスト作用を指標とした抗アレルギー作用成分の探索. 森川敏生, 松尾一彦, 八幡郁子, 二宮清文, 村岡修, 中山隆志	平成26年10月	第56回天然有機化合物討論会（高知）
(演題名) Effects of constituents from hooks of <i>Uncaria rhynchophylla</i> on neurite outgrowth and TNF-alpha-induced cell damage. K. Ninomiya, T. Minamino, K. Ozeki, N. Matsuo, C. Kawabata, T. Hayakawa, T. Morikawa	平成26年9月	The 8th JSP-CCTCM-KSP Joint Symposium on Pharmacognosy, (Fukuoka, Japan)
(演題名) Simultaneous quantitative analysis of alkaloids with melanogenesis inhibitory activity in "lotus flower", the flower buds of <i>Nelumbo nucifera</i> . T. Morikawa, N. Kitagawa, S. Okugawa, T. Matsumoto, K. Ninomiya, I. Kamei, I.-J. Lee, S. Nakamura, H. Matsuda, M. Yoshikawa, O. Muraoka	平成26年9月	The 8th JSP-CCTCM-KSP Joint Symposium on Pharmacognosy, (Fukuoka, Japan)
(演題名) Antiallergic principles from <i>Myristica fragrans</i> : inhibitors of degranulation and TNF-alpha release in RBL-2H3 cells. T. T. Morikawa, I. Hachiman, K. Ninomiya, H. Matsuda, Y. Hata, K. Sugawara, Y. Sakata, M. Yoshikawa, T. Hayakawa, O. Muraoka	平成26年9月	The 27th International Conference on Polyphenols (ICP2014, Nagoya, Japan)
(演題名) Inhibitory effects of oligostilbenoids from bark of <i>Shorea roxburghii</i> on malignant melanoma cell growth: implications for a candidate of novel topical anticancer agents. T. Michiyama, H. Moriyama, M. Moriyama, T. Hayakawa, K. Ninomiya, O. Muraoka, S. Chaipech, T. Morikawa	平成26年9月	The 27th International Conference on Polyphenols (ICP2014, Nagoya, Japan)
(演題名) Anti-inflammatory effects and mode of action of prenylcoumarins from Thai natural medicine <i>Mammea siamensis</i> . K. Ninomiya, T. Morikawa, T. Matsumoto, M. Sueyoshi, S. Miyazawa, S. Saeki, S. Chaipech, T. Hayakawa, O. Muraoka	平成26年9月	The 27th International Conference on Polyphenols (ICP2014, Nagoya, Japan)
(演題名) Salacinol and related analogs, new leads for type 2 diabetes therapeutic candidates from Thai traditional natural medicina <i>Salacia chinensis</i> . T. Morikawa, J. Akaki, K. Ninomiya, E. Kinouchi, G. Tanabe, M. Yoshikawa, O. Muraoka	平成26年5月	5th International Conference on Natural Products for Health and Beauty (NATPRO5, Phuket, Thailand)
III 学会および社会における主な活動		
特になし		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成26年～現在	薬学部の基礎ゼミ、創薬科学実習2、早期体験学習、法医学部の生命の科学を担当した。実習等では実験上の注意事項および実験方法の原理を重点的に解説した。講義では図等で分かりやすくまとめたプリントを配布し、板書でさらに詳しく説明した。
2 作成した教科書、教材、参考書			特になし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成25年～現在	本学で実施されたCBT実施に参画した。また、「OSCEトライアル」を初め、本学で実施された共用試験ならびに実務実習に関する説明会に参加した。また全学FD研究集会、薬学部・薬学研究科FD研修会および大学院FD研修会に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) CK. Kikani, EV. Verona, J. Ryu, Y. Shen, Q. Ye, L. Zheng, Z. Qian, H. Sakaue, K. Nakamura, J. Du, Q. Ji, W. Ogawa, LZ. Sun, LQ. Dong, F. Liu: Proliferative and antiapoptotic signaling stimulated by nuclear-localized PDK1 results in oncogenesis	共著	平成24年11月	Science Signaling, 5 (2012)
(論文) MF. Zhong, WL. Shen, M. Tabuchi, K. Nakamura, YC. Chen, C. Qiao, J. He, J. Yang, C. Zhang, ZA. Kamenov, H. Higashino, H. Chen: Differential changes of aorta and carotid vasodilation in type 2 diabetic GK and OLETF rats: Paradoxical roles of hyperglycemia and insulin	共著	同 年 1月	Experimental Diabetes Research, 2012 (2012)
(論文) T. Nagare, H. Sakaue, M. Matsumoto, Y. Cao, K. Inagaki, M. Sakai, Y. Takashima, K. Nakamura, T. Mori, Y. Okada, Y. Matsuki, E. Watanabe, K. Ikeda, R. Taguchi, N. Kamimura, S. Ohta, R. Hiramatsu, M. Kasuga: Overexpression of KLF15 in adipocytes of mice results in down-regulation of SCD1 expression in adipocytes and consequent enhancement of glucose-induced insulin secretion	共著	平成23年10月	Journal of Biological Chemistry, 286 (2011)
(論文) YC. Chen, Z. Du, MF. Zhong, YH. Zhu, HX. Sun, J. Yang, L. Teng, K. Nakamura, M. Tabuchi, H. Higashino, JZ. Gu, H. Chen: Changes of endothelium-dependent vasodilation in aortae from obese and non-obese type 2 diabetic rats and roles of hyperglycemia/hyperosmolarity	共著	同 年 6月	Chinese Journal of Hypertension, 19 (2011)
(論文) T. Kurita, K. Nakamura, M. Tabuchi, M. Orita, K. Ooshima, H. Higashino: Effects of Gorei-san : A traditional Japanese Kampo Medicine, on aquaporin 1, 2, 3, 4 and V2R mRNA expression in rat kidney and forebrain	共著	同 年 1月	Journal of Medical Sciences, 11 (2011)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ResveratrolおよびFisetinにより誘導する抗加齢関連遺伝子の発現解析：角谷 晃司、西川 恵未、中村 恵実、中村 恒子、瀧川 義浩、早川 喬夫		平成26年 9月	日本生薬学会第61回(2014年)年会(福岡)
(演題名) サフラン茎組織から分化させた柱頭様組織のクロシン產生：森 健太郎、松尾 早希子、安村 美紀、古川 明典、中村 恒子、福田 浩三、角谷 晃司		同 年 8月	第32回日本植物細胞分子生物学会(盛岡)

III 学会および社会における主な活動	
特になし	

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成22年～現在	担当した講義に於いて、各会の講義内容を凝縮した小テストを課した。また、次回講義冒頭に於いて、その解説を精緻かつ簡潔に指導することにより学習効果を高めた。また、SGDが中心となる講義では、学生一人ひとりから疑問点を汲み上げ、それを題材に講評や解説を実施す授業評価は3.0～4.0の範囲で評価された。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成19年10月 平成22年2月 平成23年11月	バイオ医薬品の開発と品質・安全性確保 ヒト幹細胞加工医薬品等の品質及び安全性の確保に関する5指 バイオ医薬品開発における糖鎖技術
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			可能な限り、本学で実施されたFD研究会に参加できるよう心がけた。担当講義の内容充足のため、学外の産官学の識者会議に出席し、最新の知見収拾や意見交換に努めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Takao Hayakawa, Takashi Aoi, Akihiro Umezawa, Keiya Ozawa, Yoji Sato, Yoshiki Sawa, Akifumi Matsuyama, Shinya Yamanaka, and Masayuki Yamato.	共著	平成27年3月	Regenerative Therapy 2015 in press.
(論文) Moriyama H, Moriyama M, Isshi H, Ishihara S, Okura H, Ichinose A, Ozawa T, Matsuyama A, Hayakawa T.	共著	平成26年9月	Stem Cells Dev. 2014 Sep 15;23(18):2211-24.
(著書) Hayakawa T, Ishii-Watabe A	共著	平成24年10月	Detection and Quantification of Antibodies to Biopharmaceuticals : Practical and Applied Considerations. p57-72
(論文) 早川堯夫, 青井貴之, 梅澤明弘, 山中伸弥, 小澤敬也, 佐藤陽治, 澤 芳樹, 松山晃文, 大和雅之, 山中伸弥	共著	平成24年6月	再生医療. 10(3), 86-152
(総説) 早川堯夫、水口裕之	共著	平成23年8月	Brain and Nerve 64(1), 47-57
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名	
(演題名) 低酸素暴露を介する脂肪由来間葉系幹細胞のドバミン産生細胞分化誘導：森山博由	2014年・3月	第13回日本再生医療学会総会. 京都	
(演題名) 再生医療を照らす脂肪由来幹細胞の製造法と派生効果：森山博由	2014年・5月	国際バイオテクノロジー展/技術会議-アカデミックフォーラム（東京）	
(演題名) ROLE OF NOTCH SIGNALING IN THE MAINTENANCE OF HUMAN MESENCHYMAL STEM CELLS UNDER HYPOXIC CONDITIONS : Hiroyuki Moriyama	2014年・6月	12th ISSCR at Vancouver, CANADA	
(演題名) BNIP3 Plays Crucial Roles in the Differentiation and Maintenance of Epidermal Keratinocytes. :Hiroyuki Moriyama	2014年・9月	European society for dermatological research (ESDR). Copenhagen, Denmark.	
(演題名) BNIP3 PLAYS CRUCIAL ROLES IN THE DIFFERENTIATION AND MAINTENANCE OF EPIDERMAL KERATINOCYTES. :Hiroyuki Moriyama	2014年・9月	Australasian society for Dermatology Research (ASDR). Sydney, Australia.	

III 学会および社会における主な活動	
平成12年4月～現在	International Alliance for Biological Standardization (IABS:国際バイオロジクス連盟) 理事
平成7年4月～現在	国際学術雑誌“Biologicals”編集幹事
平成24年4月～現在	IABs: 遺伝子・細胞治療委員会座長
平成24年4月～現在	経済産業省「再生医療の実用化・产业化に関する研究会」会員
平成14年4月～現在	事食品衛生審議会日本薬局方部会員（'02～）、部会長代理（'03）、部会長（'03～'11）
平成24年4月～現在	厚生労働省医薬食品局「薬事法改正における再生医療製品の位置づけに関する意見交換会」委員

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

「2. 学会発表（評価対象年度のみ）」は当該年度に発表されたものを、10報以内で記載してください。